

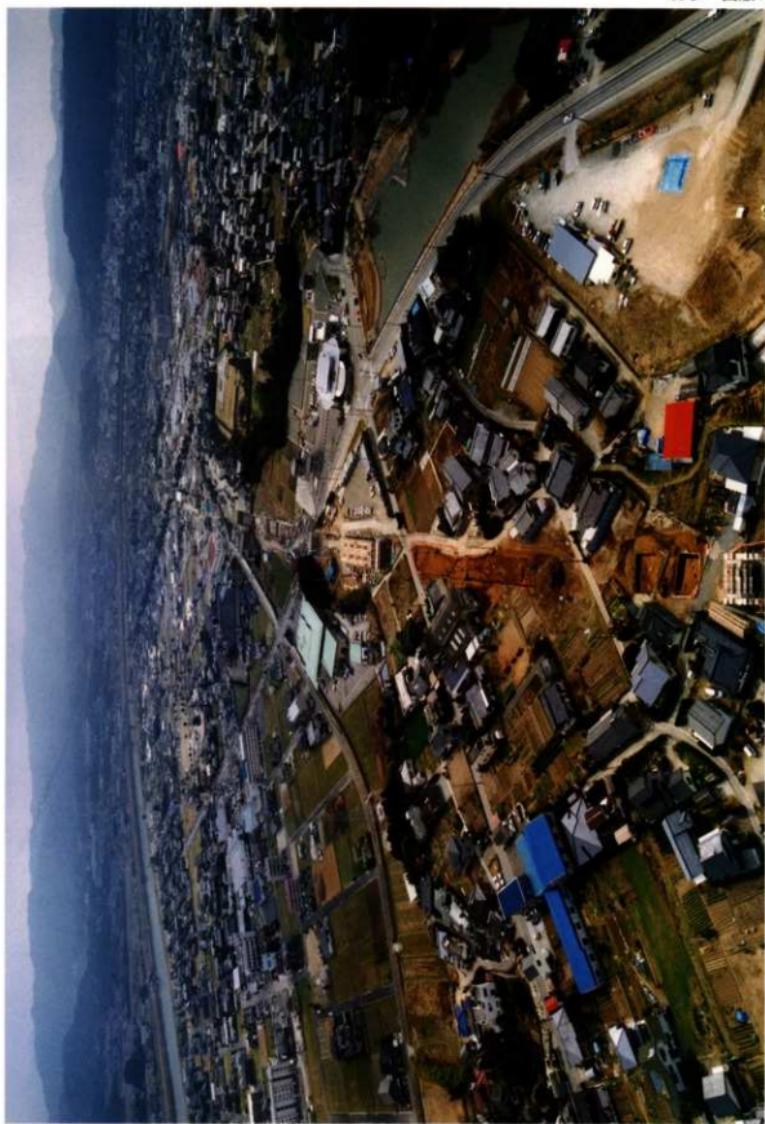
－九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－

け　し　か　う
計志加里遺跡

2002年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

カラー図版1



計志加里遺跡（手前）から藤原國分寺跡（奥右）を望む



縄文時代晩期土器



平安時代1号土塙墓出土遺物

序 文

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う発掘調査は、西鹿児島駅緊急整備事業に伴う調査として平成5年に開始ましたが、諸般の事情で中断をし、平成8年度から再開しました。

建設計画地内の遺跡は鹿児島市から出水市まで21か所であり、関係機関との協議により、事前の記録保存調査を実施し、平成13年5月に全ての調査が終了しました。

本報告書は21か所の遺跡のうち川内市に所在する計志加里遺跡の発掘調査結果をまとめたものです。

計志加里遺跡は薩摩国分寺が所在する台地に隣接しており、縄文時代から古代までの複合遺跡です。縄文時代晩期の遺物では、多數の石器とともに希少な壺形土器が出土し、遺跡の主体となる平安時代では掘立柱建物跡、円形周溝墓、土坑墓、各種の土坑、溝状遺構、多数の古道跡などの多様の遺構が発見されました。また、土坑墓に副葬された鉄製刀子や青銅製品をはじめ、当時の生活を偲ばせる食器も多数出土しています。ここにその調査成果をまとめました。本報告書が県民の皆様をはじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただく一助となれば幸いです。

発刊にあたり、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局をはじめ、ご協力をいただいた川内市の関係部局、関係諸機関、そして、調査に参加された方々に対し、厚くお礼を申し上げます。

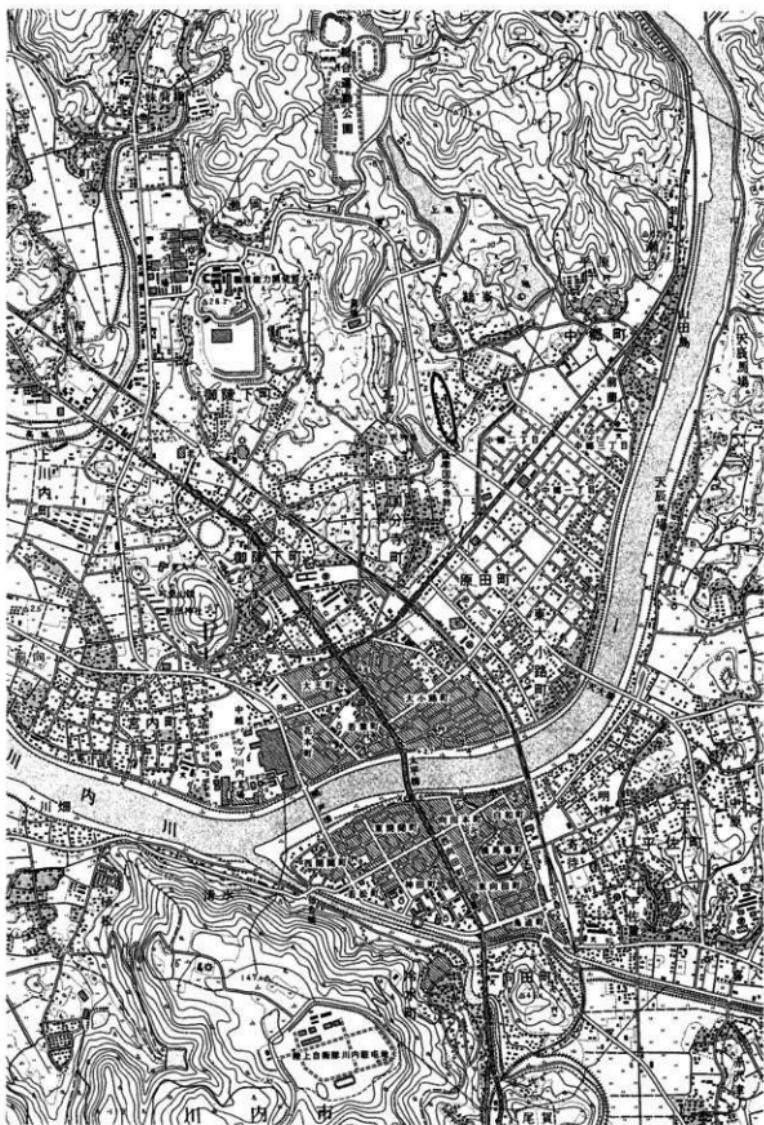
平成14年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 井上 明文

報告書抄録

ふりがな	けしかりいせき							
書名	計志加里遺跡							
副書名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次	II							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	38							
編著者名	宮田栄二、東和幸							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 姶良郡姶良町平松6252番地 TEL0995-65-8787							
発行年月日	2002年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	面積 m ²	調査起因	
所蔵遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° °'	調査期間	面積 m ²	調査起因	
計志加里遺跡	鹿児島県 川内市 中郷町 計志加里	462021	6-178	31° 50'	130° 18' 30"	19990523 ~ 20010326	5,900	九州新幹線 鹿児島 ルート建設
所蔵遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
計志加里遺跡		縄文時代早期 前前期 後前期	集石	押型文土器 曾畠式土器 精製浅鉢・壺形土器 粗製深鉢 石鏃、打製石斧、横刃形 石器、礫器、磨石類 石皿 須恵式土器 成川式土器 土師器(壺、壇、蓋、 甕、鉢、皿)				
		弥生時代		須恵器 転用鏡、刀子、青銅製品 國分寺瓦 土師器皿、白磁、青磁 滑石製品				
		古墳時代	獨立柱建物跡					
		平安時代	竪穴住居跡状遺構 円形周溝墓 土坑墓					
		中世	土坑 古道 溝状遺構					



計志加里遺跡の位置

例　　言

1. 本報告書は、九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う川内地区の「計志加里遺跡」発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は鹿児島県川内市中郷町に所在し、県遺跡台帳の川内市6-178に該当する。
3. 発掘調査は、日本鉄道公団九州新幹線建設局からの受託事業として鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査は、平成11年度から平成12年度にかけて実施し、整理作業は平成13年度に実施した。
5. 本書の遺物番号は全て通し番号であり、本文、挿図、図版と一致する。
6. 出土した動物の歯は鹿児島大学農学部長西中川駿氏に鑑定していただき、黒曜石及び安山岩の原産地分析は京都大学原子炉実験所薬科哲男氏に依頼した。また布については東京国立博物館澤田むつ代氏に鑑定していただいた。
7. 出土した石器の実測・トレースは㈱九州文化財研究所に委託した。
8. 本書で用いたレベル数値は、すべて海拔高である。
9. 本書で使用した方位は、すべて磁北である。
10. 現地調査に関する実測及び写真撮影は、それぞれ調査担当者で行ったが、一部の実測については（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
11. 土器の実測・トレース、造構図の製図・トレース等は、宮田栄二を中心となり、本多直子、森岡幸子、牧野田洋子、鮫島みどり、前原順子、湯之上都子、石川奈緒美が行った。また縄文晚期土器の実測・トレースは東和幸がおこなった。
12. 本書の執筆分担は、第Ⅱ章を三宅史子、第VI章を樋渡将太郎、第V章2節及び第IX章2を東和幸が行い、他はすべて宮田栄二が行った。また墨書き器については坂本佳代子の手を煩わした。
13. 本書に掲載した遺物写真的撮影は鶴田静彦、福永修一、横手浩二郎が行った。
14. 本書の編集は鹿児島県立埋蔵文化財センターで行い、宮田栄二が担当した。

目 次

第Ⅰ章 調査の経過	
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の概要と調査経過	3
第4節 九州新幹線鹿児島ルート関連調査の概要	5
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	
第1節 遺跡の位置と立地	8
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	8
第Ⅲ章 遺跡の層位	13
第Ⅳ章 縄文時代早期～前期の遺物	
第1節 縄文時代早期	15
第2節 縄文時代前期	15
第Ⅴ章 縄文時代晚期の遺構と遺物	
第1節 検出遺構	20
第2節 縄文時代晚期の土器	21
第3節 縄文時代晚期の石器	62
第Ⅵ章 弥生時代～古墳時代の遺物	83
第Ⅶ章 平安時代の遺構と遺物	
第1節 平安時代の遺構	
1. 挖立柱建物跡	87
2. 壁穴住居跡状遺構	93
3. 円形周溝墓	93
4. 土坑墓	98
5. 土坑	100
第2節 平安時代の出土遺物	
1. 土師器	109
2. 須恵器	119
3. 古代瓦	129
第Ⅷ章 中世の遺構と遺物	
第1節 中世の遺構	140
第2節 中世の遺物	151
第Ⅸ章 発掘調査のまとめ	154
付 編 黒曜石及び安山岩の原産地分析	159

挿 図 目 次

第1図 調査範囲と周辺の地形·····	9	第35図 縄文時代晚期土器 (24) ······	50
第2図 計志加里遺跡周辺の遺跡·····	11	第36図 縄文時代晚期土器 (25) ······	51
第3図 遺跡の基本土層柱状模式図·····	13	第37図 縄文晚期石器出土分布 (1) ······	64
第4図 遺跡内各地点の土層·····	14	第38図 縄文晚期石器出土分布 (2) ······	65
第5図 縄文時代早期の土器と出土分布 ·····	16	第39図 縄文時代晚期石器 (1) ······	66
第6図 縄文時代前期の遺物出土分布·····	17	第40図 縄文時代晚期石器 (2) ······	67
第7図 縄文時代前期の土器·····	18	第41図 縄文時代晚期石器 (3) ······	69
第8図 縄文時代前期の石器·····	19	第42図 縄文時代晚期石器 (4) ······	70
第9図 縄文晚期の集石遺構·····	20	第43図 縄文時代晚期石器 (5) ······	71
第10図 縄文晚期土器出土分布図 (1) ······	22	第44図 縄文時代晚期石器 (6) ······	72
第11図 縄文晚期土器出土分布図 (2) ······	23	第45図 縄文時代晚期石器 (7) ······	73
第12図 縄文時代晚期土器 (1) ······	25	第46図 縄文時代晚期石器 (8) ······	75
第13図 縄文時代晚期土器 (2) ······	26	第47図 縄文時代晚期石器 (9) ······	76
第14図 縄文時代晚期土器 (3) ······	27	第48図 縄文時代晚期石器 (10) ······	77
第15図 縄文時代晚期土器 (4) ······	28	第49図 縄文時代晚期石器 (11) ······	78
第16図 縄文時代晚期土器 (5) ······	29	第50図 縄文時代晚期石器 (12) ······	79
第17図 縄文時代晚期土器 (6) ······	30	第51図 弥生～古墳土器分布図·····	84
第18図 縄文時代晚期土器 (7) ······	31	第52図 弥生～古墳時代土器 (1) ······	85
第19図 縄文時代晚期土器 (8) ······	32	第53図 弥生～古墳時代土器 (2) ······	86
第20図 縄文時代晚期土器 (9) ······	33	第54図 1, 2号掘立柱建物跡·····	88
第21図 縄文時代晚期土器 (10) ······	34	第55図 3, 4号掘立柱建物跡·····	89
第22図 縄文時代晚期土器 (11) ······	35	第56図 5, 6号掘立柱建物跡·····	90
第23図 縄文時代晚期土器 (12) ······	36	第57図 7号掘立柱建物跡·····	91
第24図 縄文時代晚期土器 (13) ······	37	第58図 掘立柱建物跡ピット 出土の土器·····	91
第25図 縄文時代晚期土器 (14) ······	38	第59図 竪穴住居跡状遺構と 出土遺物·····	94
第26図 縄文時代晚期土器 (15) ······	40	第60図 円形周溝墓平断面図·····	95
第27図 縄文時代晚期土器 (16) ······	41	第61図 円形周溝の出土遺物分布·····	96
第28図 縄文時代晚期土器 (17) ······	42	第62図 円形周溝墓出土土器·····	97
第29図 縄文時代晚期土器 (18) ······	43	第63図 土坑墓平断面図·····	99
第30図 縄文時代晚期土器 (19) ······	44	第64図 土坑墓出土遺物·····	100
第31図 縄文時代晚期土器 (20) ······	45	第65図 土坑平断面図 (1) ······	102
第32図 縄文時代晚期土器 (21) ······	46	第66図 土坑平断面図 (2) ······	103
第33図 縄文時代晚期土器 (22) ······	48	第67図 土坑出土土器 (1) ······	104
第34図 縄文時代晚期土器 (23) ······	49		

第68図 土坑出土土器（2）	105	第88図 平安時代の遺物（15）（瓦2）	131
第69図 焼土跡及びピット	106	第89図 平安時代の遺物（16） （包含層以外1）	132
第70図 古代～中世の遺構分布図	107	第90図 平安時代の遺物（17） （包含層以外2）	133
第71図 平安時代の遺物出土分布（1）	110	第91図 平安時代の遺物（18） （包含層以外3）	134
第72図 平安時代の遺物出土分布（2）	111	第92図 古道1	140
第73図 奈良時代の遺物（杯・蓋）	112	第93図 古道群1、溝2	141
第74図 平安時代の遺物（1）（杯1）	113	第94図 溝3・4・5、古道群2	143
第75図 平安時代の遺物（2）（杯2）	114	第95図 溝6・7・8	144
第76図 平安時代の遺物（3） （杯3・充実高台塊）	115	第96図 溝1、古道2、古道12・13	145
第77図 平安時代の遺物（4）（塊）	117	第97図 古道3～8、古道9・溝9、 古道10・11	146
第78図 平安時代の遺物（5） （皿・蓋・黒色土器）	118	第98図 古道14・溝10、溝11	147
第79図 平安時代の遺物（6）（甕類1）	120	第99図 溝12、溝13	148
第80図 平安時代の遺物（7）（甕類2）	121	第100図 古道15	149
第81図 平安時代の遺物（8）（鉢）	122	第101図 溝14・15・16	150
第82図 平安時代の遺物（9） （須恵器1）	124	第102図 中世遺構出土遺物	151
第83図 平安時代の遺物（10） （須恵器2）	125	第103図 中世の遺物	152
第84図 平安時代の遺物（11） （須恵器3）	126	第104図 古銭	152
第85図 平安時代の遺物（12） （須恵器4）	127	付編	
第86図 平安時代の遺物（13） （墨書・刻書土器ほか）	128	図1 黒曜石原産地	
第87図 平安時代の遺物（14）（瓦1）	130	図2 サヌカイト及びサヌカイト様岩石 の原産地	166

付図 計志加里遺跡の遺構分布図

表 目 次

第1表	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査一覧 (1)	5	第27表	包含層及び包含層以外の 出土遺物観察表.....	139
第2表	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査一覧 (2)	6	第28表	瓦観察表	139
第3表	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査一覧 (3)	7	第29表	中世の遺物観察表	153
第4表	周辺の遺跡一覧表.....	12			
第5表	縄文晩期土器観察表 (1)	52			
第6表	縄文晩期土器観察表 (2)	53			
第7表	縄文晩期土器観察表 (3)	54			
第8表	縄文晩期土器観察表 (4)	55			
第9表	縄文晩期土器観察表 (5)	56			
第10表	縄文晩期土器観察表 (6)	57			
第11表	縄文晩期土器観察表 (7)	58			
第12表	縄文晩期土器観察表 (8)	59			
第13表	縄文晩期土器観察表 (9)	60			
第14表	縄文晩期土器観察表 (10)	61			
第15表	縄文時代晩期の石器組成.....	62			
第16表	出土石器計測表 (1)	80			
第17表	出土石器計測表 (2)	81			
第18表	出土石器計測表 (3)	82			
第19表	弥生～古墳時代遺物観察表 (1)	83			
第20表	弥生～古墳時代遺物観察表 (2)	86			
第21表	掘立柱建物跡計測表.....	92			
第22表	遺構内出土遺物観察表.....	108			
第23表	包含層出土遺物観察表 (1)	135			
第24表	包含層出土遺物観察表 (2)	136			
第25表	包含層出土遺物観察表 (3)	137			
第26表	包含層出土遺物観察表 (4)	138			

図版目次

図版1 遺跡の土層（上15区・下4区）	173	図版29 縄文時代晚期の石器（7）	201
図版2 縄文時代早期の土器	174	図版30 縄文時代晚期の石器（8）	202
図版3 縄文時代前期の土器	175	図版31 弥生～古墳時代の土器（1）	203
図版4 上 縄文時代前期の石器		図版32 上 弥生～古墳時代の土器（2）	
下 第3調査地点の調査	176	下 第2調査地点の調査状況	204
図版5 上 集石2号	..	図版33 上 1号掘立柱建物跡	
中 縄文時代晚期の		中 2号掘立柱建物跡	
遺物出土状況（8区）		下 2号掘立柱建物跡	
下 壺出土状況	177	ピット1, ピット2	205
図版6 縄文時代晚期の土器（1）	178	図版34 上 2号掘立柱建物跡	
図版7 縄文時代晚期の土器（2）	179	ピット3, ピット4,	
図版8 縄文時代晚期の土器（3）	180	ピット5	
図版9 縄文時代晚期の土器（4）	181	中 4号掘立柱建物跡	
図版10 縄文時代晚期の土器（5）	182	下 5号掘立柱建物跡	
図版11 縄文時代晚期の土器（6）	183	検出状況	206
図版12 縄文時代晚期の土器（7）	184	図版35 上 5号掘立柱建物跡	
図版13 縄文時代晚期の土器（8）	185	ピット掘り下げ	
図版14 縄文時代晚期の土器（9）	186	中 6号掘立柱建物跡	
図版15 縄文時代晚期の土器（10）	187	下 7号掘立柱建物跡	207
図版16 縄文時代晚期の土器（11）	188	図版36 上 1号竪穴住居跡状遺構	
図版17 縄文時代晚期の土器（12）	189	中 2号竪穴住居跡状遺構	
図版18 縄文時代晚期の土器（13）	190	下左 7号掘立柱建物跡	
図版19 縄文時代晚期の土器（14）	191	ピット出土遺物	
図版20 縄文時代晚期の土器（15）	192	図版37 下右 1号竪穴住居跡状遺構	
図版21 粘土モデリング	193	出土遺物	208
図版22 上 縄文時代晚期の土器（16）		図版37 上 円形周溝墓検出状況	
下左 赤色顔料		下 円形周溝墓	
（パイプ状粒子）		遺物出土状況	209
下右 土器の圧痕（237）	194	図版38 上 円形周溝墓完掘状況	
図版23 縄文時代晚期の石器（1）	195	下 円形周溝墓	
図版24 縄文時代晚期の石器（2）	196	溝内出土遺物	210
図版25 縄文時代晚期の石器（3）	197		
図版26 縄文時代晚期の石器（4）	198		
図版27 縄文時代晚期の石器（5）	199		
図版28 縄文時代晚期の石器（6）	200		

図版目次

図版39	1号土坑墓と出土遺物	図版49	平安時代の遺物（3）	221
	上 1号土坑墓遺物出土状況	図版50	平安時代の遺物（4）	222
	中 1号土坑墓出土土器	図版51	平安時代の遺物（5）	223
	下 1号土坑墓出土 青銅製品と刀	図版52	平安時代の遺物（6）	224
	211	図版53	平安時代の遺物（7）	225
図版40	上 2号土坑墓	図版54	平安時代の遺物（7の裏面）	226
	中 3号土坑墓検出状況	図版55	平安時代の遺物（8）	227
	下 3号土坑墓調査状況	図版56	平安時代の遺物（8の裏面）	228
図版41	上 1号土坑検出状況	図版57	上 平安時代の遺物（9） 下 943・944の出土状況	229
	中 1号土坑完掘	図版58	上 古道1検出状況 下 古道1調査状況	230
図版42	上 2号土坑検出状況	図版59	上 古道群1 下 古道群2と溝3 (北から)	231
	下 1号土坑出土遺物	図版60	上 古道群2と溝3～5 (8区南から) 下 古道群2と溝5 (9区北から)	232
図版44	上 4号土坑検出状況	図版61	上 溝6,7,8 (奥は溝3) 下 13区古道12・13	233
	中 4号土坑調査状況		上 古道14と溝10 下 溝11検出状況	234
	下 4号土坑出土遺物	図版62	上 溝11完掘 下 溝12	235
図版45	上左 5号土坑出土土器	図版63	上 古道1 下 溝13	236
	上右 6号土坑出土土器	図版64	下 溝13内の馬の歯の土坑	237
	中 8号土坑検出状況と 完掘	図版65	上 古道1 下 溝14	238
	下 8号土坑出土土器	図版66	上 溝15 (白線) 下 溝16 (手前) 中世の遺物	239
図版46	上 9号土坑調査状況			
	中左 9号土坑完掘			
	中右 1号焼土			
	下左 3号焼土			
	下右 4号焼土			
	218			
図版47	上 奈良時代の遺物と出土状況			
	下 平安時代の遺物（1）			
	219			
図版48	平安時代の遺物（2）			220

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

日本鉄道建設公団九州新幹線建設局は、九州新幹線鹿児島ルート建設を計画し、事業予定区内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課（当時、平成8年4月以降文化財課）に照会した。それを受けた文化課は、平成4年12月に事業予定地内の分布調査を実施し、21か所の遺跡を確認した。

また、西鹿児島駅舎の予定地に所在する武遺跡については、協議の結果新幹線鉄道駅緊急整備事業として遺跡の確認と全面調査が進められた。

その後、分布調査の結果に基づいて日本鉄道建設公団九州新幹線建設局、県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センターの三者でそれらの遺跡の取扱いについて協議し、平成8年度から用地取得等条件の整った遺跡から確認調査を実施することとなった。

平成8年度は、出水市鳥越平遺跡及び川内市大原野遺跡の確認調査を行い、平成9年度は、大原野遺跡の全面調査と川内市前畠遺跡の確認及び一部全面調査を実施した。

平成10年度は、前畠遺跡の全面調査の継続と他12か所の遺跡について確認及び全面調査を実施した。

計志加里遺跡の確認調査は、平成11年度に原田・大島・薩摩国分寺下（京田）・鍛冶屋馬場・春田遺跡の確認調査と並行して実施した。また全面調査は平成12年5月23日から平成13年3月26日まで182日間実施した。

整理及び報告書作成作業は平成13年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで行った。

第2節 調査の組織

【平成11年度（確認調査）】

調査主体者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永和人

調査企画者 " 次長兼総務課長 黒木友幸

" 主任文化財主事兼調査課長 戸崎勝洋

" 課長補佐兼第一調査係長 新東晃一

" 主任文化財主事第二調査係長 立神次郎

" 主任文化財主事 斎藤久志

調査担当者 " 文化財主事 宮田栄二

" 文化財主事 平木場秀男

調査事務担当 " 総務係長 有村貢

" 主査 今村孝一郎

" 主事 潤池佳子

【平成12年度（全面調査）】

調査主体者	鹿児島県教育委員会		
調査企画調整	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	井上明文
調査企画者	"	次長兼総務課長	黒木友幸
	"	主任文化財主事兼調査課長	新東晃一
	"	調査課長補佐	立神次郎
	"	主任文化財主事	彌榮久志
	"	主任文化財主事	長野眞一
調査担当者	"	文化財主事	宮田栄二
	"	文化財主事	平木場秀男
	"	文化財研究員	川口雅之（12～1月）
	"	文化財調査員	徳田有希乃（12～1月）
	"	文化財調査員	樋渡将太郎
調査事務担当	"	総務係長	有村 貢
	"	主査	今村孝一郎
	"	主事	溜池佳子
現地指導者	立正大学	学長	坂詰秀一
	京都大学大学院	教授	上原真人

【平成13年度（整理・報告書作成作業）】

調査主体者	鹿児島県教育委員会		
調査企画調整	鹿児島県教育庁文化財課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所長	井上明文
調査企画者	"	次長兼総務課長	黒木友幸
	"	主任文化財主事兼調査課長	新東晃一
	"	調査課長補佐	立神次郎
	"	主任文化財主事	彌榮久志
	"	主任文化財主事	長野眞一
整理担当者	"	文化財主事	宮田栄二
	"	文化財主事	浜崎一富（9月まで）
	"	文化財研究員	三宅史子（10月より）
調査事務担当	"	総務係長	前田昭信
	"	主査	今村孝一郎
	"	主事	池珠美
整理指導者	山本考古学研究所	所長	山本信夫
	鹿児島大学農学部	学部長	西中川駿

なお発掘調査中及び整理作業中に、次の方々から指導・助言をいただいた。（敬称略）

上村俊雄（鹿児島国際大学）、永山修一（ラ・サール学園）、中村明蔵（鹿児島国際大学）、
島津義昭・高木正文（熊本県教育庁文化課）、中島哲郎（川内市教育委員会）

第3節 調査の概要と調査経過

1. 確認調査

計志加里遺跡の確認調査は平成11年度に実施した。これは近接する原田、大島、薩摩国分寺下（京田）、鍛冶屋馬場、春田の各遺跡の確認調査と並行して行い、また同年度は前畠遺跡の全面調査も実施した。

各遺跡とも用地買収の進行が長くなく、また用地買収が終了している場所でも住居の移転が行われていなかったり、畠地がそのまま耕作されていたり調査ができる条件が整ってはいなかった。これらの各遺跡のなかで最も用地買収が遅れていたのが計志加里遺跡であった。このような環境のなかで確認調査を実施した。

確認調査は任意の地点に任意の方向で2m×3mないしは4mの長さのものを12ヶ所設置して行った。調査の結果、数ヶ所のトレンチで古代の土坑や溝状遺構が確認された。また中世の時期と判断される古道も多くトレンチで検出された。遺物包含層からは縄文時代晚期の土器や石鏃と平安時代の土師器・須恵器が全てのトレンチから出土した。これにより調査区域内全体が遺跡であると判断された。

2. 全面調査

記録保存のための全面調査は平成12年度に、大島遺跡、京田遺跡（薩摩国分寺下遺跡）の全面調査と並行して実施した。

計志加里遺跡の調査は買収が終了している北側の第1調査地点から実施したが、住宅部分や電柱等は移転が終了後、効率は良くないが再び調査を行った。

遺跡の調査区域は新幹線建設のため幅は約10.5mと狭いが、距離は細長い。グリッドは北側から20m単位とし北から1、2、3～区と呼称した。南側第3調査地点は川内市学校給食センターが1学期7月末まで操業しており、その後の建物の撤去・サラ地化を待って調査を実施し、中間区域については住宅の移転が遅れたため最後に調査を行った。

調査の結果、縄文時代早期及び前期の遺物も出土した。縄文時代晚期では集石が2基と多量の土器と石器が出土した。平安時代では掘立柱建物跡、竪穴住居状遺構、円形周溝墓、土坑墓、各種の土坑や溝状遺構などの多様な遺構が検出され、土師器の壺・碗・蓋・鉢、須恵器の壺や甕、転用硯のほか、土坑墓内では鉄製刀子や青銅製品も出土した。中世では多くの古道や溝状遺構が検出され、土師器、青磁、白磁、滑石製品などが出土した。

調査の経過については日誌抄により略述する。

平成12年5月

1日より調査開始。鉄道建設公団の要請により京田遺跡消防署地点の調査から実施する。24日から計志加里遺跡の調査開始。

平成12年6月

計志加里遺跡第1調査地点1区～9区の調査。移転していない住宅部分は除いて行う。公団の要請により鍛冶屋馬場遺跡の確認調査も並行して行う。

平成12年7月

計志加里遺跡1区～9区の調査と並行して大島遺跡の調査も開始する。掘立柱建物跡や溝状遺構、古道跡などの遺構が検出される。4日、鉄道建設公団と調査工程の件で打合せを行う。

平成12年8月

計志加里遺跡と大島遺跡を並行して調査する。計志加里遺跡は第1調査地点1～9区と同時に第2調査地点17区から23区の道路付け替え部分も調査を行う。1日、28日鉄道建設公団と第3調査地点の調査工程について打合せを行う。

平成12年9月

川内市給食センターが移転・解体したため、第3調査地点20～23区の客土剥ぎを9月11日から行う。

平成12年10月

計志加里遺跡及び大島遺跡を並行して調査を実施しているが、5日より京田遺跡も並行して調査を行う。計志加里は第1調査地点7区の電柱移転部分と第2調査地点20～26区の調査を行う。

平成12年11・12月

計志加里・大島・京田遺跡を同時並行で調査する。11月9日に熊本県教育庁文化課と新幹線関係調査の二県協議会を発掘調査事務所で行う。計志加里は第1調査地点1～3区の住居が移転した部分と6～7区及び橋脚部分K11、12を調査する。

平成13年1月

計志加里・大島・京田遺跡の調査を並行して実施する。新たにプレハブ詰所と休憩所を設置して、11日より京田遺跡の調査を担当するため川口、徳田両名が加わり、作業員も大幅に増員する。計志加里は、住居が移転した第2調査地点13区～17区の調査を行う。

平成13年2月

計志加里・大島・京田遺跡の調査を並行して行う。7～8日は京都大学上原真人先生の指導、8～9日は立正大学坂詰秀一先生の指導を受ける。

平成13年3月

「先史・古代の鹿児島」に関わる遺跡調査として、上村俊雄・中村明藏・永山修一の3名の先生が遺跡観察を行う。計志加里・大島・京田遺跡の調査を並行して行う。

19日大島遺跡の調査が終了する。26日計志加里遺跡の調査終了。

京田遺跡については次年度2ヶ月間調査を実施する協議が行われた。

第4節 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財調査の概要

九州新幹線鹿児島ルートの発掘調査は、平成5年5月12日より鹿児島市武遺跡から開始し、平成13年5月30日川内市京田遺跡で全てを終了した。

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う発掘調査は、一覧表のとおりである。

第1表 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧（1）

番	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物
1	茶屋ノ元	出水市境町	H10.7.2~3 H11.3.2~4 計5日間	240m ²	瀬榮久志 前田 誠	縄文早期 縄文前期	塞／神式、轟式、磨製石斧、黒曜石
2	鳥越平	出水市境町	H8.8.5 計1日間	55m ²	池畠耕一 中原一成	時期不明	包含層は確認されず。
3	證・安原	出水市安原町	H11.2.17, 18 H11.2.24, 25 H11.3.9 計5日間	60m ²	瀬榮久志 前田 誠	縄文晩期 平安時代	研磨土器、黒曜石、土師器
4	榎木田 見入来 大坪	出水市美原町	H11.1.5~3.9 H11.5.6 ~12.3.31 H12.5.1 ~13.3.27 計420日間	27,247m ²	瀬榮久志 前田 誠 濱崎一富 東 和幸 高岡和也 上床 真 森田裕之	縄文晩期 平安時代 鎌倉時代	縄文晩期埋設土器38基、平安期竈付竈穴 住居跡1軒、掘立柱建物跡9棟、焼土遺構 3基、溝状遺構30条、波板状遺構27条、 上加世田式、入佐式、黒川式、土師器、 須恵器、玉縁白磁滑石製石皿、刻畫土器 鉄製品、石器、磨製石斧、打製土器・具 石匙・石皿、磨石、凹石、異形石器、 玉類（勾玉6、管玉25、丸玉5、平玉3、 垂飾61、剥片46、未製品30）
5	宮野脇	出水市上鰐淵	H11.2.19 H12.2 計2日間	48m ²	瀬榮久志 前田 誠 東 和幸	時代不明	包含層確認されず。
6	松ヶ迫	出水市武本	H8.8.6 計1日間	12,5m ²	池畠耕一 中原一成	時期不明	包含層確認されず。
7	小松	出水市武本	H10.7.8~10 計3日間	108m ²	瀬榮久志 前田 誠	縄文早期	土器、黒曜石
8	前畑	川内市城上	H9.11.1 ~H10.3.31 H10.5.6 ~H12.12.24 H10.12.13 ~H12.2.24 計195日間	11,800m ²	長野寅一 上床 真 瀬榮久志 前田 誠 宮田栄二 平木場秀男	旧石器時代 縄文早期 縄文前期 縄文後期 中世 近世	土坑25（縮し穴含）基、集石4基、 竈穴状遺構1基、五輪塔、大型掘立建柱 物跡7軒、ナイフ形石器、細石刃核、 吉田式・石坂式・轟式、石器、石斧、石 皿、磨石、敲石、土師器、青磁、白磁、 染付、纏摩燒。

第2表 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧 (2)

番	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物
9	計志加里	川内市中郷町	H11.7.1~8.27 H12.5.23 ~H13.3.26 計218日間	5,900m ²	宮田栄二 平木場秀男 橋渡将太郎	縄文早期 縄文後期 縄文晩期 弥生時代 古墳時代 平安時代 中世	竪穴住居1軒、掘立柱建物跡5棟、土坑墓3基、円形周溝状遺構1基、土坑5基 中世掘立柱建物跡2棟、古道、溝状遺構 早期押型文土器、曾畠式土器、磨製石器、打製石斧、錐、ビエス、スクレイバー、磨石、石皿、石匙、石礫、砥石、土師器、須恵器、瓦、青磁、白磁、滑石製品、刀子、青銅製品、紡錘車。
10	京田(薩摩国分寺下)	川内市中郷町	H11.6.1~20 H12.5.8~6.6 H12.9.4 ~H13.3.24 H13.4.9~5.31 計191日間	5,900m ²	宮田栄二 上之園健二 平木場秀男 川口雅之 徳田有希乃 橋渡将太郎	弥生中期 平安時代 中世 近世	弥生期水田跡、土留め状遺構、杭列、ウケ跡、ドングリピット、古代水田跡、弥生土器、三叉鏡、二又鏡、大足、一本梯子、横架材、網枠、曲物、土師器、須恵器、瓦
11	原田・大島	川内市東大小路町	H10.11.26 H11.5.6 ~H12.3.24 H12.5.7 ~H13.3.19 計275日間	1,960m ²	宮田栄二 平木場秀男 橋渡将太郎	縄文晚期 弥生中期 古墳時代 平安時代 中世	弥生期竪穴住居跡4軒、土坑1基、古墳 期竪穴住居跡1軒、平安期竪穴住居跡31軒(竪穴2軒)、掘立柱建物跡2棟、土坑墓1、中世竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、扇路、弥生期甕・壺、石包丁、磨製石器、古墳期成川式、須恵器、大刀劍、鉄鏡、平安期土師器、須恵器、瓦、越州窯青磁、綠釉、陶器、転用鏡、帶金具、石製丸瓶、玉類、土鍍、金環、青銅製鉗、鉄製品。
12	嚴治屋馬場春田	川内市平佐町	H10.11.25 H11.9.1~9.27 H12.5.9~6.15 H12.9.1 ~12.27 計103日間	2,850m ²	瀬榮久志 前田 誠 宮田栄二 平木場秀男 川口雅之 徳田有希乃	古代 中世 近世 古墳	古代鍛冶炉6基、土坑2基、竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡4棟、扇路、炉跡7基、越州窯系青磁、陶器壺、土師器、鐵津、古鏡、中世青磁、鐵製品(鍔、鍔先、筋鍔車、鐵鍔)、近世薩摩燒、平佐燒、伊万里燒、土師器、羽口、鐵津
13	楠元城下	川内市百次町	H10.9.17~30 H10.11.4~24 H11.9.2~12.6 H11.5.6~11.8 計209日間	1,800m ²	瀬榮久志 前田 誠 川口雅之	縄文後期 弥生 古墳	弥生~古墳期竪穴住居跡2軒、炉跡2基、土坑12基、溝7条(杭列を伴う溝1条)、縄文期押形文・市来式・西平式・北久根山式、弥生~古墳期土器、木製平鍔、又鍔、横鍔、鐵の柄、振り棒、丸木弓、容器(未製品)、櫛状木製品。
14	上野城跡	川内市百次町	H11.12.1 ~3.24 H12.5.1 ~H13.3.29 計316日間	19,400m ²	前田 誠 川口雅之 前野潤一郎 切通雅子 徳田有希乃 瀬榮久志	旧石器 縄文 古墳 中世	中世掘立柱建物跡30棟、土坑墓3基、方形竪穴建物跡5軒、溝4条、古道1、扇路、削片尖頭器、ナイフ形石器、押形文、石板式阿高式、土師器、石皿、藏石、凹石、石鍔、土師器、須恵器、白磁、青磁、短刀、古鏡、滑石製石鍋、中世陶器、鐵鍔

第3表 九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一覧（3）

番	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査員	時代	主な遺構・遺物
15	大原野 浦田	川内市百次町 浦田	H8.10.1～29 H9.11.1 ～H10.3.31 計171日間	2,815m ²	青崎和憲 中原一成 長野眞一 国生 誠 上床 真	旧石器 縄文早期 縄文前期	ナイフ形石器、細石器、吉田式、石板式、条痕土器、轟式、石鏃、石皿、磨石、敲石、石斧
16	東下原	日置郡東市来町 養母	H10.10.27～29 H10.12.1～18 H11.3.12 計20日間	248m ²	瀬榮久志 前田 誠	旧石器 縄文早期 古墳 古代	古代焼土付土坑、細石刃核、成川式土師器。
17	上ノ平	日置郡伊集院町 下神殿四区	H11.2.26 H11.10.1～25 H12.11.14 ～H13.3.29 計92日間	2,328m ²	瀬榮久志 前田 誠 上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道	旧石器 縄文後期 中世	縄文堅穴住居跡5軒、集石4基、中世溝1条、細石刃核、指宿式、磨製石斧、石鏃。
18	山ノ脇 石坂 西原	日置郡伊集院町 郡	H11.5.6～24 H11.6.4～30 H11.11.1 ～H12.3.24 H12.5.1 ～11.13 計184日間	1,900m ²	上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道 徳田有希乃	縄文草創期 縄文早期 縄文中期 古墳 中世	集石、草創期1基、早期3基、中期3基、中世溝、農具埋納土坑、掘立柱建物跡12棟、縄文早期土器、船元式、成川式土師器、陶磁器（中国南部）、滑石製石鍋。
19	梅落	日置郡伊集院町 郡	H11.5.19～21 H11.6.14～17 H12.6.19 ～7.14 計24日間	340m ²	上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道 徳田有希乃	縄文早期	集石、塞之神式、スクレーパー。
20	尾崎	鹿児島市	発掘調査せず				遺跡は工事に触れず残
21	武ABC	鹿児島市武一丁目	H5.4.12～5.25 H5.5.21～7.2 H5.12.6 ～H6.2.21 H6.3.9～30	9,104m ²	瀬榮久志 倉元良文 鶴田静彦	縄文前期 縄文中期 弥生中期	古墳住居跡27軒、土坑18基、溝2条ピット30、近世溝9条、轟式、深溝式、春日式、船元式、山之口式、成川式。
22	寿国寺跡	鹿児島市武二丁目	H11.5.24 ～6.11 H11.7.1～9.28 H12.5.8～6.13 計175日間		上之園建二 八木澤一郎 馬籠亮道 徳田有希乃	近世	陶器、磁器、瓦、木製品、金属製品、寿国寺跡のはん池（門前池）跡。
23	前市野原	串木野市	H10.12.15 計1日間	22m ²	瀬榮久志 前田 誠	時期不明	追加調査で掉入。 包含層は確認されず。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と立地

計志加里遺跡は、川内市中郷町計志加里・東郷牟田・鶴峯に所在し、JR鹿児島本線川内駅から北西へ約2.5km、徒歩約30分程の位置にある。

川内市は鹿児島県北西部に位置し、北及び北東は紫尾山系のそびえる出水山地で阿久根市、東郷町に接する。東は丘陵性の上床山地で樋脇町と境をなし、南は古くから修驗場として知られる冠岳山地と、西に連なり弁財天山を最高峰とする高江山地で串木野市と接している。川内市はこれら三方を山地で囲まれた盆地上の地形をなしており、中央を流れる川内川が西流して東シナ海に注ぐため西方に開けている。

川内川の水源は、熊本県球磨郡上村の白髪岳と、その西に位置する同郡錦町の大平山とを結ぶ鞍部である。この水源から宮崎県えびの市に入り、霧島山系をへて、吉松町より本県に入る。流路は3県にまたがり、支流・幹流を合わせて本県最大の流れであることはもとより、九州でも筑後川に次ぐ第二の長流である。川内市街地は、川内川や支流によって形成された沖積平野にあり、川内川両岸に及ぶ自然堤防やその後背湿地、谷底平野に立地している。洪水の影響もさることながら、その多くは水田に利用されている。流域の地質はおおむね安山岩であるが、川内盆地を囲む山地裾部から盆地中央にむかって、権現原台地などの低いシラス台地が広がり、台地上にはいくつもの重要な遺跡が点在している。

計志加里遺跡は、上床丘陵と川内川低地にはさまれた風口台地に位置しており、東側には台地を分断するように開析された低湿地があり、享保14年（1729）に天神池と呼ばれる溜池がつくられている。台地はシラスの二次堆積からなり段丘として現れている。このような台地は大河川の下流域である川内の特色となっている。調査区域の標高は約15mである。

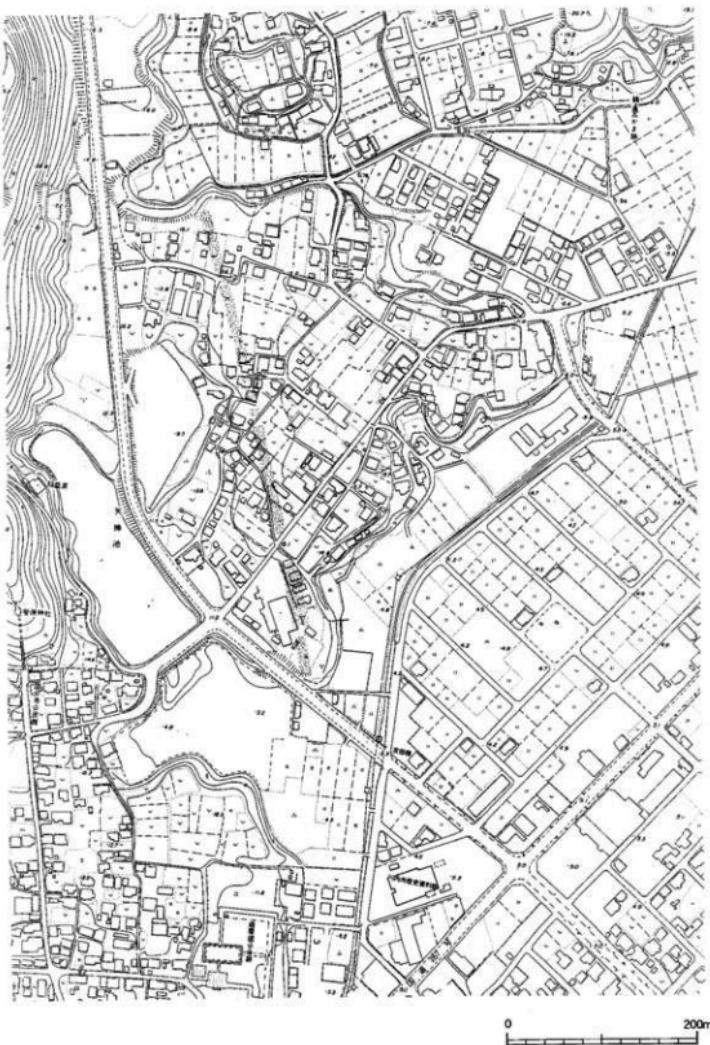
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

川内市は、川内川によって形成された肥沃な平野を背景として、古くから政治・経済・文化の中心地であったことが、神話をはじめ発掘調査や文献により明らかになってきている。川内（せんだい）という地名も、薩摩国府の置かれた古代薩摩の地で、国衙の所在する地域が川内川の内側だったので「川内」、対岸に属する地域を「川外」と呼んだというのがはじまりとされている。

川内市周辺の遺跡として、県内初の柳葉石器（尖頭器）が出土した旧石器時代の馬立遺跡やナイフ形石器文化と細石器文化の2文化にまたがる遺物が出土した成岡遺跡、西ノ平遺跡などがあり、また新たに上野城跡でも旧石器時代の遺物が出土している。

縄文時代後期に入ると、尾賀台遺跡や麦之浦貝塚などで市来式土器をともなった貝塚が確認され、特に麦之浦貝塚では貝層中より、縄文後期土器（南福寺式・松山式・鐘ヶ崎式）や石鏃・石器・磨石・石斧のほか、かんざしや垂飾などの骨角器、貝輪や獸骨などが出土しており、遠方との交流や生活水準の高さを考える上で貴重な資料となっている。

近年の発掘調査によって、楠元遺跡や京田遺跡などの河川流域の低湿地では、弥生時代中期ごろには水田稲作が行われていたことが、木製農具（鋤、鍬など）の出土で明らかになっている。また、後期には前述の麦之浦貝塚から中国後漢初期（1世紀）の船載鏡片が出土したほか、外川



第1図 調査範囲と周辺の地形

江遺跡で内行花文S字状文鏡と呼ばれる小型仿製鏡や亜鉛ガラス製の小玉もみつかっている。

古墳時代には、横岡古墳群で南九州独自の墓制である地下式板石積石室が、宮内町では木花開耶媛の陵墓といわれる端陵などの高塚古墳が見られ、各々の墓制を代表する二つの勢力が混在していた地域であったと考えられる。

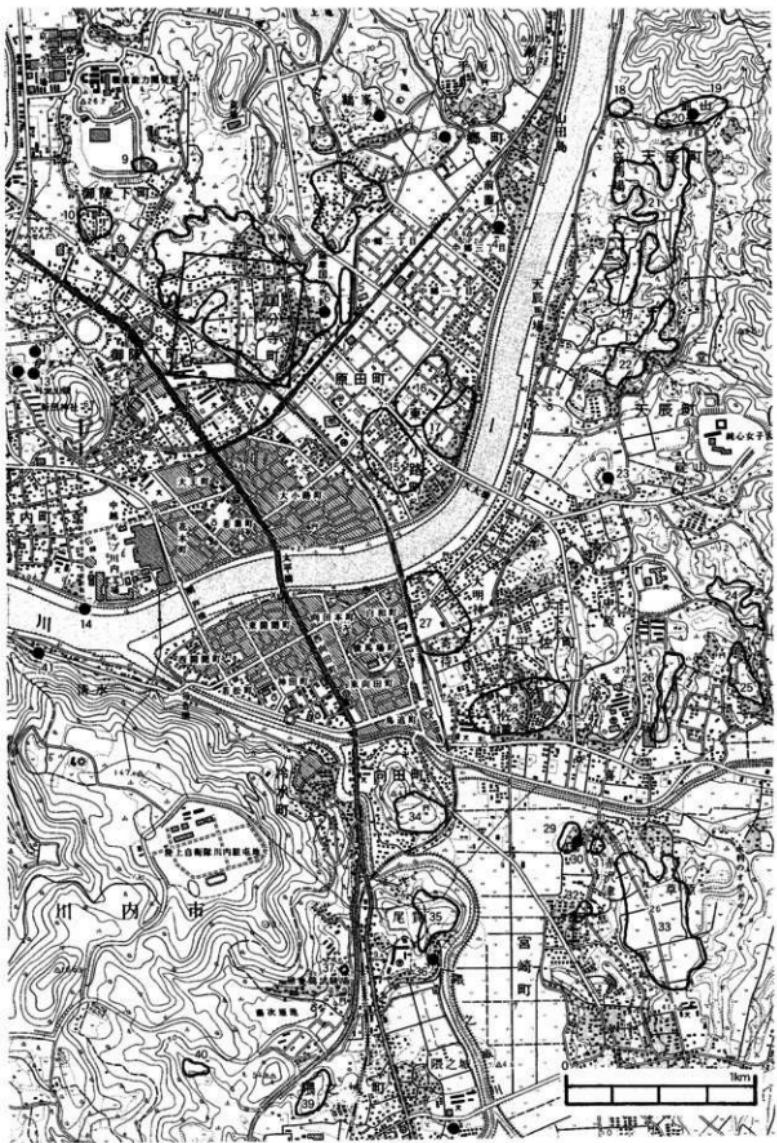
奈良時代に大宝律令が制定（701年）されると、中央・地方の官制が整って六〇余国に国府が設置され、翌年に薩摩国府が川内市御陵下町・国分寺町に置かれている。また、741年の聖武天皇の発願によって国分寺が、奈良時代末期に薩摩国府に隣接する国分寺町字大都・下台に建立されたようである。薩摩国分寺跡の北方約1km、川内川右岸の丘陵末端部には、薩摩国分寺創建当時の瓦を焼いた鶴峯窯跡がある。瓦窯二基、須恵器の窯一基があり、第一号窯では丸瓦と平瓦を第二号窯ではそれに加えて軒平瓦、軒丸瓦、鬼瓦などの特殊な瓦を焼いている。第三号窯は須恵器窯で8世紀前半までの蓋や壇などを見つかっている。また、新幹線鹿児島ルートに伴う発掘調査によって、奈良時代から平安時代にかけて住居跡群が多数検出された大島遺跡や、本県で初めて木簡が出土した京田遺跡などがある。この木簡は告知札と呼ばれるもので、棒状で墨書が四面に確認でき、「嘉祥三年」（850年）に郡司が在地の有力耕者に水田の差し押さえを告知するという内容である。資料の乏しい9世紀の鹿児島の行政及び土地支配について、その実態を考える上で貴重な史料である。

平安時代末期から安土桃山時代にかけては多くの城館が造られ、文献に記されているものだけでも40ヶ所以上ある。鎌倉時代には、島津氏の居城であつて豊臣秀吉の九州攻めの際に陥落したといわれる平佐城や、百次城（上野城）、高江城、隈之城、南北朝時代の碇山城などが知られているが、江戸時代幕府の一国一城制によって荒廃し、名を残すのみとなっている。なお、百次城（上野城）の調査では10世紀から13世紀頃の掘立柱建物跡や方形堅穴建物跡等が多数発見され、中世社会の解明につながることが期待されている。

近世の川内は、藩の直轄地と私領の八郷に分けられ、唯一の私領であった平佐領では薩摩焼の中でも肥前有田の技法を取り入れた磁器「平佐焼」が焼かれている。昭和初期に廃窯になるまで、川内の伝統工芸品を生み出していた窯跡は、市の文化財に指定されている。また平佐町鍛冶屋馬場遺跡では、平佐焼のほかに拳大の鉄滓を伴った鍛冶炉跡や鉄製品も多く出土しており、川内川の水を利用した生活がしのばれる。

＜参考文献＞

- 河口貞徳『日本の古代遺跡38 鹿児島』 保育社 1988
「成岡遺跡Ⅱ」『鹿児島県文化財発掘調査報告書（35）』鹿児島県教育委員会 1985
『川内市文化財要覧』 川内市歴史資料館 1985
「成岡・西ノ平・上ノ原遺跡」『鹿児島県文化財発掘調査報告書（28）』鹿児島県教育委員会 1983
『薩摩国分寺跡』 川内市教育委員会 1979
『鹿児島県市町村別遺跡地名表』 鹿児島県教育委員会 1977
『川内市史上巻』 鹿児島県川内市 1976
『薩摩国府跡・国分寺跡』 鹿児島県教育委員会 1975



第2図 計志加里遺跡周辺の遺跡

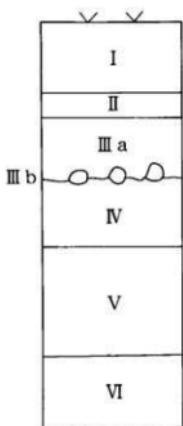
第4表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
1	計志加里	中郷町計志加里・鶴峯・東郷牛田	台地	縄文～江戸	掘立柱建物跡、円形周溝墓、土師器、須恵器	
2	鶴峯窯跡	中郷町鶴峯	丘陵端	奈良	窯跡、国分寺瓦	昭和41年発掘調査、国指定史跡
3	亀ヶ城	中郷町山崎	丘陵	不明		消滅
4	安国寺跡	中郷町寺岡	平地	室町	四天王石像	
5	京田	中郷町	湿地	弥生～鎌倉	水田跡、杭列、弥生土器、土師器、木簡、木製品	平成12年度発掘調査
6	薩摩国分寺跡	国分寺町大都・下台	台地	奈良～平安	国分僧寺跡(伽藍基壇跡・築地跡)	国指定史跡
7	国分寺台地	御陵下町風口・下原入来ほか	台地	縄文～江戸	土器、須恵器、土師器、青磁、染付	
8	薩摩国府推定城	御陵下町	台地	縄文～江戸	土器、須恵器、土師器、布目瓦、青磁	六町四方の庁城
9	越ノ巣	御陵下町越ノ巣	丘陵	奈良～平安	藏骨器	昭和61年調査
10	尾形原	御陵下町尾形原	丘陵	奈良～平安	藏骨器	消滅
11	小松城	宮内町小松城	丘陵	不明		消滅
12	端陵	宮内町1935番2	丘陵	古墳	前方後円墳	昭和62年測量
13	中陵	宮内町1935番2	丘陵	古墳	前方後円墳?	
14	弥勒寺跡	宮内町八幡馬場	平地	平安		消滅
15	東大小路C(大島)	東大小路町大島	微高地	縄文、弥生、古墳、奈良～平安	竪穴式住居、土器、土師器、須恵器、布目瓦、硯、石製丸解、金環	平成12年度大島遺跡として発掘調査
16	東大小路A	東大小路町下目ほか	微高地	古墳～室町	土器、青磁、染付	
17	東大小路B	東大小路町大島馬場ほか	微高地	古墳～室町	土器、青磁、染付	
18	平佐焼窯跡群	天辰町龜山	丘陵	江戸～明治	窯跡、染付、窯道具	
19	平佐焼窯跡群	天辰町龜山	丘陵	江戸～明治	窯跡、染付、窯道具	平成11年度発掘調査
20	平佐焼窯跡	天辰町2992	丘陵	江戸～明治	窯跡	市指定史跡
21	天辰原	天辰町才原ほか	台地	古墳～江戸	土器、須恵器、青磁	
22	古原	天辰町古原	台地	古墳～江戸	土器、須恵器、染付	
23	碇山城	天辰町碇山	丘陵	鎌倉	空堀跡	
24	原口	田崎町原口・外園	台地	古墳～江戸	土器、須恵器、染付	
25	大明原	田崎町大明原	台地	縄文～江戸	土器、染付、石礫	
26	喜入原	平佐町喜入原	台地	縄文～江戸	土器、染付、石礫	
27	鍛冶屋馬場	平佐町鍛冶屋馬場	平地	平安～明治	掘立柱建物跡、鍛冶炉、土師器、須恵器、染付、鐵製品	平成12年度発掘調査
28	平佐城	平佐町藤崎	丘陵	鎌倉～戦国	空堀跡、土塁跡	
29	赤沢津	宮崎町赤沢津	微高地	縄文～古墳	土器、須恵器、石斧	
30	森殿原の宝塔	宮崎町1834番地	微高地	鎌倉		市指定史跡
31	瀬戸口	宮崎町瀬戸口	台地下	縄文～平安	土器、土師器、石礫	
32	赤殿原	宮崎町赤殿原	微高地	古墳～室町	土器、土師器	
33	宮崎北原	宮崎町出居原ほか	台地	古墳～室町	土器、須恵器、陶器	
34	日暮丘	向田町鋸本・諏訪平ほか	丘陵	古墳～江戸	土器、須恵器、染付	
35	尾賀台	隈之城町尾賀原・古寺・後原ほか	丘陵	縄文～室町	土器、須恵器、染付、石礫	一部貝塚
36	椿城	隈之城町尾賀	丘陵	不詳	掘切り跡	
37	池尻	隈之城町池尻	丘陵斜	古墳	須恵器	
38	二福城	隈之城町城	面	鎌倉～戦国	曲輪跡	
39	西ノ口	隈之城町西ノ口	丘陵	古墳	土器	
40	湯之谷	隈之城町湯之谷	台地	平安	土師器	

第Ⅲ章 遺跡の層位

本遺跡が所在する台地は、川内市の中央を流れる一級河川の川内川による段丘に相当し、そのため基盤層はシラスの2次堆積を含む砂礫層である。標高は約15mである。

調査を実施した範囲は細長いが、基本同層は下のようになる。

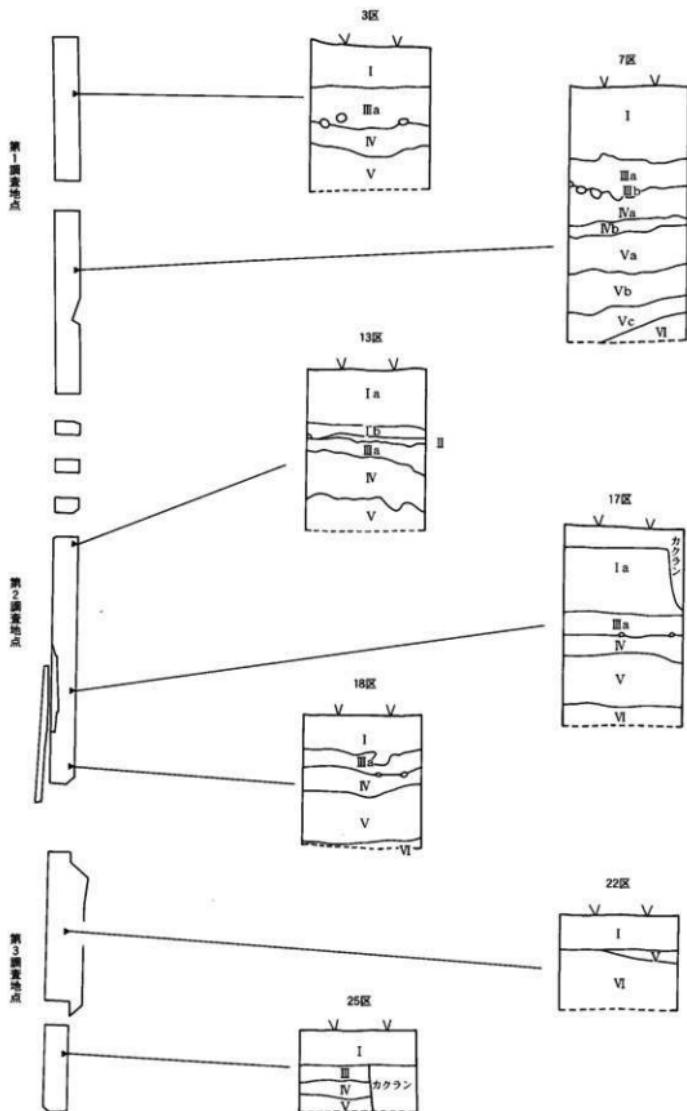


第3図 遺跡の基本土層柱状模式図

- I層 暗褐色土（耕作土）。宅地となっている部分は客土がなされている場合もあった。
- II層 黒色土層。軟質であり、包含層の部分では削平等により残りは多くなかったが、溝状遺構部に多く残存していた。中世の遺物包含層である。
- III a層 黄褐色土層。アカホヤ火山灰の腐食土層であり、軟質である。縄文時代前期から古代までの遺物包含層である。厚さは約20cm程度である。
- III b層 橙色輕石。鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰に対比される。小さなブロック状で、かつ部分的にしか認められない。
- IV層 黄褐色土層。軟質であるが、IIIa層と色調はかなり類似するが、比較すると若干粘性がある。
- V層 黒褐色硬質土層。硬く締まっており、弱粘性である。乾くとクラックが発達する。厚く良好に堆積している部分ではa 黒色弱粘質土、b 茶褐色粘質土、c 黄褐色粘質土に細分できる。
- VI層 淡黄色砂礫層。砂及び小礫が混在しており、上部はシラスの二次堆積によると推定される黄白色の輕石（径2~5cm程度）が多く認められ、下部は径5~10cm程度の小礫が多くなる。

調査範囲は細長いため北側から第1調査地点、第2調査地点、第3調査地点と呼称した。

第1調査地点は削平等によりII層はほとんど認められず、溝状遺構などに埋土として残存しているのみである。第2調査地点はわずかにII層が残存しており、全ての層の堆積が認められた。ただし土層横転がいたる所で観察された。第3調査地点は、川内市給食センターがあった場所であり、大きく削平及び平坦化を受け、表土（客土）の下はV層が部分的に残り、他は全てVI層砂礫層であった。また最南端である第3調査地点の南側は、現在まで墓として利用されており、大部分搅乱を受けていた。わずかに墓穴と墓穴の間にのみ遺物包含層が残存していた。



第4図 遺跡内各地点の土層

第IV章 縄文時代早期～前期の遺物

第1節 縄文時代早期

縄文時代早期の土器は押型文が大部分であり、第1調査地点8区及び9区北側から出土しているが、出土した層はアカホヤ上部のⅢa層であり、本来の層ではない。唯一13のみV層から出土したため、周囲をかなり広げたものに出土はなかった。

1は円筒形の器形で口縁部上位に幅広く貝殻条痕文を横位に施したものである。器壁は比較的厚く、口縁端部は丸くおさめる。胴部外面と内面はナデ調整で胎土には石英・長石・角閃石を含み、焼成は良好である。中原式土器と思われる。2は外反する口縁部に貝殻押圧したものであり、石坂式と思われる。3は貝殻腹縁による刺突を横位に間隔をおいて数条施している。4～12は押型文土器であり、同一固体の可能性が高い。底部12は平底であり、鉢形に開き梢円押型文は器面全体に施されており、外反する口縁付近の4には内面にも押型文が施されている。内面調整はミガキ調整であり、胎土には多量の石英のほかに長石、角閃石も含まれ焼成は良好である。

13は唯一遺物があるべき層位であるV層から出土したものであるが、1点しか出土していない。底部近くであり、格子目文の押型文が施されている。底部に近い部分は無文部であり入念なミガキ調整が施され、内面はナデ調整である。胎土には細織・長石・角閃石を含み焼成は良好である。

第2節 縄文時代前期

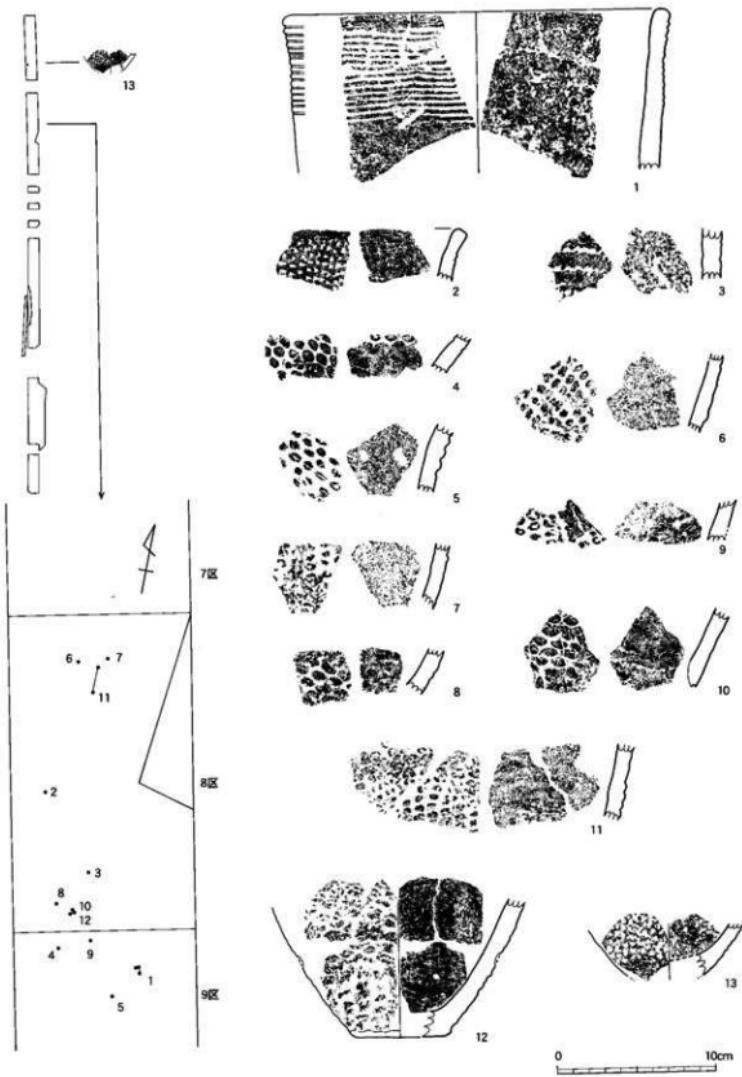
縄文時代前期の土器は、第3調査地点の24～25区のⅢa層から出土した。この区域は調査直前まで現在の墓として利用されており、そのため遺物包含層は墓穴と墓穴の間の極めて狭い部分にしか残存していなかった。

出土土器

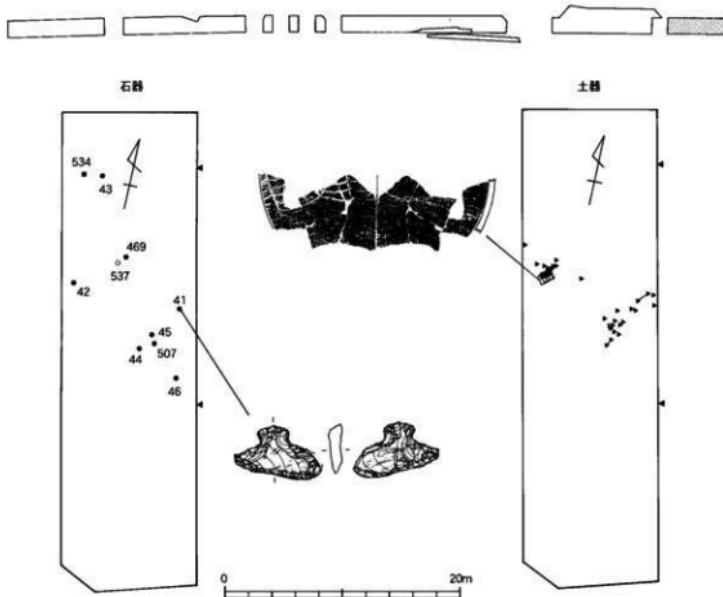
第7図14・15は口縁上端部に短い斜位の沈線文を連続して施し、その下には横位の沈線文を施すものである。内面の口縁上端部にも短い沈線文を斜位に施している。17～19は口縁上端には横位の沈線文を施したもので、内面には沈線文はない。丸くおさめた口唇部には刺突文が施されているが、ヘラ状工具によるもの（16, 18, 19）と、貝殻腹縁によるもの（17）がある。いずれの口縁部も直口し、内面はナデ調整である。21・22は横位の沈線と羽状もしくは複合鋸歯文状の沈線を組み合わせて文様を構成するものである。20, 23, 24, 25はいずれも横位の沈線文を連続して施している。24は表裏両方からの穿孔が認められ、補修孔と考えられる。23の内面はナデ調整、その他はハケ目状の痕が観察され工具を利用したナデ調整である。

28は最大の破片であり、文様構成及び器形が推定可能なものである。器形は丸味をもつ胴部下半より丸底になると推定され、文様は胴部下半には施されない。沈線文は縦位に間隔を置いて施され、その間は横位に弧状に連続して施される。器面調整は外側がナデ、内面は工具によるナデが行われハケ目状の痕が観察される。26, 27, 29も同様の沈線をもつものである。31, 32は比較的細目の沈線を施したもの、逆に35は比較的大目の沈線を施したものである。36, 37, 38も同様の沈線文が施されているが、内面は貝殻条痕の後ナデを施したものである。

39は口縁部に斜位に沈線を施したもので、口唇部には比較的広い間隔で刺突が施される。裏



第5図 縄文時代早期の土器と出土分布



第6図 繩文時代前期の遺物出土分布

には粘土ひもが短い幅で積まれた痕跡が残る。内面はナデ調整である。

40は沈線を施す前に器面を貝殻条痕によって調整したものであり、裏面にも貝殻条痕が残る。

胎土にはいずれも石英、長石、角閃石を含み、加えて18・23・34には滑石も含まれている。

これらの土器は繩文時代前期中葉の曾煙式土器のなかでも古いタイプである。

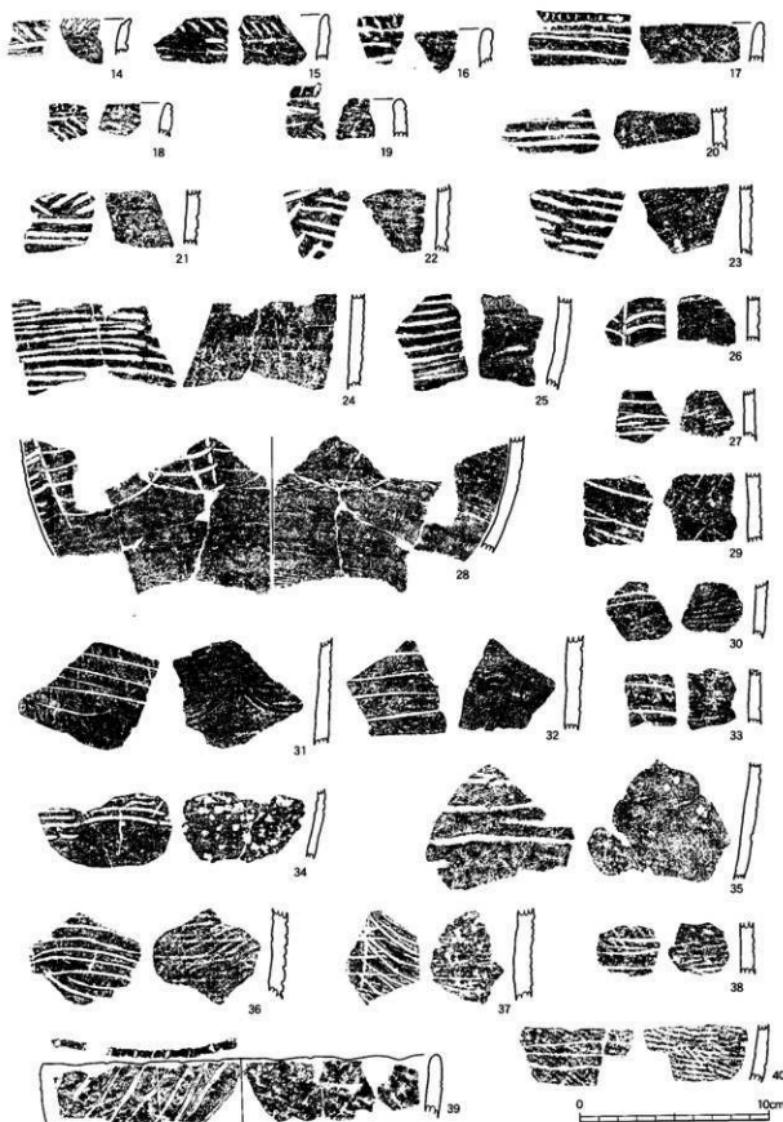
出土石器

黒曜石の剥片を主体として約60点の遺物が出土した。黒曜石は、肉眼的観察によると櫛脇町上牛鼻産のものが9割以上を占めていた。残りは気泡が多く日東産に類似するものであった。

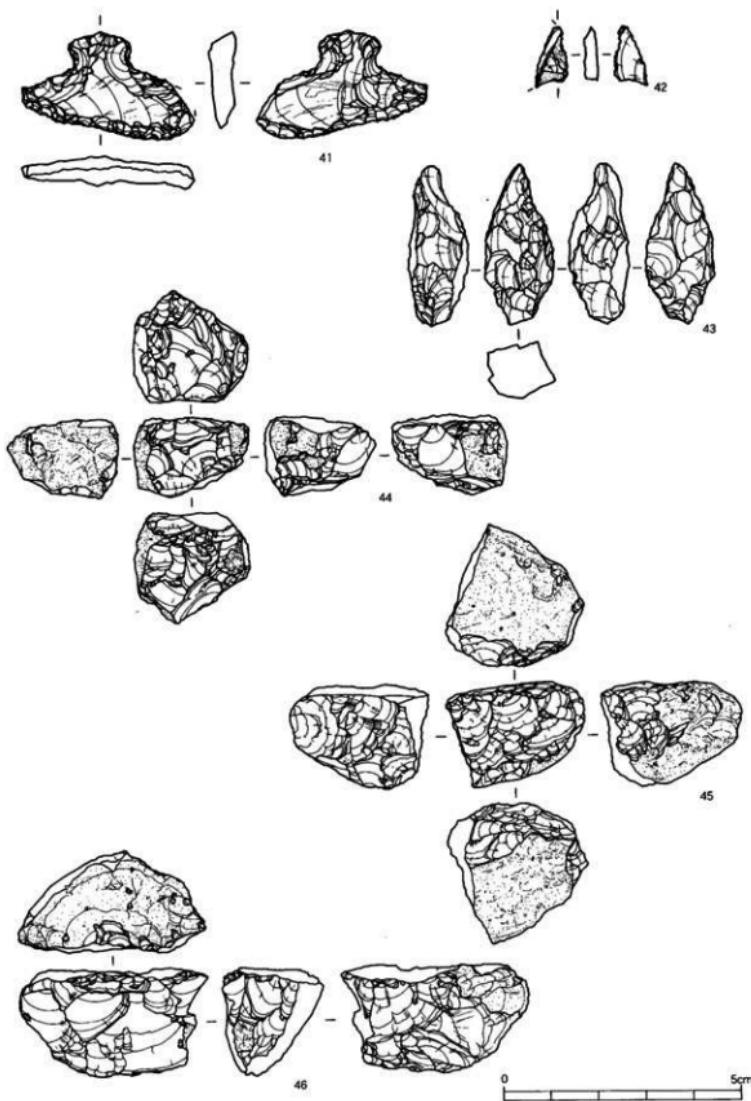
41はチャート製の石匙である。縦長剥片の側縁を刃部にし、表裏両面からの押圧剥離により整形及び刃部を形成している。42は上牛鼻産黒曜石剥片の一部に使用痕が観察される。43は玉隨の4面に粗い加工を施したものである。旧石器時代の角錐状石器に類似する。44～46は石核である。44は自然面を一面残す他は全面剥離し、作業面を転移している。45は円盤を素材とし、上下の自然面を打面にしている。46は平坦な自然面を打面にし、前と後から剥片を剥いでいる。また最後の段階で小口部分からも剥出している。44、46は上牛鼻産黒曜石である。第41図469は剥片の一端を加工した搔器である。第45図507は上牛鼻産黒曜石を使用した大型の石核である。打面と作業面の位置を変えながら比較的大型の剥片を剥いでいる。

第48図534は穀器である。扁平な円盤を利用し、大きな割り取りと若干の細加工を施している。

第49図537は磨石である。安山岩の扁平な円盤を利用し、表裏両面は磨られた痕が著しい。



第7図 繩文時代前期の土器



第8図 繩文時代前期の石器

第V章 縄文時代晚期の遺構と遺物

縄文時代晚期の遺物は、第Ⅲa層の下半より出土した。遺物は粗製土器や精製土器の深鉢や浅鉢の他、壺も出土している。石器では多種の器種が認められた。遺構としては集石が検出された。

第1節 検出遺構

縄文時代晚期の遺構としては集石が2基確認された。

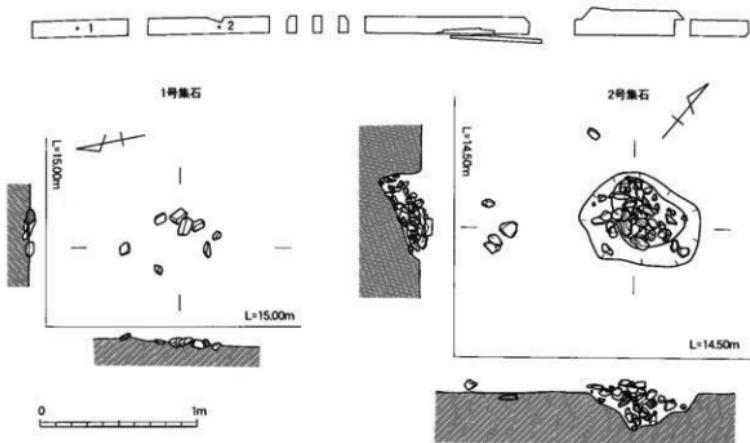
1号集石

3区の中央付近で検出された。礫は拳大程度の8個でそのうち6個が砂岩、他は安山岩である。長径65cm短径40cmであるが、中央は礫がなく抜かれた可能性もある。各礫は火熱により赤化し、一部ヒビ割れたものもある。掘り込みは確認できなかった。周囲には縄文時代晚期土器片が散在していた。

2号集石

8区で検出された。長径×短径は70cm×60cmであり、約40cm離れた位置の4個も含めている。礫は総数60個で、1点の安山岩の他は全て砂岩である。礫は火熱を受け赤化したものが大部分であり、熱のため破碎したものがほとんどある。そのため礫の大きさは拳の半分の大きさに割れた細片が多く、100g未満のものが30%を占めている。大きな礫は拳の倍程度のものもある。集石の下部は深さ約30cmの掘り込みをもつが、掘り込みの壁面及び下面是平坦でなく、また火熱を受けたような硬い面ではなく軟らかい。礫の接合を実施したところ、近接した礫が接合するのみでなく、上部の礫と下部の礫の接合や、かなり離れた礫が接合した。

このように、礫は火熱を受けた破片が多く、大部分赤化しており、接合では中央部から逆に離れた礫と礫が接合したり、また上下レベル差の著しいものが接合していることより、この集石はここで使用されたものではなく、他の場所で使用されたものが穴の中に棄てられたものと判断される。



第9図 縄文晚期の集石遺構

第2節 繩文時代晩期の土器

分類にあたっては器形を基本として分類するべきであるが、この時期は縄文時代から弥生時代へ移り変わろうとする段階であり、基本的な器種がまだはっきりしていない。また、破片が小さいことからどの器種に該当するか判断しかねる資料が多い。そこで、どの土器片でも判断が可能な内外面の器面調整でもって分類することとする。これは、同じ時期と考えられる加世田市千河原遺跡を整理・報告した福永裕曉氏も同様な視点で分類している（註1）。大分類としては、粗製土器（Ⅰ類）・精製土器（Ⅱ類）・半粗半精製土器（Ⅲ類）の3種に分類した。さらに、各類の中で特徴のあるものを基準として細分した。しかし、その基準というのは口縁部や底部ごとの特徴を便宜的に分けたものであり、統一した基準でないことをあらかじめお断りしておきたい。したがって、大分類の段階で終わる資料も多く存在する。また、時期の異なる3点の資料（215・216・324）もレイアウトの関係上この項目で扱うこととする。

Ⅰ類：内外面とも条痕あるいはナデによる器面調整の粗製土器である。

- a : 口縁端部が肥厚するもの・無刻目突帯文土器と呼ぶ。 b : 口縁端部が肥厚しないもの
- c : 張り出しをもつ底部 d : 直行する底部 e : 外開きになる底部

Ⅱ類：内外面ともミガキによる器面調整の精製土器である。

- f : 口縁部に沿って凹線もしくは沈線を巡らすもの g : 沈線下部を削るもの
- h : 口縁端部を肥厚させるもの

Ⅲ類：半粗半精製土器である。この類の土器は、器形的には浅鉢形土器の一部に含まれ、機能としては加熱具として利用されている。また、組織痕のみられるものを組織痕土器と呼んでいたが、組織痕を消しているものあるいは初めから組織痕が無い土器もみられ、一括りに組織痕土器とは呼べない。中華鍋形をしたこれらの器形もしくは用途に対して適当な名称が有ればよいのであるが、現在それがないので下山覚氏が呼んだ半粗半精製土器として分類することとする（註2）。内面がミガキによる調整であり、外側は粗いナデによる器面調整である。

i : 組織痕をもつもの、組織痕土器と呼ぶ。 j : 組織痕をもたないもの、半粗半精製土器。

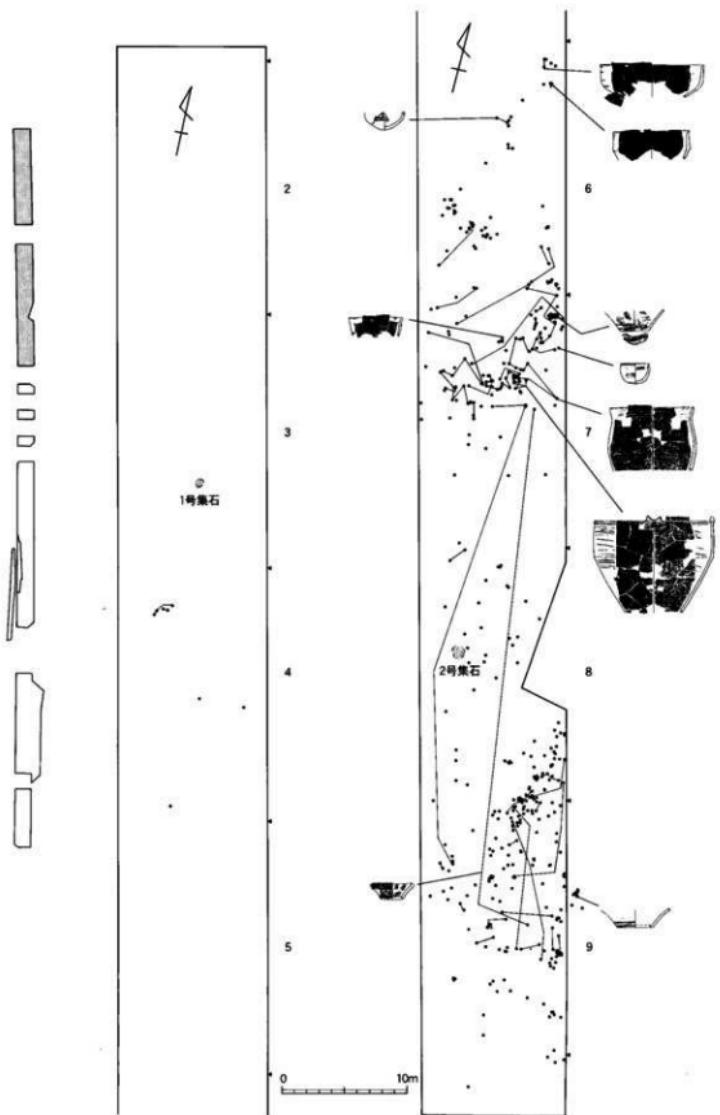
なお、圧痕をもつ底部と組織痕土器のうちモーデリング陽像が良好に得られた遺物については、通常の拓本とともにモーデリング陽像の拓本も添えている。

粗製土器（Ⅰ類：47～260）

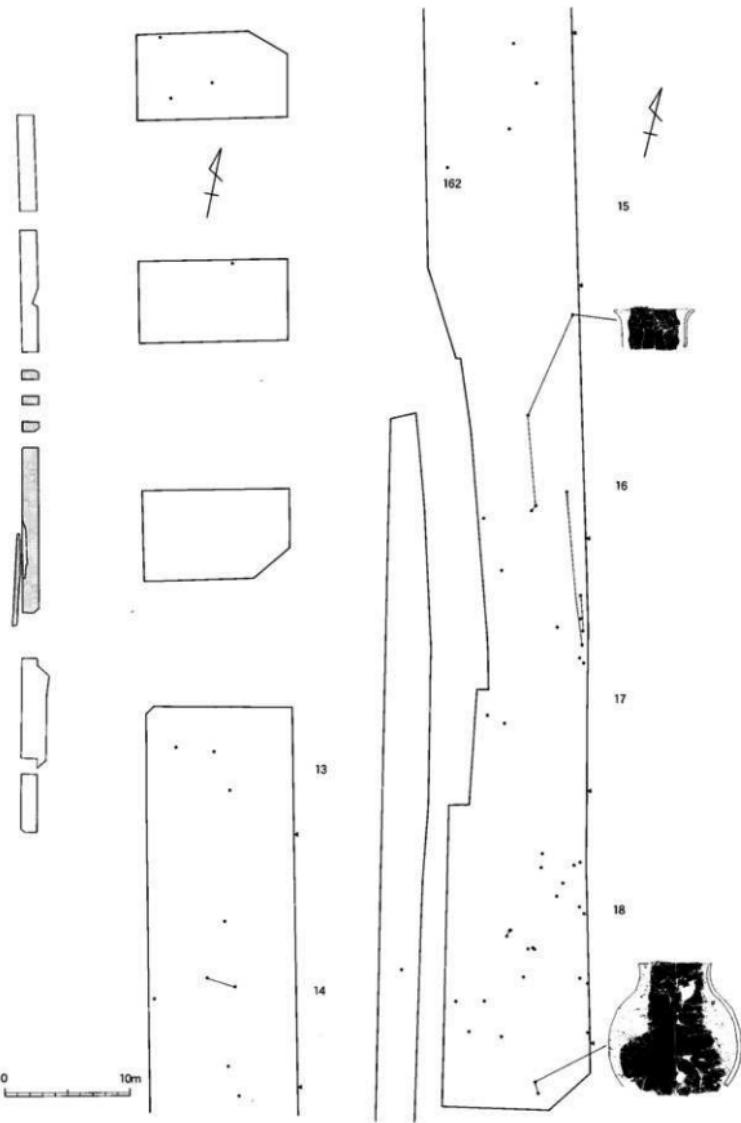
内外面とも条痕あるいはナデによる器面調整の土器である。口縁部から底部まで、それぞれの破片を含むが、大半は浅鉢形土器に該当し、わずかに鉢形土器ではないかと考えられる破片が含まれる。

無刻目突帯文土器（Ⅰa類：47～93）

口縁部に接して突帯を巡らすもので、突带上には刻目などは施さない。突帶の断面形は台形状をなす例が目立つものの、統一された形はみられない。91～93は口唇部からやや下がった所に、断面三角形の無刻目突帯を巡らす例である。全体の器形は、直口もしくはやや内傾する口縁部か



第10図 縄文晩期土器出土分布図（1）



第11図 繩文晩期土器出土分布図（2）

ら、全体の高さのおよそ3分の2のところで、約30°の角度で屈曲し、底部へ至る。本遺跡では完形復元できる例はなかったが、出土量が同程度であることから恐らく貼り出しをもつ底部になるのではないかと考えられる。口縁部にはリボン状の突起をもつもの（47～56）もあり、他遺跡の例から2ヶ所に付くのではないかと考えられる。波状口縁になる様な例はみられない。

粗製深鉢形土器（I b類：94～167）

口唇部に突帯を巡らされない粗製土器を一括した。中には口唇部付近がわずかに肥厚ぎみとなる例（94～98）があり、無刻目突帯文土器との厳密な区別は難しい。内外面とも主にヨコ方向の条痕を施す。器形は肩部で屈曲するタイプと、屈曲しないタイプがある。肩部で屈曲するタイプは無刻目突帯文土器で述べた器形と同様である。屈曲しないタイプは102例の様に最大径が胴部上半にあり、そこからゆるく内湾しながら頸部に至り、わずかに開く口縁部をもつ。胴部最大径と口縁部直径の差は小さい。底部については、他遺跡での類例もなく今後の発見を待ちたい。口縁部にリボン状の突起をもつ例（110・111）もある。

肩部・胴部（I類：168～225）

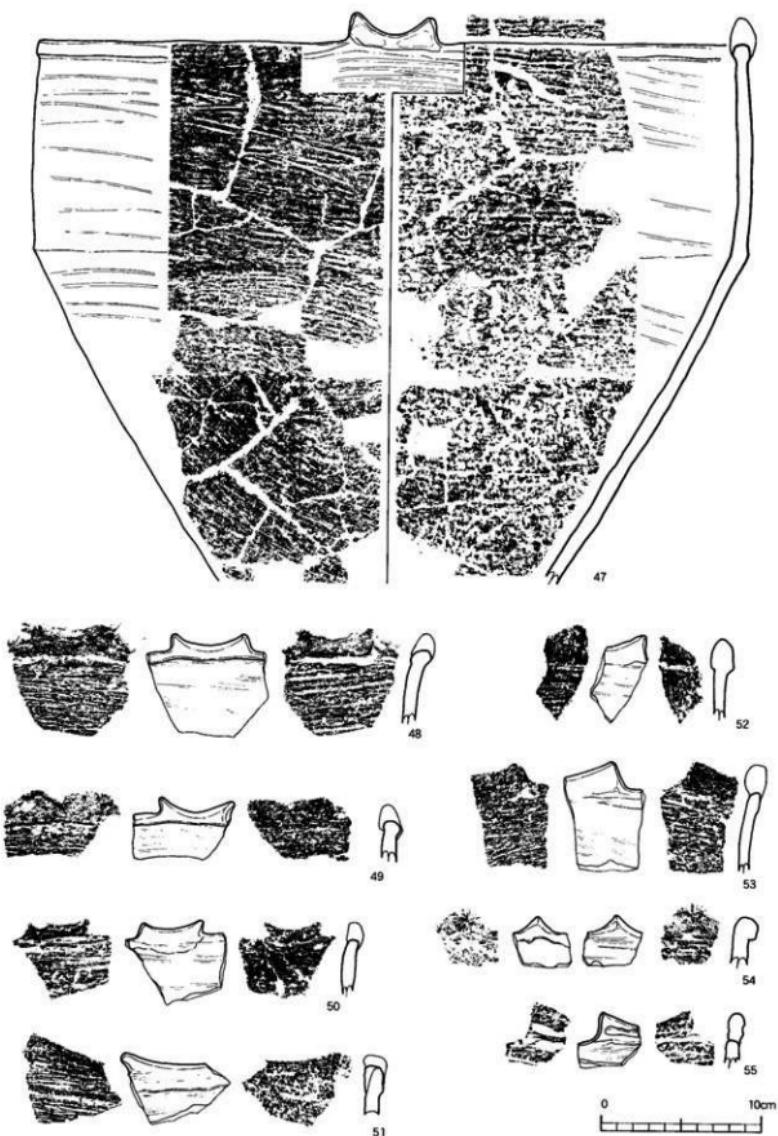
肩部には約30°の角度で屈曲するものと、ほとんど屈曲しない例（168・172など）がみられる。粘土の積み重ねの際に生じたと考えられる突帯状の盛り上がりがみられる例（176・177など）もある。195には突帯を、196には沈線を肩部に巡らしている。胴部はあまり湾曲せず、ストレートにたちあがる例が多い。

底部（I c・d・e類226～256）

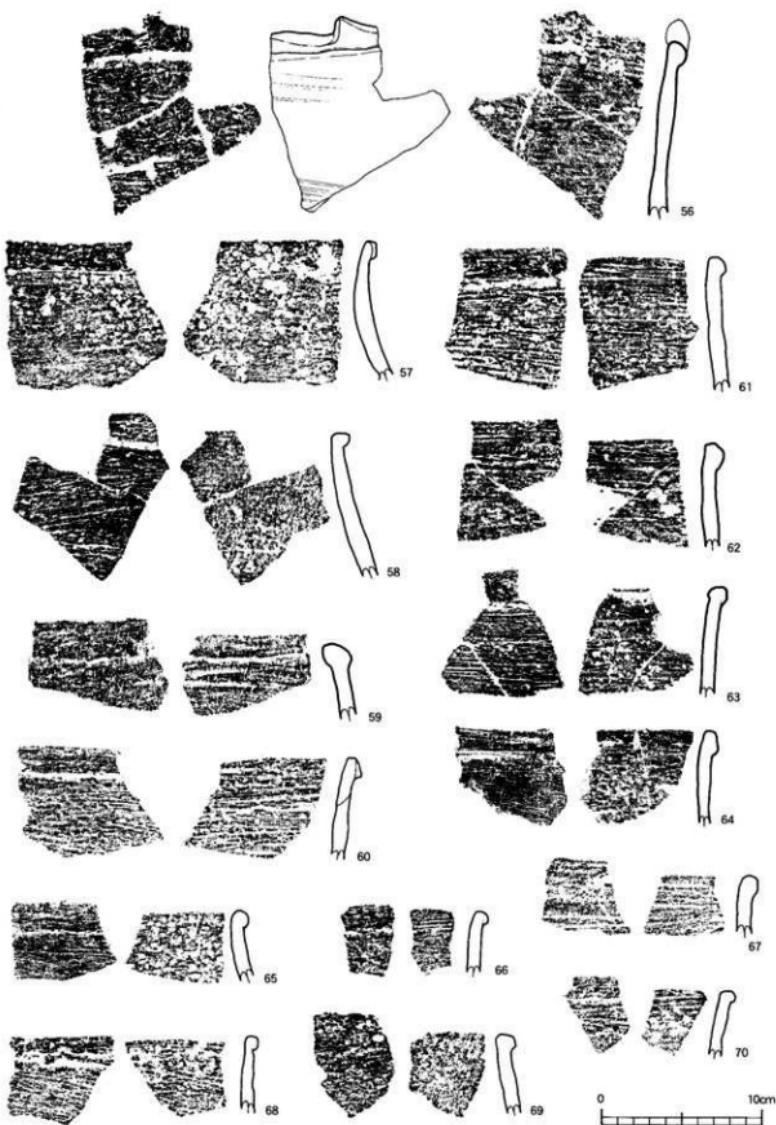
粗製土器の底部は小破片も含めて31個体分を数える。その内の80%以上は張り出しをもつ安定した底部である。それ以外は直行するもの（252・253）外開きになるもの（254～256）がある。これらの底部で特徴的なのは、圧痕をもつ例が8例存在するという点である。繩文時代後期にみられる網代底のように統一された圧痕ではなく、それぞれ異なった素材の圧痕をもっている。したがって土器製作時に偶然近くにあった素材が、意識的あるいは偶然圧痕として残ったと考えられる。胴部その他に圧痕がみられないことから、土器つくりの回転台代わりに近くにあつた物を置いたと思われる。237は10×8mmの木ノ実状の圧痕がみられる。専門家による分析を行っていないので種類はわからないが、今後の追究次第では土器がつくられた季節や環境も明らかになってくると考えられる。

(註1) 『千河原遺跡』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(12) 1995.3 加世田市教育委員会

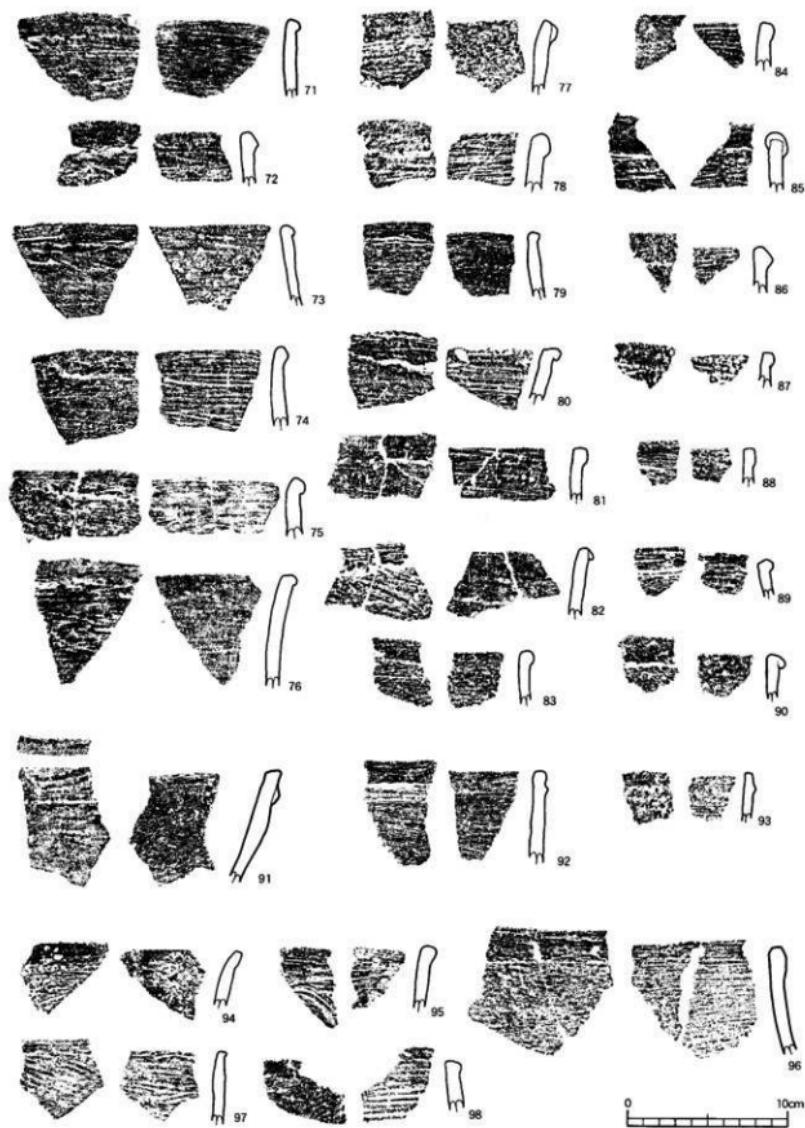
(註1) 『水の谷遺跡』鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書(5) 1986.3 鹿屋市教育委員会



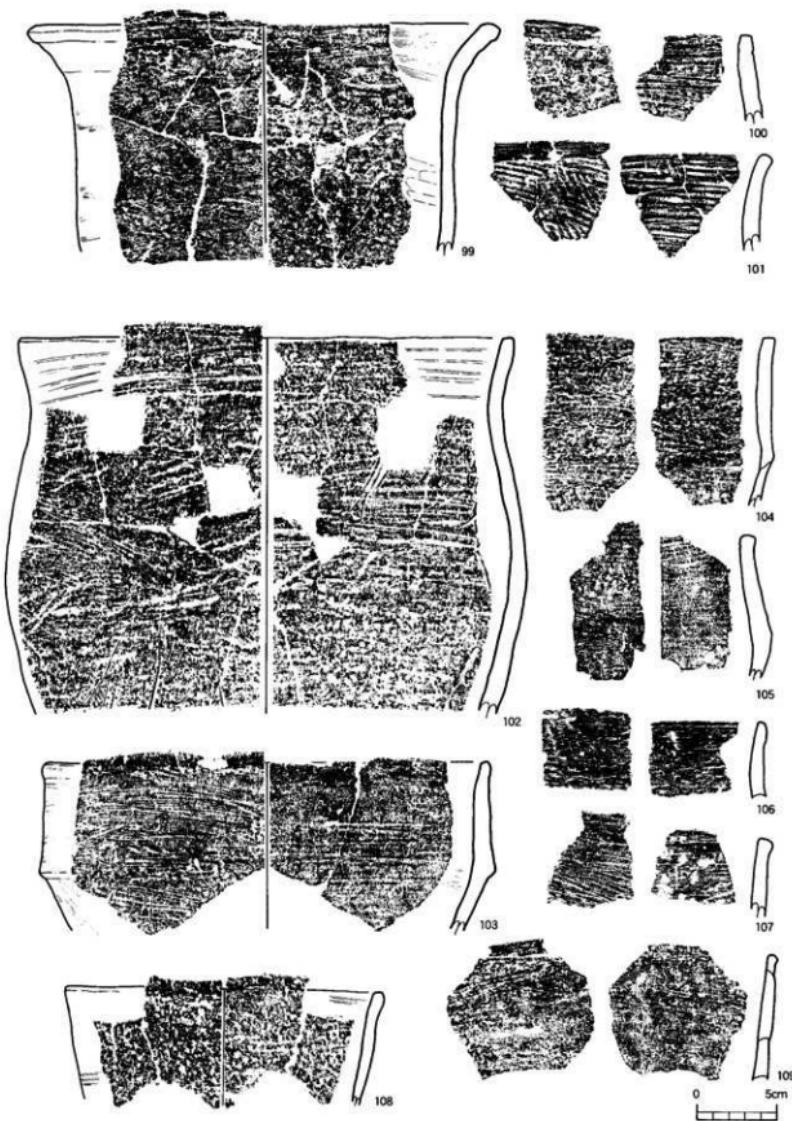
第12図 繩文時代晩期土器 (1)



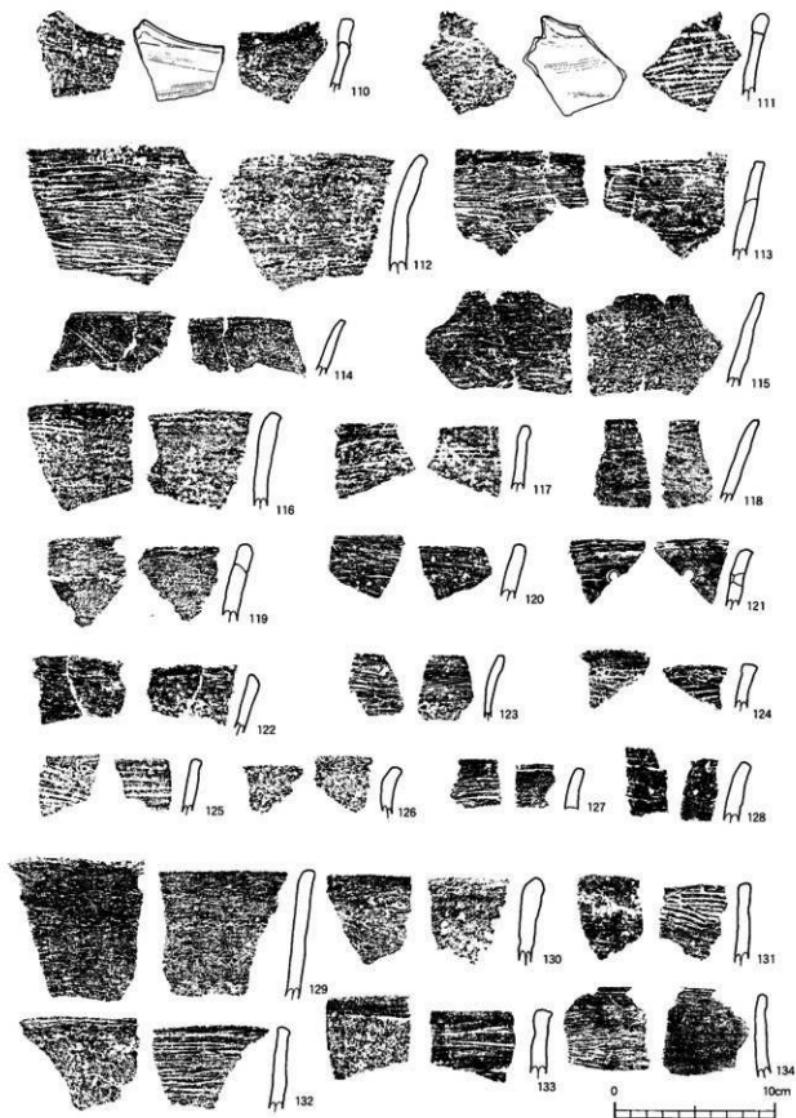
第13図 縄文時代晩期土器（2）



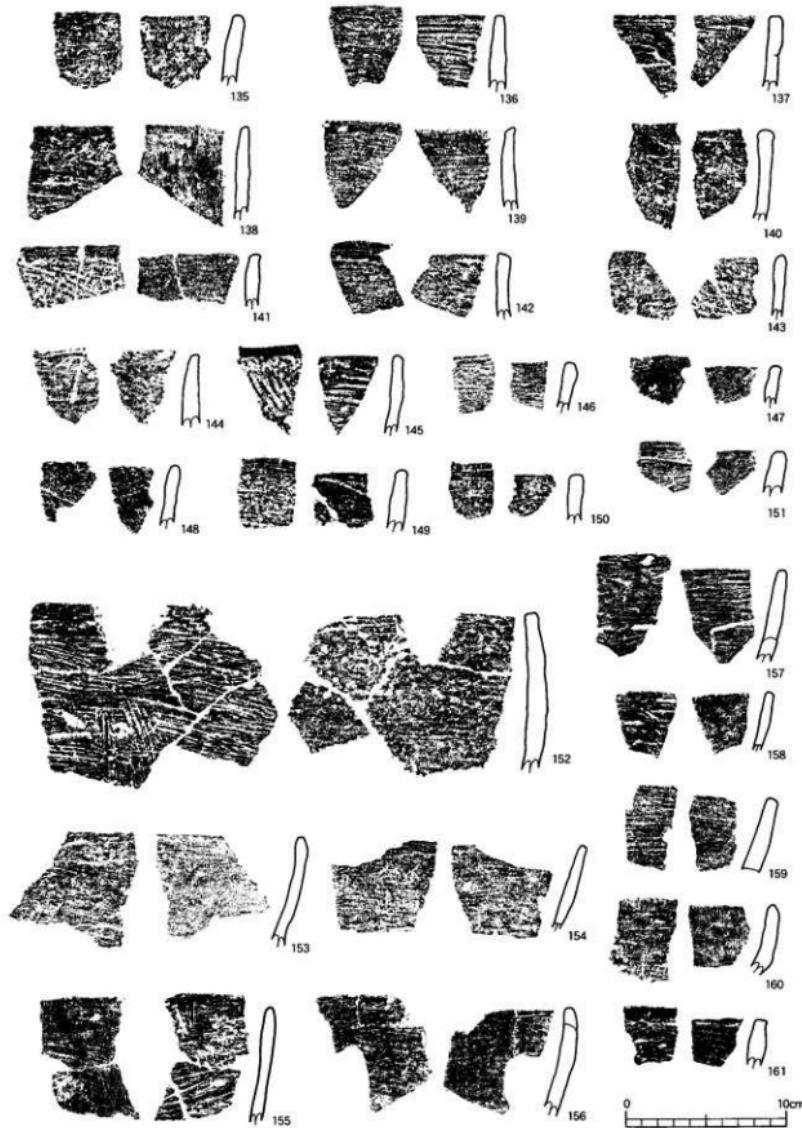
第14図 繩文時代晩期土器（3）



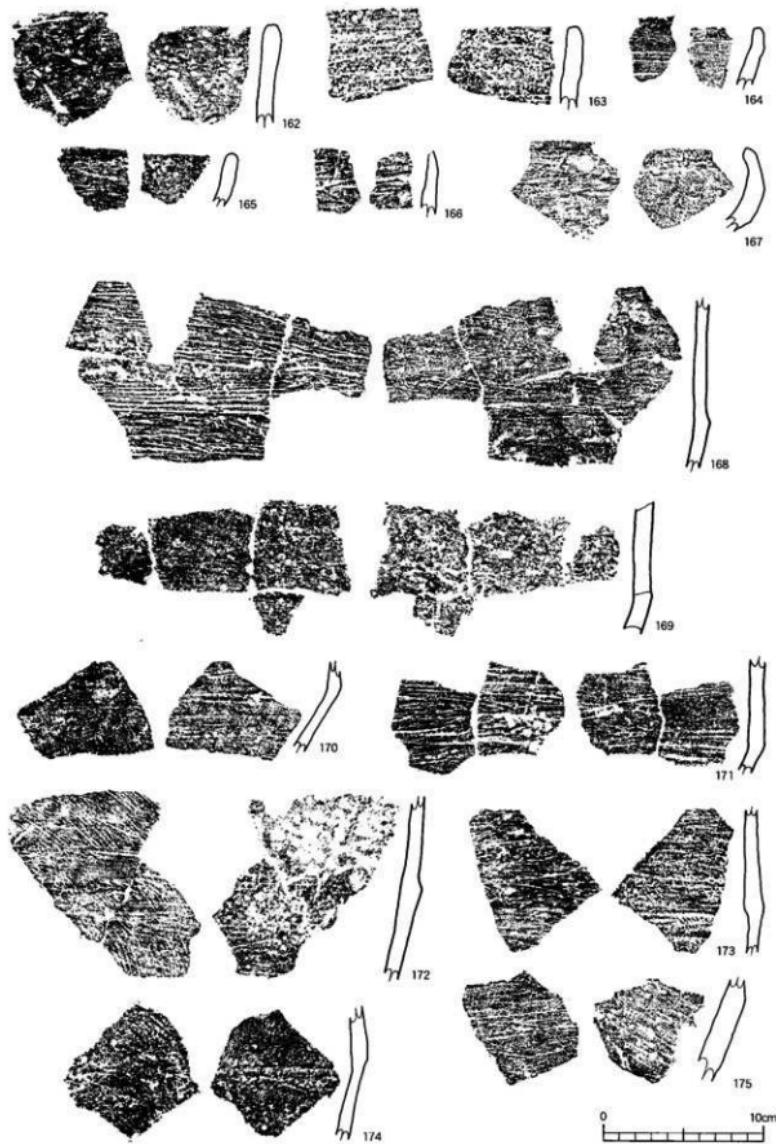
第15図 縄文時代晩期土器 (4)



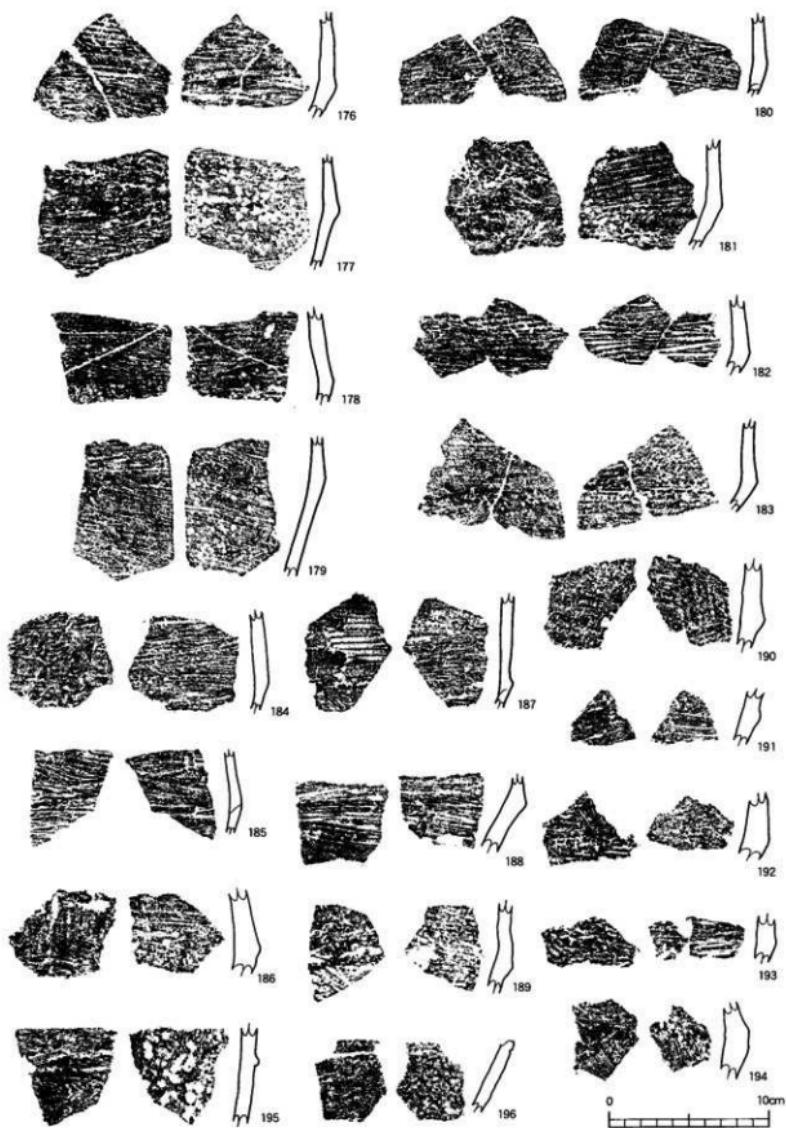
第16図 繩文時代晩期土器（5）



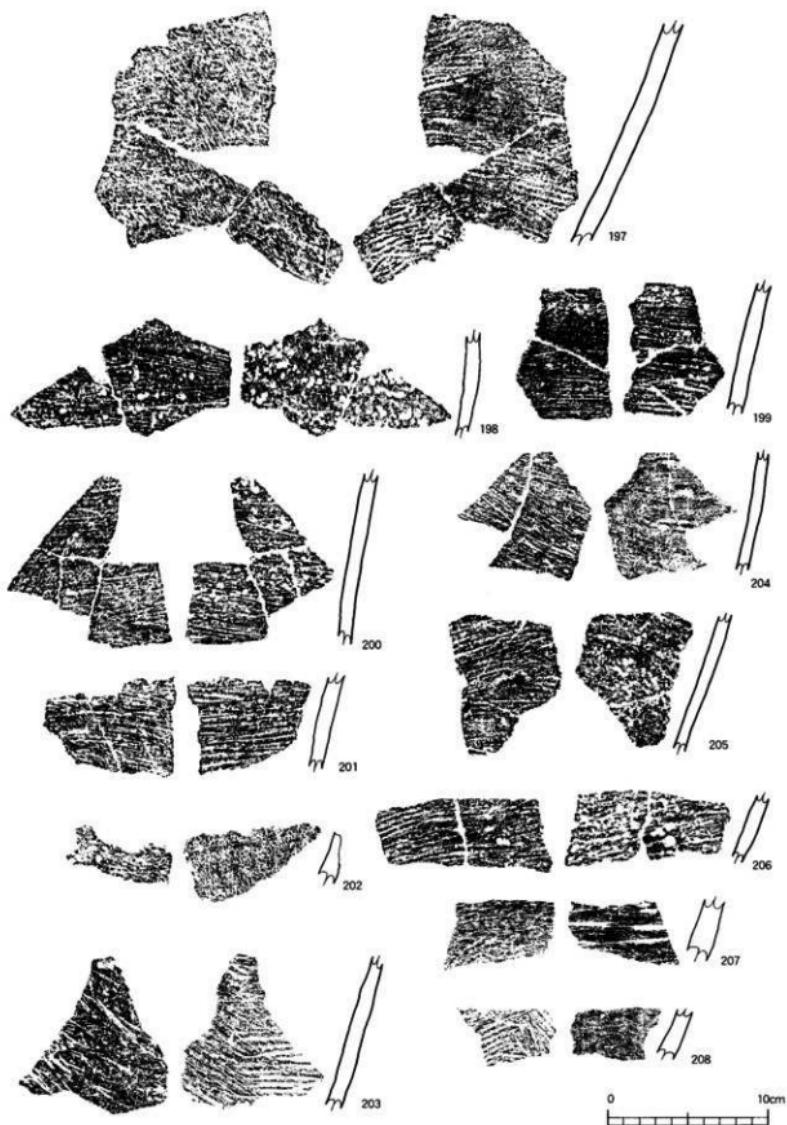
第17図 縄文時代晩期土器（6）



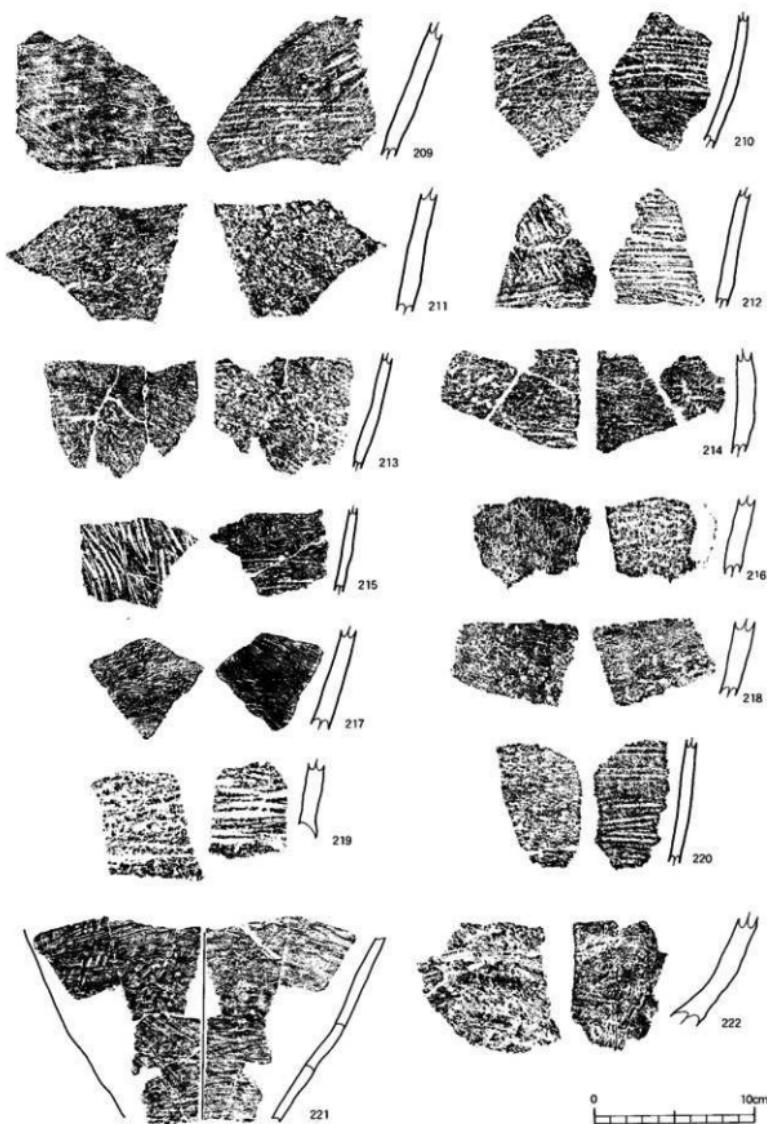
第18図 繩文時代晩期土器 (7)



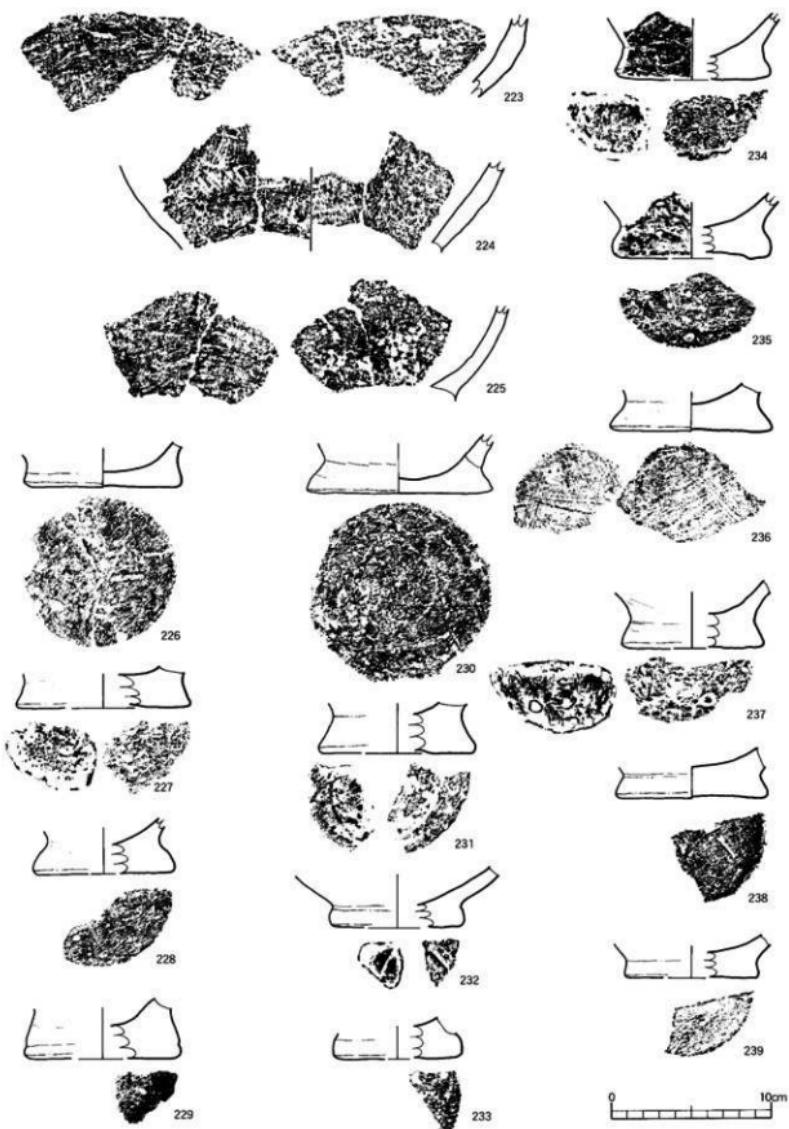
第19図 繩文時代晚期土器（8）



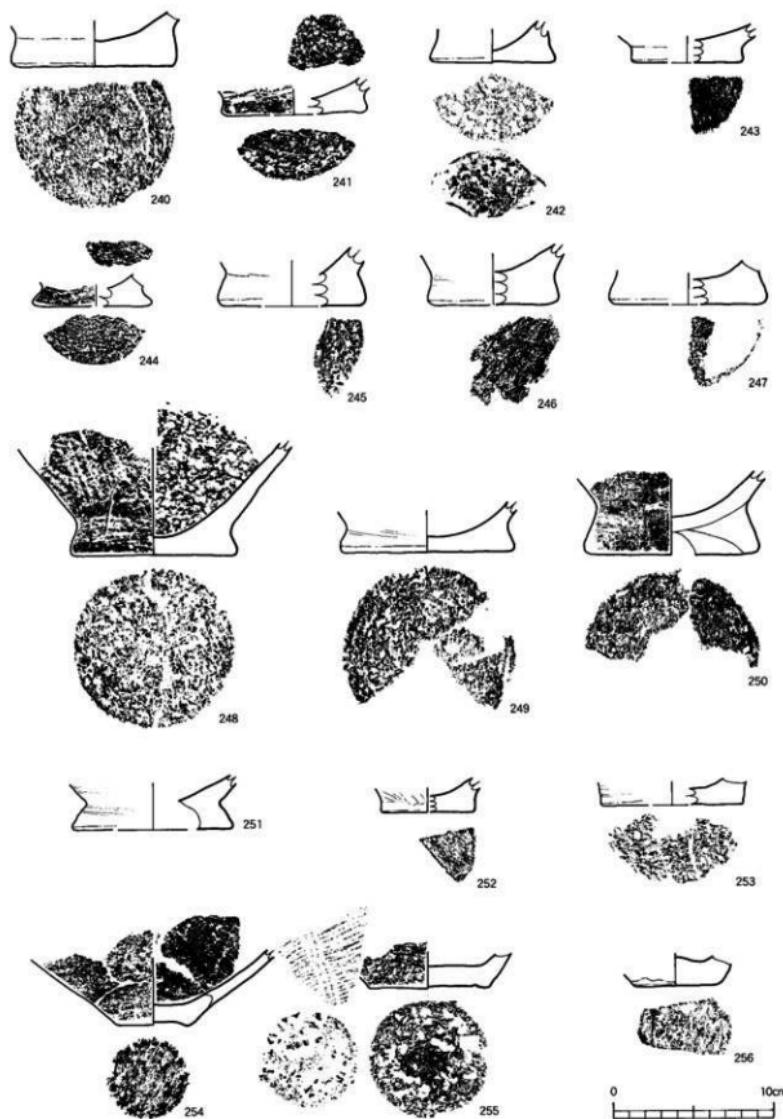
第20図 繩文時代晩期土器（9）



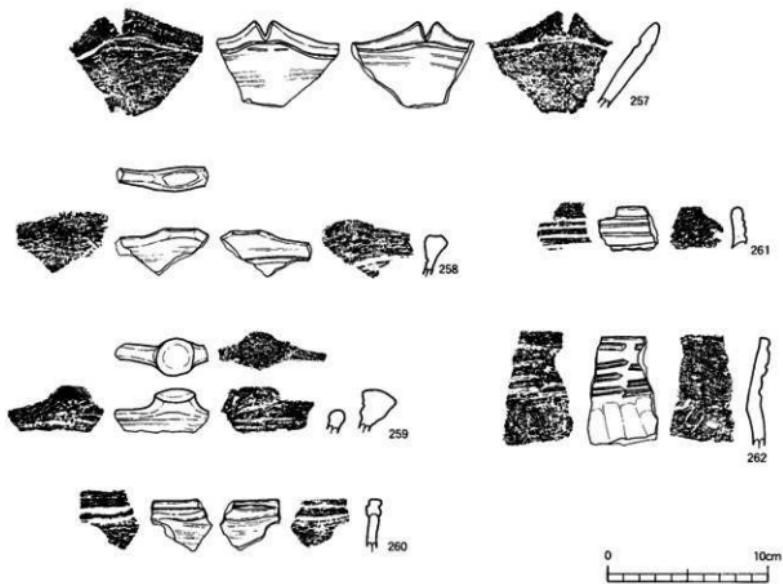
第21図 繩文時代晩期土器 (10)



第22図 繩文時代晩期土器 (11)



第23図 繩文時代晩期土器 (12)



第24図 縄文時代晩期土器（13）

その他の土器（I類：257～260）

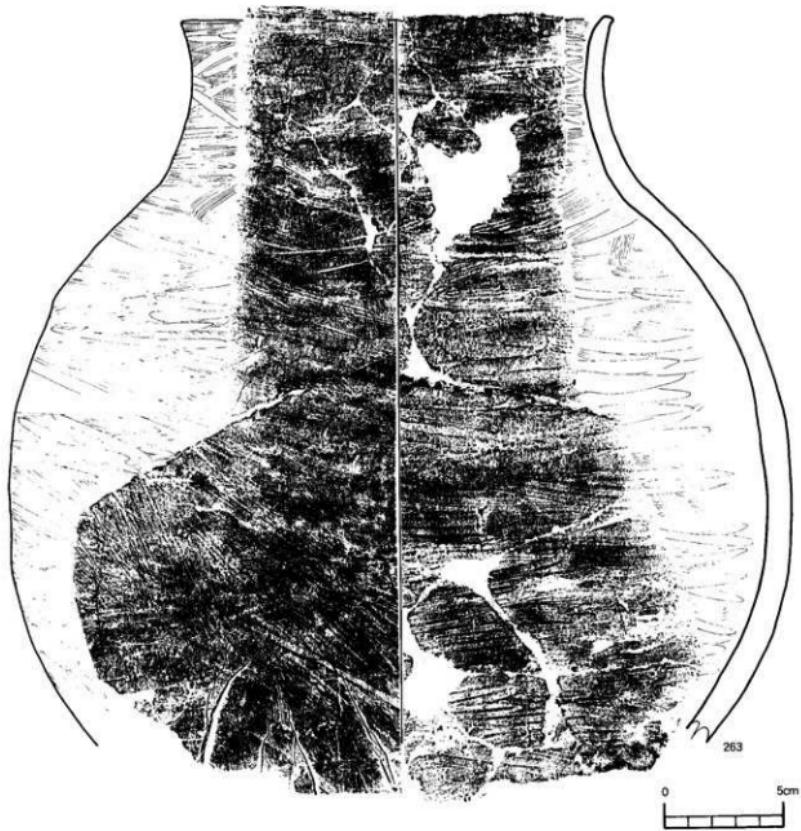
内外面とも条痕や粗いナデによる器面調整であるが、鉢形土器ではないと考えられるものである。257は波状口縁の波頂部を「V」字状にカットするもので、口唇部からやや下がったところの内外面に一条の沈線を施している。258と259は口唇部に突起をもつもので、260は口縁端部の内外面に沈線を施すものである。

上加世田式土器

261はやや内傾した口縁部であり、少なくとも4条の沈線が認められる。口縁部文様帶が凹線ではなく沈線であることから、縄文時代後期終末期の上加世田式土器の中でも新段階に位置づけられるものであろう。

南福寺式土器

262は約20°の角度で外側に屈曲し、内面には稜を残す。文様帶には半截竹管状の工具で4条の短沈線が施される。外面の胴部はケズリ様に調整されており、縄文時代後期前半の九州西海岸側に分布する南福寺式土器の特徴を示している。



第25図 縄文時代晩期土器 (14)

壺形土器

263の一点のみであるが、大型の壺形土器が出土した。胴部から肩部にかけては、ほぼ球形をなし、わずかに内傾する頸部から少し開く口縁部に至る。胴部最大径は35.0cmで、口径は18.4cmを測る。底部は欠損しており、形は推定復元による。推定の高さは約37cmであり、肩部から上位とその下の比は2:7となり、長胴とはならないものの比較的短頸である。色調は内外面とも黒褐色を呈し、器面調整は条痕の後やや間隔の開くミガキを施す。刻目突帯文土器に伴う壺型土器が、長胴で赤褐色を呈する点に違いがみられる。

精製土器（II類：264～366）

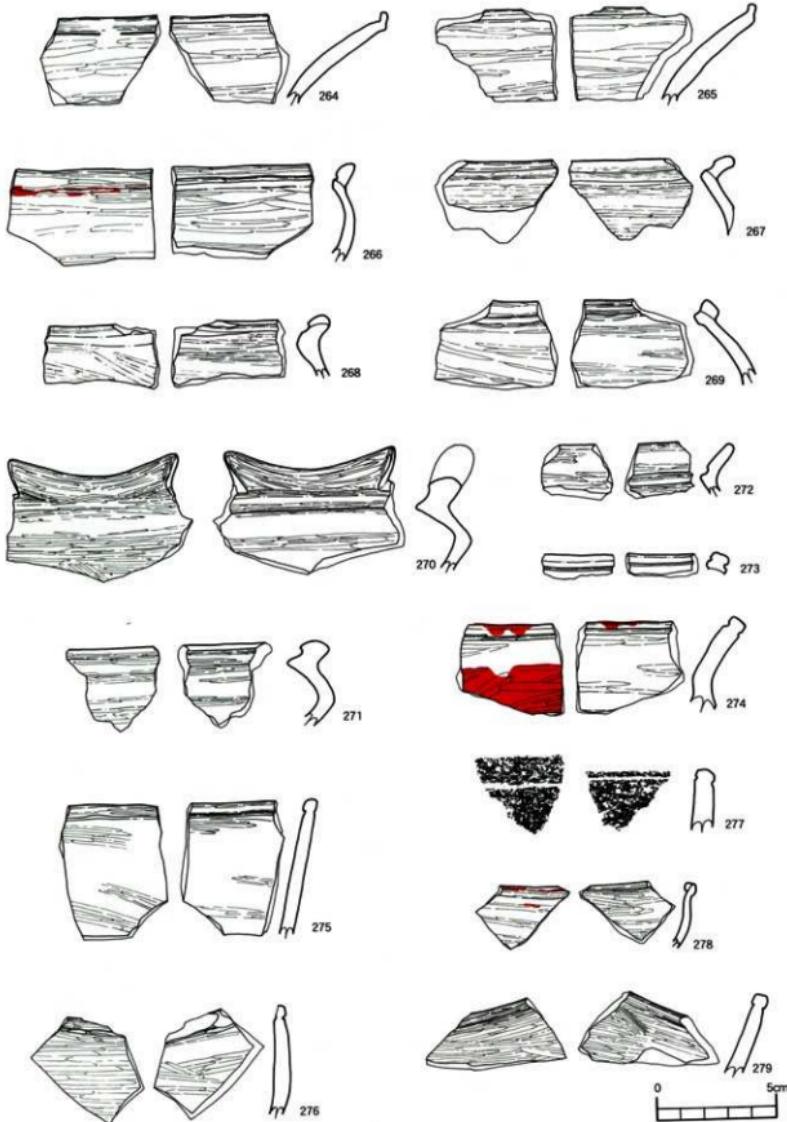
内側面ともミガキによる器面調整である。基本的には浅鉢形土器が主であるが、319・365などの様に一括りに出来ない器形もある。また、浅鉢形土器の中でも特徴的な器形として4種類には分けられそうであるが、一部の破片しかないものはどの種類になるか区別がつかないので一括してある。

264・265は口縁部が大きく開くもので、端部のみを屈曲させ立ち上がらせる。入佐式土器に伴う浅鉢形土器にみられるもので、この遺跡の中では古い様相を示す。266～274は大きく内湾する頸部から急に屈曲して外反する短い口縁部をもち、内面あるいは外面にも一条の沈線を巡らすものである。黒川式土器の典型的な浅鉢形土器である。口縁部の長さや屈曲の度合いに違いもみられるので、若干の時間差もありえる。

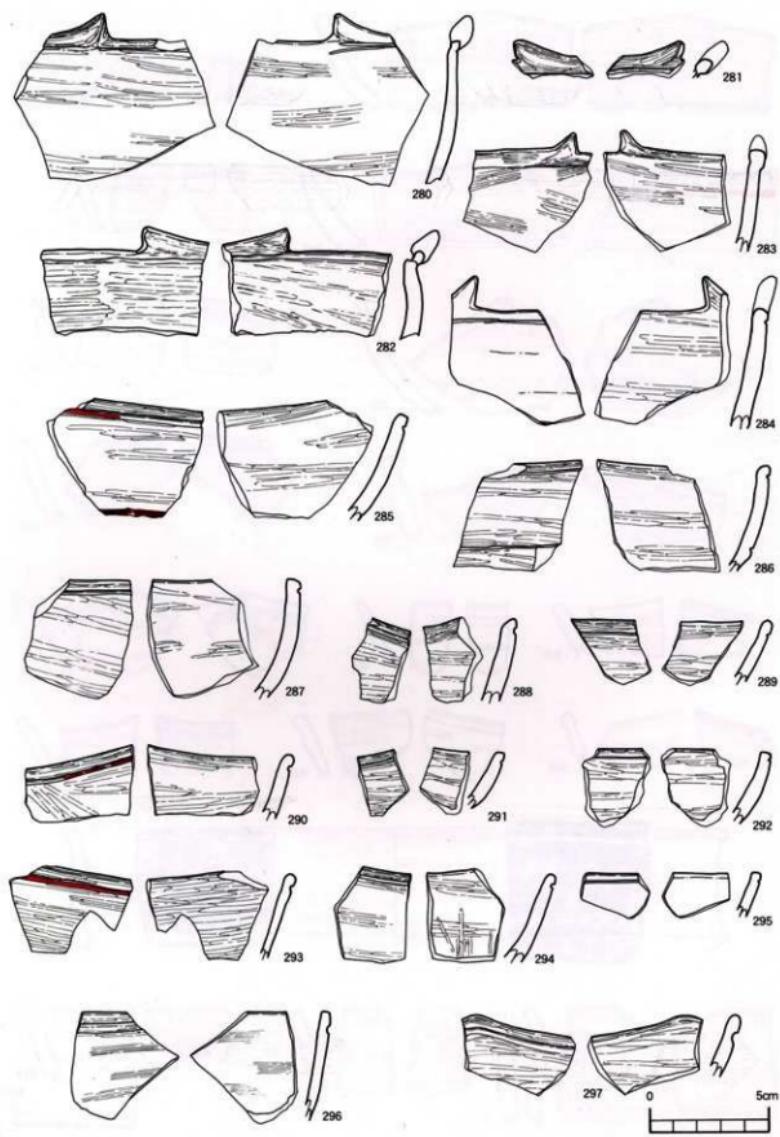
275～311はゆるく内湾しながら外開きとなる口縁部であり、口縁端部外面に沈線あるいは段が巡るものである。本遺跡内で全形が解る例はないが、他の遺跡を参考にして、302・332・357を組み合わせた様な器形が推定される。底部は約130°の角度で大きく外開きし、二条もしくは一条の沈線を巡らす。そして、胸部や上位の沈線が巡った部分から内湾しながら外開きとなる口縁部に至る器形である。本遺跡の精製土器の中で、ほとんどはこの器形の浅鉢形土器であると考えられる。口縁端部の沈線及び段を見ると、沈線のままのもの（f類）、沈線の下の部分を削るもの（g類）、段のもの（h類）に分けることができる。ここだけを見ると、f類→g類→h類の順に時期的な変遷が追えそうであるが、他の部位の変化あるいは前後型式との関わりの中で明らかにしていかなければならない。312・313は大きく開いた胸部から約120°の角度で屈曲し、外反ぎみに直行する口縁部である。刻目突帯文土器に伴う浅鉢形土器にみられる器形であり、この遺跡の中では新しい様相を示す。319は小型のマリ形土器であり、高さ5cm、口径7.3cmを測る。口縁端部にカマボコ状の突帯を巡らす。324は胸部最大径部分で約70°の角度で内側に屈曲するもので、屈曲部から肩部にかけて少なくとも4条の凹線が巡る。便宜上ここにレイアウトしたが、後期後葉の三万田式土器から鳥井原式土器にかけての特徴をもっている。365は丸底の土器であり、胸部に二条の沈線を巡らす。上の沈線からはさらに上位に縦方向の沈線が延び両側の角を削りとることによって、沈線間が浮き上がった様な感じに見える。沈線内には赤色顔料が認められる。366も横位の沈線から縦位に短沈線が延びる。それに沿って両側に沈線を施す。332の胸部中央には種子状の圧痕が認められる。今回は専門家による実物の分析は行っていないが、写真による判断では糊や米の可能性は少ないと。いう。

赤色顔料塗彩の土器

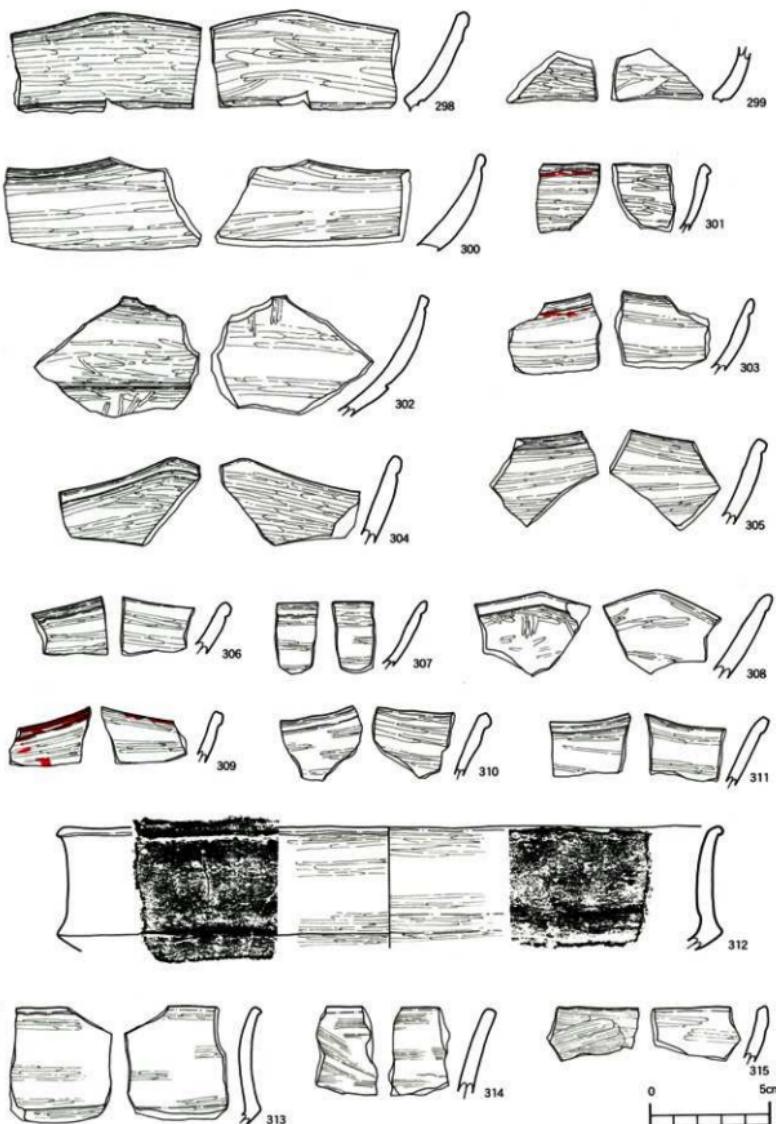
精製土器のうち、17点に赤色顔料が認められた。全て浅鉢形土器である。多くは沈線内だけであるが、外面全面もしくは口縁部内面にも塗られていた可能性がある。鹿児島県立埋蔵文化財センター所蔵の走査型電子顕微鏡とエネルギー分散型X線分析装置を用いた大久保浩二氏の分析によると、全てベンガラ（酸化第二鉄）を素材とするものである。278と285にはパイプ状粒子が認められる。



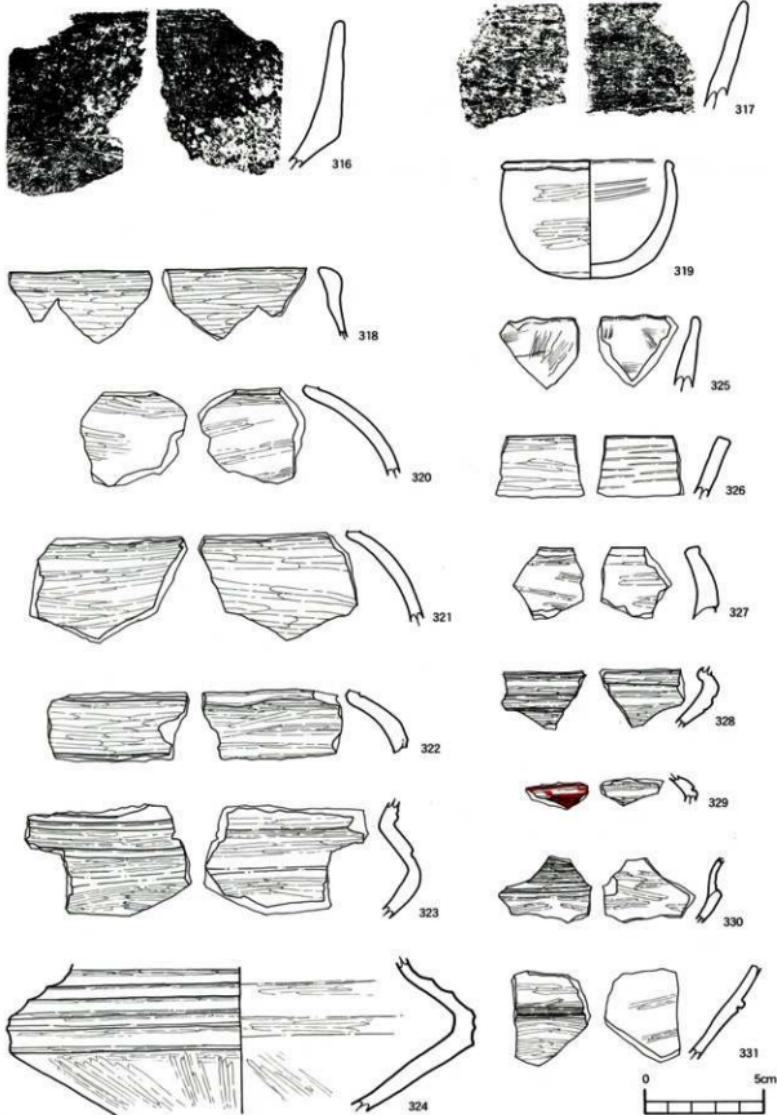
第26図 繩文時代晩期土器 (15)



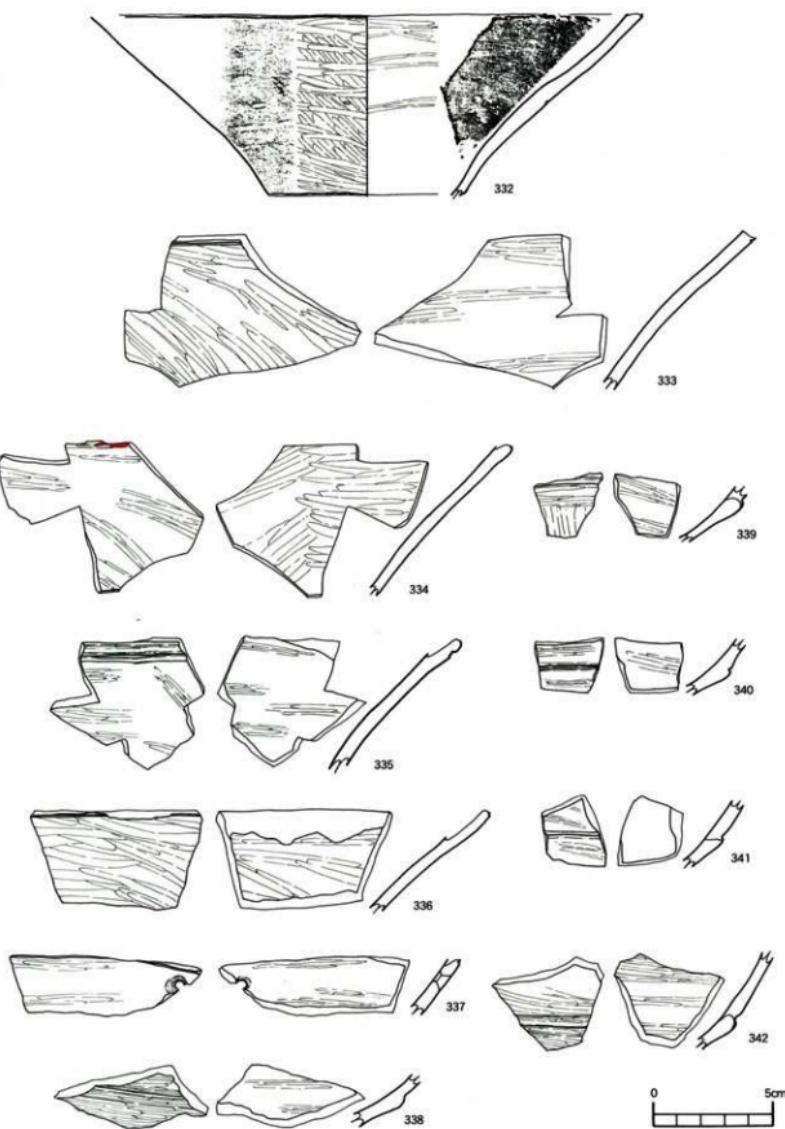
第27図 縄文時代晩期土器 (16)



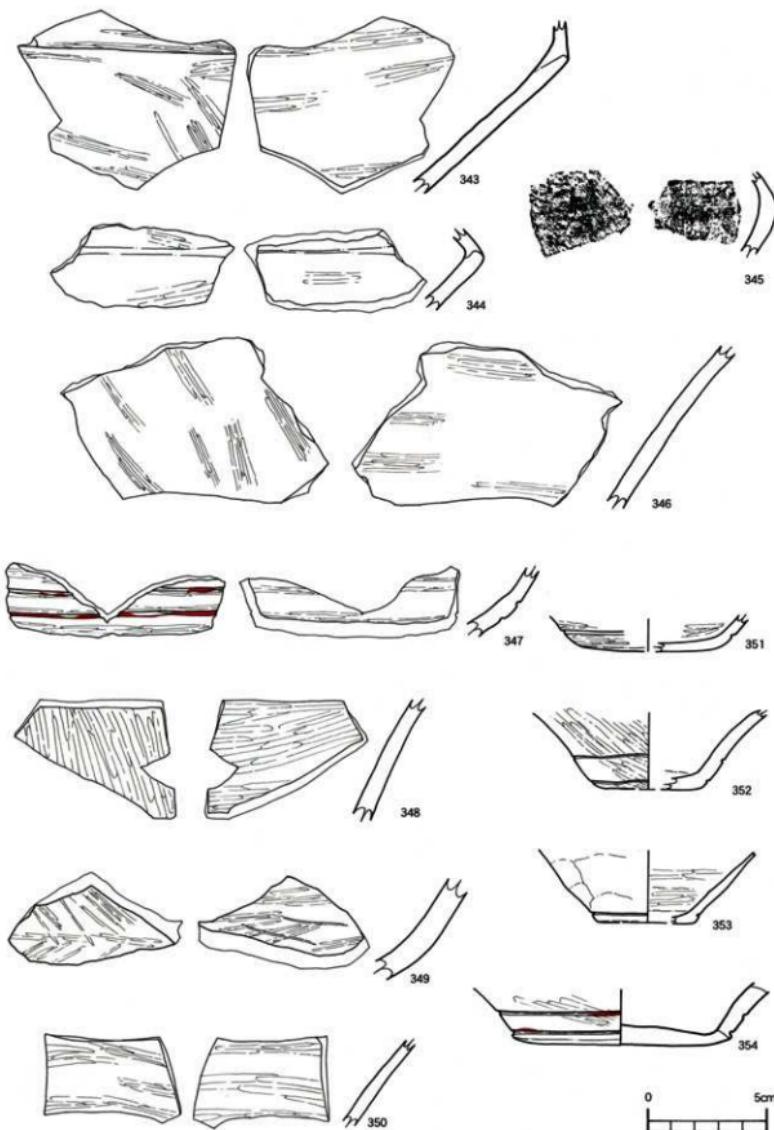
第28図 縄文時代晩期土器 (17)



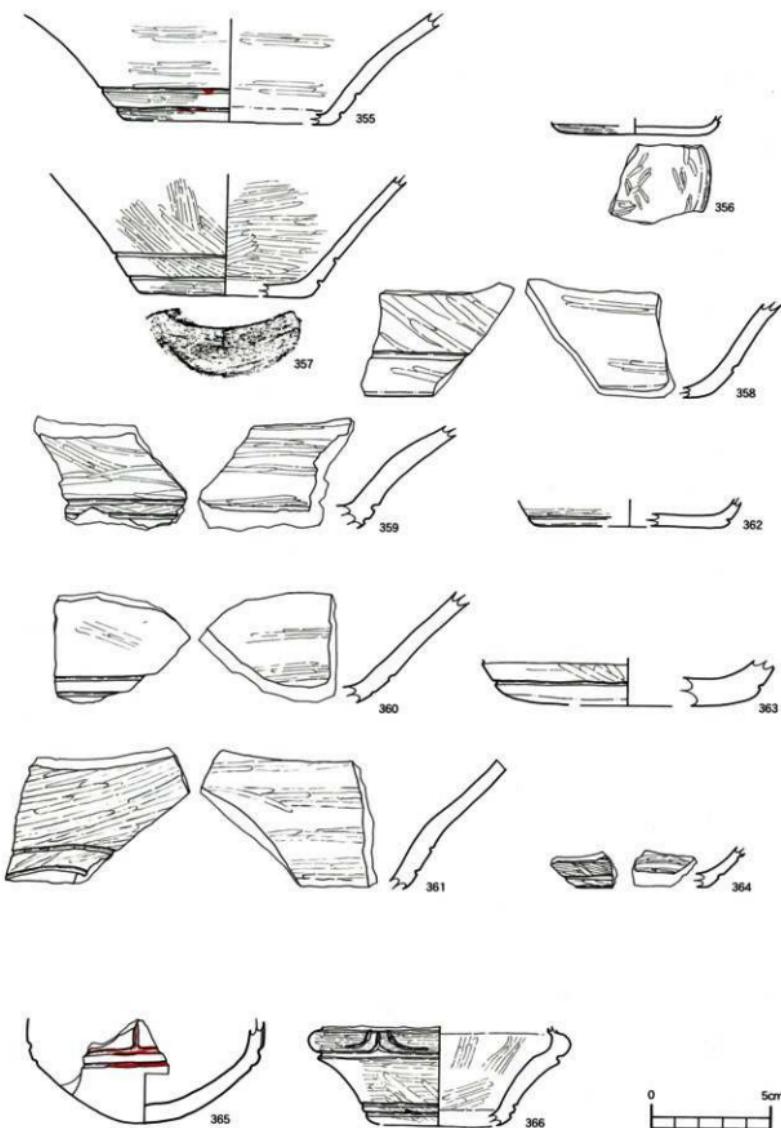
第29図 縄文時代晩期土器 (18)



第30図 繩文時代晩期土器 (19)



第31図 繩文時代晩期土器 (20)



第32図 繩文時代晩期土器 (21)

組織痕土器 (Ⅲ i 類 : 367~399)

367~380は編布の圧痕をもつものである。経糸間の幅及び1cmあたりの縞糸の本数は表中に示した。経糸間の幅は大きく3種類があり、5~7mmの密なもの、9~11mmの中間的なもの、24mm前後の粗いものがみられる。369は経糸間24mmの部分と幅7mmの間に3本の経糸を入れる部分をもっている。また、375も経糸間7mmの部分と、幅3mmの間に2本の経糸を入れる部分をもっている。さらに371も幅7mmに少なくとも3本の経糸が入る。これらは、いずれも装飾を意識した編み方をしていると考えられる。縞糸は1cmあたりに8~10本の密なものと、7本以下の粗いものがあり、概して経糸間の広いものはほど縞糸も粗い。368・372・377は重なりか折り目が認められる。373は6mmの間に6本の縞糸を入れた上下に3mm幅の空白部分がみられる。確認できた継りはすべてZ継りである。

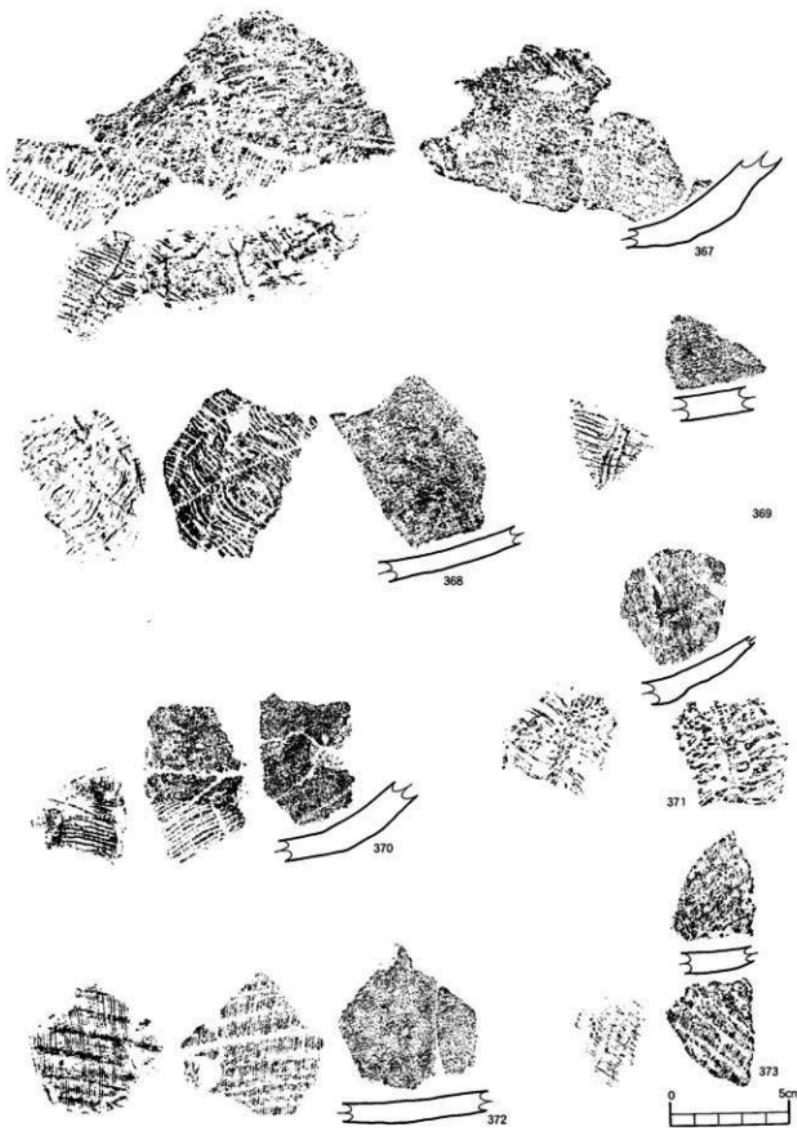
381~396は網目の圧痕をもつものである。結び目は「ホンメ（ヒラメ）」なのか「かえる股」であるのかは判断がつかない。結び目間の長さには大きく3種類があり、37mmの目の粗いもの、9~13mmの中間的なもの、5~7mmの目の細かなものである。糸の太さは、1mm~1.5mmであり、確認できた継りはすべてZ継りである。384・389・390・392は同じ網目を重ねたものであり、ちょうど網目の中心にもう一枚の網目がくるように配慮されている。なるべく型と粘土の接着面が少なくなる様に工夫した様子が窺える。385の網目はかなり粘土に食い込んでおり、土器の内面まで達していることから液体を含む調理には向かなかったかもしれない。381の37mmの網目の間には何の圧痕も観察できなかったので、既在の組織痕土器を型として利用した可能性も考えられる。

397と398は単位をもつ圧痕であることははっきりとしているけれども、それが何の圧痕であるのか解らない。399は2本送り2本通しの網代をもつ圧痕である。材質はどの様なものの解らない。これまで県内で出土している組織痕土器の中で、網代の例はほとんどなかった。これは渡辺誠氏が指摘するとおり、型としてのカゴ自体の圧痕と考えられる。

組織痕土器は小破片が多く、なかなか全体の器形を把握することが出来ない。これは被熱が著しく、しかも型づくりによることにも原因があるかもしれない。時期は異なるが、古代の焼塩壺と共に通している。それでも、これまでの類例から380はある程度の器形を復元することが出来る。器高が低く、口縁部は広い中華鍋形になり、組織痕は底部から胴部中位にかけて認められる。水平に近い角度の部分では型づくり技法により、垂直に近い部分では粘土紐を積み重ねるという2つの技法を用いたと考えられる。

半粗半精製土器 (Ⅲ j 類 : 400~403)

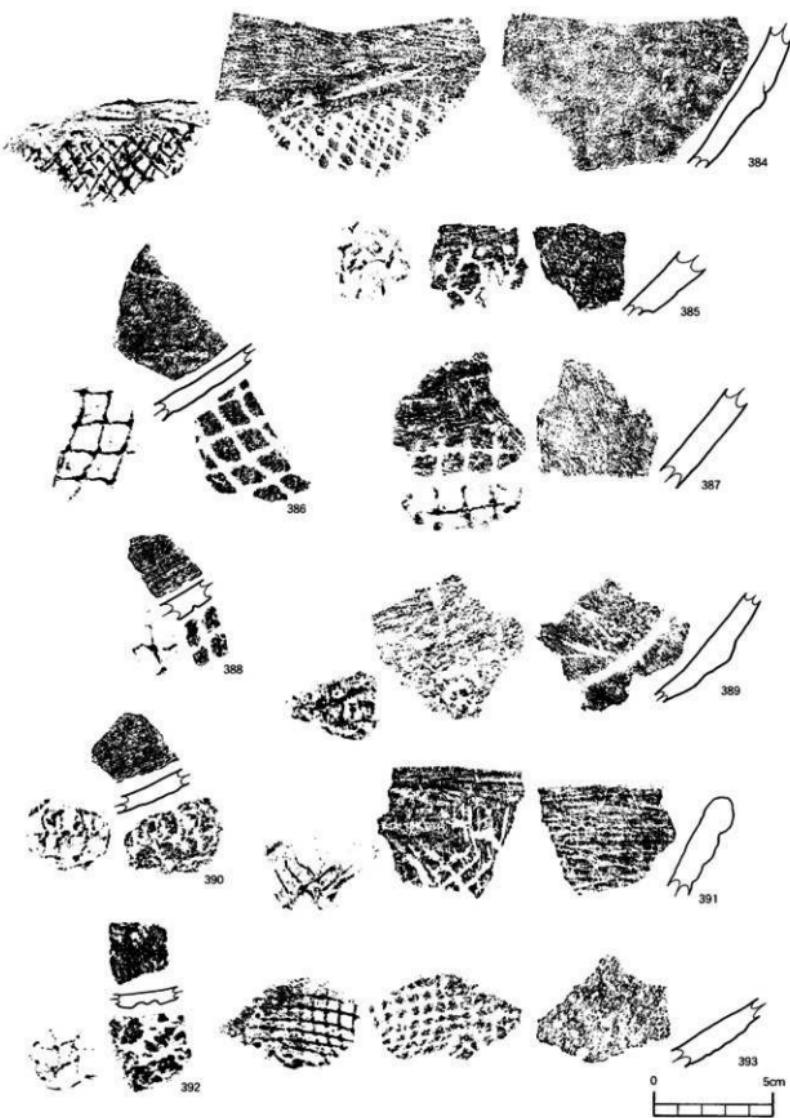
表面には組織痕が見られないが、器形や機能的には組織痕土器と同様のものである。400の表面には組織痕は見られないものの、割れ口の接合面に単位のある圧痕が認められ、つくり方としては組織痕土器と一緒にだったことが窺える好資料である。403は器形を復元することが出来、口縁部の直径は39.4cmを測る。高さは約15cmと推定され、口径と器高の比は8:3となる。しかも、火熱をかなり受けていることから、煎ったりする調理に適した道具が想定される。内面のみ磨いている点も、食材がころがりやすいようにしたのではないかと考えられる。



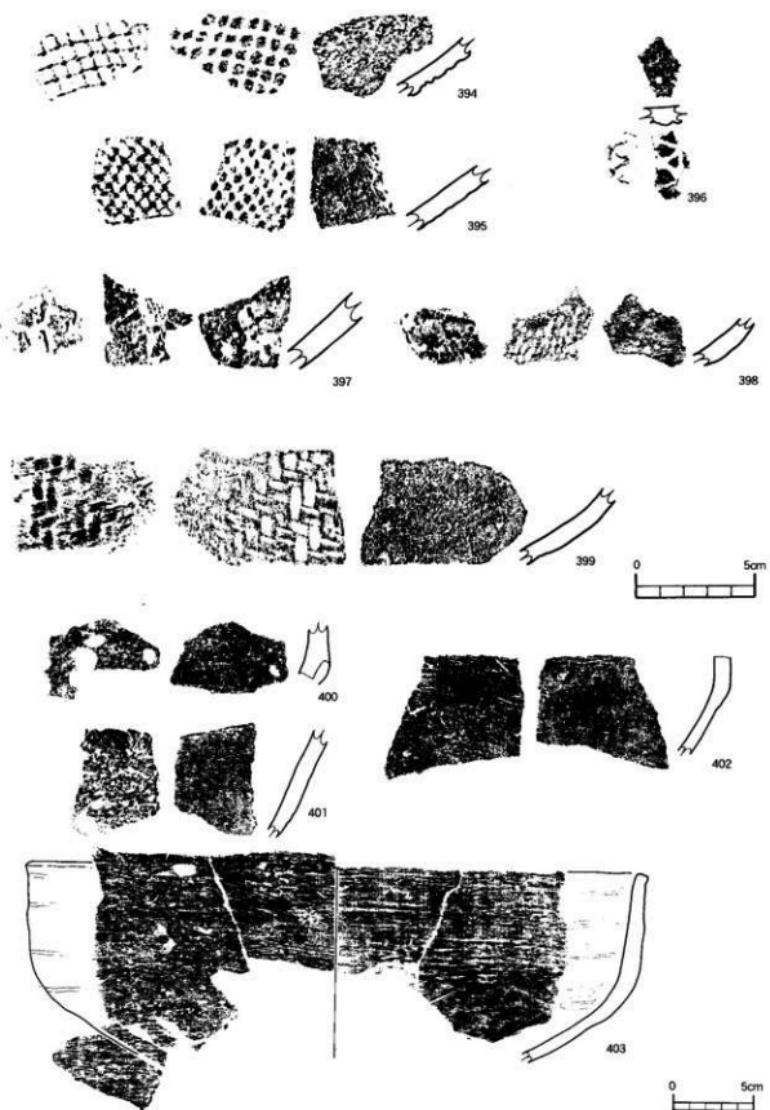
第33図 繩文時代晩期土器 (22)



第34図 繩文時代晩期土器 (23)



第35図 繩文時代晩期土器 (24)



第36図 繩文時代晩期土器 (25)

第5表 繩文晚期土器観察表 (1)

種別番号	図版号	出土区	層位・遺構	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取り上げ番号	出土レベル (m)	特徴・胎土・焼成・その他備考
							外面	内面			
第12回	47	7 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部・底盤付近	Ia	条紋・黄褐色	3438-3440	14.24	リボン状突起付3442		
第12回	48	6 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	1149	14.725	リボン状突起		
第12回	49	7 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	1444	14.47	リボン状突起尾		
第12回	50	7 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	3486	14.265	リボン状突起		
第12回	51	7 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2564	14.42	リボン状突起		
第12回	52	6 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2044	14.425	リボン状突起		
第12回	53	7 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	1372	14.505	リボン状突起尾		
第12回	54	9 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄褐色	1406	14.06	リボン状突起		
第12回	55	9 円	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2669	14.295	リボン状突起		
第13回	56	6 Ⅲ・IB	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	971-972	15.29	リボン状突起974		
第13回	57	9 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	4109	14.49			
第13回	58	9 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・明茶褐色	4111-4116	14.335			
第13回	59	7 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	3002	15.26			
第13回	60	7 Ⅲ 下	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2431	14.58			
第13回	61	8 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・暗褐色	3001	14.38			
第13回	62	8 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・明茶褐色	2931-2932				
第13回	63	7 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2280	14.33			
第13回	64	9 Ⅲ 下・Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・白黄色	4146-5163	13.815			
第13回	65	9 古道	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2359	14.02			
第13回	66	8 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・茶褐色	2878	14.355			
第13回	67	9 ±2	深林形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄褐色	4861	14.095			
第13回	68	8 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	4788	14.465			
第13回	69	9 古道	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・橙褐色	2341	14.175			
第13回	70	8 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2973	14.345			
第14回	71	6 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄褐色	1150	14.735			
第14回	72	7 IB	深林形土器	口縁部	Ia	ナデ・黄褐色	1487	14.515			
第14回	73	39T Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	ナデ・暗褐色	252	14.255			
第14回	74	9 占道	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	2333	14.18			
第14回	75	9 Ⅲ・円	深林形土器	口縁部	a	ナデ・明茶褐色	1663-2	14.285	半斜精製土器の可能性もある焼付端		
第14回	76	9 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	1778	14.155			
第14回	77	19 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・黄褐色	7469	14.905			
第14回	78	9 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	条紋・橙白色	4806	14.37			
第14回	79	9 Ⅲ	深林形土器	口縁部	Ia	ナデ・明茶褐色	4414	14.23	焼付着		

第6表 繩文晚期土器觀察表（2）

第14区	80	8	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄灰褐色 条痕・黄褐色	3805	14.515
第14区	81	7	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	条痕・黄褐色 条痕・黄茶褐色	2429-2425	14.58
第14区	82	9	Ⅲ	深林形土器	口輪部	a	ミガキ様・灰褐色 ナデ・黄褐色	4814-1633	14.395
第14区	83	7	深林形土器	口輪部	In	条痕・黄灰褐色 ナデ・黄褐色	2274	14.325	
第14区	84	8	Ⅲ上	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	3855	14.18
第14区	85	6	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	条痕・黄茶褐色 ナデ・黄茶褐色	1969	14.385
第14区	86	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗灰褐色 ナデ・暗灰褐色	4801	14.425	
第14区	87	8	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	3680	14.63
第14区	88	9	円	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	3013	14.19
第14区	89	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	4303	14.34	
第14区	90	7	Ⅲ	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄灰褐色 ナデ・黄灰褐色	2299	14.36
第14区	91	6	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	1088	14.605	
第14区	92	9	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	4082	14.505
第14区	93	7	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄茶褐色 ナデ・黄茶褐色	3477	14.22
第14区	94	39T	深林形土器	口輪部	Ib	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	308	14.275	
第14区	95	6	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄灰褐色 ナデ・黄灰褐色	2045	14.57
第14区	96	6	Ⅲ-B	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄茶褐色 ナデ・黄茶褐色	1006-976	15.29
第14区	97	6	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	1174	14.705	
第14区	98	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄白色 ナデ・黄白色	1819	14.165	
第15区	99	16	深林形土器	口輪部	-	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	6515-6628	14.38	
第15区	100	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黑褐色 ナデ・黑褐色	4316	14.275	
第15区	101	9	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黑褐色 ナデ・黑褐色	4247	14.335
第15区	102	6-7	Ⅲ上・Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄白色 ナデ・黄白色	ケ-6III-977	14.275
第15区	103	6	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	938-955	14.75	
第15区	104	9	深林形土器	口輪部	In	ケ-6II-977 ナデ・黄茶褐色 ナデ・黄茶褐色	1826	14.125	
第15区	105	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	5164	13.845	
第15区	106	6	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	976	15.295	
第15区	107	6	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄白色 ナデ・黄白色	1237	14.71	
第15区	108	7	Ⅲ下	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄白色 ナデ・黄白色	2189-3411	14.31
第15区	109	7	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	2428	14.635	
第16区	110	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗褐色 ナデ・暗褐色	4131	14.35	
第16区	111	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・暗茶褐色 ナデ・暗茶褐色	263	14.235	
第16区	112	39T	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	2713-3318	13.695	
第16区	113	9	深林形土器	口輪部	In	ナデ・明茶褐色 ナデ・明茶褐色	5837-6437	14.05	
第16区	114	14	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	6751	14.05	
第16区	115	17	深林形土器	口輪部	In	ナデ・黄褐色 ナデ・黄褐色	6751	14.05	

第7表 繩文晚期土器観察表（3）

第16区	116	9	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・茶褐色	ナ・黄灰褐色	1783	14.215	
第16区	117	10	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄灰褐色	ナ・黄灰褐色	7134	13.91	
第16区	118	18	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄灰褐色	ナ・黄灰褐色	7735	14.935	
第16区	119	18	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄灰褐色	ナ・黄灰褐色	8537	14.94	
第16区	120	7	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・褐褐色	条幅・褐褐色	2443	14.565	
第16区	121	8	Ⅲ	上	深钵形土器	Ib	条幅・褐褐色	ミガキ・褐褐色	1419	撲付孔	
第16区	122	8	Ⅲ	下	深钵形土器	Ib	条幅・褐褐色	ナ・黄茶褐色	3853		
第16区	123	6	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄灰褐色	ナ・黄茶褐色	4560	4595	
第16区	124	8	IB	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄灰褐色	ナ・黄茶褐色	1215	14.645	
第16区	125	9	古道	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄灰褐色	ナ・黄茶褐色	740	14.53	
第16区	126	17	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄茶褐色	ナ・黄茶褐色	2358		
第16区	127	8	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄灰褐色	ナ・黄茶褐色	8271	14.49	
第16区	128	18	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・明茶褐色	ナ・明茶褐色	2897	14.35	
第16区	129	19	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄灰褐色	ナ・暗灰褐色	7882	15.1	
第16区	130	8	Ⅲ	下	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄灰褐色	ナ・黄茶褐色	7284	14.91
第16区	131	9	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄灰褐色	ナ・暗灰褐色	3889	14.53	
第16区	132	9	円	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄灰褐色	ナ・黄茶褐色	4313	14.36	
第16区	133	7	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・黄茶褐色	ナ・黄灰褐色	1512	14.515	
第16区	134	9	Ⅲ	上	深钵形土器	Ib	ナ・茶褐色	ナ・茶褐色	4740	14.025	
第17区	135	9	IB	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・茶褐色	ナ・茶褐色	334	14.305	
第17区	136	9	Ⅲ	下	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・茶褐色	ナ・茶褐色	4452	13.945
第17区	137	8	Ⅲ	下	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄灰褐色	ナ・黄灰褐色	3890	14.55
第17区	138	11	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄茶褐色	ナ・黑褐色	7944	14.035	
第17区	139	8	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄白色	ナ・黄茶褐色	4920	14.235	
第17区	140	9	Ⅲ	下	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・茶褐色	ナ・黄茶褐色	2776	14.49
第17区	141	9	円	深钵形土器	口縁部	Ib	剥落した可能性	ナ・暗灰褐色	2658	2659	
第17区	142	8	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・白色	ナ・黄茶褐色	2988	14.41	
第17区	143	8	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄灰褐色	ナ・黄灰褐色	2937	2983	
第17区	144	8	IB	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄黑色	ナ・黄茶褐色	677	14.44	
第17区	145	9	Ⅲ	下	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・黄褐色	ナ・黄茶褐色	4052	14.495
第17区	146	6	Ⅲ	下	深钵形土器	口縁部	Ib	条幅・茶褐色	ナ・茶褐色	2086	14.545
第17区	147	18	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・明茶褐色	ナ・黑茶褐色	8659	14.88	
第17区	148	18	Ⅲ	深钵形土器	口縁部	Ib	ナ・明茶褐色	ナ・明茶褐色	8266	8568	
第17区	149	7	Ⅲ	下	深钵形土器	b	条幅・黄褐色	ミガキ様・灰褐色	2432	14.545	
第17区	150	9	Ⅲ	下	深钵形土器	Ib	条幅・黃白色	ナ・黃白色	4035	14.335	
第17区	151	8	Ⅲ	下	深钵形土器	Ib	条幅・灰褐色	ナ・黃茶褐色	3716	14.595	

第8表 繩文晚期土器観察表(4)

第17回	152	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黒褐色	4296・4304	14.29	4305・4309・4352
第17回	153	8	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	三井様・黄茶褐色	ミガキ様・黄茶褐色	3813	14.535
第17回	154	13	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	三井様・黄茶褐色	ミガキ様・黄茶褐色	6083	14.47
第17回	155	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・黄褐色	ナデ・灰褐色	1137	1139
第17回	156	17	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	b	条痕・黄褐色	ナデ・灰褐色	14.715	14.695
第17回	157	39	TⅢ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・帽白色	ナデ・灰褐色	6728・6741	14.695
第17回	158	9	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	286	14.479
第17回	159	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	14.225	14.225
第17回	160	9	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	932	14.7
第17回	161	6	Ⅲ下	深鉢形土器	口縁部	b	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	4110	14.46
第18回	162	16	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	2046	14.55
第18回	163	19	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	6526	14.505
第18回	164	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	7470	15.01
第18回	165	17	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	ヨコナデ・帽褐色	ヨコナデ・帽褐色	8517	14.965
第18回	166	18	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ib	条痕・茶褐色	ナデ・黑茶褐色	8222	14.545
第18回	167	17	Ⅲ	深鉢形土器か?	口縁部	Ib	条痕・茶褐色	ナデ・黑茶褐色	7745	14.885
第18回	168	8	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	6754	
第18回	169	8・9	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・明茶褐色	ナデ・黄褐色	3827	3885
第18回	170	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	三井様・帽褐色	ナデ・黄褐色	5415	5415
第18回	171	6	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・帽白色	ナデ・黄褐色	8781	8781
第18回	172	7	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	ナデ・黄褐色	1548	14.415
第18回	173	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	ナデ・黄褐色	1236	14.6
第18回	174	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	1791	14.18
第18回	175	19	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	ナデ・黄白色	4065	14.515
第19回	176	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・明茶褐色	ナデ・黄褐色	7404	14.995
第19回	177	7	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	1631・1682	14.18
第19回	178	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・帽褐色	ナデ・黄褐色	4073・4085	14.405
第19回	179	7	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・帽白色	ナデ・黄褐色	2529	14.575
第19回	180	7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・帽褐色	ナデ・黑褐色	991・2566	14.43
第19回	181	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・帽褐色	ナデ・黄褐色	4315	14.3
第19回	182	9	円	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	ナデ・黄褐色	2733・3316	13.735
第19回	183	7	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	2159・5149	14.155
第19回	184	8	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄白色	ナデ・黄褐色	3736	14.555
第19回	185	39	TⅢ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・黄褐色	ナデ・黄褐色	220	14.51
第19回	186	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・帽白色	ナデ・黄白色	3653	14.535
第19回	187	8	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	I	条痕・帽褐色	ナデ・黄褐色	4837	14.285

第9表 編文晚期土器觀察表(5)

第19回	188	9	円	深鉢形土器	肩部	1 条紋・茶褐色	余脈・黑茶褐色	3074	14.005
第19回	189	17	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黄褐色	余脈・黄褐色	6713	14.695
第19回	190	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・灰白色	4151	14.055
第19回	191	15	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・黃白色	5914	14.205
第19回	192	19	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・黃白色	7327	14.975
第19回	193	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・棕褐色	余脈・黑茶褐色	8307	14.925
第19回	194	17	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黃白色	ナデ・黃白色	6839	14.715
第19回	195	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黃褐色	ナデ・黃褐色	2765	14.495
第19回	196	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黒灰色	ナデ・黃灰色	7725	14.905
第20回	197	6	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃褐色	余脈・棕褐色	961・962	15.325
第20回	198	8	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃茶褐色	ナデ・棕褐色	4601・3832	14.455
第20回	199	6・7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃褐色	ナデ・黃褐色	1919・2121	14.4
第20回	200	7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃茶褐色	余脈・黃白色	2351・2487	14.15
第20回	201	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・棕褐色	余脈・棕褐色	2761	14.44
第20回	202	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黃白色	ナデ・黃白色	4391	14.27
第20回	203	6	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・黃白色	2108	14.375
第20回	204	8	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・棕褐色	余脈・棕褐色	3752・3753	14.575
第20回	205	6	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・黃白色	1104・1175	14.695
第20回	206	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・黃褐色	4288・4306	14.345
第20回	207	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・棕褐色	余脈・棕褐色	8365	14.955
第20回	208	9	IB	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	ナデ・棕褐色	374	14.275
第21回	209	6	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃褐色	余脈・黑茶褐色	934	14.82
第21回	210	7	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・棕褐色	ナデ・棕褐色	2324・2553	14.285
第21回	211	4	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・棕白色	ナデ・棕白色	21	14.535
第21回	212	9・39	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・棕褐色	4354・232	14.355
第21回	213	9	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・黃白色	余脈・棕褐色	2762	14.49
第21回	214	6	Ⅲ・Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黃白色	ナデ・黃褐色	1161・1950	14.46
第21回	215	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 条紋・棕褐色	ミガテ・棕褐色	4406・1759	14.23
第21回	216	15	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・棕褐色	ナデ・棕褐色	5457	14.135
第21回	217	7	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 条紋・棕褐色	ミガテ・棕褐色	2466	14.54
第21回	218	39	TM	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黃白色	ナデ・棕褐色	284	14.255
第21回	219	9	Ⅲ	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黃白色	余脈・棕褐色	4331	14.355
第21回	220	7	Ⅲ下	深鉢形土器	肩部	1 ナデ・黃褐色	余脈・黃褐色	3374	14.345
第21回	221	17	Ⅲ	深鉢形土器	肩部下半部	1 ナデ・棕褐色	ナデ・棕褐色	6743	14.7
第21回	222	18	Ⅲ	深鉢形土器	肩部下半部	1 ナデ・棕褐色	ナデ・棕褐色	7751	14.865
第22回	223	6	Ⅲ	深鉢形土器	肩部下半部	1 ナデ・棕褐色	ナデ・棕褐色	980・964	15.325

第10表 繩文晚期土器觀察表（6）

第22回	224	6	Ⅲ	深林形土器	脚部下半部	I	ナデ・黄白色	ナデ・灰黄色	963-969	15,355	おぬけ付着
第22回	225	8	Ⅲ下	深林形土器	脚部下半部	I	ミガキ様・蟹白色	ナデ・灰黄色	3812-3815	14,53	
第22回	226	9	円	深林形土器	脚部下半部	Ic	ナデ・灰茶褐色	ナデ・灰茶褐色	2599	14,957	底径10mm
第22回	227	6	Ⅲ	深林形土器	脚部下半部	Ic	ナデ・黄灰色	ナデ・黄灰色	1106	14,695	底径1mm程度の粒状の圧痕
第22回	228	6	Ⅲ	深林形土器	脚部下半部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	2116	14,68	
第22回	229	9	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	ナデ・明茶褐色	ナデ・黄褐色	4388	14,205	
第22回	230	9	下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰黄色	3994	14,315	
第22回	231	9	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	1782	14,245	圧痕(何であるかは不明)
第22回	232	8	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	3700	14,65	圧痕(幅9mmの長方形のもの)
第22回	233	8	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	3694	14,635	
第22回	234	7	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰茶褐色	2423	14,30	圧痕(3×15mm)付着(骨質の付着物の跡)
第22回	235	6	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	1180	14,375	若干上げ付
第22回	236	8	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	3760	14,645	圧痕もしくは調節による擦痕
第22回	237	7	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	金線	ナデ・黄白色	1026	15,215	圧痕(10×80mm/実状のもの)おぬけ付着
第22回	238	7	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	2521	14,57	
第22回	239	8	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・明褐色	ナデ・明褐色	3886	14,65	
第23回	240	7	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄褐色	ナデ・灰茶褐色	3449	14,385	底径10.2mm
第23回	241	15	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰黄色	5349	14,205	
第23回	242	8	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	3702	14,67	圧痕(何であるかは不明)
第23回	243	9	Ⅲ下	深林形土器	底部	Id	ナデ・黄白色	ナデ・黄白色	2079	14,26	
第23回	244	13	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰茶色	6073	14,34	
第23回	245	6	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰茶色	1981	14,305	
第23回	246	9	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰茶色	4828	14,38	
第23回	247	7	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	ナデ・黄白色	ナデ・灰茶色	4897	14,225	
第23回	248	9	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	条原・黄白色	ナデ・灰茶色	1732-1733	14,46	底径10.4mm
第23回	249	9	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	ナデ・茶白色	ナデ・灰茶色	4342-4381	14,25	底径10.9mm
第23回	250	9	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	条原・茶白色	ナデ・灰茶色	1906-1929	14,175	底径10.8mm
第23回	251	8	Ⅲ	深林形土器	底部	Ic	条原・黄白色	ナデ・灰茶色	3552-3572	14,415	
第23回	252	39T	Ⅲ	深林形土器	小?	Ie	ナデ・茶褐色	ナデ・茶褐色	298	14,31	
第23回	253	9	Ⅲ	深林形土器	小?	Ie	条原・明褐色	ナデ・黄白色	1766-4412	14,19	
第23回	254	4	Ⅲ	深林形土器	小?	Ie	ミガキ様・蟹白色	ミガキ様・灰茶色	5717-5777	14,57	底径4.9mm 上上げ
第23回	255	4	Ⅲ	深林形土器	小?	Ie	ナデ・黄白色	ナデ・灰茶色	228	14,495	圧痕(何であるかは不明)底径7.5mm付着
第23回	256	8	Ⅲ下	深林形土器	底部	Ie	ナデ・黄白色	ナデ・灰白色	4640	14,14	底径6mm
第24回	257	9	Ⅲ下	深林形土器	小?	I	口縁部	ナデ・黄白色	1632	14,43	底面V字状のカット
第24回	258	9	Ⅲ下	深林形土器	小?	I	口縁部	ナデ・黄白色	4097	14,45	奥部(横幅)10mm(円形)
第24回	259	39T	Ⅲ	深林形土器	小?	I	口縁部	ナデ・黄白色	247	14,35	奥部(幅9mm)

縄文晚期土器観察表 (7)

第24回	260	9	円	浅鉢形土器か?	口縁部 口縁部	I I	条板・黄白色 条板・黒灰色	2668 2668	14.35 内外面とも口縁部突堤上に丸縫 13.93 少なくとも4条の沈縫様付着	
第24回	261	10	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部 口縁部	II	ナード・黄白色 ナード・黒褐色	7976 1245	14.73 半鏡竹管による4条の短縫痕	
第24回	262	6	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部 口縁部～肩部	II	ナード・黄褐色 ナード・黒褐色	32	14.59 案紙の条件であり、その上を一層多く	
第25回	263	19	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・明黒褐色	6017	14.095	
第26回	264	14	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色 ミガキ・黒褐色	5772	14.42	
第26回	265	14	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部 口縁部	II	ミガキ・黄白色 ミガキ・黒褐色	1046	15.12 赤色顔料	
第26回	266	7	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄白色 ミガキ・黒褐色	528	14.57	
第26回	267	9	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部 口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	535	14.58	
第26回	268	9	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	4243	14.3	
第26回	269	9	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	4229	14.38 リボン状突起
第26回	270	9	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	2981	14.385
第26回	271	8	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	4246	14.38	
第26回	272	9	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II	ナード・黄褐色 ナード・黄褐色	4047	14.47
第26回	273	9	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II	ナード・黄褐色 ナード・黄褐色	8367	14.94 赤色顔料
第26回	274	18	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	2959	14.325
第26回	275	7	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部 口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	1954	14.49
第26回	276	6	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄白色 ナード・黄褐色	8508	14.86
第26回	277	18	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ナード・黄褐色	4201	14.37 赤色顔料
第26回	278	9	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II h	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	748	14.43
第26回	279	8	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II h	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	1983	14.46 リボン状突起
第27回	280	6	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II h	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	3665	14.495 リボン状突起
第27回	281	8	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	3357	14.535 リボン状突起
第27回	282	7	Ⅲ	上	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	1425	リボン状突起
第27回	283	7	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	3863	14.25 リボン状突起
第27回	284	8	Ⅲ	上	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	2150	14.31 赤色顔料
第27回	285	7	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	3434	14.27
第27回	286	7	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	273	14.22
第27回	287	36T	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	1995	14.42
第27回	288	6	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	1047	15.125
第27回	289	7	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	1988	14.455 赤色顔料
第27回	290	6	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	3373	14.355
第27回	291	7	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	4476	14.07
第27回	292	9	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	3495	14.26 赤色顔料
第27回	293	7	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	ミガキ・黄褐色 ミガキ・茶白色	1987	14.355 赤色顔料
第27回	294	6	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	剥落・灰褐色	5157	14.47
第27回	295	8	Ⅲ	下	浅鉢形土器	口縁部	II f	剥落・灰褐色		

第12表 繩文晚期土器觀察表 (8)

第27回	296	8	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II f	三才手・灰白色	三才手・灰褐色	3797	14.455
第27回	297	8	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II g	三才手・黄白色	三才手・黄褐色	2867	14.355
第28回	298	9	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II g	三才手・黄白色	三才手・黄褐色	4111-4407	14.3
第28回	299	9	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・黄白色	三才手・黄褐色	4489	14.215
第28回	300	6	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・黑褐色	三才手・黑灰色	2016	14.315
第28回	301	6	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・黑褐色	三才手・黑灰色	1265	14.67 赤色顔料
第28回	302	9	IB	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・灰褐色	三才手・黑灰色	516	14.44
第28回	303	6	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II g	三才手・黄白色	三才手・黄褐色	2476	14.49
第28回	304	6	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II g	三才手・黑灰色	三才手・黑灰色	2057	14.65
第28回	305	6	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II g	三才手・黑灰色	三才手・黑灰色	1216	14.615
第28回	306	6	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II g	三才手・黑灰色	三才手・黑灰色	958	14.495
第28回	307	9	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II g	三才手・黄白色	三才手・黄灰色	4127	14.35
第28回	308	9	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・灰白色	三才手・灰褐色	1642	14.51
第28回	309	8	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・灰白色	三才手・灰褐色	2904	14.31 赤色顔料
第28回	310	6	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・黑褐色	三才手・黑灰色	1126	14.72
第28回	311	8	IB	淺鉢形土器	口縫部	II h	三才手・黄灰色	三才手・黄灰色	707	14.52
第28回	312	18-19	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II	三才手・灰茶色	三才手・灰茶色	7838-7405	14.94
第28回	313	18	Ⅲ	淺鉢形土器	口縫部	II	三才手・黄灰色	三才手・黄灰色	8538	14.88
第28回	314	7	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II	ナデ・灰褐色	ナデ・灰褐色	3489	14.31
第28回	315	6	Ⅲ下	淺鉢形土器	口縫部	II	ナデ様・灰褐色	ナデ様・灰褐色	2002	14.455
第29回	316	9	Ⅲ	淺鉢形土器?	口縫部	II	三才手・灰褐色	三才手・灰褐色	4302	14.325
第29回	317	9	Ⅲ	淺鉢形土器?	口縫部	II	ナデ・灰茶色	ナデ・灰茶色	1689	14.23
第29回	318	9	円土1	淺鉢形土器か?	口縫部	II	三才手・黄褐色	三才手・黄褐色	4871-3161	13.83
第29回	319	7	Ⅲ下	アリ形土器	完形品	II	三才手・黄白色	三才手・黄白色	2453	14.62
第29回	320	9	Ⅲ下	淺鉢形土器	肩部	II	三才手・唯輪底色	三才手・唯輪底色	4206	14.375 赤色顔料
第29回	321	9	Ⅲ	淺鉢形土器	肩部	II	三才手・黄褐色	三才手・黄褐色	1780	14.19
第29回	322	6	Ⅲ	淺鉢形土器	肩部	II	三才手・黄灰色	三才手・黄灰色	1133	14.76
第29回	323	18	Ⅲ	淺鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	7872	15.01
第29回	324	4	Ⅲ	浅鉢形土器か?	口縫部	三五土上	ミガキ・黄白色	ミガキ・黄白色	574	14.645 屋から廻部に凹線・金型母
第29回	325	8	Ⅲ上	浅鉢形土器か?	口縫部	II	ナデ・白	ナデ・白	3869	14.275
第29回	326	9	Ⅲ下	浅鉢形土器か?	口縫部	II	ミガキ・灰褐色	ミガキ・灰褐色	4477	14.065
第29回	327	9	Ⅲ下	浅鉢形土器か?	口縫部	II	ミガキ・灰褐色	ミガキ・灰褐色	4188	14.275
第29回	328	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・明茶色	ミガキ・明茶色	1051	15.135
第29回	329	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・灰褐色	ミガキ・灰褐色	3738	14.58 赤色顔料
第29回	330	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・唯輪底色	ミガキ・唯輪底色	3432	14.28 金翼母
第29回	331	9	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	ミガキ・黄灰色	1752	14.27

第13表 繩文晚期土器觀察表 (9)

第30回	332	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	4511
		IB		浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	561-687
第30回	333	8		浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.325
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	14.345
第30回	334	7	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	15.115
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黑灰色	赤色顔料1049
第30回	335	6	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黑灰色	1156
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.72
第30回	336	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	38833-3894
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.5
第30回	337	9	Ⅲ下・Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	4119-4528
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.27 彌修丸
第30回	338	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	3417
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.39
第30回	339	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	3816
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	14.53
第30回	340	8	Ⅲ上	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	3878
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.27
第30回	341	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	4034
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.455
第30回	342	8		浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	2963
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.38
第31回	343	8	Ⅲ下・Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	45559-4781
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.275
第31回	344	9	Ⅲ	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	4268
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	14.41
第31回	345	2		浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄白色	186
				浅鉢形土器	肩部	II	ナデ・黄灰色	14.645
第31回	346	9	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黑灰色	4100
				浅鉢形土器	肩部	II	ミガキ・黄灰色	14.465
第31回	347	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黄灰色	2010-2009
				浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黑灰色	14.415
第31回	348	9	Ⅲ	浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黄灰色	4267-47266
				浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黑灰色	14.335
第31回	349	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黑灰色	4592
				浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黄白色	14.435
第31回	350	8	Ⅲ	浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黄白色	4777
				浅鉢形土器	肩下半周	II	ミガキ・黄白色	14.31
第31回	351	7	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	2234
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.33 赤色顔料
第31回	352	6	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	2010-1017
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.2
第31回	353	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	1208
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.7
第31回	354	8-9	Ⅲ下	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	1687
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.23
第32回	355	397	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	3728-4220
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.4
第32回	356	7	Ⅲ下	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	267-274
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.31
第32回	357	7	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	2543
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.445 1026-1041
第32回	358	8	Ⅲ下	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	1010-1017
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	15.195
第32回	359	9	Ⅲ下・Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	3769
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.46
第32回	360	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	4161-3156
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	13.91
第32回	361	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	1750
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.29
第32回	362	9	Ⅲ	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	1908
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.125
第32回	363	8	IB	浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	4802
				浅鉢形土器	底部	II	ミガキ・黄白色	14.53
第32回	364	7	Ⅲ	浅鉢形土器か?	底部~底部	II	ミガキ・黑褐色	1048
				浅鉢形土器	底部~底部	II	ミガキ・黄白色	15.12 赤色顔料
第32回	365	6	Ⅲ下	浅鉢形土器	底部~底部	II	ミガキ・黄白色	2035-1234
				浅鉢形土器	底部~底部	II	ミガキ・黄白色	14.59 赤色顔料
第32回	366	9	IB	縦輪裏土器	底部	III	ナデ・黄白色	4367-3459
				縦輪裏土器	底部	III	ナデ・黄白色	14.35
第33回	367	9	IB・III	縦輪裏土器	底部	III	ナデ・黄白色	1624-507
				縦輪裏土器	底部	III	ナデ・黄白色	14.34 縦20■ 幅6本 燐付着 1699

第14表 韶文晚期土器觀察表 (10)

第33回	368	8	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	4783	14.395	縦布	縦24mm	縦5本	お瓶口付着
第33回	369	8	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	2990	14.34	縦布	縦24mm	縦3本	縫5本
第33回	370	9	Ⅲ・Ⅳ下	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	1699-2795	14.33	縦布	縦24mm	縦6本	
第33回	371	17	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・黒褐色	7914	14.45	縦布	縦24mm	縫5本	
第33回	372	7	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	2305	14.36	縦布	縦10mm	縫10本	
第33回	373	7	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	2254	14.275	縦布	縦9mm	縫9本	縫付着
第34回	374	6	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	1183	14.645	縦布	縦7mm		
第34回	375	9	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・黒次色	1914	14.15	縦布	縦7mm	縫2本	縫6本
第34回	376	7	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	2299	14.36	縦布	縦10mm	縫8本	
第34回	377	7	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	2266	14.325	縦布	縦10mm	縫9本	
第34回	378	8	Ⅲ下	絨織痕土器		Ⅲ	正直・赤橙色	ナデ・輪白色	4569-4670	14.35	縦布	縦11mm	縫9本	
第34回	379	9	Ⅲ下	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	2975	14.095	縦布	縦7mm	縫7本	
第34回	380	6	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	1173-262	14.65	縦布	縦7mm		
第34回	381	7	Ⅲ上	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・茶褐色	4674	14.23	縦目	縦7mm		
第34回	382	9	Ⅲ下	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・黒灰色	4208	14.15	縦目	13mm		
第34回	383	9	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・茶白色	1853	14.13	縦目	12mm		
第35回	384	397	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・輪白色	294	14.395	縦目	9mm		
第35回	385	10	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・輪褐色	7146	13.97	縦目			
第35回	386	7	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・黒茶褐色	ミガキ・黒褐色	2131	14.35	縦目	13mm		
第35回	387	9	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・茶白色	4419	14.215	縦目	12mm		
第35回	388	9	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・黒灰色	ミガキ・輪褐色	1823	14.185	縦目	10mm		
第35回	389	8	IB	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・輪白色	553	14.58	縦目	7mm		
第35回	390	8	Ⅲ下	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・黒褐色	3668	14.64	縦目	9mm		
第35回	391	9	IB	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・輪白色	335	14.295	縦目	7mm		
第35回	392	39T	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・黑褐色	260	14.432	縦目	13mm		
第35回	393	9	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・輪白色	1646	14.525	縦目	6mm		
第36回	394	7	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	1432	14.47	縦目	6mm		
第36回	395	8	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・黒褐色	2943	14.385	縦目	5mm	縫付着	
第36回	396	8	ⅢP	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・輪白色	4568	14.32	縦目	9mm		
第36回	397	8	Ⅲ上	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・茶褐色	4737	14.065	不明	お瓶口付着		
第36回	398	9	Ⅲ	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・黒褐色	1669	14.36	不明			
第36回	399	9	Ⅲ下	絨織痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ナデ・茶褐色	4504	14.365	縦目	(2本連り2本くぐり)		
第36回	400	18	Ⅲ	半粗半精痕土器		Ⅲ	正直・輪白色	ミガキ・輪白色	7729	14.93	縦目	粘土類状の圧痕	縫付着	
第36回	401	14	Ⅲ	半粗半精痕土器		Ⅲj	ナデ・輪白色	ミガキ・輪白色	5937	14.435	縦目			
第36回	402	36T	Ⅲ	半粗半精痕土器		Ⅲj	ナデ・茶褐色	ミガキ・輪白色	130	14.6	縦目			
第36回	403	6	Ⅲ	半粗半精痕土器		Ⅲj	ナデ・輪白色	ミガキ・黒灰色	929-931	14.81	縦目	お瓶口付着		

第3節 縄文時代晚期の石器

Ⅲa層を主体として包含層から出土した縄文時代晚期の石器は、計110点であった。

石器組成と出土分布

出土した石器の器種には多種のものがみられ、その内訳は第15表で示した。量的に最も多数を占めたものは石鏃であり、打製石鏃が41点出土しており、石器全体の37.3%を占めている。また当時期と推定される磨製石鏃も3点出土している。次に多いのが土掘具としての打製石斧であり、17点出土し、15.5%である。以下、スクレイバーが13点で11.8%，そして磨石・敲石類の9点で8.2%の順となっている。このように狩猟具が全体の中で高い比率をもつのが特徴である。

石器の出土分布は第37・38図で示したように、第1調査地点の6区南側から7区北側にかけてと、8区南側から9区北側にかけての2ヶ所に集中していた。第1調査地点の他の区及び第2調査地点については散在した状況であった。この出土分布は土器の出土分布とほぼ一致していた。各個別の石器についても同様で2ヶ所に集中がみられた。

石材と黒曜石

石器に使用される石材は、頁岩等が多用される打製石斧や、安山岩・砂岩等が多用される磨石・敲石類など、器種により使用傾向があるが、ここでは剥片石器に使用される黒曜石・安山岩等について述べたい。

黒曜石の剥片及びチップは、最も集中した第1調査区域の6区から9区内に約230点出土している。これらを肉眼的に分類すると、色調・光の通過度・不純物の有無と量・透明感・しま模様の有無・自然面の状態・風化度等によって、かなり区別することができた。そして、その分類したものを各々数点ずつ原産地分析に依頼した。その結果は付編に掲載してあるので参照されるとおりであるが、こちらで細かく区別したものの大半は腰岳産と判定された。すなわち、全体のなかで、腰岳産が205点で89%を越え、県内の上牛鼻産は13点で5.7%であった。また淀姫産と判定されたものは計4点あり、1.7%である。日東・五女木産と判定された県内産と古里・椎葉川産は同数の各3点であり、1.3%であった。また剥片ではないが径5~10mm長さ3~5cmの釘状の黒曜石原石が10点出土しており、腰岳産と判定された。

第15表 縄文時代晚期の石器組成

器種	石 鏃	磨 製 石 鏃	スク レ イ バ ー	石 錐	ビ エ ス ・ エ ス キ ュ	異 形 石 器	磨 製 石 斧 (土 堀 具)	打 製 石 斧 (伐 採 具)	横 刃 形 石 器	円 盤 形 石 器	礫	磨 石 ・ 敲 石	石 皿	計	石 鏃 未 製 品	石 核
出土数	41	3	13	6	3	2	1	17	3	1	6	9	5	110	12	16
出土率	37.3	2.7	11.8	5.45	2.7	1.8	0.9	15.45	2.7	0.9	5.45	8.18	4.54	100		

安山岩系の剥片は約150点出土している。これについても色調・風化度・ハリ質の度合いなどにより4種に区分し、各数点ずつを原産地推定分析に依頼した。その結果、3種のものについては多久産のサヌカイトと判定され、最もハリ質の強い青灰色のものについては、嬉野・松尾産の黒曜石と判定された。すなわち、150点のうち多久産のサヌカイトは82点で54.5%となり、嬉野・松尾産が残りということになる。

剥片において、その他の石材としてはチャート3点、ギョクズイ4点、頁岩2点と各々少量ずつ出土している。

石鎚

計41点の石鎚に使用されている石材について石器製品の原産地分析は実施していないが、分析に出した剥片との肉眼的比較・観察による対比を根拠として石材の区別を行った。あくまでも担当者の肉眼的観察所見であり、誤りがある場合は筆者の責任である。以下全ての石器についても同様である。

41点の石鎚の石材は、18点（約44%）が多久産サヌカイトであり、次に嬉野・松尾産黒曜石とされたハリ質安山岩系の黒曜石で12点（29%）認められる。いわゆる黒曜石は9点であり、その内訳は腰岳産6点、淀姫産3点である。残りの1点はたんぱく石であった。

石鎚の形態は小型で正三角形に近いものから、基部がわずかに凹む四基式が多いが、418や419のように長さに比較して幅の広いものもある。また429・430のように基部がわずかに尖がる凸基式も認められる。またいわゆる長身鎚（437・438）や長脚鎚と呼ばれるもの（441）もある。整形加工は、石材が安山岩系のためか、個別の剥離が大きいのが特徴であるが、なかには両側縁を鋸歯状にした細かい剥離加工を行ったもの（426・439・441）も存在している。このような形態の多様性は石材及び剥片の形状に起因しているものと判断される。

磨製石鎚

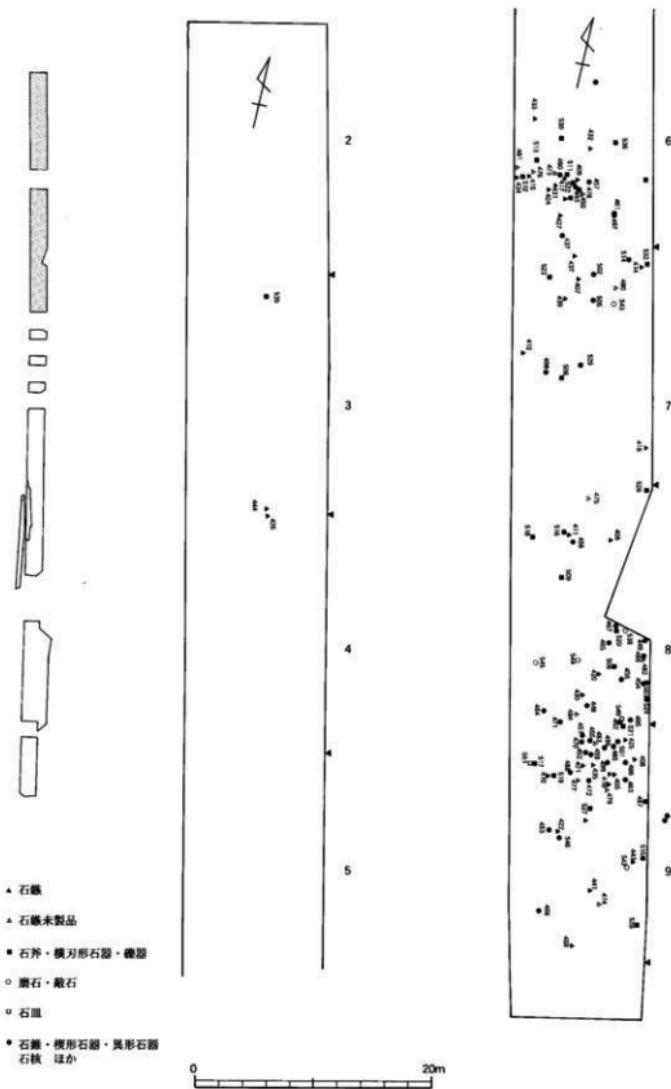
445は表裏両面とも丁寧な研磨を施したもので、両側縁は丸みをもってふくらみ、基部は弧状の四基式である。形態的に弥生時代のものに類似している。446は両側縁がほぼ直線状であり、先端部近くは入念な研磨により表裏両面に稜がつくられる。基部は縦方向の研磨整形によりわずかに凹む。全長2.7cmを測る。447は基部を大きく欠損しているが、丁寧な研磨が行われており、直線状の側縁をもつ細みのものである。3点とも頁岩を使用している。

石錐

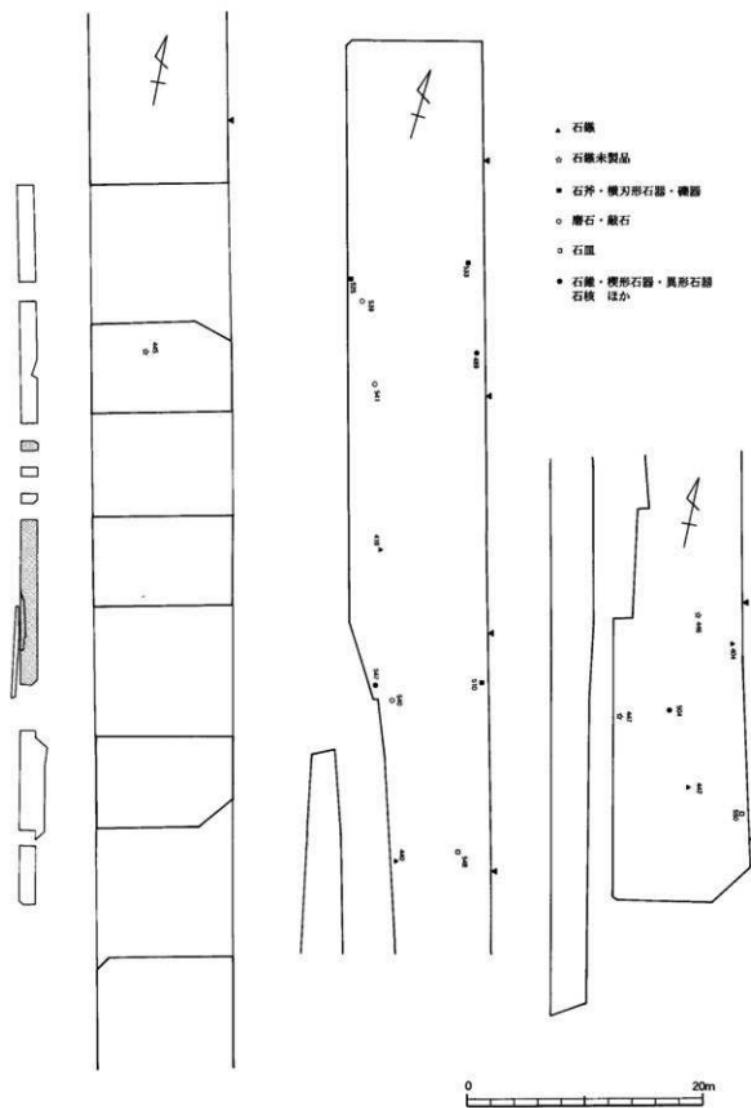
計6点出土している。石材は多久産サヌカイト及び嬉野・松尾産黒曜石を使用している。448は小さな剥片の一部に加工を施し尖った機能部を作り出している。449も整形加工は先端部付近にのみ行われている。450は両側縁全体に整形剥離を行っているが、先端部を欠損する。451・452・453も同様に粗い整形加工により機能部を作り出している。

ピエス・エスキュー（楔形石器）

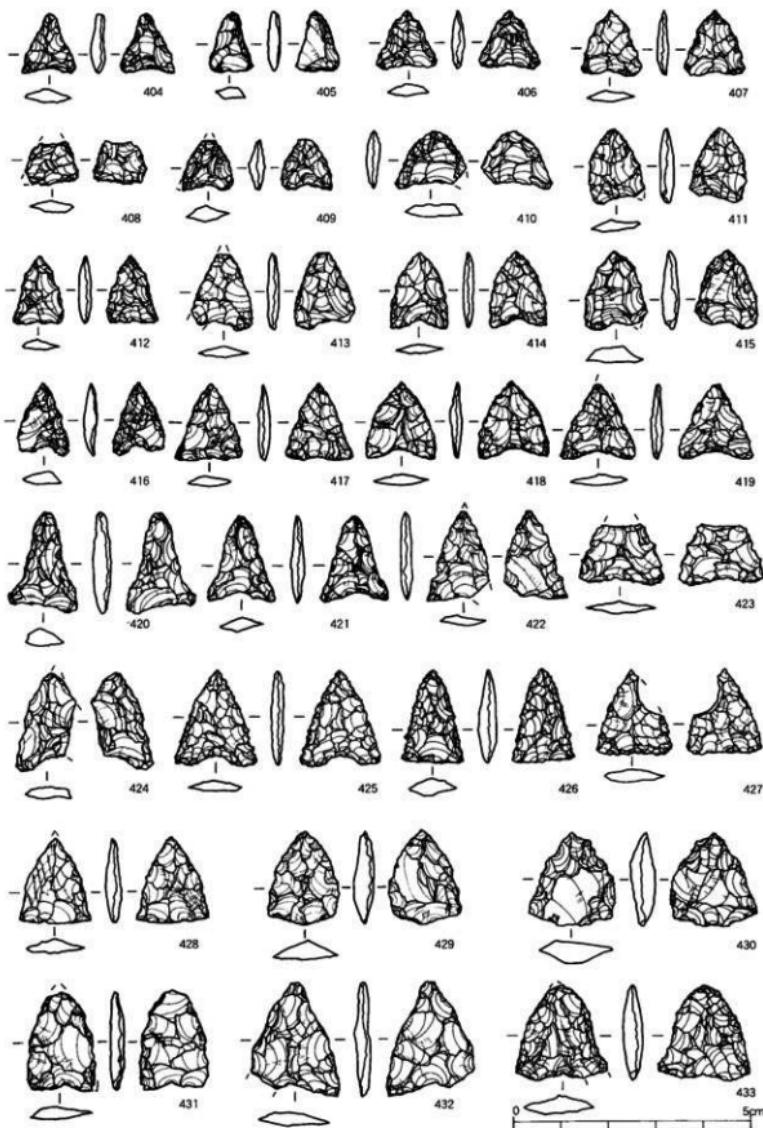
計3点出土した。454はチャート製であり、直線状の刃部に上下からの剥離が認められる。下半部を欠損する。455は片側が欠損しているが、機能部はしっかりしている。456はほぼ完形に近いものであり、表裏両面の上下端部位に剥離が集中し、使用の痕が著しい。縦断面はレンズ状に近い形である。



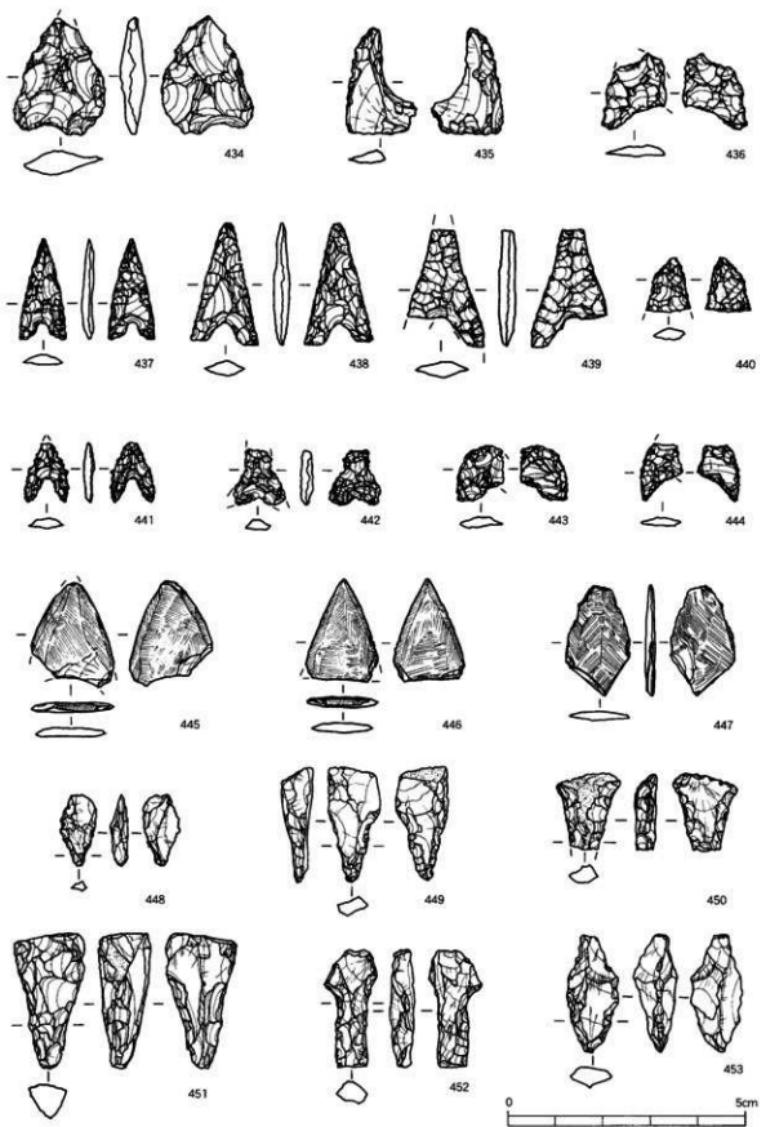
第37図 縄文晩期石器出土分布（1）



第38図 縄文晩期石器出土分布（2）



第39図 繩文時代晩期石器（1）



第40図 縄文時代晩期石器（2）

異形石器

457は気泡や不純物が全く認められない腰岳産黒曜石を使用し、素材である縦長剥片に二次加工を行い、細長い形状に整形したものであり、異形石器として取扱った。押圧剥離による整形であり、刃部を形成しているとは言えない。458はサヌカイト剥片を素材としたもので、同様に二次加工により細長い形状に整形している。ただし実測図の下部先端には、わずかに磨耗した部分が認められ石錐の可能性もある。

スクレイバー

計13点出土している。459は裏面からの連続した押圧剥離が両側縁に施され、刃部が形成されている。460はサヌカイト剥片の縁辺に丁寧な二次加工を施し付刃したものである。461・462は不定形剥片の縁辺に二次加工を施し刃部としている。463は剥片の側縁に二次加工を施し刃部としたものであるが、破損した後、先端部（図の上）に加工を行い石錐として利用している。464は不定形剥片の縁辺に二次加工を施したもの。465はチャートの剥片の片側にノッチ状の刃部を形成している。466は表皮が残る剥片の先端部と側縁に二次加工を施したもので搔器である。467・468は腰岳産黒曜石の縁辺に45°以上の角度をつけた刃部を形成した搔器である。第42図470・472は比較的大型のサヌカイト剥片の側縁に対し表裏両面から二次加工を施したものである。471は安山岩の片面からのみ二次加工を丁寧に施し刃部としたものである。

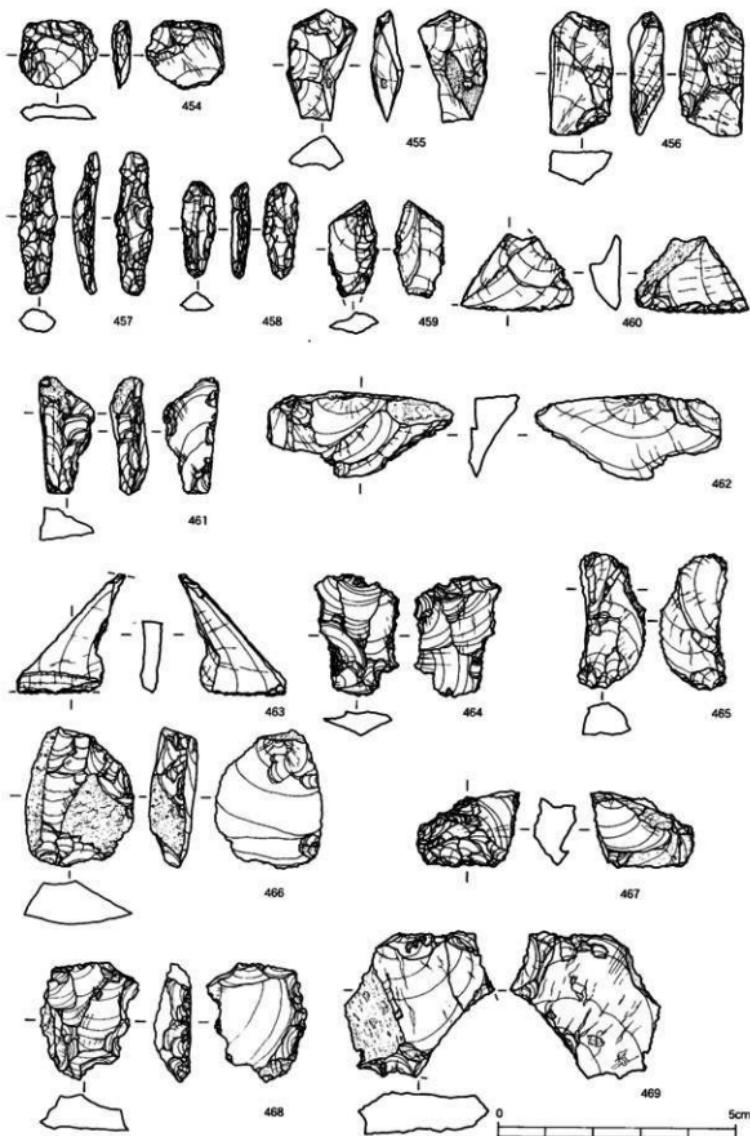
石鎚未製品

473～484は、小さな剥片ないしは中型の剥片の一部に二次加工が認められるものであり、かつその加工は刃部を形成する目的のものではなく整形加工的なものであり、加えて使用された痕跡が全くないものを石鎚未製品として判断した。437は薄い剥片の両側縁と基部にあたる部分に二次加工が施されている。先端が割れていることより途中で放棄した可能性もある。474は粗い二次加工により整形加工が行われている。475は石鎚大の剥片の打面を二次加工により整形している。476も打面部と基部に相当する部分を二次加工により整形している。477は剥片を折断し、折断面に二次加工を施している。478は表皮の残る剥片を折断し、周辺に二次加工が認められる。479はやや厚みのある剥片の両側辺に二次加工が施されている。480は部分的に二次加工が認められる。481～484はいずれもやや大きな剥片の縁辺に二次加工が施されており、厚みのある剥片を薄くするための整形剥離であり、それ以外の目的は考えられない。折断部からの剥離（481・482）や、石鎚の形を明らかに意識した剥離（484）が読み取れる。

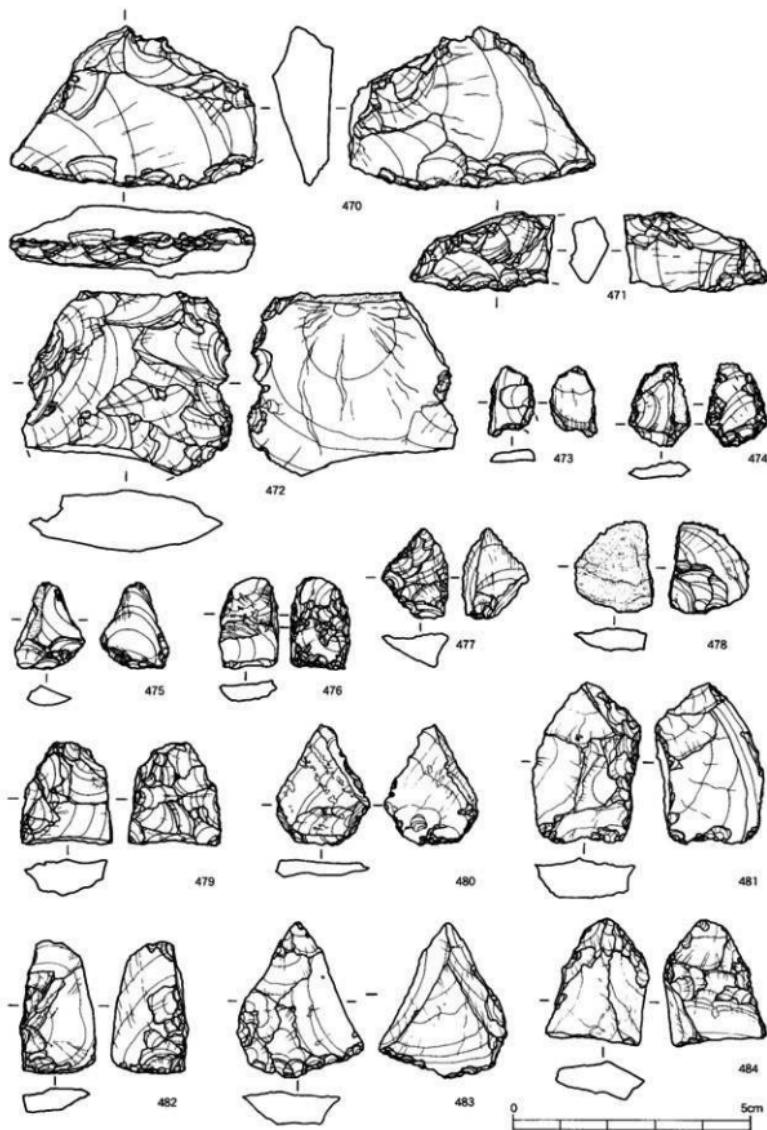
剥片

多量の剥片が出土したが、ここでは6点を図化した。485～489は腰岳産黒曜石を使用したものである。485は縦長剥片であり、背面も同一方向の剥離が行われている。打面は平坦な自然礫皮面である。486も平坦な自然礫皮面が打面であるが、背面は横方向であり、打面転移を行ながるの石核であるのがわかる。487は横長剥片、488は縦長剥片である。489の背面は下方向からの剥離があり、石核は上下両方からの剥離を実施していると考えられる。490はサヌカイトの薄い剥片であり、片側縁辺には使用痕が認められる。

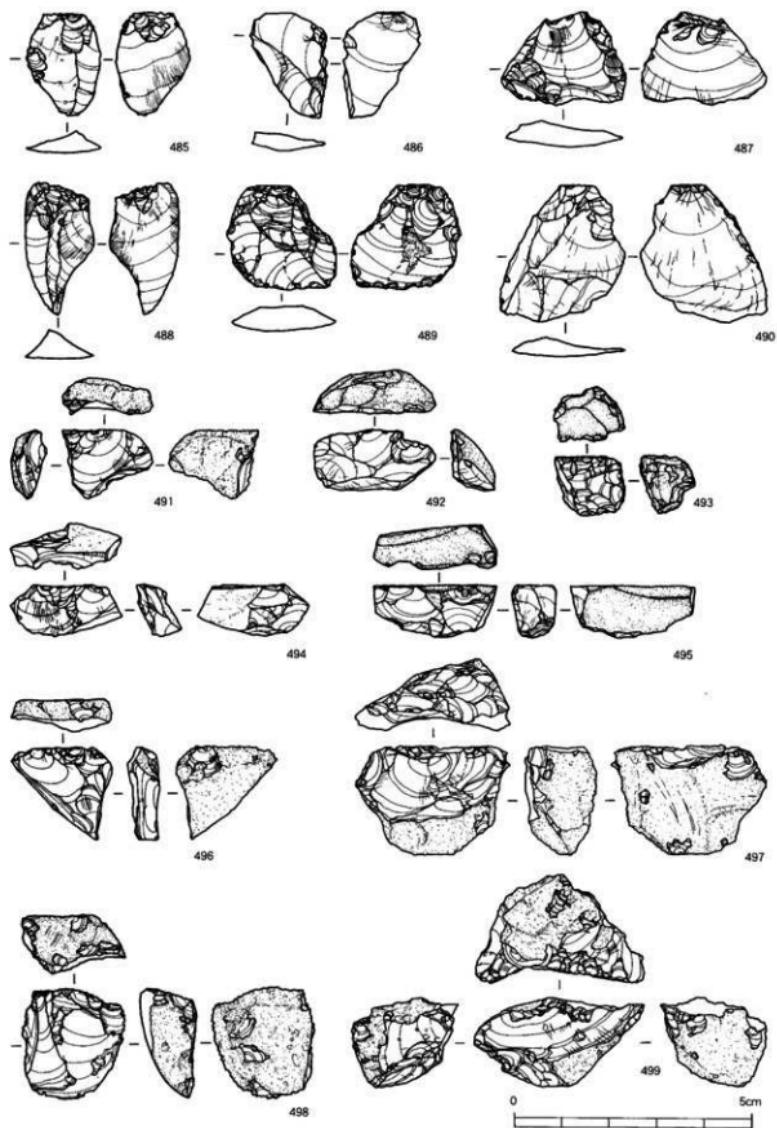
これらの剥片は、その大きさから石鎚のための目的剥片と考えられ、石鎚製作を実施していたことが理解される。



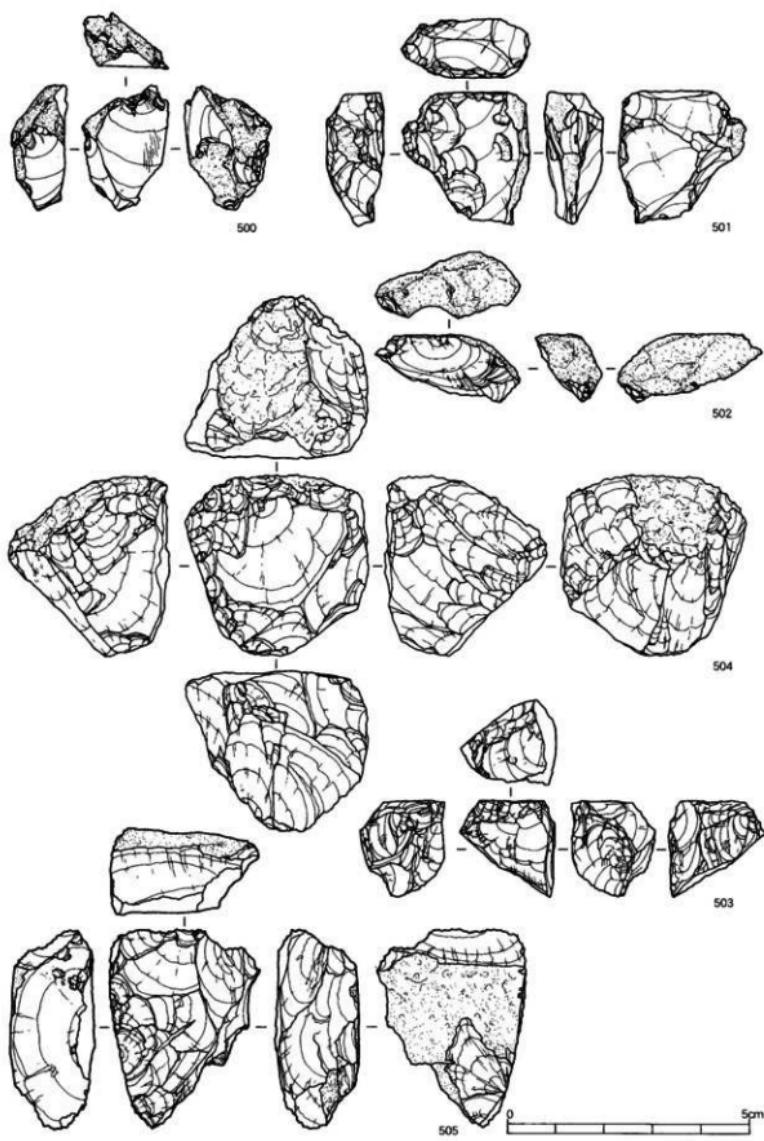
第41図 縄文時代晩期石器（3）



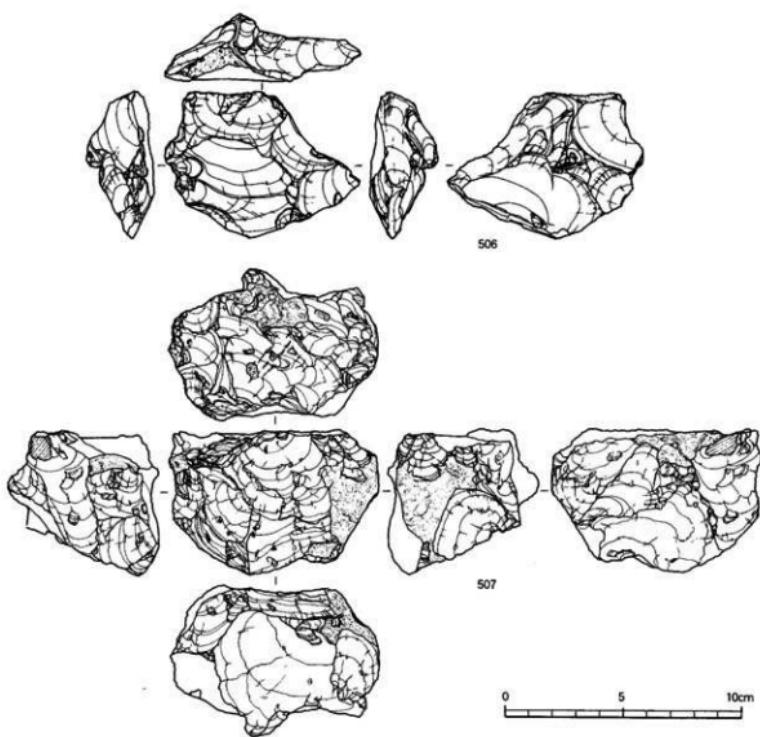
第42図 縄文時代晩期石器（4）



第43図 繩文時代晩期石器（5）



第44図 縄文時代晩期石器（6）



第45図 縄文時代晩期石器（7）

石核

計16点出土している。黒曜石類や安山岩系のほかギョクズイ質のものも認められる。

491・493は角礫を使用したものであり、打面は平坦な礫皮面をそのまま利用している。492は円礫を利用し、打面は同様に礫皮面である。494は打面に平坦な分割面を、495・496は平坦な礫皮面を使用しており、いずれも打面調整は認められない。497の剥離のある打面は作業面を利用したものであり、打面調整ではない。498は同一の打面から連続して剥離したもので、499は不定形礫製のため複数の打面をもつ。500も角礫を用い回転しながら剥いでいる。501はギョクズイの平坦な剥離面を打面にして作業を行い、その後、次の剥離のためか左側面から作業面を平坦化している。

502は円礫の礫皮面を打面にして横長に近い形の剥片を剥いでいる。ほぼ最終段階と推定される。

503は上牛鼻産黒曜石の平坦な剥離面を打面にしている。504はギョクズイ質の礫を使用したものであり、打面を回転しながら剥離作業を行っている。実測図の正面図の左縁辺は、敲打状の整形があり、次の作業の準備と推定される。505は図の上部の打面と左側面の打面から剥離を行つ

ている。打面は大きな剥離面があるいは分割面であり平坦である。506は厚手の大型剥片を利用したものと考えられ、裏面の大きな剥離面を打面にして、周縁方向からの剥離を行っている。

磨製石斧

508は基部のみの欠損品であり、表裏両面は丁寧な研磨が施され、周縁は入念な敲打調整が行われている。頁岩製である。

打製石斧

いわゆる土掘具であり、17点出土している。509・510は基部の部分であり、510は着柄のための両側縁の整形が顕著に行われている。511・512は短冊型を呈する完全品であり、裏面に表皮が残る剥片を使用し、粗い整形剥離により仕上げている。素材は横長剥片である。513は表裏の一部分及び両側縁に研磨痕が観察され、土掘具でない可能性も考えられる。514及び524は中間部のみの欠損品である。515～523は基部を欠損する先端部のみである。いずれも横長剥片を素材として利用し、粗い整形加工が施されている。形態はほぼ短冊型である。525は頁岩を使用したもので、表面には研磨痕が観察される。刃部は丸みをもつ。

横刃形石器

526は横長剥片を使用し、比較的粗い剥離により半月状に整形したものであり、直線状の基部は敲打調整を施している。弧状の刃部は使用のため破損している部分もある。527も横長剥片を利用し、鋭い縁辺をそのまま刃部としている。基部は細かい剥離で調整し、刃部には刃こぼれが認められる。528は表皮のついた横長剥片を使用し、裏面側縁部に整形剥離が施されている。刃部は使用痕が顕著である。

円盤形石器

529は砂岩の偏平礫を使用したものであり、周縁には全体的に粗い加工が認められる。剥離によるものではなく敲打によるものと考えられる。

大型剥片石器

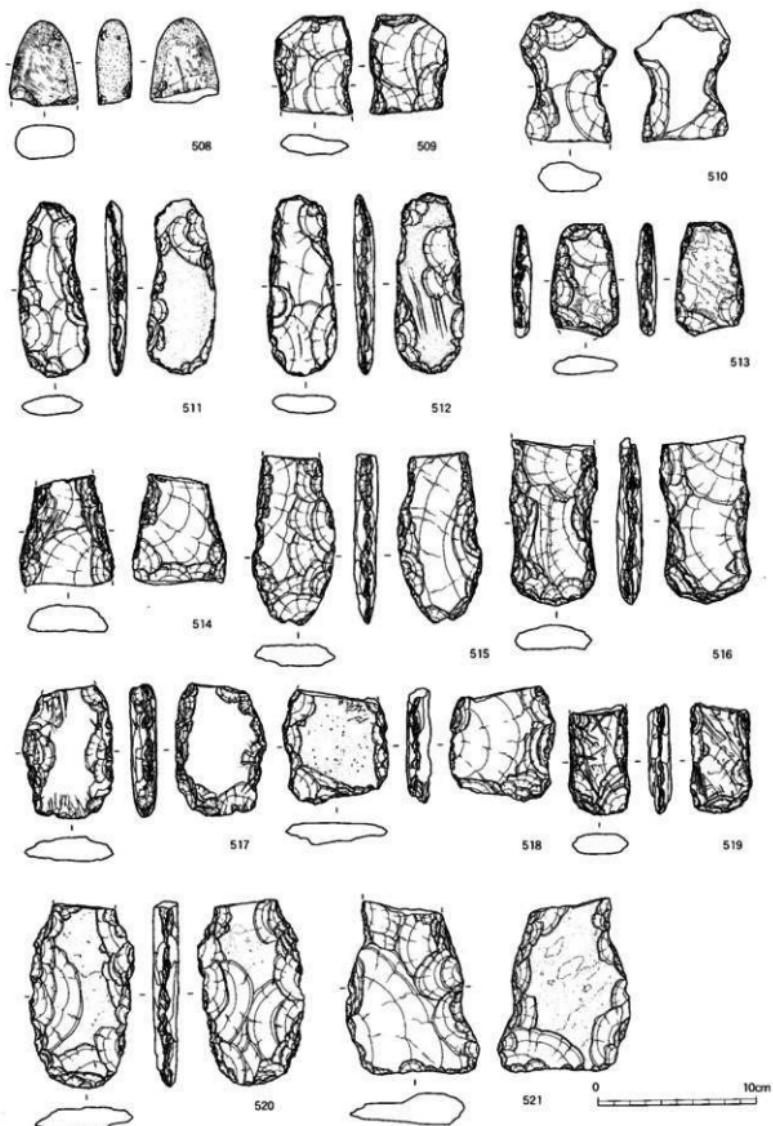
厚みのある剥片が使用されていることより礫器と区別したが、技術的に類似するものと思われる。530は長軸の一端に粗い剥離の後、細かい加工により付刃したものである。531は片側側縁に粗い剥離が施され刃部となっている。532も粗い剥離により刃部が形成されている。

礫器

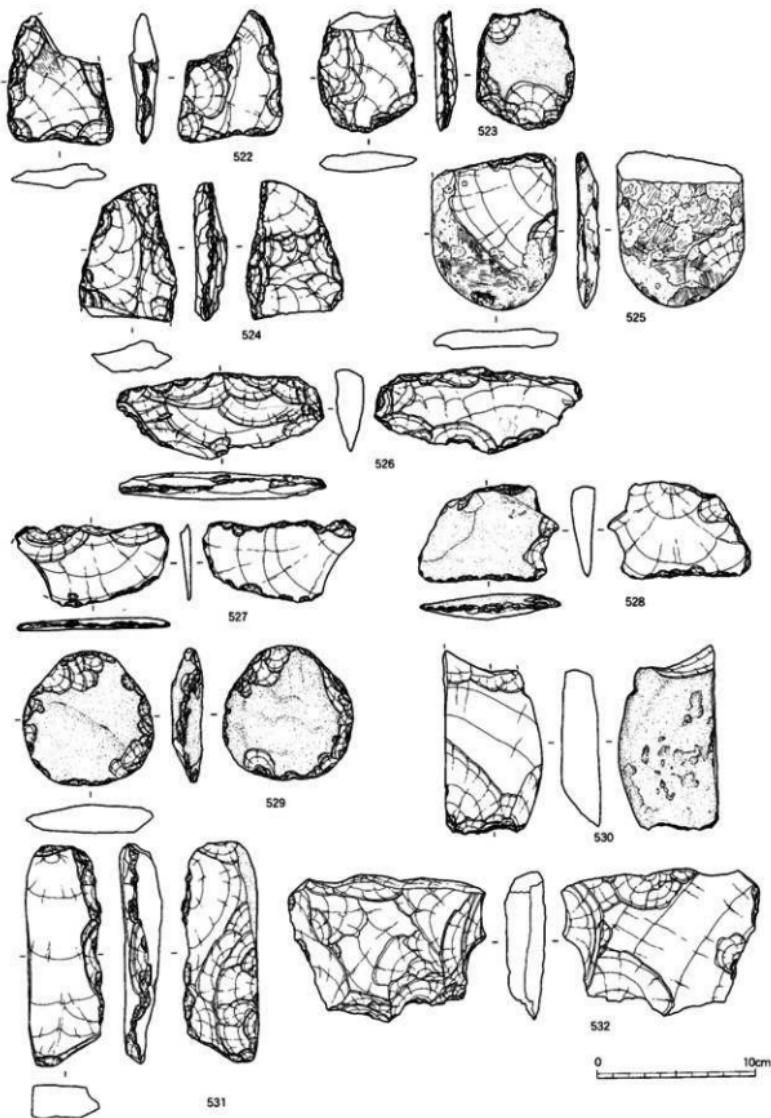
大型の偏平礫を素材とし、粗い加工により刃部が形成されているものである。533は基部の除く縁辺全体に粗い加工であるが、比較的入念に施されているものである。535は先端部分のみ加工を施している。536は粗い加工により弧状の刃部を形成したものであり、表裏に部分的に擦痕が観察される。

磨石・敲石類

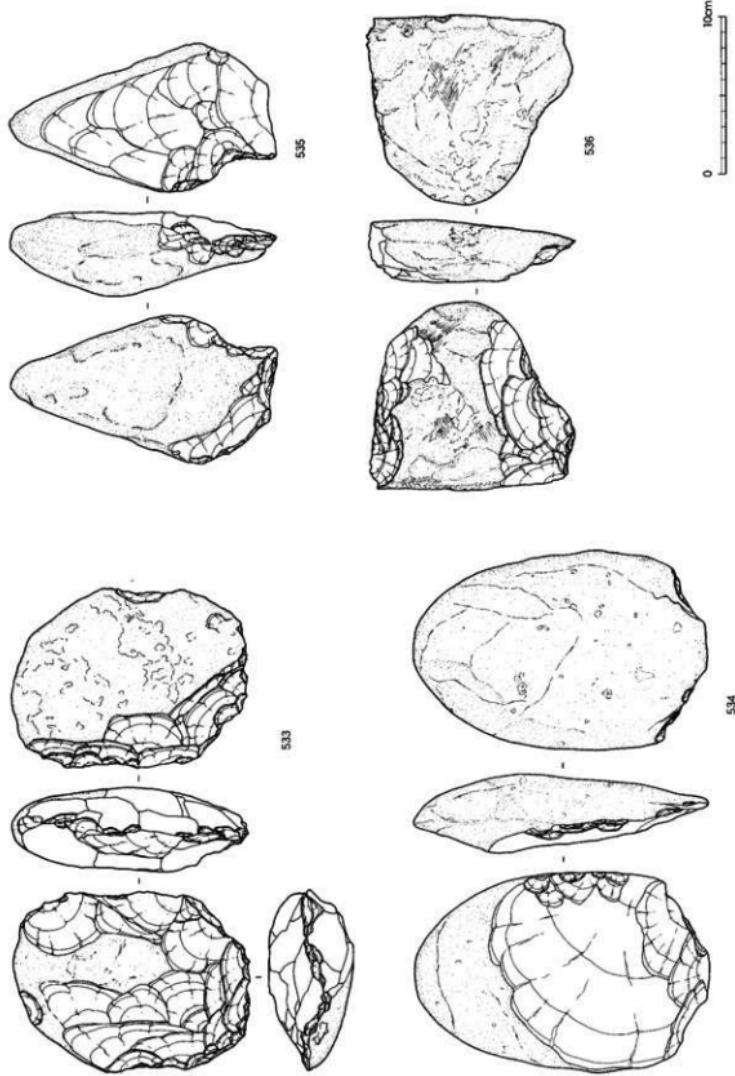
538はかなり大型の磨石であるが、部分的に破損している。表裏両面とも磨面があり、周縁も磨られた痕跡が認められる。539も半損品であるが、周縁部には著しい敲打痕があり表面には磨られた痕があるだけでなく、中央部の浅く凹んだ部分には擦痕が認められることより、砥石として転用された可能性も考えられる。540は全面使用されたものと思われる。541は平坦面の中央部に敲打痕が集中した凹部が認められるもので、いわゆる凹石である。裏面は破損しているもの



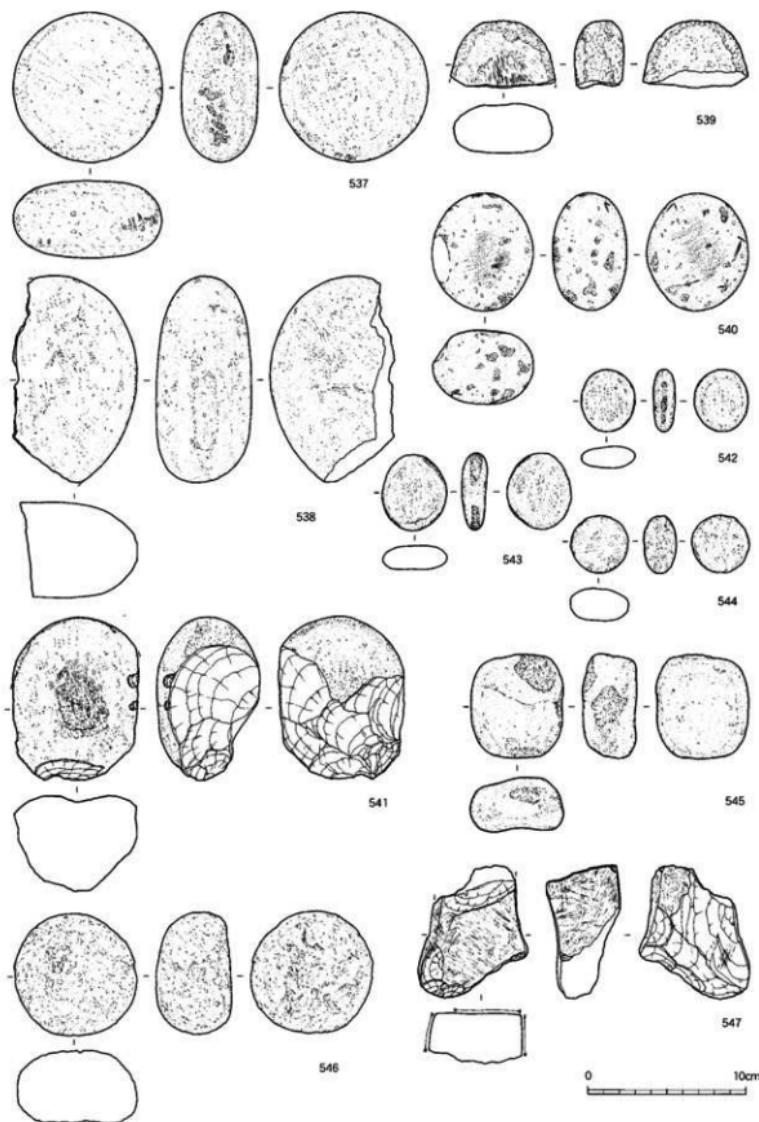
第46図 縄文時代晩期石器（8）



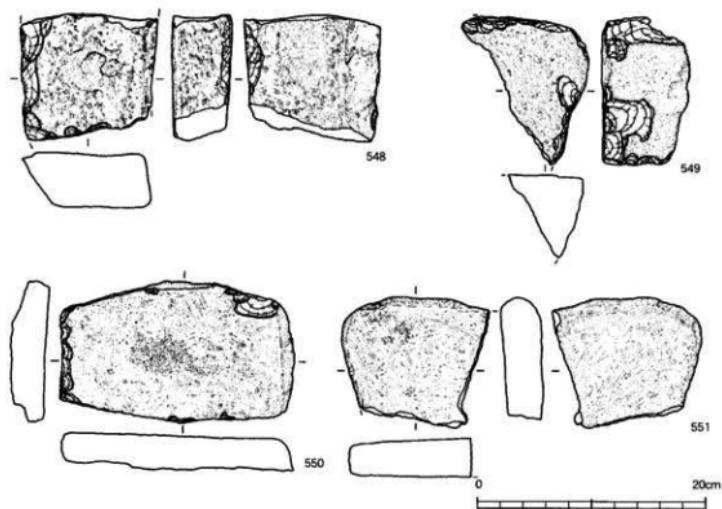
第47図 縄文時代晩期石器（9）



第48図 繩文時代晩期石器 (10)



第49図 繩文時代晩期石器 (11)



第50図 縄文時代晩期石器 (12)

の、中央には同様に敲打による凹みの一部が残存している。

542～544はかなり小型のものである。542は砂岩製の偏平円錐が使用されたものであり、表裏両面に磨面が認められる。543も砂岩製であり、同様に磨面があるのみでなく、周縁部には細かい敲打痕が観察される。544は安山岩製のもので、表裏両面の磨面及び周縁の細かい敲打が顕著であり、使用のため変形している。

545は安山岩製であり、部分的に敲打が認められるもので敲石と考えられる。

軽石製品

546は軽石製のものであり、人為的に形を整えたものと判断される。裏面は平坦にされている。

砥石

石材及び形態は現在の砥石と同様のものであり、これは縄文時代のものではなく、古代～中世の時期の金属用のものと判断される。

石皿

548・549は欠損品であるが、磨面には敲打痕が多く観察される。550は滑らかな磨面の中央に細かい敲打痕が認められる。なお、図化していないが、安山岩製の長さ15cm程度の石皿片も出土している。550と同様磨面に敲打痕が認められる。

第16表 計志加里遺跡出土石器計測表(1)

埠区番号	番号	器種	出土区・層	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	注記番号	備考
8	41	石劍	24.5Ⅲ	チャート	2.8	4.5	0.8	6.97	5028	
	42	スクレイパー	24.5Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	1.6	0.9	0.4	0.43	5067	
	43	石錐	K24Ⅲ	ギョクズイ	4.2	1.8	1.6	10.99	4743	
	44	石核	24.5Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	2.1	3.0	2.9	20.37	5064	
	45	石核	24.5Ⅲ	黒曜石	2.75	3.65	3.7	41.03	4933	
	46	石核	K25Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	2.8	4.9	2.7	35.77	4772	
	404	石鏃	18Ⅲ	たんばく石	1.6	1.4	0.35	0.52	7718	
	405	石鏃	9ES	サヌカイト	1.55	1.15	0.3	0.55	3206	
	406	石鏃	8JB	サヌカイト	1.5	1.6	0.3	0.62	830	
	407	石鏃	7Ⅲ	サヌカイト	1.7	1.6	0.3	0.58	1315	
	408	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	1.15	1.4	0.3	0.57	4495	
	409	石鏃	6Ⅲ下	サヌカイト	1.3	1.3	0.4	0.58	2020	
	410	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	1.5	1.9	0.35	0.72	4177	
	411	石鏃	8Ⅲ上	サヌカイト	2.0	1.5	0.35	0.92	4738	
	412	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(端野・松尾)	1.8	1.3	0.3	0.72	1442	
	413	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(端野・松尾)	2.0	1.6	0.3	0.79	1971	
	414	石鏃	7Ⅲ	サヌカイト	2.0	1.5	0.3	0.71	1062	
	415	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(端野・松尾)	2.1	1.6	0.45	1.51	1935	
	416	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(慶岱)	1.9	1.4	0.35	0.62	3593	
	417	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(慶岱)	2.0	1.8	0.3	0.73	2021	
39	418	石鏃	9ES	サヌカイト	2.0	1.8	0.3	0.86	3148	
	419	石鏃	15Ⅲ	黒曜石(端野・松尾)	2.0	2.0	0.3	0.82	5340	
	420	石鏃	8JB	黒曜石(端野・松尾)	2.6	1.8	0.5	1.62	710	
	421	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	2.25	1.8	0.4	0.79	4191	
	422	石鏃	9ES	黒曜石(端野・松尾)	2.3	1.65	0.3	0.97	3287	
	423	石鏃	9表土	黒曜石(端野・松尾)	1.6	2.2	0.35	1.11		
	424	石鏃	6Ⅲ	安山岩	2.6	1.6	0.3	1.40	1186	
	425	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	2.5	2.1	0.3	1.25	4503	
	426	石鏃	4Ⅲ	サヌカイト	2.45	1.65	0.5	1.38	586	
	427	石鏃	6Ⅲ下	黒曜石(端野・松尾)	2.2	2.0	0.3	0.95	1961	
	428	石鏃	9Ⅲ下	サヌカイト	2.2	1.9	0.4	1.27	2587	
	429	石鏃	39TⅢ	サヌカイト	2.5	1.85	0.5	1.91	220	
	430	石鏃	8Ⅲ下	黒曜石(端野・松尾)	2.45	2.3	0.6	2.92	4635	
	431	石鏃	6Ⅲ	安山岩	2.6	1.8	0.4	1.63	1190	
	432	石鏃	6Ⅲ	安山岩	3.0	2.35	0.4	1.86	1211	
	433	石鏃	6Ⅲ	黒曜石(端野・松尾)	2.5	2.4	0.5	2.65	1219	
40	434	石鏃	6Ⅲ	サヌカイト	3.1	2.4	0.65	3.50	1110	
	435	石鏃	9ES	黒曜石(端野・松尾)	2.8	1.85	0.3	1.19	3261	
	436	石鏃	9ES	黒曜石(端野・松尾)	2.0	1.7	0.3	0.81	2657	
	437	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(慶岱)	2.6	1.2	0.3	0.70	1304	
	438	石鏃	34TN	サヌカイト	3.2	1.8	0.4	1.60	31	
	439	石鏃	7Ⅲ	黒曜石(慶岱)	3.05	2.0	0.4	1.71	2180	
	440	石鏃	16Ⅲ	黒曜石(慶岱)	1.45	1.2	0.3	0.52	6524	
	441	石鏃	9土坑1	黒曜石(慶岱)	1.6	1.15	0.3	0.29	4890	
	442	石鏃	18SD9	黒曜石(慶岱)	1.45	1.3	0.3	0.53	8622	
	443	石鏃	9Ⅲ下	黒曜石(慶岱)	1.5	1.2	0.3	0.53	2817	
	444	石鏃	3Ⅲ	黒曜石(慶岱)	1.5	1.1	0.25	0.31	588	
	445	磨製石鏃	10Ⅲ	頁岩	2.75	2.15	0.25	1.75	7972	
	446	磨製石鏃	18Ⅲ	頁岩	2.7	1.9	0.3	1.48	8457	
	447	磨製石鏃	18古道	頁岩	2.9	1.7	0.25	1.31	8200	
	448	石錐	8古道埋土	黒曜石(端野・松尾)	1.9	0.95	0.45	0.63	2377	
	449	石錐	8Ⅲ下	黒曜石(端野・松尾)	3.0	1.35	0.8	2.86	3664	

第17表 計志加里遺跡出土石器計測表（2）

種類番号	番号	器種	出土区・層	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	注記番号	備考
40	450	石鎌	6Ⅲ下	サヌカイト	2.0	1.7	0.55	1.74	2078	
	451	石鎌	9ⅠB	サヌカイト	3.55	1.85	1.4	7.15	506	
	452	石鎌	9ES	サヌカイト	3.05	1.4	0.6	2.00	3173	
	453	石鎌	9ES	サヌカイト	3.1	1.35	1.15	3.14	3126	
41	454	楔形石器	8Ⅲ下	チャート	1.8	2.05	0.5	1.69	3708	
	455	楔形石器	9Ⅲ下	黒曜石（嶺野・松尾）	2.9	1.85	0.9	3.45	4543	
	456	楔形石器	8Ⅲ下	黒曜石（嶺野・松尾）	3.2	1.65	0.95	5.11	4576	
	457	楔形石器	6Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	3.8	1.0	0.7	1.72	2071	
	458	異形石器	8Ⅲ	サヌカイト	2.5	0.9	0.5	1.07	3617	
	459	スクレイパー	9ES	黒曜石（嶺野・松尾）	2.55	1.3	0.7	1.82	3182	
	460	スクレイパー	6Ⅲ	サヌカイト	2.0	3.0	0.8	3.58	1168	
	461	スクレイパー	9Ⅲ	黒曜石（腰岳）	3.1	1.45	1.0	3.36	983	
	462	スクレイパー	8Ⅲ	黒曜石（嶺野・松尾）	2.2	4.9	1.4	8.75	4778	
	463	スクレイパー	9Ⅲ下	黒曜石（嶺野・松尾）	3.2	2.9	0.6	3.68	4037	
	464	スクレイパー	8ⅠB	黒曜石（腰岳）	3.2	2.25	0.6	3.79	667	
42	465	スクレイパー	8ⅠB	チャート	3.5	1.75	0.85	4.67	550	
	466	スクレイパー	8Ⅲ下	サヌカイト	3.7	2.85	1.25	12.98	3677	
	467	スクレイパー	8Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	2.0	2.7	1.1	5.24	3781	
	468	スクレイパー	9ⅠB	黒曜石（腰岳）	3.1	2.6	0.9	7.00	395	
	469	スクレイパー	24.5Ⅲ	黒曜石（上牛鼻）	3.8	3.95	1.25	15.83	4955	
	470	スクレイパー	9ⅠB	サヌカイト	4.35	6.5	1.6	48.14	509	
	471	スクレイパー	8Ⅲ	サヌカイト	4.8	5.1	1.65	46.86	4798	
	472	スクレイパー	9Ⅲ下	サヌカイト	2.1	3.8	1.0	8.48	4196	
	473	石鏃木製品	6Ⅲ	サヌカイト	1.9	1.25	0.3	0.65	1163	
	474	石鏃木製品	9ⅠB	黒曜石（腰岳）	2.2	1.6	0.5	1.29	383	
	475	石鏃木製品	8Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.3	1.85	0.7	1.85	2939	
43	476	石鏃木製品	6Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.4	1.55	0.55	1.87	1116	
	477	石鏃木製品	9Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.35	1.75	0.9	2.21	1671	
	478	石鏃木製品	6Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	2.4	2.1	0.6	2.52	1982	
	479	石鏃木製品	9Ⅲ下	黒曜石（嶺野・松尾）	2.7	2.45	0.95	6.27	2782	
	480	石鏃木製品	7Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	3.2	2.45	0.6	3.28	2439	
	481	石鏃木製品	6Ⅲ下	サヌカイト	4.2	2.85	1.1	13.57	2090	
	482	石鏃木製品	8Ⅲ下	サヌカイト	3.5	2.0	1.1	6.42	3677	
	483	石鏃木製品	9Ⅲ	サヌカイト	4.05	3.3	0.9	8.96	1629	
	484	石鏃木製品	8Ⅲ下	サヌカイト	3.3	2.7	1.0	8.01	4631	
	485	フレイク	9Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	2.7	1.95	0.6	1.96	4091	
	486	フレイク	9ⅠB	黒曜石（腰岳）	2.7	2.0	0.5	1.90	533	
44	487	フレイク	9Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	2.45	3.3	0.9	4.74	4491	
	488	フレイク	9Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	3.45	1.8	0.8	3.12	2787	
	489	フレイク	14Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.8	2.9	0.9	6.79	5931	
	490	UF	397Ⅲ	サヌカイト	3.6	3.3	0.5	5.01	276	
	491	石核	6Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	1.8	2.4	1.0	3.06	1972	
	492	石核	6Ⅲ	黒曜石（KIK2）	1.6	3.2	1.2	5.17	1089	
	493	石核	6Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	1.55	1.85	1.4	3.73	2074	
	494	石核	397Ⅲ	黒曜石（腰岳）	1.35	2.95	1.2	2.91	281	
45	495	石核	8Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	1.4	3.25	1.2	5.62	3730	
	496	石核	9Ⅲ下	黒曜石（腰岳）	2.45	2.7	0.9	4.40	4525	
	497	石核	6Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.8	4.1	1.9	17.69	983	
	498	石核	7Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.9	2.7	1.5	11.11	1420	
	499	石核	9ⅠB	黒曜石（腰岳）	2.3	4.4	2.8	17.75	524	
46	500	石核	6Ⅲ	黒曜石（腰岳）	3.2	2.25	1.5	7.03	1232	
	501	石核	9Ⅲ下	ギョクズイ	3.45	3.35	1.5	17.34	2767	

第18表 計志加里遺跡出土石器計測表(3)

神岡 番号	番号	器種	出土区・層	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	注記 番号	備考
44	502	石核	7Ⅲ	黒曜石(腰岳)	1.75	3.8	1.7	6.69	2135	
	503	石核	8Ⅲ下	黒曜石(上牛鼻)	2.5	2.5	2.2	11.74	3710	
	504	石核	19Ⅲ	ギョクズイ	4.6	4.75	4.2	85.58	7435	
	505	石核	7Ⅲ	サヌカイト	5.1	3.9	2.2	47.43	1334	
45	506	石核	8Ⅲ下	サヌカイト	6.15	8.25	2.9	83.26	3795	
	507	石核	24.5Ⅲ	黒曜石(上牛鼻)	6.1	8.85	6.4	350.0	4931	
46	508	磨製石斧	7ⅠB	ホルンフェルス	5.3	4.3	2.2	80.27	1463	
	509	打製石斧	8Ⅲ	安山岩	6.2	4.85	1.3	58.82	2976	
	510	打製石斧	16Ⅲ	頁岩	8.3	6.0	1.8	107.76	6487	
	511	打製石斧	6Ⅲ下	頁岩	11.0	4.4	1.3	70.12	2022	
	512	打製石斧	6Ⅲ下	頁岩	11.35	4.3	1.3	81.56	2089	
	513	打製石斧	6Ⅲ	砂岩	7.1	4.25	1.2	51.08	1123	
	514	打製石斧	7Ⅲ下	頁岩	6.95	5.9	1.7	86.36	2422	
	515	打製石斧	9Ⅲ	頁岩	10.7	5.25	1.6	98.29	4291	
	516	打製石斧	8Ⅲ	頁岩	10.5	5.55	1.6	113.47	2955	
	517	打製石斧	9ⅠB	安山岩	8.4	5.65	1.6	105.12	469	
	518	打製石斧	8Ⅲ	頁岩	7.25	6.6	1.5	87.27	3002	
	519	打製石斧	9ⅠB	頁岩	6.9	3.8	1.4	51.93	487	
	520	打製石斧	8ⅠB	安山岩	11.7	6.6	1.6	162.99	712	
	521	打製石斧	9Ⅲ	ホルンフェルス	10.95	8.4	2.0	208.13	4849	
	522	打製石斧	6Ⅲ下	頁岩	8.2	6.6	1.75	74.80	1999	
47	523	打製石斧	7Ⅲ	頁岩	7.6	6.2	1.4	72.22	2145	
	524	打製石斧	8Ⅲ下	凝灰岩	8.7	6.05	2.05	86.95	3723	
	525	打製石斧	14Ⅲ	頁岩	9.85	7.95	1.4	145.80	6414	
	526	横刃型石器	8Ⅲ	凝灰岩	5.4	13.1	1.7	123.23	2890	
	527	横刃型石器	9Ⅲ下	頁岩	5.1	9.7	0.6	33.28	2797	
	528	横刃型石器	9Ⅲ	ホルンフェルス	6.1	8.9	1.5	83.75	1779	
	529	円盤形石器	7Ⅲ	砂岩	8.5	8.2	2.0	157.16	2292	
	530	大型剥片石器	6Ⅲ	頁岩	11.65	6.2	2.4	262.0	5146	
	531	大型剥片石器	6Ⅲ下	頁岩	13.9	4.8	2.65	222.0	2101	
	532	大型剥片石器	7Ⅲ	凝灰岩	9.3	12.5	2.6	330.0	995	
48	533	穂器	14Ⅲ	頁岩	14.9	11.4	5.3	101.0	6429	
	534	穂器	K24Ⅲ	安山岩	18.6	12.65	5.0	1250.0	4744	
	535	穂器	3Ⅲ	ホルンフェルス	16.9	9.4	5.35	770.0	221	
	536	穂器	6Ⅲ下	頁岩	13.0	12.0	3.95	735.0	2055	
49	537	磨石類	24.5Ⅲ	安山岩	9.5	9.4	4.9	668.0	4957	
	538	磨石類	8Ⅲ下	安山岩	13.0	7.85	6.0	902.0	3898	
	539	磨石類	14Ⅲ	安山岩	4.2	6.7	3.1	110.92	5906	
	540	磨石類	16Ⅲ	安山岩	7.45	6.4	4.7	320.0	6335	
	541	磨石類	14溝内 I	安山岩	10.3	8.0	6.5	678.0	5995	
	542	磨石類	9Ⅲ	砂岩	3.9	3.4	1.35	26.68	4332	
	543	磨石類	7Ⅲ下	砂岩	4.8	4.1	1.6	44.35	3429	
	544	磨石類	8ⅠB	安山岩	3.6	3.6	2.0	36.90	715	
	545	磨石類	8Ⅲ	安山岩	6.6	5.8	3.4	209.40	1086	
	546	燧石製品	9ES	軽石	7.7	7.7	4.8	75.77	3114	
	547	燧石	16		8.4	6.9	4.65	183.27	6594	
50	548	石皿	16Ⅲ	砂岩	10.9	12.0	5.3	1070.0	6119	
	549	石皿	8Ⅲ下	安山岩	12.8	10.9	7.5	700.0	4598	
	550	石皿	18Ⅲ	安山岩	20.3	12.2	3.3	1250.0	8797	
	551	石皿	9Ⅲ下	安山岩	11.3	12.85	3.6	770.00	4143	

第VI章 弥生時代～古墳時代の遺物

弥生時代から古墳時代の土器の出土分布は調査区域全体に散在した状況であり、一ヶ所に集中した様子は認められなかった。

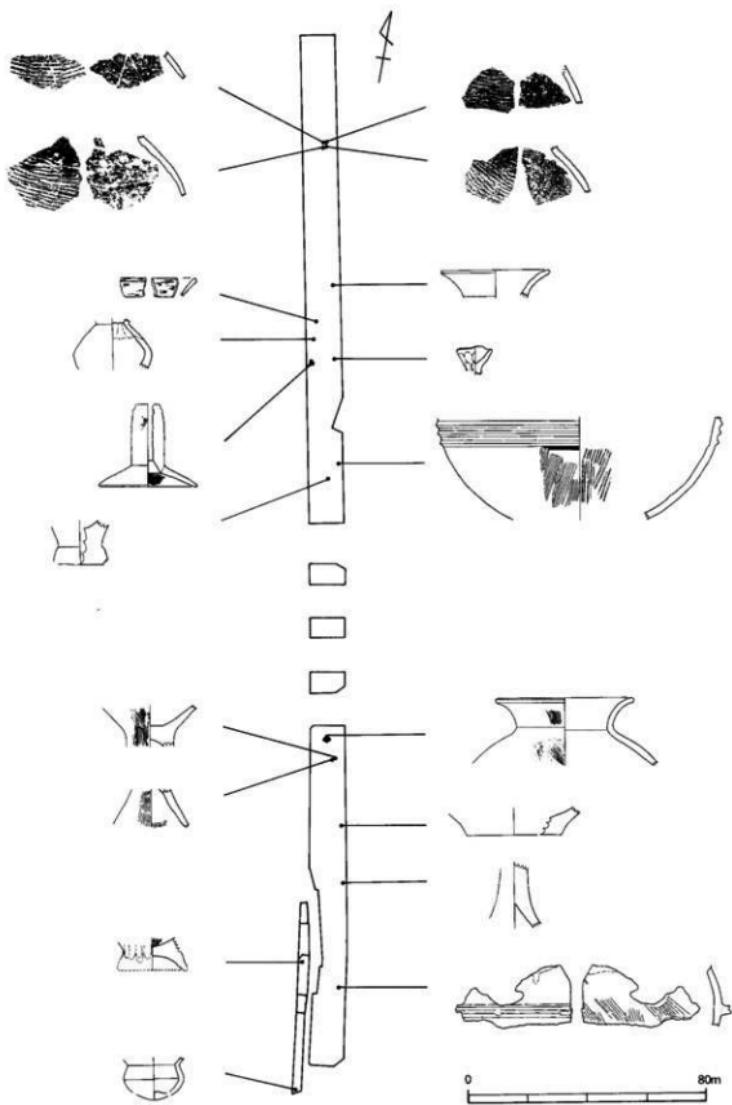
当概期のものと判断される遺構は確認されていないが、IIIa層を中心に土器がいくつか出土し、そのうち24点を図示した。

出土土器

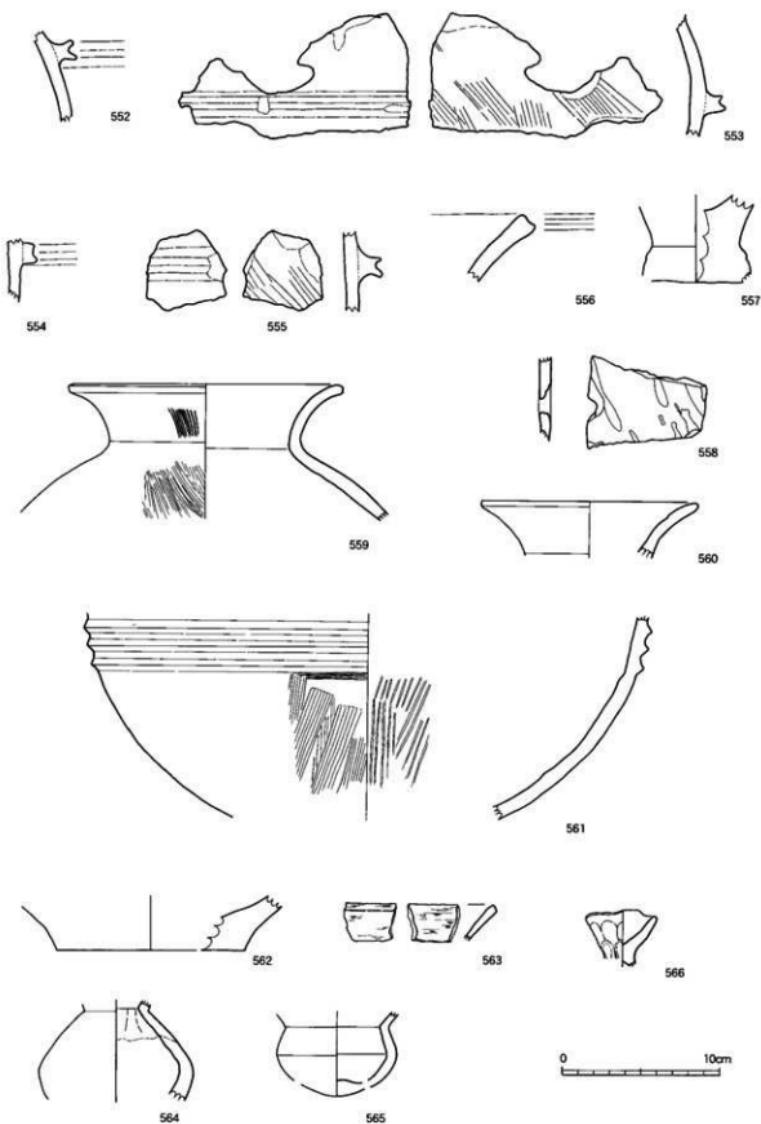
552～555は断面がM字形の突帯をもつ須玖式土器である。552・553は同一固体の可能性があり、突帯より上部には丹彩が施されている。553・555には裏面に粗いハケメが施されている。556は広口壺の口縁部である。表面には丹彩が施されている。557は壺の充実脚台である。弥生時代中期後半から後期前半のものと考えられる。558は補修孔のある土器である。559・560は壺形土器の口縁部である。559は口縁から頸部にかけて「く」の字状にくびれるもので、縦方向にハケメが施されている。弥生時代中期後半から後期初頭のものと考えられる。560は口縁から頸部にかけてゆるやかに内反するもので、弥生時代終末期ごろと考えられる。561は壺形土器の下胴部である。断面三角形の突帯を3条もち、表面には斜め方向のハケメを、裏面には斜め方向に粗いハケメを施している。562は壺形土器の底部と考えられる。563～565は壺である。563は口縁部で表面に丹彩がほどこされている。564は胴部がソロバンの玉のように張っている。565は口縁が外側に大きく開き、丸底を呈している。566は手づくね土器である。製作時の指頭痕を顕著に残している。器形は脚台付壺である。567～569は脚台付壺の底部である。いずれも中空の脚台をもつ。567・569は表面の縦方向のハケメを施している。在地の成川式土器と考えられる。570・571は高杯の脚部である。570は裾部に向かって外反する。571は脚部が直線的なラインを呈し裾部に至っている。572～575は土師器の胴部である。いずれ表面にタタキ痕を残し、裏面には細かいハケメを施している。いずれも同一個体の可能性が高い。在地のものではなく肥後地方からの移入品の可能性がある。

第19表 弥生～古墳時代遺物観察表(1)

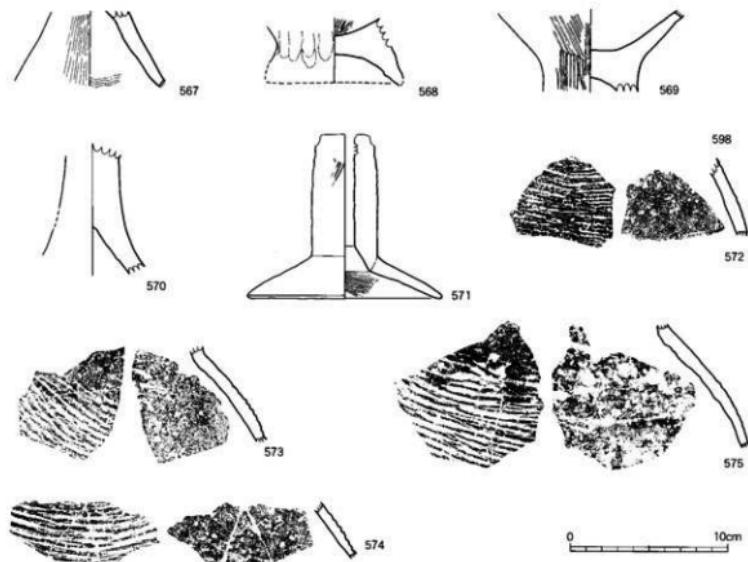
種別	団番号	区	層	器種	部位	外面調整	内面調整	胎土	外面色調	内面色調	備考
51	552	17	III	胴部突帯	ヨコナデ			石英・長石	赤褐色	灰黄色	須玖式丹彩
51	553	17	III	胴部突帯	ヨコナデ	ハケメ		石英・長石	赤褐色	灰黄色	須玖式丹彩
51	554	17	III	胴部突帯	ヨコナデ			石英・長石	黄橙色	黄灰色	須玖式
51	555	18	III	胴部突帯	ヨコナデ	ハケメ		石英・長石	黄橙色	淡黄色	須玖式
51	556	18	清16	壺	口縁			石英・長石	黄橙色	黄橙色	
51	557	39T	III	壺	底部			石英・長石・角閃石	暗黃褐色	暗黃褐色	
51	558	18	III	胴部				石英・長石・角閃石	明赤褐色	明赤褐色	補修孔
51	559	13	III	壺	口縁	ハケメ		石英・長石・角閃石	黄橙色	黄灰色	
51	560	6	III	壺	口縁	ヨコナデ		石英・長石・角閃石	明黃橙色	明黃橙色	
51	561	9	III	壺	下胴部	ヨコナデ		石英・長石	黄橙色	黄橙色	



第51図 弥生～古墳土器分布図



第52図 弥生～古墳時代土器（1）



第53図 弥生～古墳時代土器（2）

第20表 弥生～古墳時代遺物観察表（2）

博団	図番号	区	層	器種	部位	外面調整	内面調整	胎土	外面色調	内面色調	備考
51	562	15	Ⅲ	壺	底部	ハケメ		石英・長石・角閃石	黄橙色	黄橙色	
51	563	6	Ⅲ	壺	口縁			長石	赤色	暗黄橙色	丹影
51	564	7	Ⅲ	壺	胴部			石英・砂礫	橙色	橙色	
51	565	19	Ⅲ	壺	胴部	ヨコナデ		砂礫	暗黄橙色	暗黄橙色	
51	566	7	Ⅲ	手びぬ	完形			長石	黒褐色	黒褐色	
52	567	14	Ⅲ	壺	底部	ハケメ		石英	黄橙色	黄橙色	
52	568	17	Ⅲ	壺	底部			石英・角閃石	橙色	橙色	
52	569	14	Ⅲ	壺	下胴部	ハケメ		石英	橙色	橙色	
52	570	16	Ⅲ	高杯	脚部			角閃石	橙色	橙色	
52	571	7	Ⅲ	高杯	脚部		ハケメ		黄橙色	黄橙色	
52	572	3	Ⅲ	壺	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器
52	573	3	Ⅲ	壺	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器
52	574	3	Ⅲ	壺	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器
52	575	3	Ⅲ	壺	胴部	タタキ	ハケメ	石英・長石	黄橙色	黒褐色	土師器

第VII章 平安時代の遺構と遺物

第1節 検出遺構

IIIa層の下面から検出された遺構は、掘立柱建物跡、竪穴住居跡状遺構、円形周溝墓、土坑墓、各種の土坑などがあり、調査区域のほぼ全体に広がっていた。（第70図）

1. 掘立柱建物跡

全体で7棟の掘立柱建物跡が検出されているが、調査区域の幅が細いため、一部分のみ確認されたものが多い。第1調査地点で近接して3棟、そして第2調査地点で4棟距離をおいて検出されている。

1号掘立柱建物跡

6区の西側で検出されたが、調査区域外に広がるものであり、4個のビットからなる。柱間の距離から、主軸は略南北方向と思われる。各ビットの径は約25cm程度で深さは平均40cmを測る。このうち角にあるP1には中に礫が認められた。ビットの埋土は暗黄褐色土であった。

2号掘立柱建物跡

7区の東側で検出され、これも調査区域外に広がるものであるが、建物の規模は2間×3間と推定される。建物跡の主軸方向は1号と同一である。ビットの直径は30cm程度で深さは約40cmである。ビット2には柱痕跡も確認できた。ビットの埋土は1号と同様であった。

3号掘立柱建物跡

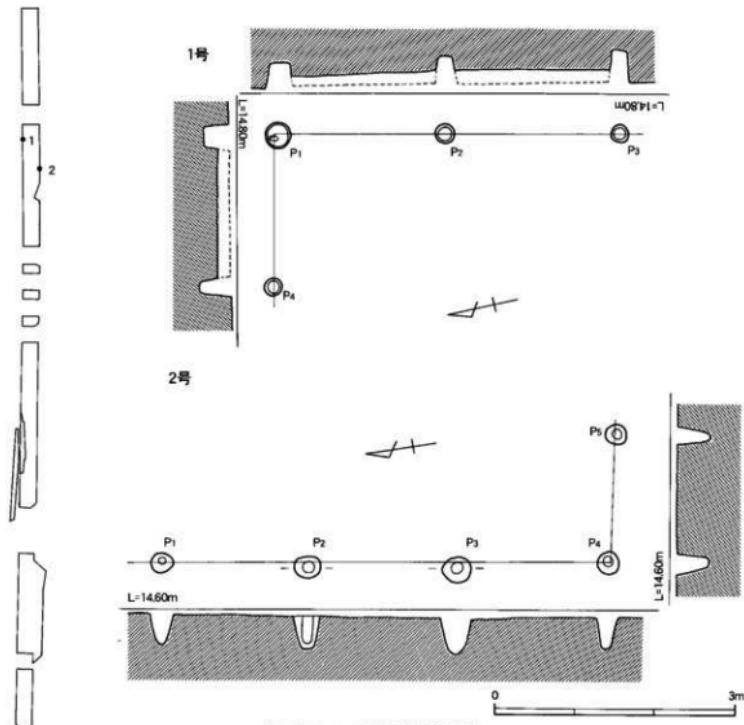
2号の西側に近接して検出された。2間×2間の大きさであり、梁行の北側に庇を有する。主軸は略北方向であるが、ほぼ平行する1号及び2号とは若干の違いがある。ビットの直径は1、2号より比較的小さく約20cm程度である。また、底部のビットは径約10cmとかなり小さく、掘り込みとは考えられず、ビットの底が尖っていることより、柱は杭状に打ち込まれたものと判断される。この3号掘立柱建物跡のほぼ中央には焼土が認められているが、建物跡に付随するかどうかは明確ではなかった。また、ビットの埋土はⅡ層黒色土に極めて類似しており、1・2号掘立柱建物跡より時期的に新しいと思われる。ここでは平安時代として取り扱ったが、中世の所産である可能性が高いと推定される。

4号掘立柱建物跡

14区で検出された。調査区域外に広がるものであり、建物跡の全体規模は明確ではない。梁行のビット間隔はほぼ一定であるが、桁行のビットの間隔はそうではない。ビットの直径は20～25cmであり、深さも50cmから20cm程度と一定ではない。第58図576はビット内から出土した土師甕の底部である。内面はヘラケズリが施されている。

5号掘立柱建物跡

建物規模は2間×3間であり、主軸はほぼ東西方向である。P1の西側のビットは中世の時期の所産である溝状遺構11により切られていた。またその南側のビットは搅乱により消失していた。各ビットの直径は約40cmと比較的大きく、また深さも45～50cm程度と一定したものであり、ビットの掘り方は底面までほぼ直行するものであった。ビット7には径15cmほどの礫が認められ根石として利用されたものと思われる。



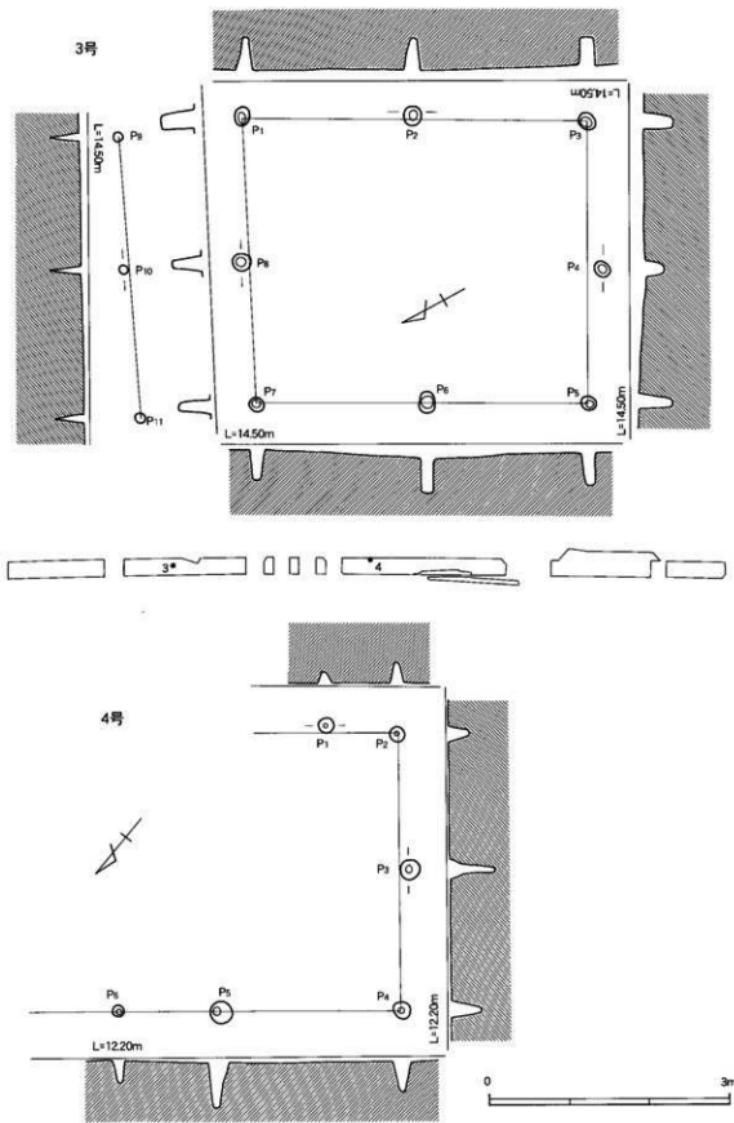
第54図 1, 2号掘立柱建物跡

6号掘立柱建物跡

16区で検出された。調査区域外に広がり全体規模は明確ではない。南側に庇をもつ。主建物部のビットの径は約30cm、深さ40~60cmであるが、庇部分のものは直径約15cm、深さ35cm程度と小さい。底部のビットが小さいのは3号と類似する。第58図577はビットから出土した須恵器壺の底部付近である。赤褐色を呈し、器面には平行タタキが、内面は粘土の輪積み痕が明瞭である。

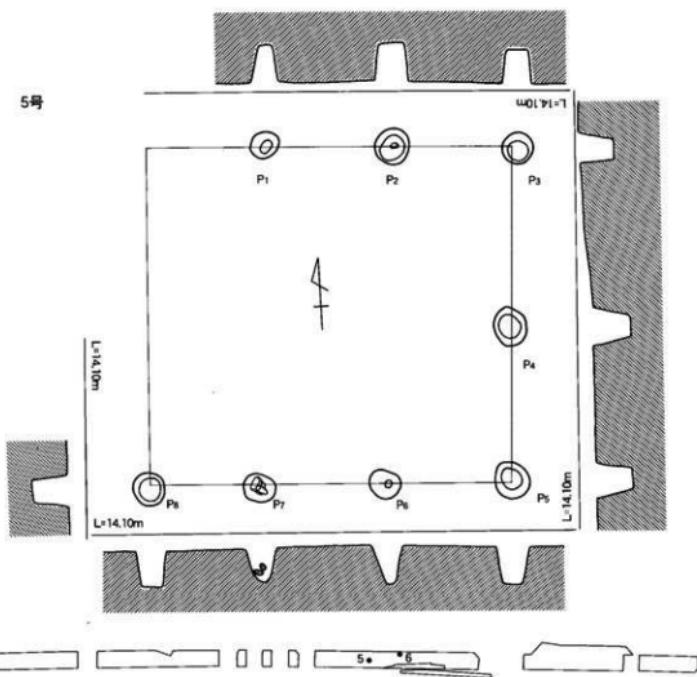
7号掘立柱建物跡

18区で検出された。建物規模は2間×3間と他の建物跡と同様であるが、梁行が約4m、桁行は約5.5mと最も大きいものである。ビットの掘り込み面は各ビットの形状や深さから推定して上位の高さであると考えられる。検出面でのビットの直径は約50cm程度と大きく、深さは20~60cmと一定ではない。第58図578~583はビット内から出土したものである。ビット1からは579の壺と583の甕などが、ビット2からは580が、ビット3からは582の甕が、ビット4からは578の壺がそれぞれ出土した。

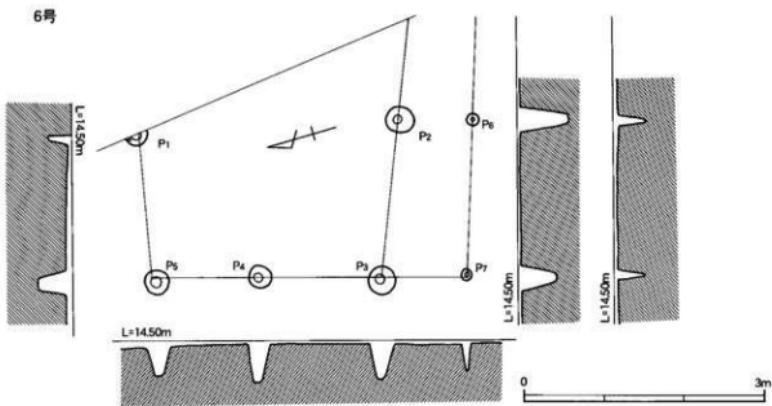


第55図 3, 4号掘立柱建物跡

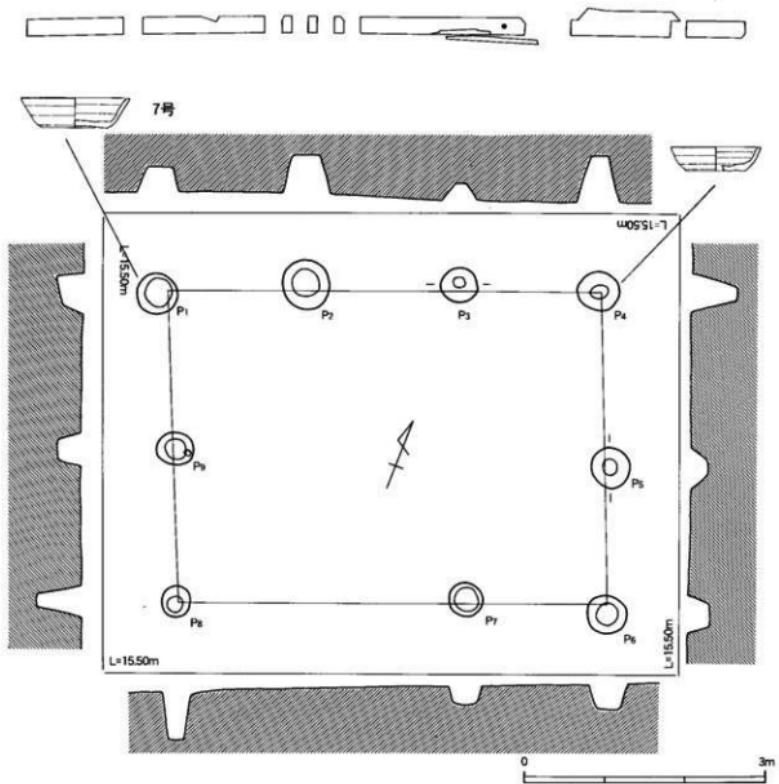
5号



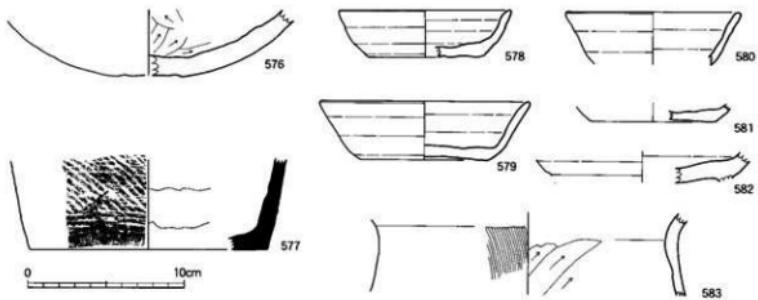
6号



第56図 5, 6号掘立柱建物跡



第57図 7号掘立柱建物跡



第58図 掘立柱建物跡ピット出土の土器

第21表 挖立柱建物跡 計測表

1号

主軸方向	桁行柱間	梁行柱間
南北 N-12°-E	P1-P2 2.12	P1-P4 1.91
	P2-P3 2.20	

3号

主軸方向	桁 行	梁 行	桁行柱間	梁行柱間	底柱間
南北 N-28°-E	P1-P3 4.32	P1-P7 3.60	P1-P2 2.15	P1-P8 1.82	P9-P10 1.68
	P7-P5 4.18	P3-P5 3.54	P2-P3 2.16	P8-P7 1.77	P10-P11 1.87
			P7-P6 2.15	P3-P4 1.85	P1-P9 1.60
			P6-P5 2.03	P4-P5 1.70	P7-P11 1.48

2号

主軸方向	桁行柱間	梁行柱間
南北 N-9°-E	P1-P2 1.85	P5-P4 1.60
	P2-P3 1.85	
	P3-P4 1.90	

4号

主軸方向	桁行柱間	梁行柱間	梁行柱間
南北 N-49°-E	P2-P4 3.47	P1-P2 0.91	P2-P3 1.72
		P6-P5 1.22	P3-P4 1.77
		P5-P4 2.33	

15区 5号

主軸方向	桁 行	梁 行	桁行柱間	梁行柱間
東西 N-87°-W	P8-P5 4.56	P3-P5 4.12	P1-P2 1.58	P3-P4 2.20
			P2-P3 1.60	P4-P5 1.90
	P8-P7 1.36			
	P7-P6 1.65			
	P6-P5 1.55			

18区 7号

主軸方向	桁 行	梁 行	桁行柱間	梁行柱間
東西 N-70°-E	P1-P4 5.55	P1-P8 3.90	P1-P2 1.85	P1-P9 2.00
	P8-P6 5.45	P4-P6 4.05	P2-P3 1.92	P9-P8 1.92
			P3-P4 1.77	P4-P5 2.20
	P8-P7 3.66		P8-P7 3.66	P5-P6 1.85
	P7-P6 1.80		P7-P6 1.80	

16区 6号

主軸方向	桁 行	梁 行	桁行柱間	梁行柱間
東西 N-74°-W	P5-P3 2.82	P1-P5 1.86	P5-P4 1.28	P3-P7 1.10
		P2-P3 2.02	P4-P3 1.53	P7-P6 1.95

2. 壓穴住居跡状遺構

ここで取扱うものは、方形を呈する壓穴住居跡の床面の可能性が考えられるものであるが、明確な貼床はなく、炉跡及びピットも検出されなかったものであり壓穴住居跡状遺構とした。計2基検出された。

1号壓穴住居跡状遺構

7区で検出された。方形を呈し一辺約4m程度である。明確な貼床は認められなかつたが、自然堆積層である周囲と比較すると、硬く縮まっており床面と推定した。ピットは検出されていない。

第59図584～587は推定床面直上から出土したものである。584は糸切底の土師器皿である。小片であるが復元推定底部径は約7cmである。585～587も糸切底の坏と思われ、復元底径はいずれも約7cmである。588は大形壺の口縁部であり、口縁直下に櫛描波状文を施すものである。

2号壓穴住居跡状遺構

第2調査地点の14区で検出された。南北方向は3.5m、東西方向は2.6mの長方形を呈する。1号と同様に周辺と比較すると硬く縮まっており、明確な貼床は認められなかつたが、床面と推定した。1号と同様に炉跡やピットは検出されなかつた。床面直上に遺物は検出されなかつた。

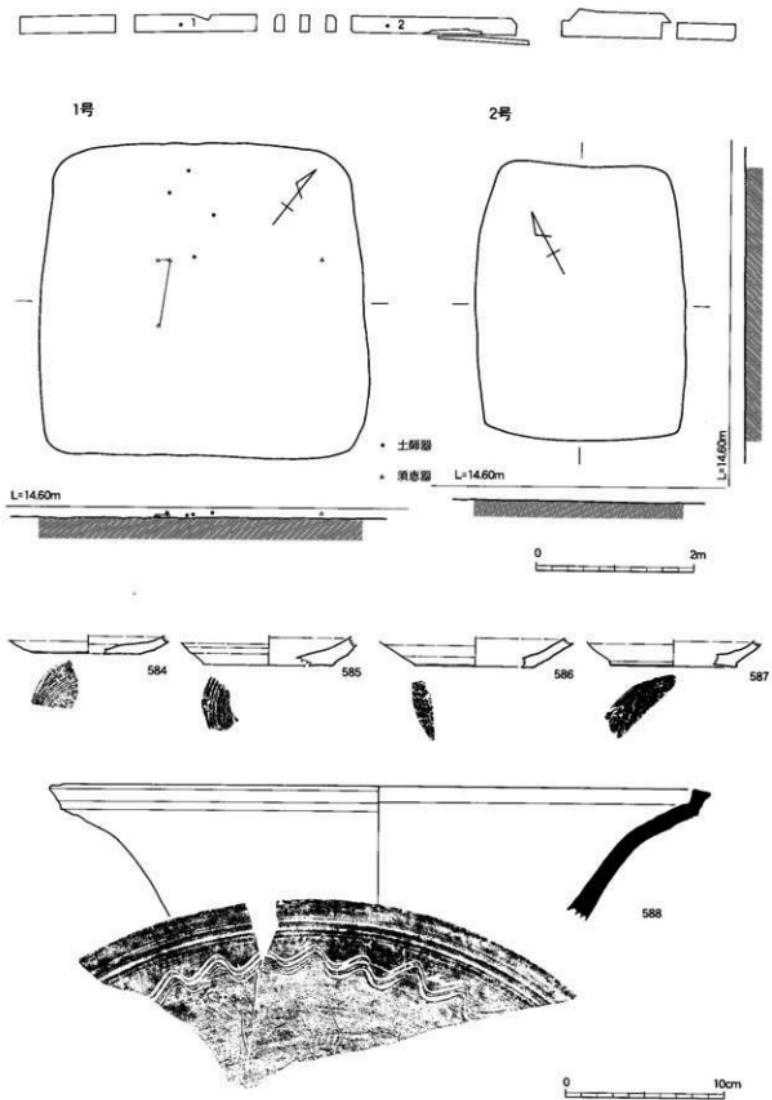
3. 円形周溝墓

平成12年度に実施した確認調査の第39トレンチを設定したおり、一部を溝状遺構と認識したものであるが、全面調査の結果その溝は円形に巡り、円形周溝墓と判明した。円形周溝の径は、東西方向が8.3m、南北方向が8.5mを測る。周溝付近のⅢa層上面の地形コンタは東から西に傾斜しており、加えて西側の周溝の上には中世の古道群2があり、これを考慮すると、ほぼ8.5m径の円形になると思われる。古道群のみでなく、中央部は溝4も検出されており、中世の時期には円形周溝墓は墓としてすでに認識されていなかつたと判断される。また、周溝を掘り下げた土は他へ運び出すより、中央部に積まれていたと推定されるが、古道群及び溝の存在は、その時期には既に削平もしくは流出し平坦化していたと予想される。（第70図・付図参照）

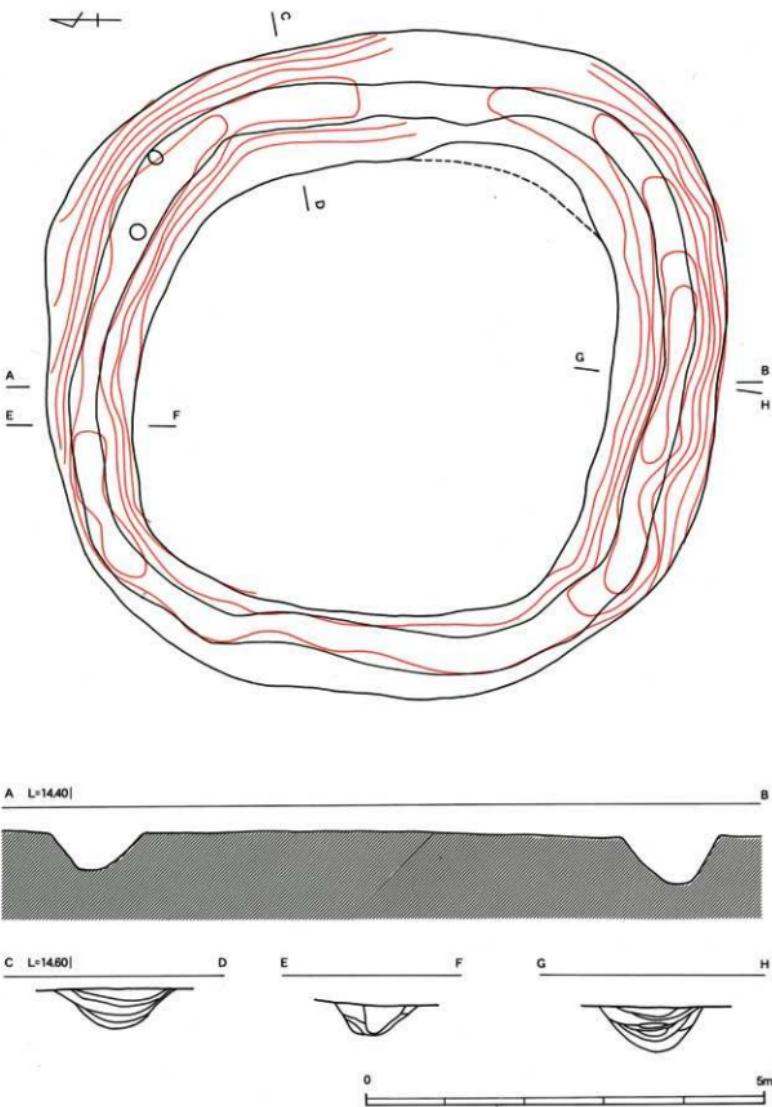
この円形周溝墓で、今回上述したような理由のためか中央部の埋葬施設は特定できなかつた。ただし、中央部から土坑墓と推定されるものが1基検出されているが、周溝墓の中央に位置しないこと、さらに同様の形態の土坑墓が近接した位置に2基検出されていることと、加えて土坑墓の埋土が3基ともほぼ同一であることから、3基の土坑墓はば同一時期であり、円形周溝墓と土坑墓はわずかに異なる時期のものであると判断した。しかし、この中央部の土坑墓が円形周溝墓の主体部である可能性を全く否定するわけではない。

周溝の最大幅は東側半分の残存状況の良好な部分で約1.1mあり、最も深い部分で検出面から約60cmを測る。周溝の埋土については、まずⅢa層黄褐色土層上面において、Ⅱ層黒色土が円形に検出されている。その下は黒色土と茶褐色粘質土が混在した土、またその下は茶褐色粘質土、そしてさらに下の土は黒色土、次がまた茶褐色粘質土と互層になっている。この茶褐色粘質土は、本遺跡標準土層のV層下部に相当するものであり、すなわち周溝を掘った土が中央部に墳丘状に盛られていたことを示唆している。

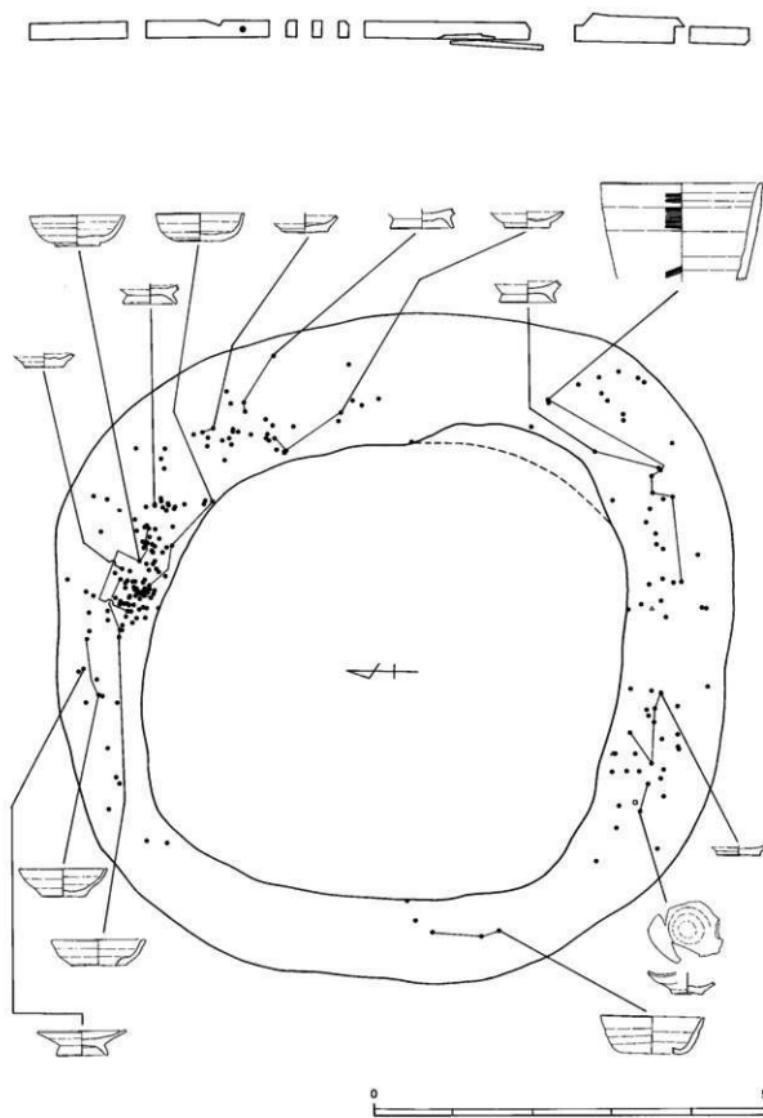
周溝の深さは一定ではなく、南側と東北側が深く、第60図の10cmコンタが示すとおりである。また東北部には2つの小ピットが検出された。直径は約20cm、深さは約25cmで底面は細く尖る。



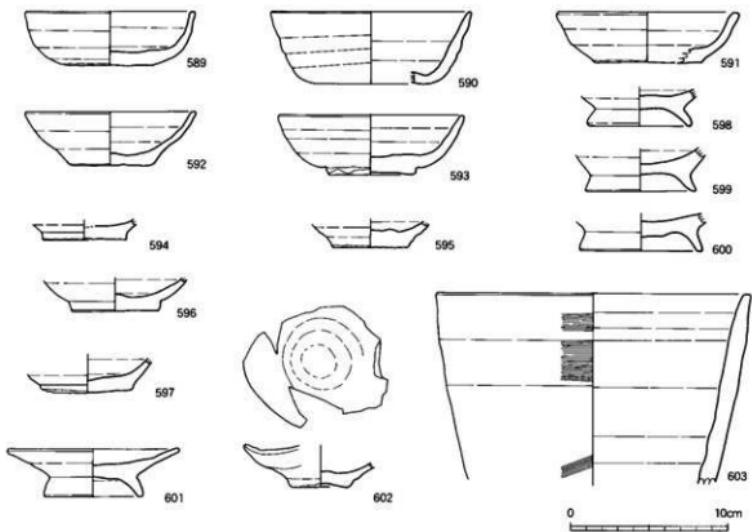
第59図 壴穴住居跡状遺構と出土遺物



第60図 円形周溝墓平断面図



第61図 円形周溝の出土遺物分布



第62図 円形周溝墓出土土器

何らかのケイ状のものを建てた痕跡と考えられる。

遺物は周溝の深い南側と東北側に集中していた。出土した土器類は壺・壇・皿・鉢などであり、他には磨耗した瓦片などもみられた。土器類は細かい2cm程度の細片で出土したもののが大部分であるが、この細かい土器片が驚くほど接合した。このことは出土した土器は意識的に割られて、投げ入れられたものと判断される。また、590のように焼成の段階で底部が変形した、使用に不適なものも認められ、周溝墓用のための土器と考えられるものも出土している。

第62図は円形周溝墓の溝から出土した土器である。

589は口径10.8cm、底径7.2cm、器高3cmを測り、体部は内湾して立ち上がるるものである。底部は回転ヘラ切りによる切離しで調整はヨコナデである。590は全体がヒズミ底部は変形し割れており、焼成中に破損したと思われるものである。591は589と同じ口徑であり、底部から体部への立ち上がり部分をナデにより凹ましている。592も同様の器形を呈している。底部は回転ヘラ切りの後ナデ調整を施しているが、593は切離しの後調整を施していない。594～597は底部が円板状になり高台として意識されたものであり、充実高台壺として分類されうる。底部切離しの後のナデ調整は難である。598～600は壺であり、高台は「ハ」の字状に開く。601は高台付皿であり口径9.3cm、器高2.7cmを測る。602は灰白色を呈し、残存する口縁部は円形にならず、長楕円形に近い形状となる。耳皿の可能性が考えられる。底径は3.1cmと小さく、円板状である。603は黄橙色を呈した鉢であり、内外面ともヨコナデを施している。

4. 土坑墓

検出された土坑のうち、長方形もしくは長楕円形を呈したものは土坑墓と推定され、その他の性格不明の土坑と区別した。土坑墓は9区のほぼ近接した位置に3基検出された。

1号土坑墓

3基の中では最も南側に位置する。プランは長楕円形を呈し、長さ160cm、幅75cmの大きさで、検出面からの深さは50cmを測り、主軸は略東西方向である。埋土は検出面であるⅢa層下面の黄褐色土に極めて類似した暗黄褐色土であった。埋土中より土師器細片などが認められたほか、土坑墓底面より明確な副葬品と推定される鉄製刀子と青銅製品が出土した。また、遺物包含層であるⅢa層を掘り下げた段階で、通常散在する遺物が妙に集中している部分が確認され、遺物集中地点として把握していた。これが1号土坑墓の真上にあたることが判明し、土坑墓に関連する遺物と判断し供獻遺物として取り扱った。

604は須恵器の坏であり、口縁部は底部から丸みをもって内湾気味に立ち上がり、端部近くでは外反する。605は坏であり、底部内面を指ナデで丸く調整している。606は鉢であるが全体的に磨耗しており混入品と思われる。607はほぼ完形の碗であり、口径14.5cm、器高8cm、高台径10cmを測る。高台は「ハ」の字状に広がり高いものである。体部は直線的に開き端部近くでわずかに外反する。内外面ともヨコナデが施される。

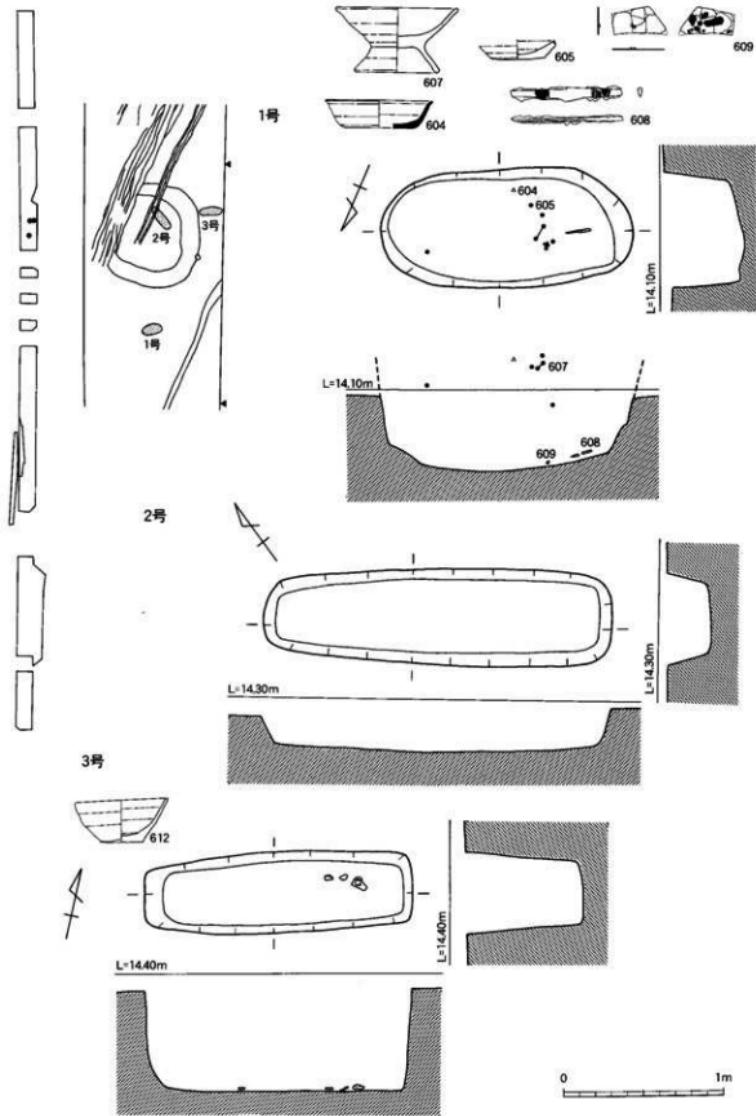
608は鉄製刀子である。刃部先端及び柄部端を欠損し、柄部には樹皮状のものが巻かれ、部分的に布が付着している。東京国立博物館の澤田むつ代先生に鑑定していただき、麻と推定される植物纖維の平織りの布とされた。609は青銅が付いた銅製品であり厚さ1mmという、極めて薄いものである。表面の一部に鏡に類似した小さな鋲状の突起がある。裏面には細かい纖維が付着していた。これも同様に澤田先生に鑑定していただき、平織りの平綱であることがわかった。この糸目は経糸25本/1cm、横糸24本/1cmである。平綱が裏面に付着していたということは、すなわち平綱に包まれていたと推定される。

2号土坑墓

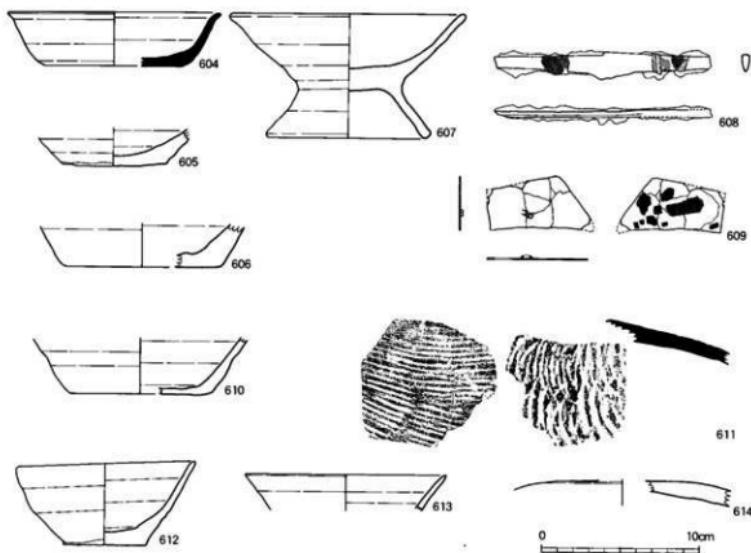
先に記述した円形周溝墓の中に位置し、1号土坑の約9m北側で検出された。長方形を呈し長辺はほぼ直線状である。長さは220cm、幅は約60cmであり、検出面からの深さは約25cmであった。埋土は1号と同様の暗黄褐色土であり、埋土中より土器細片が数片認められたが、副葬品としては考えられない。主軸は南北方向から45度傾いている。第64図610は約9cmの底径をもつ坏、611は黄白色を呈する須恵器壺の肩部、いずれも表面が磨耗しており、副葬品とは考えられない。

3号土坑墓

2号の東側約3mの位置で検出された。長方形を呈し、長さ164cm、幅55cmで検出面からの深さは75cmである。主軸方向は1号土坑墓とほぼ近似した東西方向である。埋土は1号及び2号土坑墓と類似した暗黄褐色土である。平坦な底面の東側に副葬品と考えられる遺物が出土している。第64図612は焼けひずみが生じた土師器坏であり、復元推定口縁径は約11cmである。底径及び器高も約5cmである。底部から体部は内湾気味に立ち上がり器面調整は内外面ともヨコナデである。613は小片であるが、612の同一個体である可能性が高い。614は蓋の一部であるが副葬品の可能性は少ない。



第63図 土坑墓平断面図



第64図 土坑墓出土遺物

5. 土坑

各種の小土坑が検出されており、7区と8区の境界付近と、17区に集中していた。特に1号土坑から4号土坑は近接した位置で発見された。

1号土坑

完形土師器が3点まとめて出土したことより遺構の存在が確認された。平面プランは略円形を呈し、長径×短径は65cm×72cmである。検出面からの深さは約8cm程度であるが、実際の深さは浅くなかったと推定される。埋土が暗黄褐色土であり周囲の土と類似しており、土器が出るまで遺構の存在は不明であった。土坑の底面はほぼ平坦である。

第67図615～617は出土土師器である。615は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部上半でわずかに外反する。口径は11.4cm、底面は回転ヘラ切りによる切離しの後ナデている。616は体部が内湾して立ち上がるるものであり、底面は切離しの後調整は施されない。口径は11.5cmを測る。617は高くて「ハ」の字状に開く高台がつくもので、体部はほぼ直線的に立ち上がる内黒土師器である。内面はミガキを施して焼し焼きをしている。体部は黄白色を呈するが、高台部分は赤褐色を呈しており、明らかに焼成後の色の違いが際立つように意識され粘土を変えて製作されたものと判断される。色が異なる高台部の粘土の貼り付け痕が明瞭に残る。体部には墨書きが施されている。墨書きについては後述する。

2号土坑

1号から約7m南側の位置で、壁面から土師器が3点重なって出土したことから土坑が検出された。土坑は直径約50cmの円形を呈し、深さは約20cmである。618～620が出土した土師器である。618は法量が口径11.7cm、底径5.1cm、器高4.3cmを測り、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁上部で外反する。内外面ともヨコナデ調整である。619は円柱状の底部をした充実高台壺である。体部の器形は前者とほぼ同様であるが、618が精製した胎土を使用しているのに比較すると、この619は砂及び細礫が混在した胎土が使用されている。620は輪高台がついた壺であり、高台は「ハ」の字状に付き、体部はほぼ直線的に開く。

3号土坑

1号及び4号土坑に近接した位置で検出された。平面形はほぼ円形を呈し直径は約55cm。検出面からの深さは25cmである。底面は平坦であり壁の立ち上がりは直に近い。埋土は上部に暗黄褐色土がレンズ状に堆積し、その下位には径5～10mm程度の炭化物がつまっており（図版43参照）、その中から土師片等が認められた。621は体部が内湾気味に開き、口縁上部で外反する内黒土師器壺である。多くの小片が接合しているが、破片により内面が焼かれているものと、そうでないものの違いがあり、また外面が黒く焼された破片もある。さらに土師片の割れた断面も焼けたものも認められることから、土師器を黒色土器に焼し焼きする施設の可能性も考えられる。622は土師器皿、623は須恵器皿、624は内面のヘラケズリ調整から壺の破片と考えられ、一部の破片のみであることよりこの3点は混在品と推定される。

4号土坑

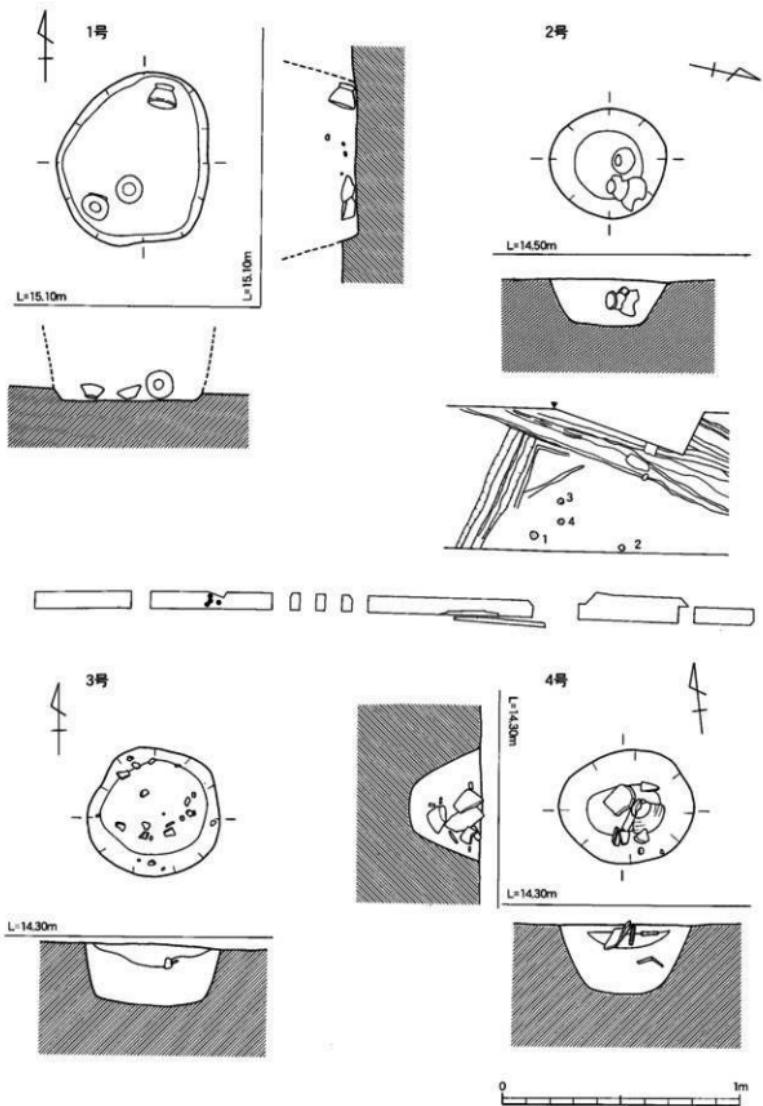
1号と3号土坑の中間の位置で検出された。平面形は梢円形を呈し、長径×短径は57cm×48cm。検出面からの深さは30cmである。瓦片が2個垂直に立った状態で出土したことから造構の存在が確認できた。土坑の断面形は半円形に近く底面は丸みをもつ。底面に近い位置で土師器も出土した。625は直立して出土した2点の瓦が接合したもので丸瓦である。広端幅が約20cm程度であり、右側面は面取りがあるが分割痕が残存している。凸面はナデ調整、凹面には布痕が観察される。626は平瓦であり、右側面に分割痕が残存する面取りがある。凹面には布痕が残る。627は口径及び底径も大きな壺であり体部は直線的に開く。若干焼けヒズミがあり、口径は約14cmで内外面ともヨコナデ調整を施している。

5号土坑

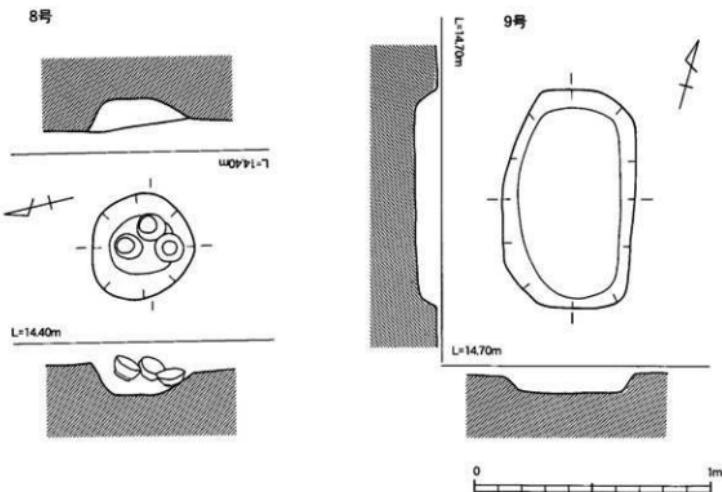
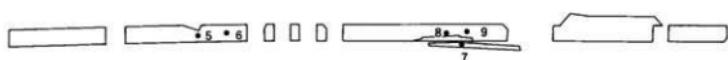
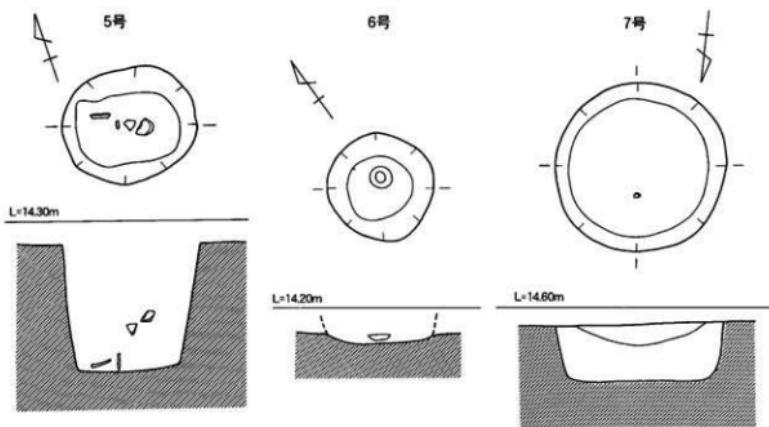
8区で検出された。平面形は梢円形を呈し、長径×短径は57cm×48cm。深さは55cmである。埋土はやや暗い色調の黄褐色土であり、分層はできなかった。628は復元口径13.8cm、底径9cm、器高4cmを測る壺であり、大きな底部から体部は直線的に開くもので底部は回転ヘラによる切離しの後ナデ調整を施している。629も底径の大きな壺である。

6号土坑

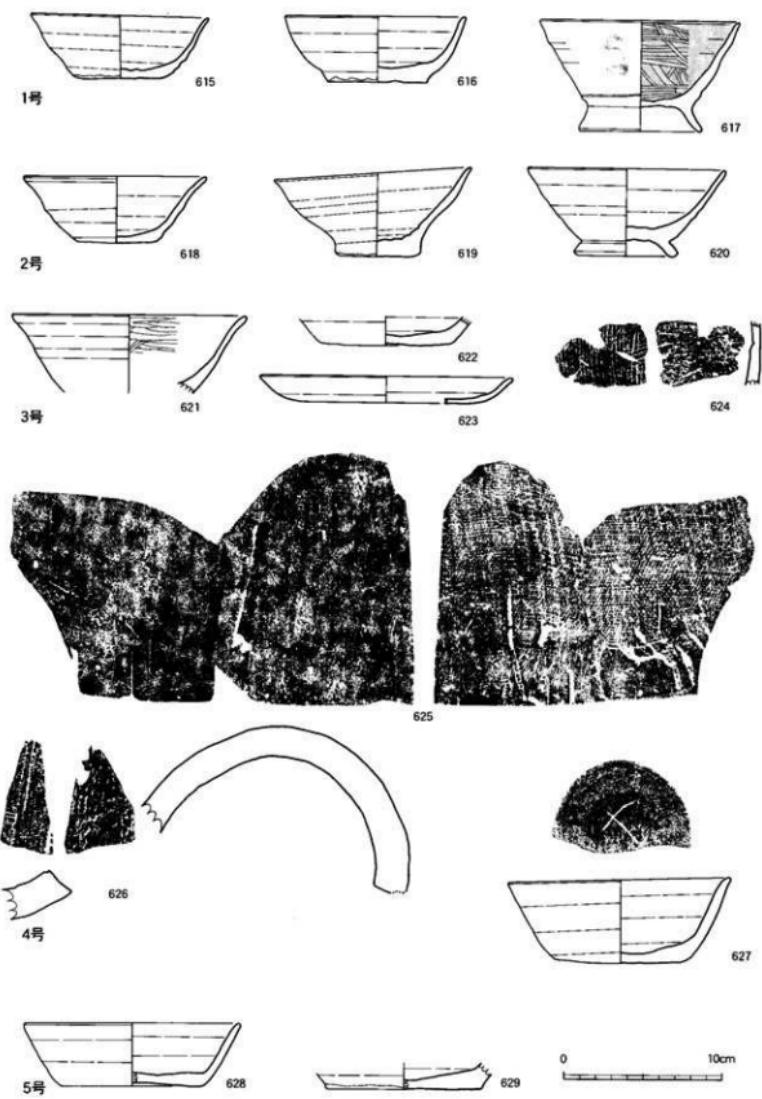
9区の円形周溝墓の東側に接した位置で検出された。平面形は径45cmのほぼ円形を呈し、検出面からの深さは約5cmである。埋土は暗黄褐色土であり中心部より完形の土師器が1点出土した。630は小型の壺であり、法量は口径約10cm、底径5.7cm、器高3.3cmを測り、体部は内湾気味に開くものである。底面の切離しは回転ヘラ切りであり、その後ナデ調整を施す。内外面はヨコナデ調整である。



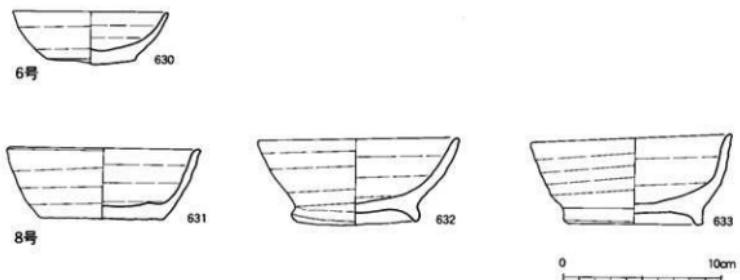
第65図 土坑平断面図 (1)



第66図 土坑平面図（2）



第67図 土坑出土土器 (1)



第68図 土坑出土土器 (2)

7号土坑

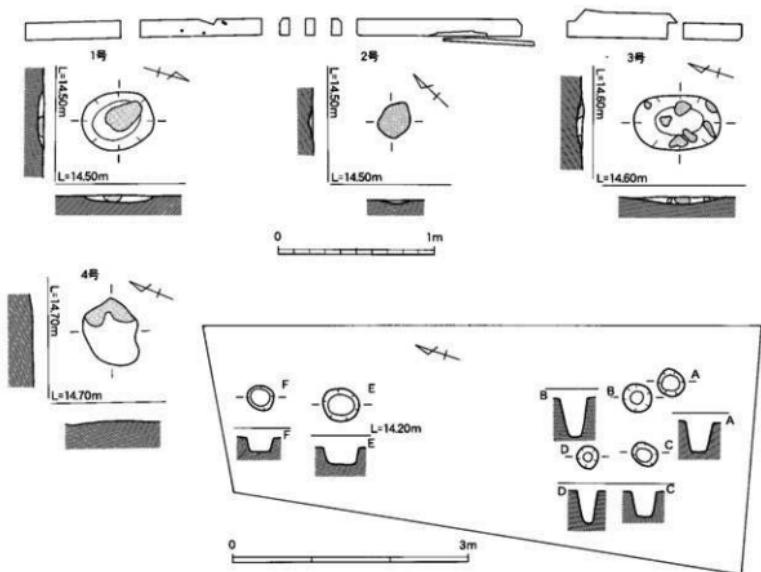
17区の溝状構造13に接した位置で検出された。平面形は円形を呈し、径72cmを測り、検出面からの深さは24cmである。埋土は上部のレンズ状に堆積した部分が暗黄褐色土であり軟質で粘性がなく、下位は暗褐色土でありわずかに粘質が認められる。1号～6号の埋土とは色調がわずかに異なり時期が違う可能性がある。底面は平坦であり壁面の立ち上がりは直に近い。土師器細片が1点出土している。

8号土坑

17区の溝状構造13に接した位置で検出された。平面形はほぼ円形に近く、径約45cm程度で検出面からの深さは約15cmである。これも1号や2号と同様に完形の土師器が3点出土したことから存在がわかった。埋土は暗褐色土であり軟質でザラザラした土であった。土坑の断面形は塊状で丸味をもつ底面である。第68図631～633が土坑から出土したものである。631は法量が口径12cm、底径7.8cm、器高4.3cmを測る壺である。体部は内湾気味に開き、底面は回転ヘラ切りの後極めて入念なナデ調整を施しており内外面はヨコナデである。632は輪高台をつけた塊であり、高台は低く高台端部は丸くナデ仕上げをする。体部は内湾しており、631の壺と器形的にはほぼ同一であり、631に高台をつけたようなものである。法量は口径12.8cm、器高5.5cm、高台径8.0cmを測る。633も同様の塊であり、法量は口径12.7cm、器高5.8cm、高台径8.8cmを測る。632と比較するとわずかに高台径が大きく、体部は内湾状に立ち上がるが体部下半で開いたものが直線状になる。高台は低く高台端部をナデ調整により丸く仕上げている。

9号土坑

17区と18区の境界近くで検出された。平面形は長楕円形を呈し、長径×短径は92cm×55cmで深さは約10cmであった。埋土は3号土坑と同様であり径5～10mmの多量の炭化物が全体にみられた。土坑の底面はほぼ平坦であり、壁面の立ち上がりは45度に開き、遺物は全く出土しなかった。



第69図 焼土跡及びピット

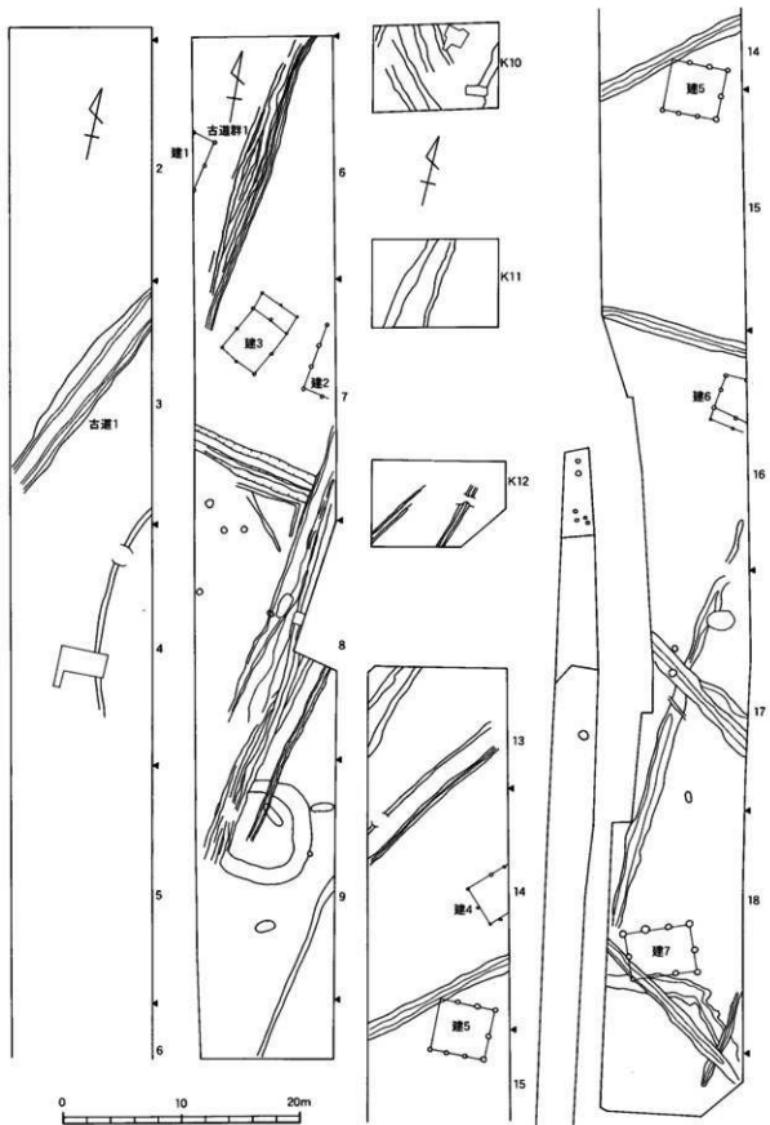
6. 焼土跡

7区から8区にかけて計7か所の焼土跡が検出された。いずれも赤褐色を呈し、火熱を受けたために生じたものと思われる。第69図のスクリントーン部が焼土を示す。1号は竪穴住居跡状遺構のほぼ中央で検出されたが、住居跡状遺構の床面より約15cmほど高いレベルで検出されたため別の所産によるものとして取り扱っている。2号は4号土坑の南側約1mの位置に近接して検出された。

3号と4号は溝状遺構4の東側に近接して検出された。いずれも性格や時期など明確ではない。ただし検出面はⅢa層をいくらか下げた状況で検出されていることより中世以後の時期の所産ではないと判断される。また3号及び4号が検出されている付近は、縄文時代晩期の遺物が多く出土している部分であり、縄文時代晩期の屋外炉の可能性も考えられるかもしれない。

7. ピット群

第2調査地点の道路付け換え区域の最も北側である16区で検出された。この付近では完形あるいはそれに近い土師器の壊などが多く出土（701・702・906）している。ピットは6個で、径25cm～45cmの大小のピットが検出された。掘立柱建物跡の存在が推定されるが、径や深さの異なるピットの存在から近接した複数の掘立柱建物跡の存在が予想されよう。



第70図 古代～中世の遺構分布図

第22表 遺構内出土遺物一覧表

埠番号	遺物番号	器種	出土区・層	口径	底径	高台径	脚高	胎土	調査		備考	測定番号
									外 面	内 面		
58	576	土師甕	14	4号					ナデ	ケズリ		
	577	須恵器 盆	16	H6P内		(15.0)			平行文タキ	ナデ		8761
	578	环	18	H7P3	(10.0)	(7.2)	3.0		ヨコナデ	ヨコナデ	1/5	8759
	579	环	18	H7P1	13.2	8.0	2.75		ヨコナデ	ヨコナデ	1/2	8766
	580	环	18	H7P2	(11.0)				輪ハコヅチ	ヨコナデ	1/10	
	581	环	18	H7P3		(8.2)			ヨコナデ	ヨコナデ		8765
	582	塊	18	H7P9					ヨコナデ			8763
	583	甕	18	H7P1					ハケメ	ヘラケズリ		1590
	584	皿	7	1号住居		(6.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部糸切り	1592
	585	环	7	1号住居		(8.2)			ヨコナデ	ヨコナデ	底縫糸切り	1584
59	586	环	7	1号住居		(7.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部糸切り	1582
	587	环	7	1号住居		(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部糸切り	1571
	588	須恵器 甕	7	1号住居	(42.0)				タタキの継ナデ	ナデ		2843
	589	环	9	円基	(10.8)	6.0	3.4		ヨコナデ	ヨコナデ		3298
	590	环	9	円基	(12.0)	(9.2)	4.6		ヨコナデ	ヨコナデ		2619
	591	环	9	円基	(10.0)	(6.9)	(2.95)		ヨコナデ	ヨコナデ		3291
	592	环	9	円基	(10.9)	5.2	3.4		ヨコナデ	ヨコナデ		2743
	593	环	9	円基		5.4			ヨコナデ	ヨコナデ		3062
	594	充実高台壇	9	円基		5.8			ヨコナデ	ヨコナデ		2632
	595	充実高台壇	9	円基		4.8			ヨコナデ	ヨコナデ		2616
62	596	充実高台壇	9	円基	(11.8)		5.4	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ		2680
	597	充実高台壇	9	円基		5.5			ヨコナデ	ヨコナデ		3051
	598	塊	9	円基		6.4			ヨコナデ	ヨコナデ		2709
	599	塊	9	円基		(7.0)			ヨコナデ	ヨコナデ		2673
	600	塊	9	円基		7.8			ヨコナデ	ヨコナデ		3118
	601	皿	9	円基	(6.6)	3.8	2.7		ヨコナデ	ヨコナデ		3290
	602	耳皿?	9	円基	(11.0)	6.2	3.1	3.1	ナデ	ナデ		2712
	603	鉢	9	円基	(20.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		4393
	604	須恵器 环	9	土坑墓1	(13.4)	(8.8)	3.4		ヨコナデ	ヨコナデ	1/4	1770
	605	环	9	土坑墓1		6.8			ヨコナデ	ヨコナデ		4865
64	606	鉢	9	土坑墓1	(10.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1769
	607	环	9	土坑墓1	14.5	10.0	8.0		ヨコナデ	ヨコナデ		4/5
	608	刀子	9	土坑墓1					ヨコナデ	ヨコナデ		
	609	銅製品	9	土坑墓1					ヨコナデ	ヨコナデ		4859
	610	环	9	土坑墓2		(8.8)			ヨコナデ	ヨコナデ		4857
	611	甕	9	土坑墓2					平行文タキ	同上(2)其類		1
	612	环	9	土坑墓3	(11.4)	5.2	5.4		ヨコナデ	ヨコナデ		3
	613	环	9	土坑墓3	(12.8)				ヨコナデ	ヨコナデ		4863
	614	蓋	9	土坑墓3					輪ハコヅチ	ナデ		1
	615	环	7	1号土坑	11.4	5.6	5.2		ヨコナデ	ヨコナデ		2
67	616	环	7	1号土坑	11.5	6.3	4.2		ヨコナデ	ヨコナデ		3
	617	内黒陶	7	1号土坑	12.5		7.4	7.2	ヨコナデ	ミガキ		10
	618	环	8	2号土坑	11.7	5.2	4.3		ヨコナデ	ヨコナデ		10
	619	充実高台壇	8	2号土坑	12.7		5.4	5.8	ヨコナデ	ヨコナデ		10
	620	塊	8	2号土坑	12.6		6.6	6.0	ヨコナデ	ヨコナデ		6
	621	内黒陶	8	3号土坑	(15.0)				輪ハコヅチ	ミガキ		23
	622	皿	8	3号土坑		8.4			ナデ	ヨコナデ		20
	623	皿	8	3号土坑	(16.0)	(13.6)	1.7		ヨコナデ	ヨコナデ		
	624	甕	8	3号土坑					ハケメ	ヘラケズリ		
	625	丸瓦	8	4号土坑					凸面ナデ	凹面布目痕		
68	626	平瓦	8	4号土坑					凹面布目	凸面布目痕		
	627	环	8	4号土坑	13.8	8.5	5.3		ヨコナデ	ヨコナデ	底面にヘラ記号	4
	628	环	8	5号土坑	(13.8)	9.0	4.0		ヨコナデ	ヨコナデ		3
	629	环	8	5号土坑		10.0						1
	630	环	9	6号土坑	9.9	5.7	3.3		ヨコナデ	ヨコナデ		2
	631	环	15	8号土坑	12.0	7.8	4.3		ヨコナデ	ヨコナデ		
	632	塊	15	8号土坑	12.8		8.0	5.5	ヨコナデ	ヨコナデ		
	633	塊	15	8号土坑	12.7		8.8	5.8	ヨコナデ	ヨコナデ		

第2節 出土遺物

遺物包含層であるⅢa層から出土したのは、平安時代のものが主体であるが、一部奈良時代のものや中世の時期のものも含まれる。これら出土遺物は第1調査地点及び第2調査地点のほぼ全域にわたって出土した。ただし、第3調査地点については遺物包含層が削平されていたため表土中や搅乱層に出土したのみである。

出土した遺物は土師器、須恵器、瓦などであり、図化したものについては第71・72図で出土分布を示した。比較的大きな破片を主に図化しており、その出土分布はほぼ全体に広がるもの、掘立柱建物跡やピット群が検出された場所付近にやや集中が認められる。

また平安時代の遺物は包含層のみでなく、中世の時期の溝状造構などの造構や、搅乱及び表層中からも出土しているが、Ⅲa層遺物包含層出土のものと、それ以外の出土と区別して掲載した。

さらに、出土した壺は、第1調査地点と第2調査地点とで形態差が認められたことにより、調査地点も考慮して示した。

1. 奈良時代の土師器

第2調査地点の東側、道路付け換え区域の南側で近接して出土している。

蓋

634は口径20.6cmを測る大型の蓋であり、天井部中央の摘みを欠損する。体部内外面とも丁寧なミガキが施されている。635の壺と近接して出土しておりセットと考えられる。

壺

635は口径18.8cm、器高5.2cmを測る。底面のやや内側に低い輪高台をつけ、高台径は13cmである。箱型の器形を呈し、体部内外面ともミガキが施される。636も同様の高台を付けたもので、高台径は12.6cmを測り、底面にはミガキが施されている。

2. 平安時代の土師器

土師器の器種には壺・塊・蓋・皿・甕類・鉢・鉢鉢があり、また若干の黒色土器と1点の内朱土器も認められた。

壺

出土した壺は口径、器高、底径などの法量と器形及び調整により大きく3類に分類できる。

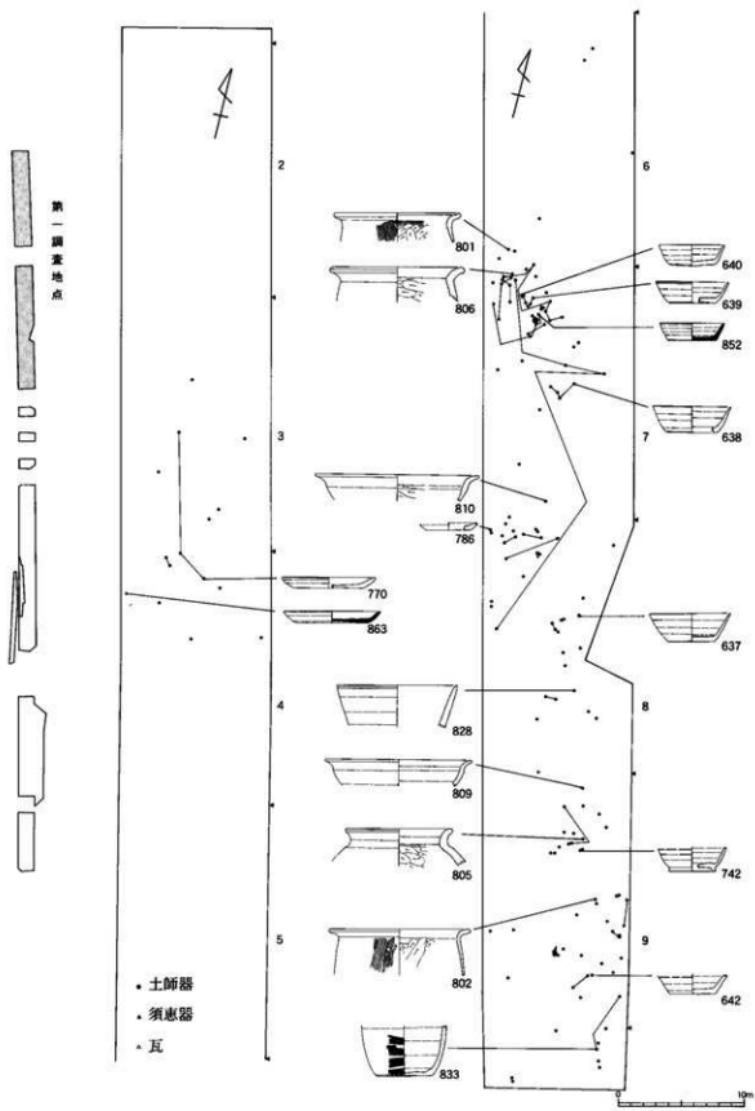
壺1類…… 口径・底径とともに比較的大きく、体部は直線状に開く。体部下半には回転ヘラケズリが認められるものがある。

壺2類…… 口径は1類よりわずかに小さいが、底径はかなり小さく約7.5cm程度となる。体部は直線状に大きく開く。

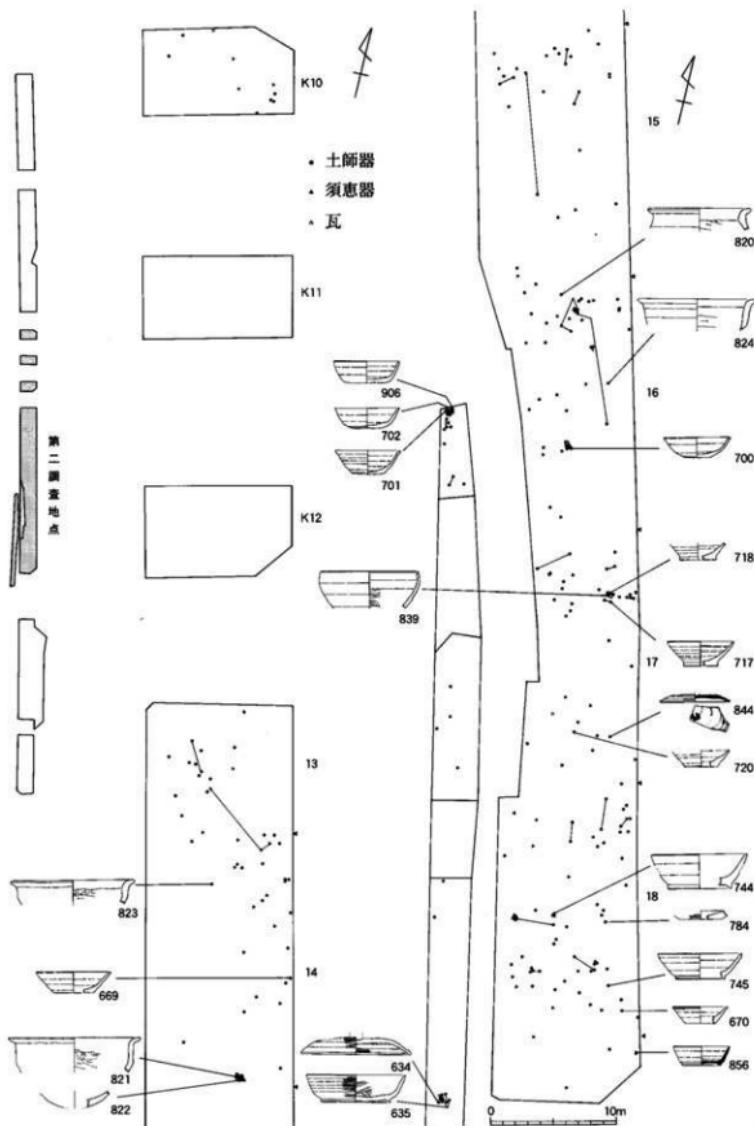
壺3類…… 口径・底径とも2類よりわずかに小さい。体部は内湾状に立ち上がり口縁は端部近くでわずかに外反する。

壺1類から3類までいずれも底部切り離しは回転ヘラ切りである。壺1類は第1調査地点の出土がほとんどであり、逆に壺2類及び3類は第2調査地点から大部分出土している。

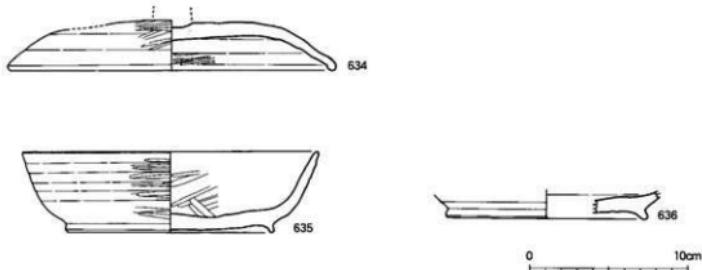
第74図は壺1類に区分できるものであり、口径・器高・底径が復元できるものは4点と少ない。口径・底径は比較的大きく、それぞれ口径が13.5~15cm、底径が約12cm、器高4~5cmを測る。形態的には箱型に近い形であり、体部は直線状に広く、なお第1調査地点で出土した底部小片も



第71図 平安時代の遺物出土分布（1）



第72図 平安時代の遺物出土分布（2）



第73図 奈良時代の遺物（壺・蓋）

復元して図化してある。体部下半の底部近くを回転ヘラケズリが施されたもの（640・645・659・661）も認められる。底部は回転ヘラ切り離しの後ナデ調整を施している。642・656の底面にはヘラ記号が施されている。なお、653はヘラミガキが施されており別類として区分したほうが良いかもしれない。

第75図は全て第2調査地点から出土したものである。口径・底径・器高の全てが復元できたものは669のみであるが、1類と比較して口径がわずかに小さく、底径はかなり小さいため壺2類とした。体部は直線的に開く点で壺3類とは異なる。671～679の口縁部及び681～699の底部片も図上復元して図化してあるが、小片のため口径及び底径は信頼性に欠けよう。底面の切離しはヘラ切りであり、調整はヨコナデである。

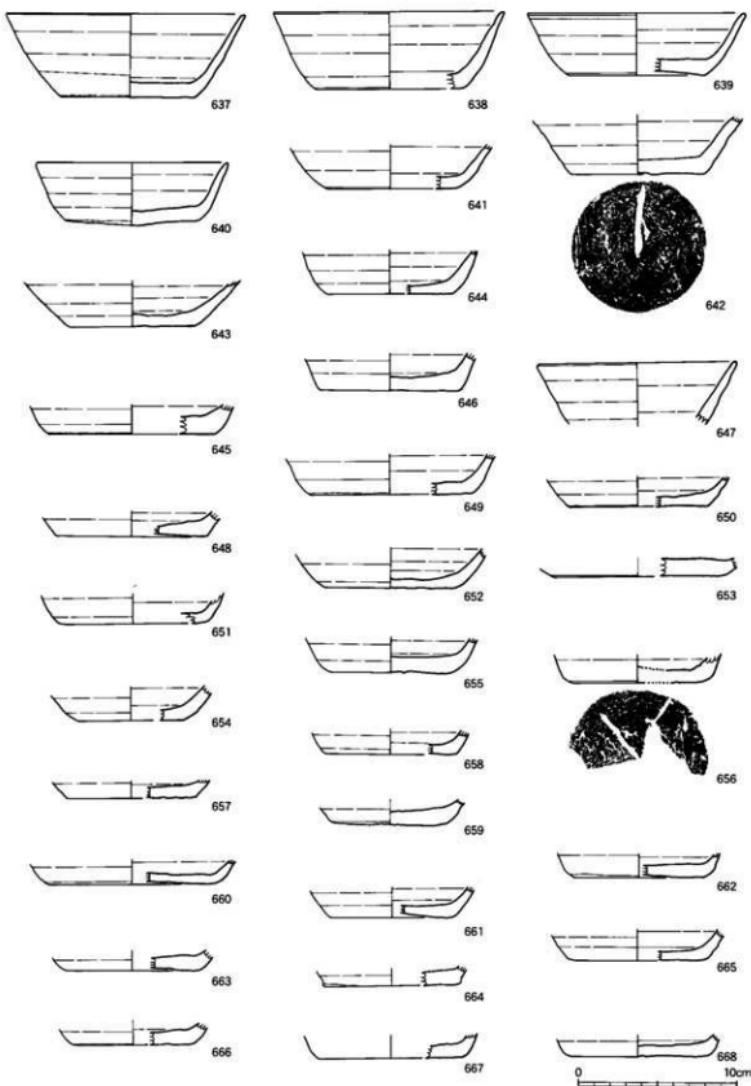
第76図700～702は壺3類である。口径は12cm～12.5cmと2類より小さく、また底径も5～6cmとかなり小さい。体部は内湾状に立ち上がり、口縁はわずかに外反する。体部と底部の境は丸みをもち、薄い円板を付けたような印象を受ける。703～716の底部もほぼ同様の器形と思われる。701・702・703・707・715のように底部内面をわずかに凹ましたものも認められる。ほとんど第2調査地点から出土している。

充実高台壺

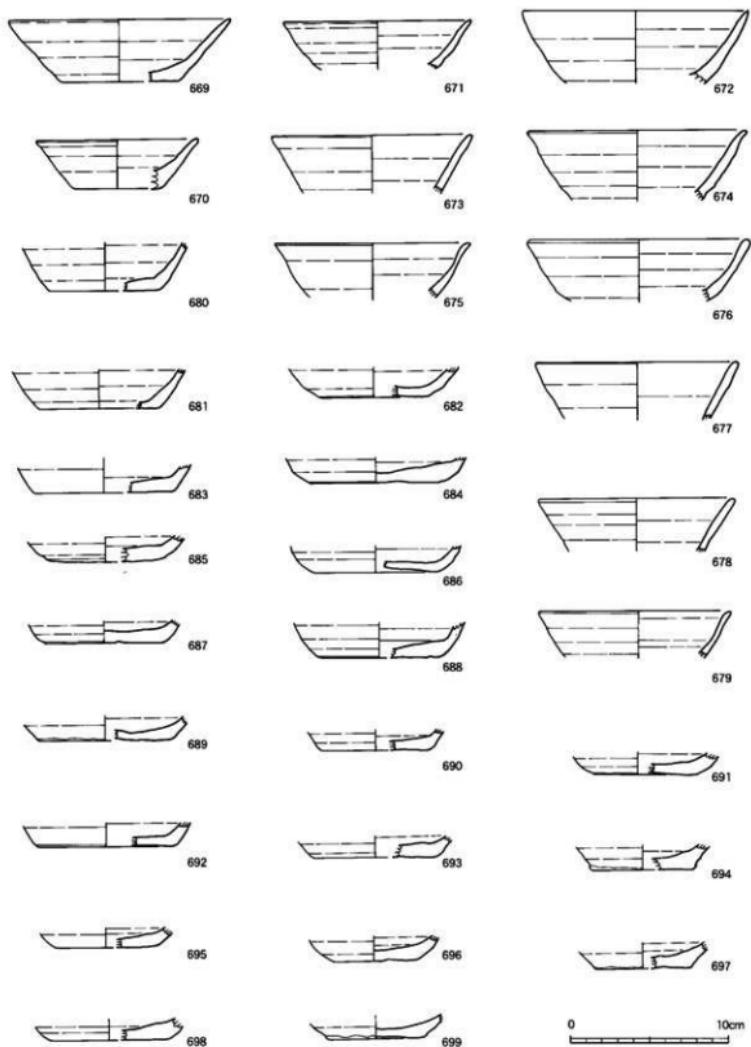
第76図717～738は底部が厚く、高台状に意識されたものと思われるものであり、円盤状高台あるいは円柱状高台とも呼ばれるものである。ここでは鹿児島県で伝統的に使用されている充実高台という名称を使用する。717は体部が直線的に開くが、口縁端部付近でわずかに内湾する。復元口径12.4cm、底径6.4cm、器高4.6cmを測る。底部切り離しは回転ヘラ切りであり、器面はヨコナデを施し体部と高台部を指ナデにより意識して分けている。723～726のように底部内面を凹ましたものが認められる。また底径は6cm程度のもののほか、5cm程度のもの（734～738）もある。充実高台のものは他の壺や塗と比較して底面のナデ調整は雑なものが多い。717及び738は内面にススが付着する。これらもほとんど第2調査地点の出土である。

塗

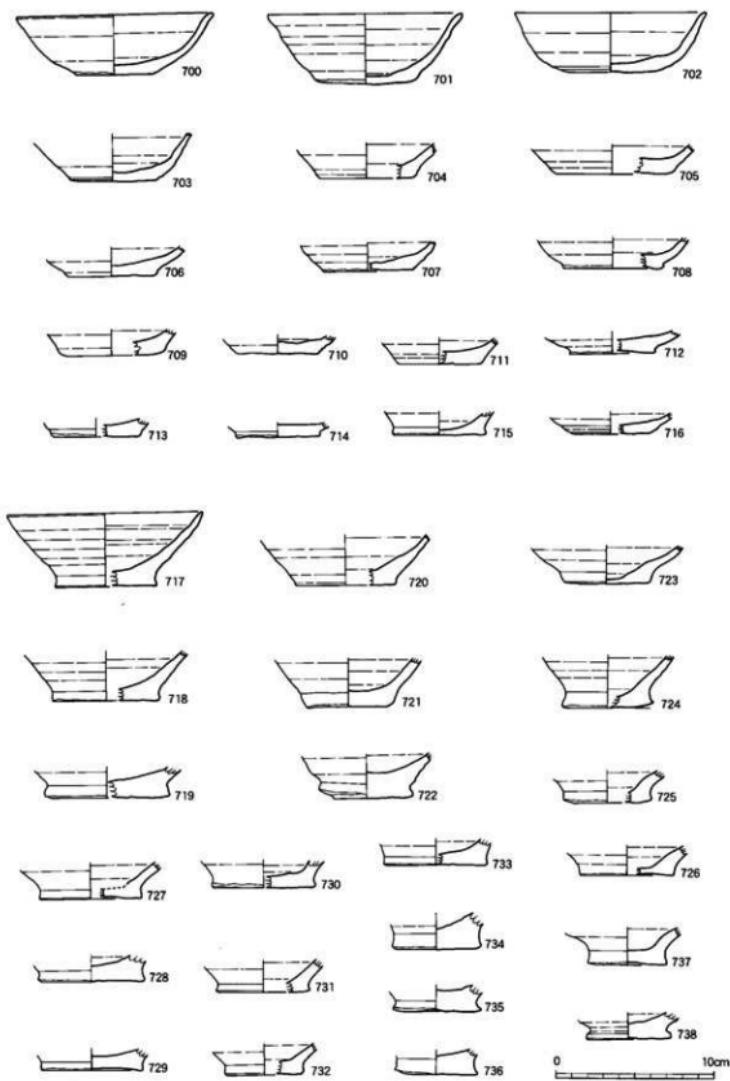
第77図は輪高台を付けた塗であり、第1調査地点出土のもの（740～743）と第2調査地点の16



第74図 平安時代の遺物（1）（环1）



第75図 平安時代の遺物（2）（坏2）



第76図 平安時代の遺物（3）（环3・充実高台椀）

区～19区出土のもの（744～768）を比較すると、壺と同様調査地点の違いにより高台の形態や高さなどが大きく異なる。

塊1類…… 739は断面四角形の低い高台を付けたものであり、底面は回転ヘラ切りの後ナデ調整が施されないまま高台を貼り付けている。高台径は8.5cmである。

塊2類…… 740～743は低い高台を付けるが、高台端部はわずかに丸みをもつ。底面の切り離しは回転ヘラケズリであり、その後ナデ調整が施されている。

塊3類…… 744～748の高台は断面三角形の短いもので、端部は丸く、接地面は少ない。体部は内湾気味に立ち上がる。

塊4類…… 749～768は「ハ」の字に広がる高台をもつもので、高台は比較的高く大きく広がるもの（765～768）などもある。いずれも底部片のみであるが、756や761から判断すると体部は内湾する。745の内外面と757の内面はヘラミガキが施されている。また768の内面は布痕が認められるほか、内外面にススが付着し灯明皿として使用されたと思われる。

皿

出土量は少なく、口径15cmを越える大型の皿と底径より判断される比較的小さな皿とが認められた。769は体部と口縁の境が丸みをもち、770～771は体部が直線的に開く。770は口径16.6cm、底径13.2cm、器高2cmを測り、底面はヘラケズリが施されている。772は口縁部がわずかに外反する。774・775は底部のみであるが比較的小型と思われる。772の内面にはススが付着しており灯明皿として使用されたものと思われる。

蓋

第78図776～783は蓋である。皿と同様に出土量は少なく小片である。776・777は口径約20cm程度の大型のものであり、回転ヘラケズリされた天井部から口縁部でわずかな段を有し、端部近くで屈曲する。端部は三角形を呈すもの（776）と平坦になるもの（777）の差がある。783は細片であるが、天井部はミガキを施している。778の内面にはススが付着する。

黒色土器

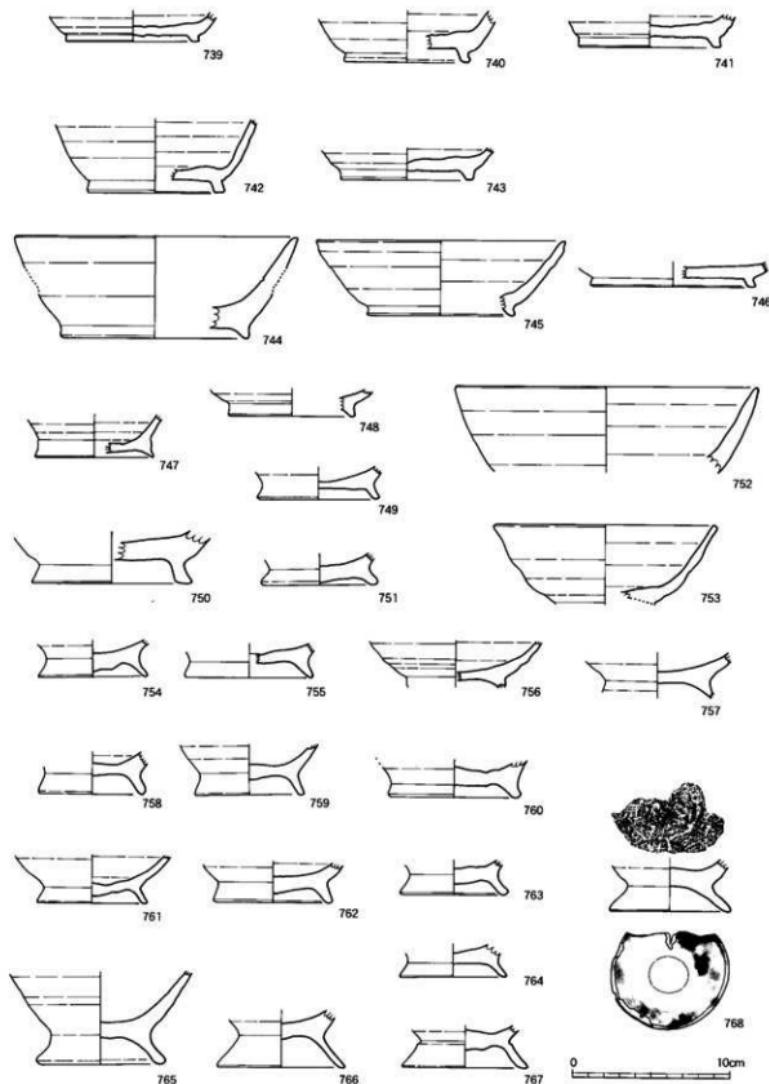
いわゆる内黒土師であり皿もしくは壺と塊が出土しているが、これも量的には少なく小片のみであった。第78図784～786は皿もしくは壺であり、他は塊である。784・785は底部及び体部の内外面をヘラミガキが施されている。塊の高台は短いもの（787）のほか、高く「ハの字」状に開くもの（791・793）がある。

内朱土器

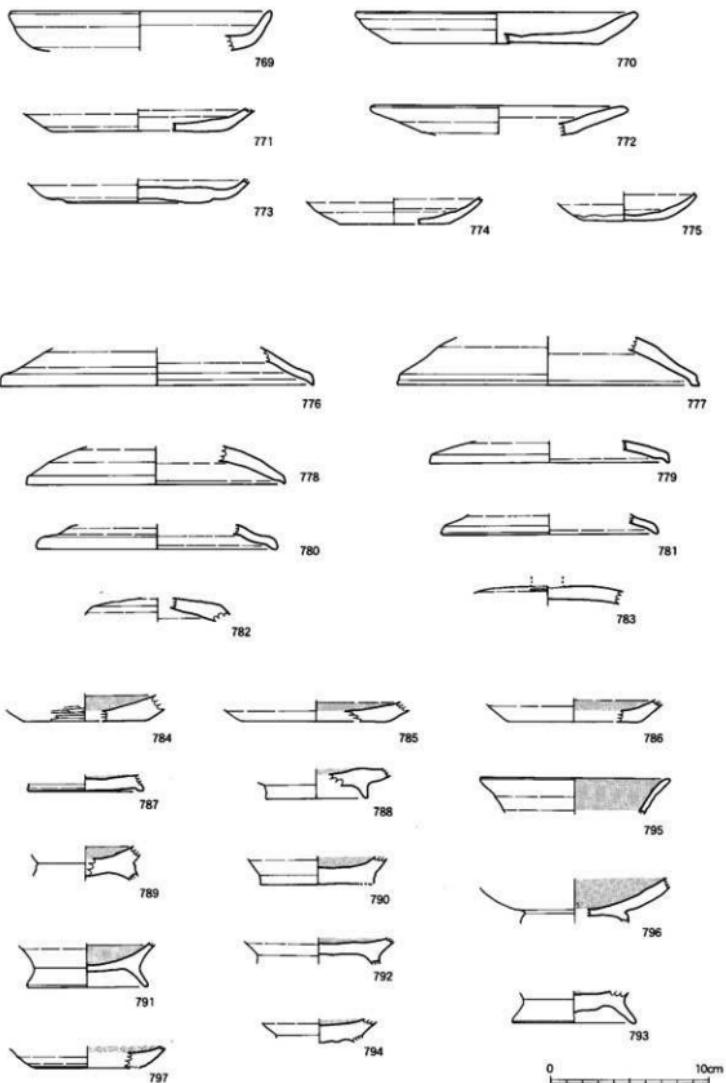
797は皿であり、ヨコナデされた内面に赤色顔料が施されている。体部は内湾気味に立ち上がるようである。包含層では唯一1点のみの出土であった。

甕類

いわゆる甕形を呈する甕の他に、全体の形は不明確ながら鍋形の器形を呈するものがあり、器面に多量のスス等が付着していることより、甕と同様の煮炊具と判断してここでは甕類として取り扱った。また土師器の壺や塊において、第1調査地点と第2調査地点の形態差が認められたことから各々調査地点ごとに図示した。第1調査地点が第79図、第2調査地点が第80図である。



第77図 平安時代の遺物（4）（塊）



第78図 平安時代の遺物（5）（皿・蓋・黒色土器）

甕類は以下の3類に区分できる。

1類 (第79図798~804, 第80図811~818)

口縁はなだらかに屈曲し、くの字状あるいはL字に近い口縁を呈し、長胴の胴部をもつと推定される。口縁部は内外面ともヨコナデが施され、胴部内面はヘラケズリ、外面はハケメが施される。801・803には頸部内面にもヘラケズリの前にハケメが施されている。口径は24cmを越す大型品と15cm程度の小型品がある。

2類 (第79図805~808, 第80図819~820)

全体的に器壁が厚く肥厚した口縁部で頸部での屈曲が強く、内面では頸部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内外面ともヨコナデ、胴部内面はヘラケズリが施されるのが多いが、807の内面にはミガキが施されている。胴部外面はナデ調整が施されている。1類と同様に大型と小型のものが認められる。

3類 (第79図809~810, 第80図821~827)

同一個体である821と822から判断して鍋形の器形を呈するもので、丸底の底部からなだらかな曲線を描いて口縁に到るもの (809・810) と、胴部上位の頸部付近でわずかに直口して口縁に到るもの (821~824) とが認められる。胴部内面はヘラケズリが施され、胴部外面及び口縁部内外面はナデ調整が施される。器面にはスヌが多く付着している。

第1調査地点と第2調査地点の甕類を比較すると、2類と3類の出土割合が逆転しており、第1調査地点で少なかった鍋形の3類が、第2調査地点で増加し、逆に2類は第1調査地点で多く第2調査地点で少なくなっている。

鉢

底径10cm~12cmの平坦な底部からほぼ直口気味に立ち上がるるもの (829・832) と、内湾気味に立ち上がるものの (833・835) とがみられ、口縁部はいずれも直線的に開き端部に到る。器面調整は縦方向のヘラケズリ (829) やミガキ (832) のほかハケメ調整 (833) を施したもののが認められる。底面は829がケズリで古い様相がみられるほか、ハケメ調整 (833) やナデ (832) などが施されている。内面はいずれもヨコナデが施されている。なお833の底面や外面にはスヌが付着しているほか、底面には十字形と思われるヘラ記号が認められる。837と832は赤褐色を呈し、他は黄白色を呈している。出土量は第1調査地点が多く、835・837の2点が第2調査地点出土であり、他は全て第1調査地点の出土である。

鉄鉢

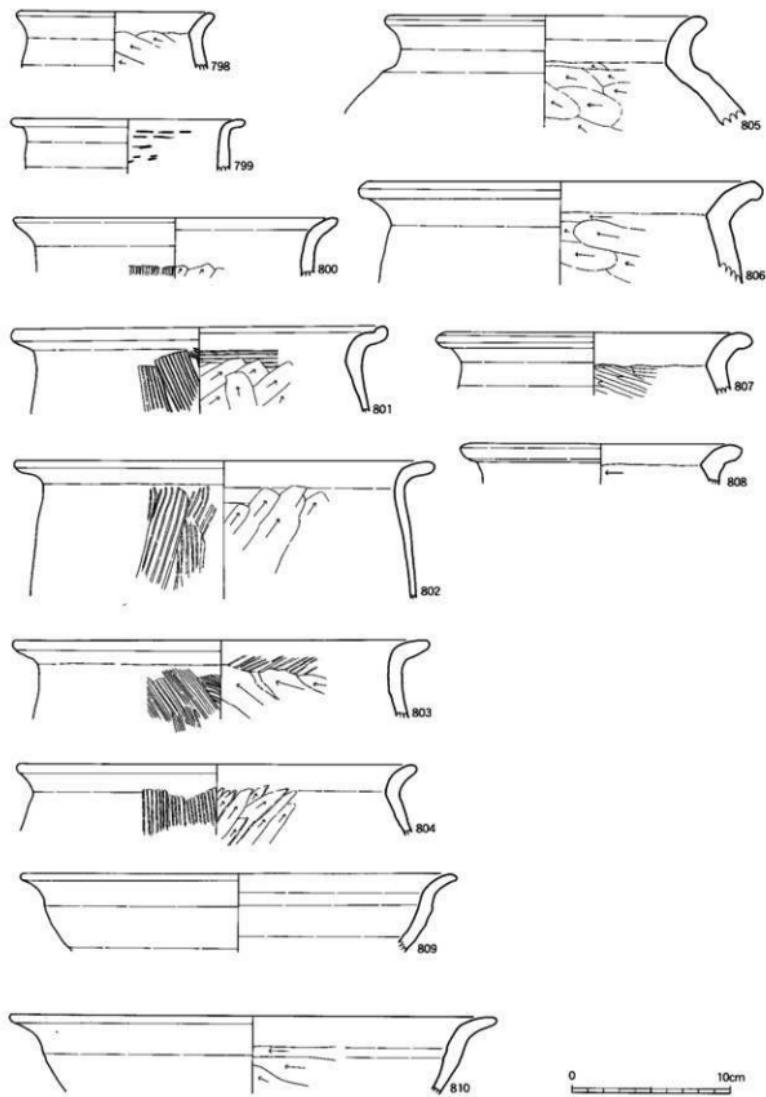
839はわずかな細片であるが、復元器形から鉄鉢と推定される。体部内面はミガキが施され、口縁部及び外面はヨコナデが施されている。精製した胎土が使用されている。840は細穢が多い粗い胎土が使用され、器面には細かいハケメ調整が施されている。

3. 須恵器

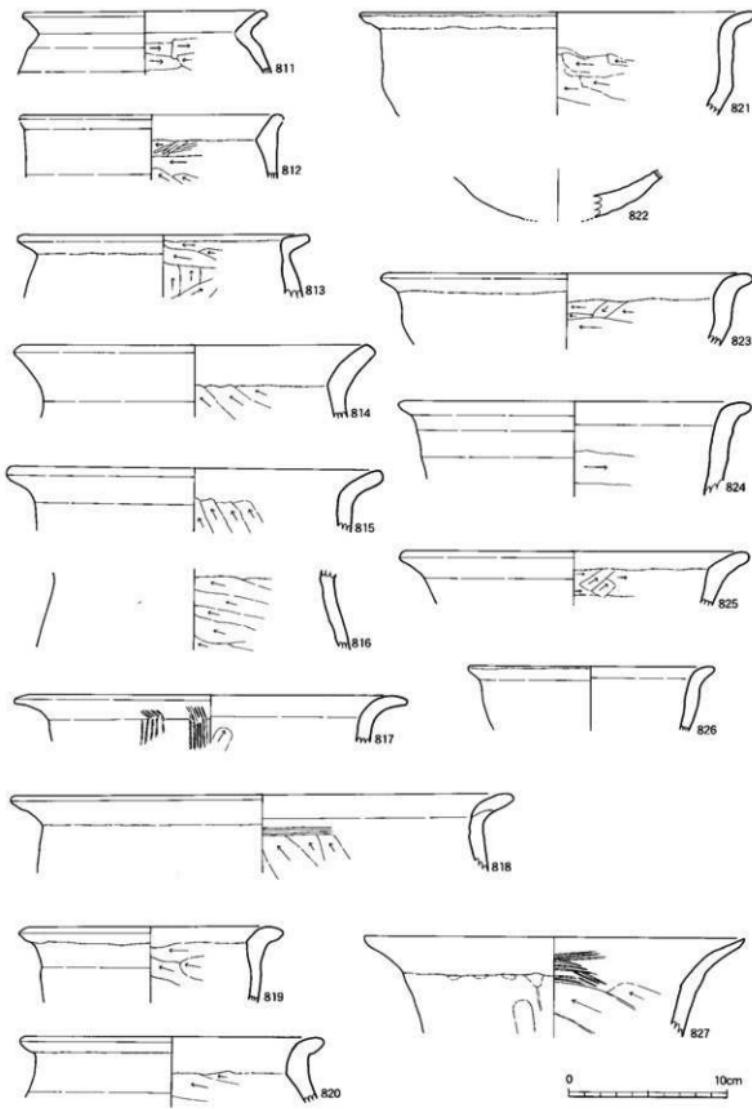
出土した須恵器は蓋・壺・皿・壺・甕などがみられ、平安時代を主としたものであるが、一部古い様相を呈すものも認められた。

蓋

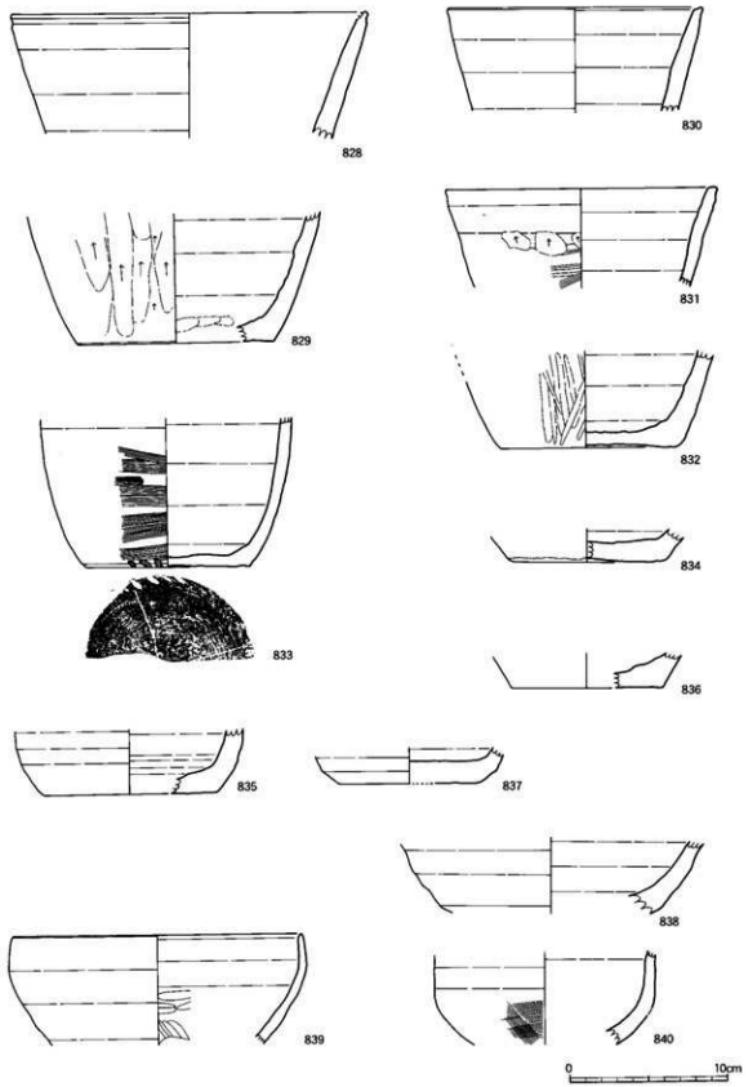
第82図841~851は蓋及びその一部である。841は他のものと異なり天井部から口縁部が屈曲



第79図 平安時代の遺物（6）（壺類1）



第80図 平安時代の遺物（7）（壺類2）



第81図 平安時代の遺物（8）（鉢）

して明瞭な稜があり器高が高く、坏蓋ではなく壺蓋の可能性が考えられるものである。天井部内面は磨かれた痕が認められ転用硯となっている。842～846と850は天井部からなだらかに口縁部にいたるもので端部は細くなるものと丸味をもつものがある。843及び844は天井部内面に墨が付着しており転用硯となっている。つまみには宝珠様のつまみや平坦なものも存在する。848のつまみは淡赤褐色を呈した生焼けである。いずれも小片が多いが、845のみ半分大の破片であり、口縁径13.3cm、器高2.4cmを測る。

坏

高台が付かないもの（852～855）と、付くもの（856～861）とがある。852は底部から口縁部が直線的に立ち上がるもので、底面はナデ調整を施している。8世紀末から9世紀初頭のものと思われる。853～855はわずかに丸味をもって口縁部が立ち上がる。852は口径12cm、底径9cm、器高3.3cmを測る。856は完形品であり、口径10.6cm、高台径7cm、器高3.3cmを測る。857は口縁部がわずかに外反する。底部の器壁が厚い859と860は口縁部が内湾気味に立ち上がるものであり、坏というより壺の器形に近い。

皿

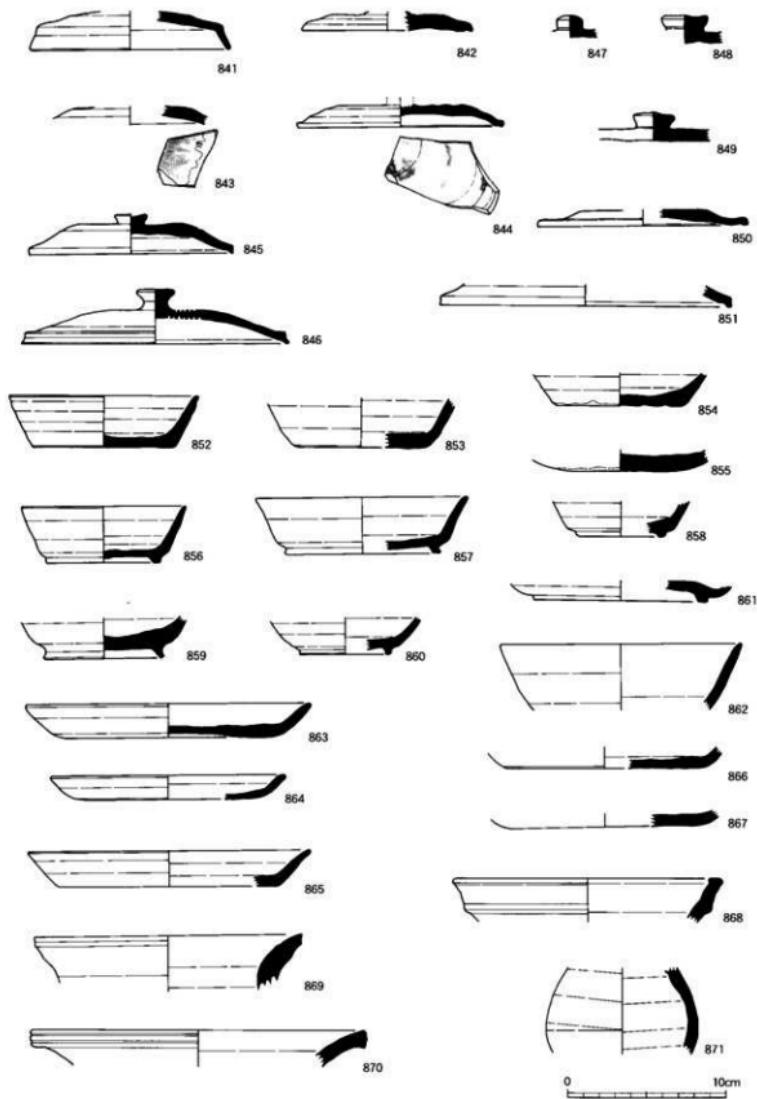
少量出土している。863は口径約18cm、器高2.2cmを測り、口縁部はわずかに外反する。調整はナデ調整であり、内部底面には磨られた痕跡が認められ転用硯の可能性も考えられる。864は底部と口縁の境が明瞭でなく丸味をもつ。865～867は黄白灰色を呈した生焼けのものあり、同一個体の可能性もある。口縁部はやや丸味をもって立ち上がり、口縁端部近くでわずかに外反する。復元口径は18cm、器高は2.3cmである。調整はナデを施している。

壺

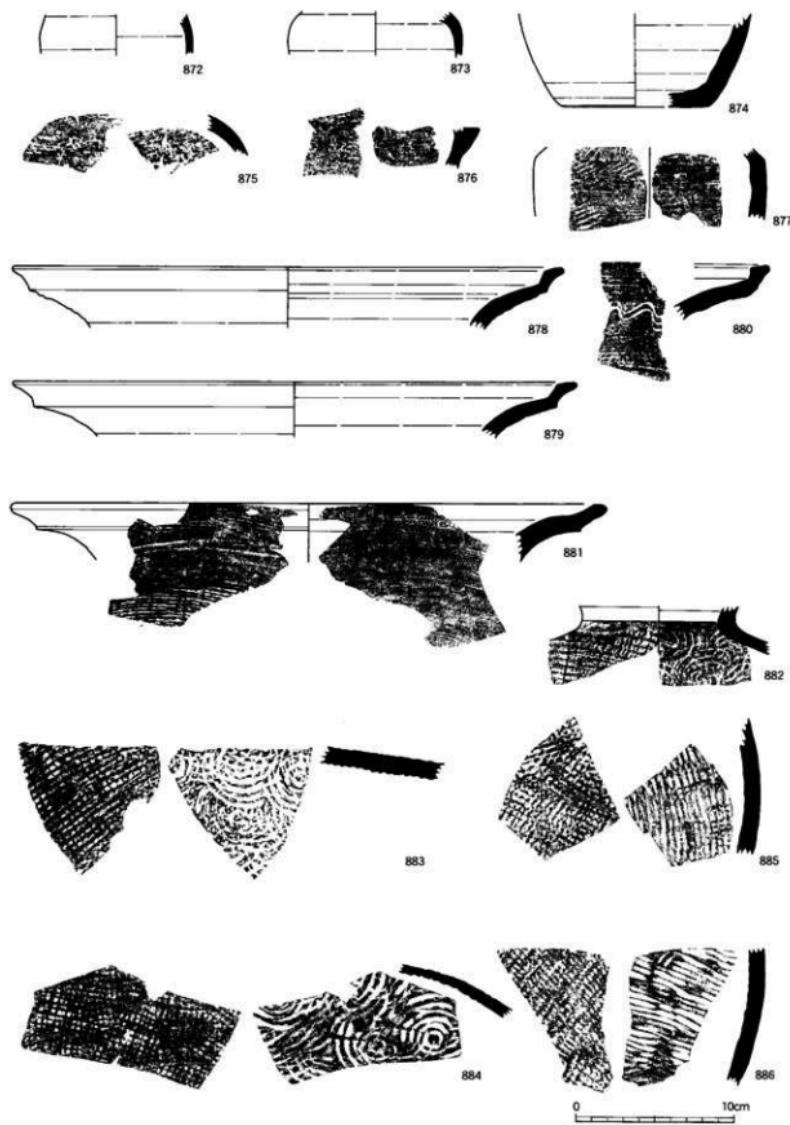
口縁部は大きく外反するもの（869・870）のほか、頸部で屈曲し垂直気味に口縁部に到るもの（868）がある。871～873は小片であるが小型壺の胴部で、内外面ともにヨコナデ調整を施している。874は底部近く、875～877は肩付近であり、877の器面には平行文タタキがありその後部分的にナデ消している。

甕

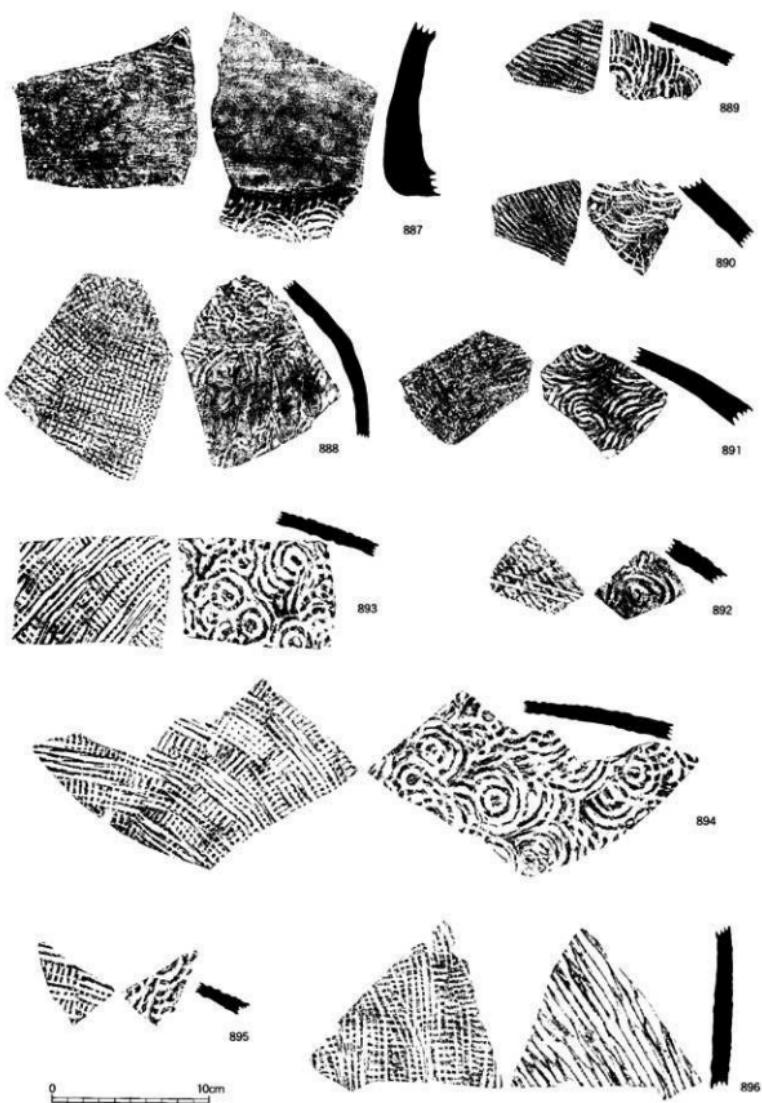
第83図878～881は復元口径30cmを越える大型甕の口縁部であるが、小片のため口径の信頼性は少ない。いずれも口縁部近くで屈曲するもので、880には屈曲部の直下に櫛描波状文が施されている。882は肩から頸部にかけてのものであり、外面に格子目タタキ、内面には同心円當て具痕が残る。883～886も器面に格子目タタキが施されたものであり、内面は肩部が同心円、胴部下半が平行文當て具痕が残る。887は大型甕の頸部であり、上位に櫛描波状文が認められる。888の内面には同心円當て具痕を指ナデした痕が明瞭に残る。889～895は器面に平行文タタキ痕、内面には同心円當て具痕が残る肩部であり、このうち893～895は同一個体の可能性がある。また896～899も同一個体と思われるもので内面には平行文當て具痕が残る。901～903の肩部も内面には同心円當て具痕が残るが、904は胴部下位であるが同心円當て具痕が施されている。902の内面は当て具痕を一部ナデ消し、903は器面全体のタタキ痕をナデ消している。902は黄褐色を呈した生焼けである。905は黄橙色を呈した生焼けのもので内面に当て具痕が、器面にはハメケ調整が施されている。小片であり判断しにくいが、横瓶の可能性が考えられる。



第82図 平安時代の遺物（9）（須恵器1）



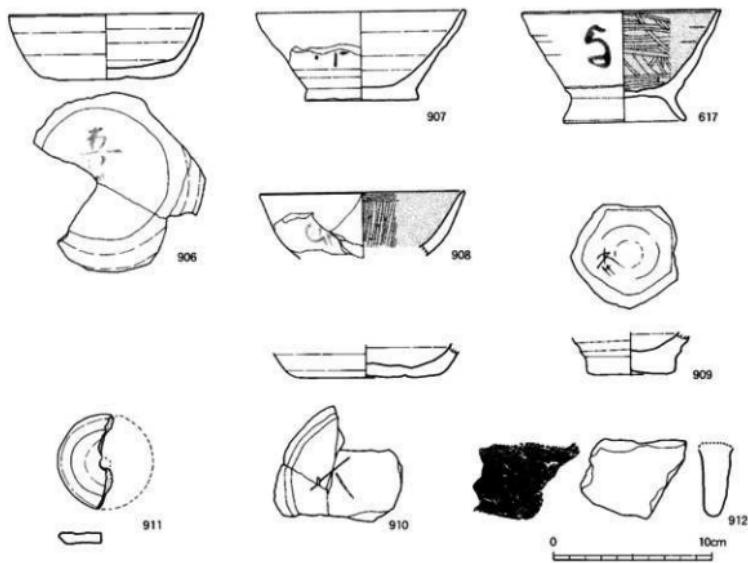
第83図 平安時代の遺物（10）（須恵器2）



第84図 平安時代の遺物 (11) (須恵器3)



第85図 平安時代の遺物 (12) (須恵器4)



第86図 平安時代の遺物 (13) (墨書・刻書土器ほか)

4. 墨書土器・刻書土器

計志加里遺跡からは4点の墨書土器と2点の刻書土器が出土している。

617は内黒土師器塊の体部にやや肉太の筆致で「与」の墨書を施す。4点出土している墨書土器のうち、唯一遺構に伴い出土した。906は復元口径12.4cm、器高4.1cm、底径8.4cmの壺である。体部にヨコナデを施し、ヘラ切り離しの底部に「吾」の文字を墨書している。907は復元口径13.6cm、器高5.8cm、底径7.2cmの充実高台を持つ壺である。直線的に立ち上がる体部に細めの筆致の墨書が認められるが、文字上部分が欠損しているため、判読不能である。908は復元口径12.7cmの内黒土師器塊である。体部にヨコナデが施され、内湾ぎみに立ち上がる体部とやや外反する口縁部を持つ。体部や下側に、口縁部を下にした倒位の状態の「物」の墨書が確認できる。909は底径5.5cmの充実高台壺である。見込み部分に鋭利な工具で刻書されているが、文字の判読は不能である。内面にはススが付着する。910は復元口径9cmの土師器壺である。底部ヘラ切り離し後、丁寧な調整が施され、底部に「人」あるいは「入」もしくは「T」(記号)の刻書を施す。909の刻書よりやや太めの工具による。

5. その他の製品

911は土師器塊の底部を再利用し、中央部を穿穴した紡錘車である。

912は移動式カマドの底部部分の可能性が考えられ、ススが付着する。

6. 瓦

第1調査地点及び第2調査地点のⅢa層遺物包含層から広い範囲にわたり多く出土した。また表土や擾乱層内出土は第3調査地点でも認められた。軒丸瓦・丸瓦・平瓦がみられたが大部分のものは完形品の大きさから比較すると小片であった。包含層から約290点出土した。

軒丸瓦

第87図913は唯一の軒丸瓦であるが、裏面など摩滅したもので残存程度が低い。連弁と珠文の一部が認められる部分は暗紫色を呈しており、彩色された可能性が高い。

丸瓦

914～919は丸瓦である。凸面には斜格子タタキ（914）や平行タタキ（915）のほか、ケズリ痕が認められるもの（916・919）、あるいはナデ調整が施されたもの（918）がある。内面には布目痕が残る。いずれも側面は分割痕が残存する。

917は剥落した玉縁部の接合面が残る玉縁式丸瓦と考えられる。凸面にはケズリ痕が認められ、凹面には剥落した部分にも布目痕が観察される。側面はヘラケズリにより丸く仕上げている。色調は黄白色（916・917）、赤褐色（919）があり他は青灰色である。

平瓦

第88図921～928は平瓦である。凹面には全て布目痕が残り、凸面は繩目タタキ（922・923・925・926・927・928）がほとんどであるが、一部をナデ消したもの（923）のほかタタキ痕が残らないほど入念にナデ調整を施したもの（921）もある。924は繩目タタキと斜格子タタキ両方が残る。920は片側の側面が残るものであるが、他辺を磨り再加工したものである。

7. 包含層以外の平安時代遺物

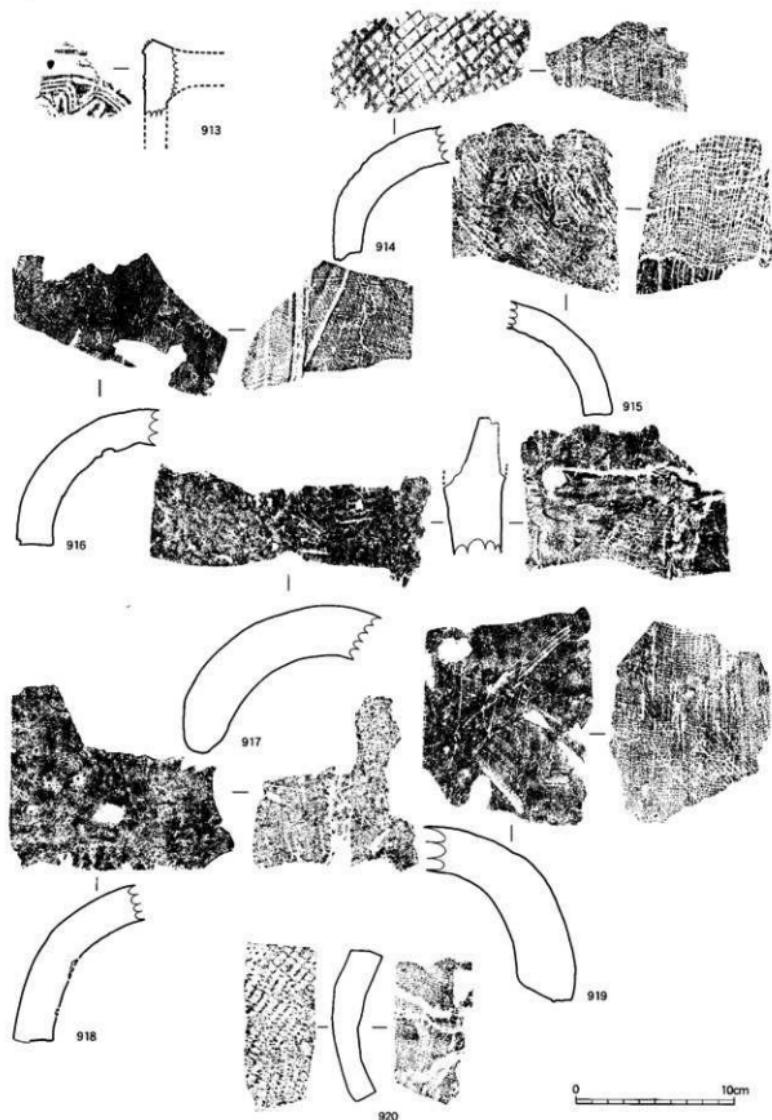
中世の青磁や白磁などが出土して明らかに中世の時期の所産と考えられる溝状遺構や古道跡から出土した平安時代の遺物を第89～91図で示した。

土師器

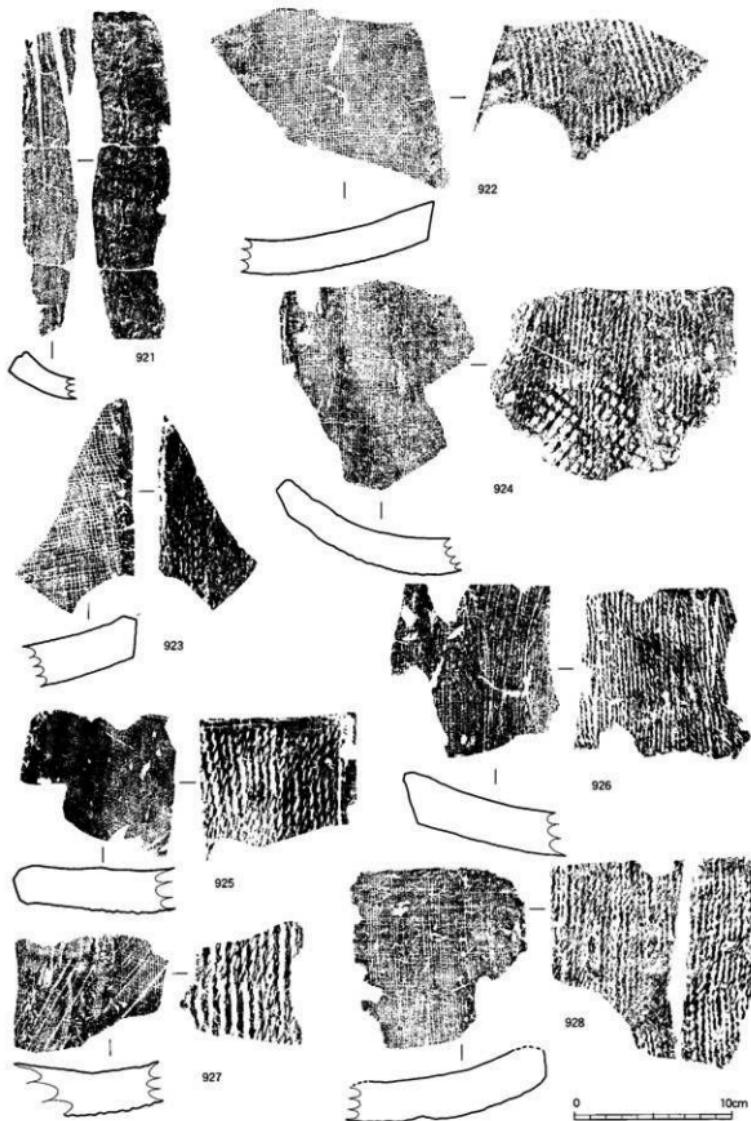
929は口径・底径ともに大きく体部は直線的に聞く坏1類であり体部下半は回転ヘラケズリが施される。930は底径が小さい坏2類である。932～934は円板状に厚くなった底部の充実高台壇であり、934は内面にススが付着し灯明皿として利用されている。

935～942は塊である。940は「ハ」の字状に聞く比較的高い高台が付き、体部は内湾気味に立ち上がり下半部で稜をつくる。口縁部上位はわずかに外反し、端部は丸く仕上げる。法量は口径13.2cm、器高6.3cm、高台径8cmを測る。

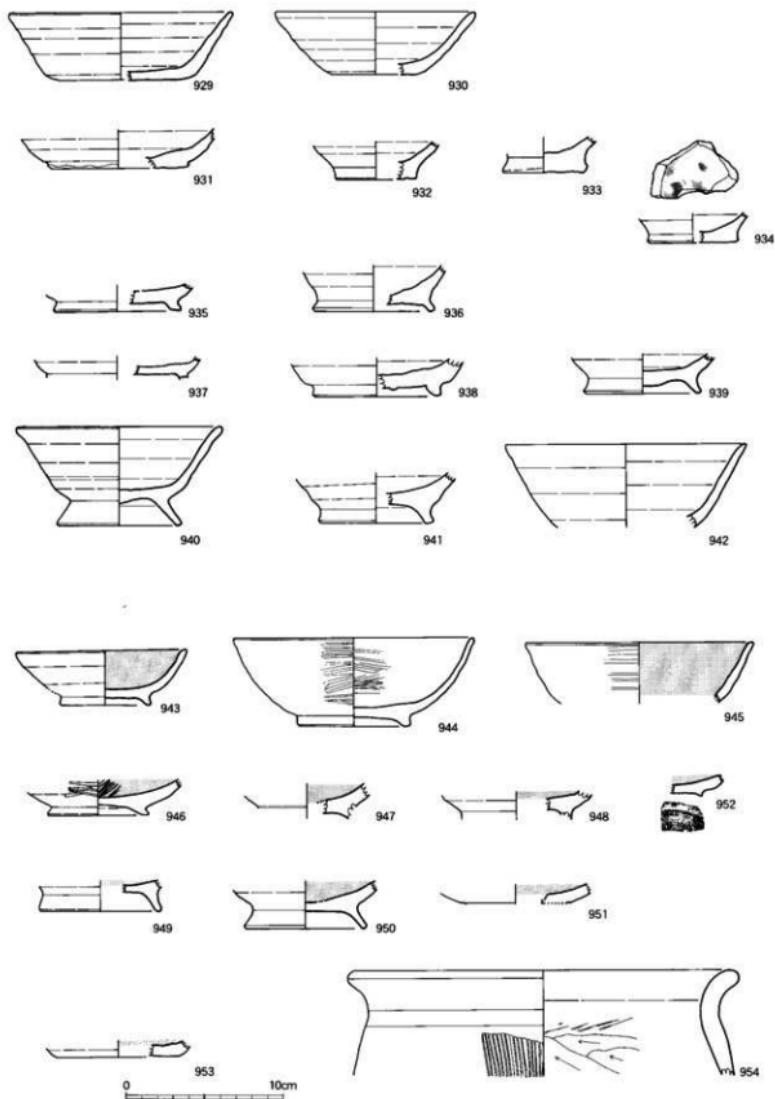
943～952は黒色土器である。このうち943～945は溝状遺構12の近接した位置から出土したものである。943の法量は口径10.8cm、器高3.6cm、高台径5.8cmを測り、高台は低く端部を丸く仕上げ、体部は内湾するものである。944は法量が口径15.4cm、器高5.7cm、高台径7.2cmを測り、高台は低く体部は丸く内湾するものである。内外面とも丁寧なヘラミガキが施されているが、焼し焼きは行われてなく、色調は内外面とも赤褐色を呈する。器形及び調整から黒色土器として製作されたものと判断される。945の復元口径は14.4cmを測り、946～952は底部である。このなかで952は極めて小さな低い高台が付き、他とは全く異なる印象を受ける。953は内朱土器の坏もしくは皿である。954は甕であり、胴部外面はハケメ、内面はヘラケズリが施されている。



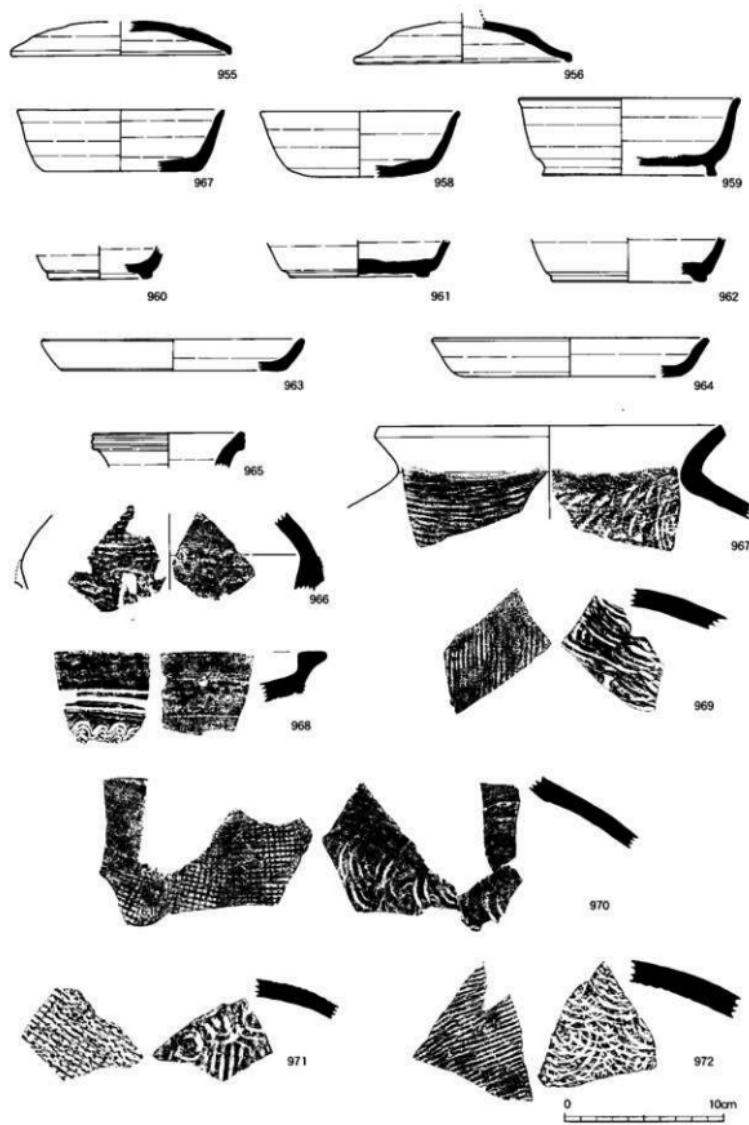
第87図 平安時代の遺物 (14) (瓦1)



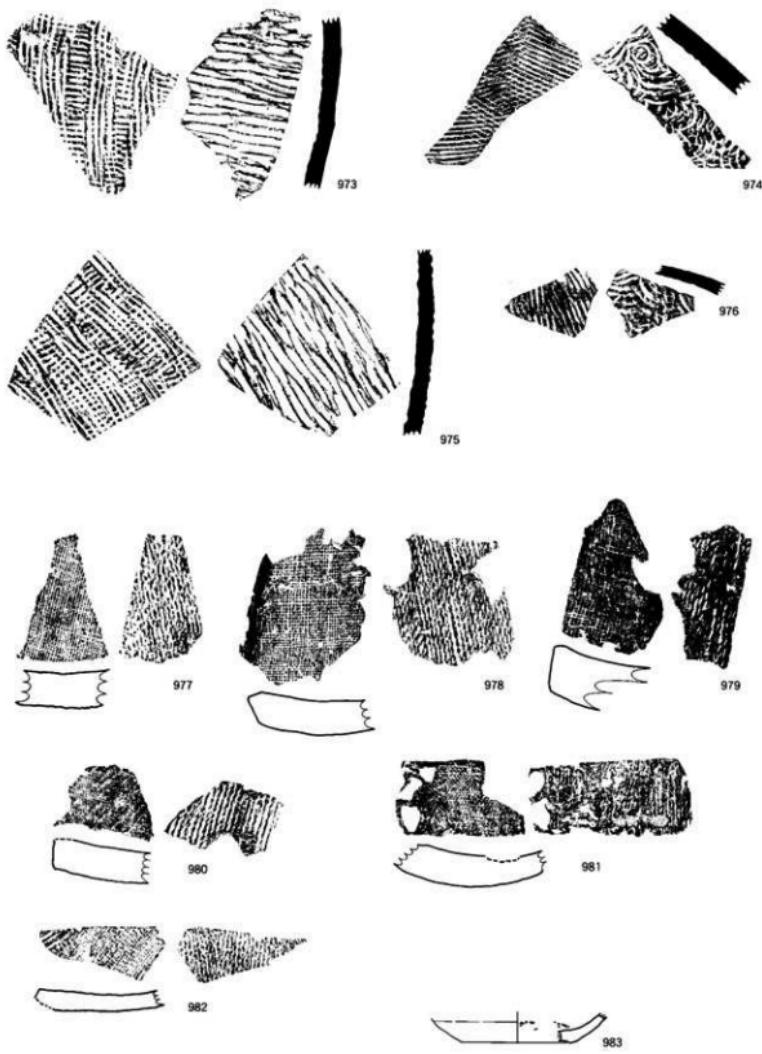
第88図 平安時代の遺物（15）（瓦2）



第89図 平安時代の遺物 (16) (包含層以外1)



第90図 平安時代の遺物（17）（包含層以外2）



第91図 平安時代の遺物（18）（包含層以外3）

須恵器

955・956は蓋であり、955の口径は14cmを測り天床部はナデ調整を施す。957・958の环は体部が内湾気味に立ち上がり端部近くでわずかに外反するもので、957は白灰色を呈した生焼けである。959～962は高台付きの环であり、959は体部が内湾気味に立ち上がり端部近くでわずかに外反する。

963・964の皿はいずれも白灰色を呈した生焼けである。965は壺の口縁部、966は肩付近である。967は黄白色を呈し焼成が良くない甕の口縁部であり、口縁は短く外反する。器面には平行文タタキと同心円当て具痕が残る。968は大きく屈曲する口縁部直下に櫛波波状文が施される。969～975は甕の胴部であり、器面には格子目タタキ(969～971)や平行文タタキ(972～976)が施され、内面には胴部上位に同心円当て具痕が、下半には平行文当て具痕が観察される。

瓦

977～981は平瓦の小破片であり、凹面にはいずれも繩目タタキ、凸面には布目痕が残る。981は端面と平行する他刃を磨り整形したもので凸凹両面と端面にススが付着している。982は凸面の繩目に硬く焼成され、厚さも須恵器と類似する薄さである。

越州窯青磁

983は小片ながら本遺跡で1点のみ出土した越州窯青磁である。体部は内湾気味に立ち上がる。小片のためか外面の下半は無釉であり、内面には淡緑褐色の釉がかかり細かい鉢入がみられる。見込みには目跡が観察される。

第23表 包含層出土遺物観察表(1)

所蔵 番号	遺物 番号	器種	出土区・層	口径	底径	高台径	基高	断面		備考	発見年	技記 番号
								外 面	内 面			
73	634	蓋	19	20.6				ハラミガキ	ハラミガキ		3390	
	635	环	19	18.5	13.0	5.2	5.2	ハラミガキ	ハラミガキ		3391	
	636	环	15			12.7		直面部+ガキ			8253	
74	637	环	8	(14.6)	8.6		5.2	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	2/3	3625
	638	环	7	(14.6)	(9.4)		4.9	ヨコナデ	ヨコナデ		1/2	1356
	639	环	7	13.8	(8.6)		3.95	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/2	1296
	640	环	7	(12.0)	8.4		4.0	回転ヘラ+ナデ	ヨコナデ			1295
	641	环	18		(8.8)			ヨコナデ+ヘラナデ	ヨコナデ		1/8	7681
	642	环	9	■下	8.4			ヨコナデ	ヨコナデ	直面部回転ヘラ切り		2580
	643	环	8	■	8.0			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/4	2923
	644	环	9	■	(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	直面ヘラ切り+ススキ		1667
	645	环						ナデ	ナデ	直面整形		
	646	环	7	■	8.8			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		1269
	647	环	9	■	(12.8)			ヨコナデ+ヘラナデ	ヨコナデ		1/8	4270
	648	环	8	■	(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	直面部回転ヘラ切り		3625
	649	环	18	■	(10.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラナデ		8473
	650	环	7	■	(8.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	直面部回転ヘラ切り	1/8	2144
	651	环	14	■	(9.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	6432
	652	环	15	■	8.6			ヨコナデ	ヨコナデ	直面整形		5216
	653	环	16	■	(10.6)			ハラミガキ	ハラミガキ		1/8	6286
	654	环	13	■	(8.8)			ヨコナデ+ヘラナデ	ナデ	直面+ガキ+内面+ススキ		5551
	655	环	8	■B	8.0			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		793
	656	环	15	■	8.7			ヨコナデ	ヨコナデ+上具模	回転ヘラ切り+ナラ型		5200
	657	环	18	■	(8.0)			ケズリ		直面整形	1/8	7767
	658	环	8	■	(8.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	3503
	659	环	13	■	7.4			回転ヘラ	ヨコナデ	直面整形		5545
	660	环	14	■	(10.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5818
	661	环	9	■	(7.8)			回転ヘラ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	4370
	662	环	8	■下	(8.2)			ヨコナデ	ヨコナデ	直面整形		3793
	663	环	8	■	(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		1/8 3584
	664	环	9	■B	(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	273
	665	环	13	■	(8.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5564
	666	环	8	■	(7.8)			ヨコナデ	ヨコナデ			3581
	667	环	14	■	(9.2)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5805
	668	环	19	■	9.0			ナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7176

第24表 包含層出土遺物觀察表(2)

辨別 番号	遺物 番号	器種	出土区・層	口径	底径	高台径	基高	周 長		備考	年代 推定	記述 番号	
								外面	内面				
75	669	坪	14	■	(7.6)		4.95	ヨコナデ	ヨコナデ		1/4	5854	
670	坪	18	■	(10.4)	(5.8)		3.1	ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	7878	
671	坪	16	■	(12.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	3968	
672	坪	15	■	(14.3)				ヨコナデ	ヨコナデ	内外面スズ付着	1/8	5198	
673	坪	17	■	(12.8)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	7581	
674	坪	8	I B	(14.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	内外面スズ付着	1/8	844	
675	坪	17	■	(12.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	外面スズ付着	1/8	6749	
676	坪	7	■	(14.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	1267	
677	坪	17	■	(12.9)				ヨコナデ	ヨコナデ	外面スズ付着	1/8	8236	
678	坪	17	■	(12.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	外面赤土施料?	1/8	7562	
679	坪	17	■	(12.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	6731	
680	坪	14	■	(7.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5697	
681	坪	13	■	(7.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5582	
682	坪	17	■	(7.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラリキス付着	1/8	8276	
683	坪	14	■	(8.8)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5964	
684	坪	15	■	8.1				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5258	
685	坪	14	■	(7.5)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5853	
686	坪	14	■	(7.8)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5715	
687	坪	13	■	7.6				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5487	
688	坪	16	■	(8.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	6563	
689	坪	13	■	(8.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	5498	
690	坪	17	■	(6.8)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7584	
691	坪	18	■	(7.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部彫形	1/8	7458	
692	坪	18	■	(8.5)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7343	
693	坪	18	■	(7.8)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7233	
694	坪	16	■	(6.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	3910	
695	坪	35T	■	(6.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	89	
696	坪	17	■	5.6				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	6667	
697	坪	7	■	(6.2)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7651	
698	坪	18	■	(7.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8	7321	
699	坪	16	■	6.0				ヨコナデ	ヨコナデ	スズ着・ヨコナデ	ヘラ記号	1/8	3209
76	700	66	16	■	(12.4)	4.8	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	2/3	6159	
701	坪	16	■	(12.4)	6.5	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	2/3	3471	
702	坪	16	■	(12.2)	6.0	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ			2/3	3907	
703	坪	16	■	5.6				ヨコナデ	ヨコナデ	外面スズ付着		6161	
704	坪	16	■	(6.0)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	6569	
705	坪	13	■	(7.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	5513	
706	坪	16	■	5.5				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	6523	
707	坪	17	■	(5.6)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	7579	
708	坪	18	■	(6.2)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	7694	
709	坪	16	■	(5.4)				ヨコナデ	ヨコナデ		1/8	3922	
710	坪	9	I B	5.0				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		522	
711	坪	17	■	(5.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6678	
712	坪	15	■	(5.2)				ヨコナデ	ヨコナデ	溝ヘラ・内凹付着		5366	
713	坪	18	■	(5.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7273	
714	坪	9	■	5.4				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		1701	
715	坪	17	■	6.0				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6815	
716	坪	17	■	(5.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6690	
717	充天高台陶	17	■	(12.4)	(6.4)	4.6	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	7887		
718	充天高台陶	17	■	6.8				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/4	8229	
719	充天高台陶	17	■	(8.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/4	7594	
720	充天高台陶	17	■	(6.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	溝ヘラ・切妻底付着	1/5	6827	
721	充天高台陶	16	■	5.2				ヨコナデ	ヨコナデ	底脚ハサク付着	1/3	6171	
722	充天高台陶	15	■	5.8				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	5430	
723	充天高台陶	16	■	5.4				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	3917	
724	充天高台陶	16	■	5.8				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/3	3918	
725	充天高台陶	16	■	(5.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	1/8		
726	充天高台陶	10	■	(6.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7028	
727	充天高台陶	17	■	(6.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6723	
728	充天高台陶	18	■	6.6				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		3643	
729	充天高台陶	16	■	6.5				ヨコナデ	ヨコナデナード	回転ヘラ切り		6342	
730	充天高台陶	18	■	(6.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7720	
731	充天高台陶	16	■	(5.9)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6626	
732	充天高台陶	18	■	(5.0)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7474	
733	充天高台陶	16	■	(6.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6331	
734	充天高台陶	18	■	5.6				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7220	
735	充天高台陶	16	■	5.7				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		6164	
736	充天高台陶	16	■	5.3				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7149	
737	充天高台陶	18	■	4.9				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7289	
738	充天高台陶	16	■	5.4				ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		7416	
77	739	壺	15	■	8.3			ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り		5257	
740	壺	9	■	(8.0)				ヨコナデ	ヨコナデ			1755	
741	壺	8	■	9.0				ヨコナデ	ヨコナデ			3496	
742	壺	9	■	(8.0)				ヨコナデ	ヨコナデ			1710	
743	壺	9	■	8.5				ヨコナデ	ヨコナデ			4204	
744	壺	18	■	(17.8)	(11.6)	6.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			7416	
745	壺	18	■	(15.6)	(9.9)	4.8	ヨコナデ	ヨコナデ	ミガキ			7910	

第25表 包含層出土遺物観察表 (3)

器種 番号	遺物 番号	器 種	出土区・層	口径	底径	高台径	諸高	量 量		図考	現存本 数	注記 番号	
								外 面	内 面				
77	746	焼	18 Ⅲ				(10.4)	ヨコナデ	ヨコナデ			7730	
	747	焼	16 Ⅲ				(7.6)	ヨコナデ	ヨコナデ			3960	
	748	焼	18 Ⅲ				(8.1)	ヨコナデ	ヨコナデ			8461	
	749	焼	17 表				7.8	ヨコナデ	ヨコナデ	外画ス付着			
	750	焼	17 Ⅲ				10.0	ヨコナデ	ヨコナデ			3977	
	751	焼	19 Ⅲ				7.5	ヨコナデ	ヨコナデ			3389	
	752	焼	18 Ⅲ	(19.1)				ヨコナデ	ヨコナデ			8741	
	753	焼	18 Ⅲ	(13.6)	(6.4)	5.1		ヨコナデ	ヨコナデ			7239	
	754	焼	17 Ⅲ				6.9	ヨコナデ	ヨコナデ	内画ス		6777	
	755	焼	18 Ⅲ				(8.1)	ヨコナデ	ミガキ			7313	
	756	焼	16 Ⅲ				(6.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	内外画ス付着		6345	
	757	焼	18 Ⅲ					ヨコナデ	ミガキ			7339	
	758	焼	16 Ⅲ				6.8	ヨコナデ	ヨコナデ			6294	
	759	焼	17 表				7.0	ヨコナデ	ヨコナデ				
	760	焼	17 Ⅲ				8.4	ヨコナデ	ミガキ	外画ス付着		7580	
	761	焼	18 Ⅲ				7.0	ヨコナデ	ヨコナデ			7225	
	762	焼	347 Ⅲ				7.6	ヨコナデ	ヨコナデ	内外画ス付着		6	
	763	焼	18 Ⅲ				6.9	ヨコナデ	ヨコナデ			7364	
	764	焼	18 Ⅲ				6.8	ヨコナデ	ヨコナデ			7454	
	765	焼	16 Ⅲ				8.0	ヨコナデ	ミガキ	内画ス付着		6348	
	766	焼	16 Ⅲ				8.0	ヨコナデ	ヨコナデ			6627	
	767	焼	17 Ⅲ				8.0	ヨコナデ	ヨコナデ			6791	
	768	焼	13 Ⅲ				7.6	ヨコナデ	西日本	内画ス付着(西日本)		5472	
78	769	9 土下	(16.4)					ヨコナデ	ミガキ	底面ミガキ	1/10	2813	
	770	3 Ⅲ	(16.6) (13.2)				2.8		ミガキ	底面ミガキ・ヨコナデ	1/4	169	
	771	15 Ⅲ		(10.8)				ヨコナデ	ヨコナデ	底部彫形	1/4	5375	
	772	14 Ⅲ	(16.4)					ヨコナデ	ヨコナデ	細部ハラカット	1/8	5665	
	773	7 Ⅲ		11.4					ミガキ	斜面ハラカット	1/4	1322	
	774	15 Ⅲ		(7.1)				ヨコナデ	ヨコナデ	斜面ハラカット	1/8	5233	
	775	16 Ⅲ		5.6				ヨコナデ	ヨコナデ	斜面ハラカット	1/3	3909	
	776	8 Ⅲ	(20.0)					ヨコナデ	ヨコナデ	斜面ハラカット	1/4	3531	
	777	14 Ⅲ	(19.2)					ヨコナデ	ヨコナデ	斜面ハラカット	1/4	6391	
	778	14 Ⅲ	(16.4)					ヨコナデ	ヨコナデ	斜面ハラカット	1/8	5862	
	779	18 Ⅲ	(15.2)					ヨコナデ	ヨコナデ		1/10	8561	
	780	17 Ⅲ	(15.3)					ヨコナデ	ヨコナデ		1/10	8412	
	781	17 Ⅲ	(13.8)					ヨコナデ	ヨコナデ		1/10	8441	
	782	15 Ⅲ						ヘラケズリ	ヘラケズリ	外画ス付着		5276	
	783	14 Ⅲ						ミガキ	ミガキ			6405	
	784	19 Ⅲ		(8.0)				ミガキ	ミガキ			7465	
	785	17 Ⅲ		(9.4)				ヘルミガキ	ヘルミガキ			7561	
	786	8 Ⅲ	(18.3)					ミガキ	ミガキ			4904	
	787	内画	7 Ⅲ				(7.6)		ヘルミガキ	ヘルミガキ			1344
	788	内画	7 Ⅲ				(6.6)	ヘルミガズリ	ヘルミガキ			1326	
	789	内画	14 Ⅲ					ヨコナデ	ヘルミガキ			5875	
	790	内画	18 Ⅲ				(7.2)	ヨコナデ	ヘルミガキ			7314	
	791	内画	17 Ⅲ				(7.7)	ヨコナデ	ヘルミガキ			7915	
	792	内画	16 Ⅲ					ヨコナデ	ヘルミガキ			6629	
	793	内画	17 Ⅲ				(7.8)	ヨコナデ	ヘルミガキ			3972	
	794	内画	17 Ⅲ					ヨコナデ	ヘルミガキ			6733	
	795	内画	8 Ⅲ		(12.0)			ヨコナデ	ヘルミガキ			3534	
	796	内画	7 Ⅲ					ミガキヘラカット	ヘルミガキ			1350	
	797	内画	16 Ⅲ				(7.8)	ケズリ	ミガキ			6169	
79	798	9 ⅠB	(12.6)					ヨコナデ	ケズリ			342	
	799	8 Ⅲ	(14.0)					ヨコナデ	ヨコナデ	ハケメタ・ケズリ		1066	
	800	8 ⅠB	(20.6)					ヨコナデ	ハケメ・ケズリ			755	
	801	6 Ⅲ	(24.0)					ヨコナデ	ハケメ・ケズリ			1099	
	802	9 Ⅲ	(26.0)					ハケメ	ハラカット			4365	
	803	8 1A	(26.0)					ハケメ	ハラカット			890	
	804	7 Ⅲ	(25.4)					ハケメ	ハラカット			2176	
	805	9 Ⅲ	(20.4)					ヨコナデ	ハケナダ・ケズリ			1712	
	806	7 Ⅲ	(25.6)					ヨコナデ	ハケナダ・ケズリ			1461	
	807	9 1B	(19.8)					ヨコナデ	ハラカット			253	
	808	10 Ⅲ	(17.8)					ヨコナデ	ハラカット			7034	
	809	9 Ⅲ下	(27.8)					ヨコナデ	ヨコナデ	ハラカット		4095	
	810	7 Ⅲ上	(31.0)					ヨコナデ	ヨコナデ	ハラカット		4723	
80	811	15 Ⅲ	(15.4)					ヨコナデ	ケズリ	ス付着		5288	
	812	15 Ⅲ	(12.6)					ヨコナデ	ケズリ	ス付着		5913	
	813	14 Ⅲ	(18.8)					ヨコナデ	ケズリ	ス付着		5797	
	814	17 Ⅲ	(23.0)					ヨコナデ	ケズリ	ス付着		8230	
	815	13 Ⅲ	(23.4)					ヨコナデ	ケズリ			5609	
	816	16 Ⅲ						ハケメ	ケズリ	外画ス付着		5412	
	817	18 Ⅲ	(25.0)					ハケメ	ヨコナデ	ス付着		8694	
	818	16 Ⅲ	(32.0)					ハケメ	ハケメ・ケズリ	内画接合板		6360	
	819	18 Ⅲ	(16.8)					ヨコナデ	ケズリ			7755	
	820	16 Ⅲ	(19.2)					ヨコナデ	ケズリ			6565	
	821	14 Ⅲ	(25.2)					ヨコナデ	ケズリ	外画ス付着		6013	
	822	14 Ⅲ						ナデ	ケズリ	ス付着		5933	

第26表 包含層出土遺物觀察表 (4)

辨証 番号	遺物 番号	器種	出土区・層	口径	底径	高台径	高	調査		備考	既存率	注記	
								外面	内面				
80	823	甕	14	三	(23.6)			ヨコナデ	ケズリ		5743	外輪	
	824	甕	16	三	(22.4)			ヨコナデ	ヨコナデ		6197		
	825	甕	14	三	(17.0)			ヨコナデ	ケズリ	スヌ村着	5928		
	826	甕	17	三	(15.0)			ナデ	ミガキ縁	スヌ付着	8231		
	827	甕	18	三	(19.0)			ナデ	ハケメ		7485		
	828	甕	8	三上	(22.6)			ヨコナデ	ナデ		3657		
	829	甕	7	三		12.4		ヘラケズリタナ	ヨコナデ	底部整形	1072		
81	830	甕	4	三	(16.2)			ヨコナデ	ヨコナデ	外輪ス村着	110		
	831	甕	7	三	(17.0)			ヨコナデ	ヨコナデ		2184		
	832	甕	7	三	11.0			ヘラミガキ	ヨコナデ	底盤整形	1268		
	833	甕	9	三	10.4			ハケメ(底)ハケメ	ナデ	スヌ付着	1802		
	834	甕	10	三	(10.2)			側輪ヘラミガキ	ナデ	底盤整形	7955		
	835	甕	18	三	(10.7)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部整形・外輪ス	7336		
	836	甕	10	三	(9.6)			側輪ヘラケズリ	ナデ	付着	7083		
	837	甕	15	三	9.0			ヘラケズリ	ナデ	底部整形	5205		
	838	甕	9	三				ヨコナデ	ヨコナデ	底盤整形	1697		
	839	鉢	17	三	(19.0)			ヨコナデヘラケズリ	ミガキ		8228		
82	840	鉢	8	2号土坑				ハケメ	ナデ	外輪赤色顔料	10		
	841	漆器	15	三	(12.8)			ナデ	ヨコナデ	外輪ス村着	1/4 3911		
	842	漆器	17	三	(11.0)			ナデ	ヨコナデ	瓶に転用	1/8 8410		
	843	漆器	17	三				ナデ	ヨコナデ		1/10 8279		
	844	漆器	17	三	(13.2)			ヨコナデ	ヨコナデ	瓶に転用・スミ付着	1/8 6780		
	845	漆器	19	三	13.0			2.5	ナデ	瓶に転用・スミ付着	1/2 7179		
	846	漆器	19	三	(16.9)			3.5	ヨコナデ	ヨコナデ	1/8 5587		
	847	漆器	18	三				1.4	ヨコナデ	ヨコナデ	7719		
	848	漆器	13	三				1.85	ヨコナデ	ヨコナデ	5616		
	849	漆器	14	三				ナデ	ナデ		5938		
83	850	漆器	14	三	(13.4)			ナデ	ナデ		1/8 5868		
	851	漆器	15	三	(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 5390		
	852	漆器	坪	三	(22.0)	9.0	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ		1/3 1274		
	853	漆器	坪	三	(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ		2818		
	854	漆器	坪	14		(7.6)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 5798		
	855	漆器	坪	14		8.0		ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	底盤ミガキ	1/8 5799		
	856	漆器	坪	19	10.6	7.2	3.3	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ヘラ切り	完 7179		
	857	漆器	坪	18	(13.5)	(10.0)	3.6	ヨコナデ	ヨコナデ		1/3 8576		
	858	漆器	坪	17	三	(8.7)		ナデ	ナデ	墨書き?	1/8 3973		
	859	漆器	塗	15		7.6		ヨコナデ	ナデ		5196		
84	860	漆器	塗	18		(5.8)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 4848		
	861	漆器	坪	16		(11.0)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 3954		
	862	漆器	塗	16		(15.2)		ナデ	ヨコナデ		1/8 6564		
	863	漆器	塗	4		17.9	12.6	2.15	ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	1/2 916		
	864	漆器	塗	8	三	(15.0)	(10.4)	1.5	ヨコナデ	ヨコナデ	転用窓か?	1/10 3535	
	865	漆器	塗	8	三	8.7	(14.0)	2.3	ヨコナデ	ヨコナデ		1/5 4925	
	866	漆器	四	8	三		(12.0)	ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 3568		
	867	漆器	塗	7	三		(13.4)	ヨコナデ	ヨコナデ		2304		
	868	漆器	塗	15		(17.2)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 5267		
	869	漆器	塗	18		(17.0)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 8360		
85	870	漆器	塗	17		(21.2)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 3970		
	871	漆器	塗	14	三			ヨコナデ	ヨコナデ		5833		
	872	漆器	塗	14	三			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 5815		
	873	漆器	塗	15	三			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 5924		
	874	漆器	塗	9	三		(9.2)	ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 420		
	875	漆器	塗	18	三			ヨコナデ	ヨコナデ		7700		
	876	漆器	塗	18	三			ヨコナデ	ヨコナデ		7696		
86	877	漆器	塗	17	三			タキナ漆ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 6768		
	878	漆器	塗	16	三	(35.2)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 6282		
	879	漆器	塗	34T	三	(36.0)		ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 11		
	880	漆器	塗	18	三			ヨコナデ	ヨコナデ		1/8 7779		
	881	漆器	塗	18	三	(48.0)		タキナ漆ヨコナデ	ヨコナデ	櫛掛け放文	1/8 7330		
	882	漆器	塗	16	三			ヨコナデタキナ	ヨコナデタキナ		5293		
	883	漆器	塗	23	三			ヨコナデタキナ	ヨコナデタキナ		7265		
	884	漆器	塗	16	三			ヨコナデタキナ	ヨコナデタキナ		6761		
	885	漆器	塗	17	三			ヨコナデタキナ	ヨコナデタキナ		5710		
	886	漆器	塗	14	三			ヨコナデタキナ	ヨコナデタキナ		7156		
84	887	漆器	塗	16	三			ヨコナデ	ヨコナデ		6121		
	888	漆器	塗	8	三			ヨコナデタキナ	ヨコナデタキナ		3623		
	889	漆器	塗	16	三			平行タキナ	平行タキナ		6184		
	890	漆器	塗	18	三			平行タキナ	平行タキナ		7788		
	891	漆器	塗	15	三			平行タキナ	平行タキナ		5299		
	892	漆器	塗	15	三			ヨコナデタキナ	ヨコナデタキナ		5274		
	893	漆器	塗	16	三			平行タキナ	平行タキナ		6483		
	894	漆器	塗	16	三			平行タキナ	平行タキナ		7155		
	895	漆器	塗	34T	三			平行タキナ	平行タキナ		4		
85	896	漆器	塗	17	三			平行タキナ	平行タキナ		平行文当て具板		
	897	漆器	塗	16	三			平行タキナ	平行タキナ		6483		
	898	漆器	塗	16	三			平行タキナ	平行タキナ		6483		
	899	漆器	塗	16	三			平行タキナ	平行タキナ		6147		

第27表 包含層及び包含層以外の遺物観察表

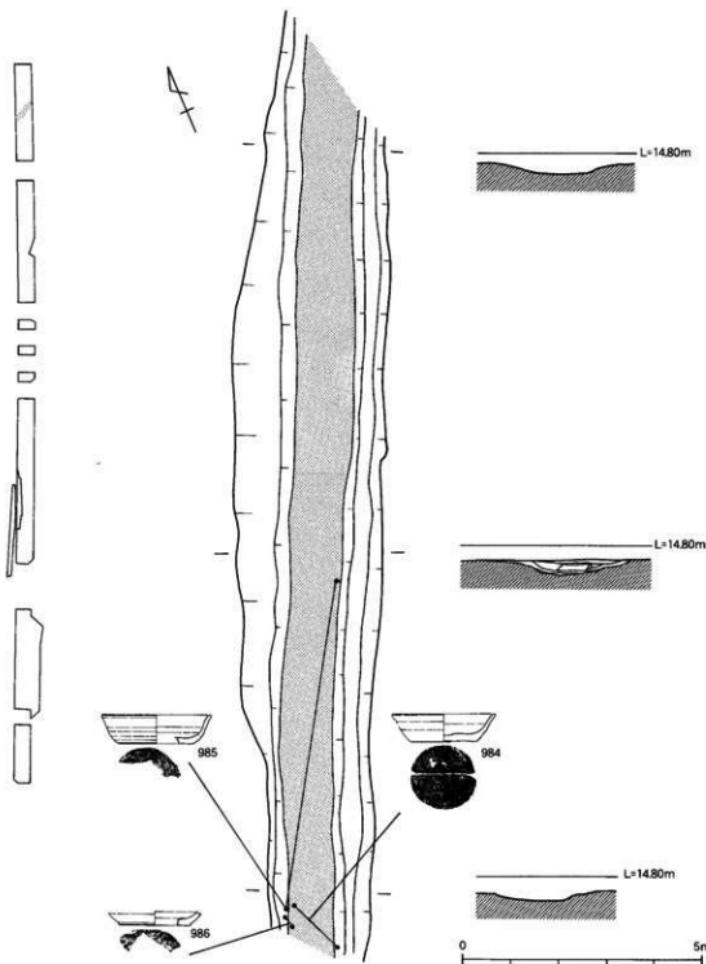
地図 番号	遺物 番号	器種	出土区・層	口径	底径	高台径	器高	測量		備考	現存番号	注記 番号	
								外 壁	内 壁				
85	900	須恵器 瓢	16	■				格子目タキ	平行文当て具板			6542	
	901	須恵器 瓢	9	■				平行タタキ	同心円当て具板			4432	
	902	須恵器 瓢	16	■				平行タタキ	同心円当て具板			6289	
	903	須恵器 瓢	18	■				ナデ	同心円当て具板			7267	
	904	須恵器 瓢	9	■				格子目タタキ+ナデ	同心円当て具板			4333	
	905	須恵器 瓢	19	■				ハタメ	あて具			3394	
86	906	坪	16	■	12.4	8.4	4.1	ヨコナヂ+ケズリ	ヨコナヂ	弧面垂直上器		3907	
	907	坪	16	■	13.6	7.2	5.8	ヨコナヂ	ヨコナヂ	底部整形+垂直土器		3907	
	908	■	1B		(12.7)			ヨコナヂ	ミガキ	垂直土器		391	
	909	■	15	■				ヨコナヂ	ヨコナヂ	内面垂直土器+スヌ		5410	
	910	坪	15	■			(9.2)	ヨコナヂ	ミガキ	付着		5921	
	911	筋縫車	17	■				ナデ	ナデ	底面垂直土器+スヌ		8426	
	912	カマドの一部	16	SD3				ナデ	ナデ	付着		7235	
	929	坪	18	古道15	14.4	10.4	4.3	ヨコナヂ+ハタケズリ	ヨコナヂ	★を転用	1/3	8154	
	930	坪	23	表模		(5.2)	4.0	ヨコナヂ	ヨコナヂ	スヌ付着			
89	931	坪	23	表模		(9.0)		ケズリ+ヨコナヂ	ヨコナヂ+ミガキ				
	932	火炎高台焼	18	溝14		(5.0)		ヨコナヂ	ヨコナヂ			8072	
	933	火炎高台焼	17	溝13			5.2	ヨコナヂ	ヨコナヂ			7663	
	934	火炎高台焼	17	溝13			(5.8)	ヨコナヂ	ヨコナヂ	内面スヌ付着		6907	
	935	塗	8	1B			8.1	ヨコナヂ	ヨコナヂ			685	
	936	塗	17	溝13			(7.8)	ヨコナヂ	ヨコナヂ			6861	
	937	塗	9	1B				ヨコナヂ	ヨコナヂ			364	
	938	塗	3	■			8.2	ヨコナヂ	ヨコナヂ			130	
	939	塗	17	溝13			7.4	ヨコナヂ	ヨコナヂ			7010	
	940	塗	18			(13.2)	8.0	ヨコナヂ	ヨコナヂ			8650	
	941	塗	23	溝16			(7.0)	ヨコナヂ	ヨコナヂ				
	942	塗	8	2号坪		(15.2)		ヨコナヂ	ヨコナヂ			10	
	943	内施 塗	16	溝12	10.5	5.8	3.6	ヨコナヂ	ミガキ		2/3	6224	
	944	内施 塗	16	溝12	15.4	7.2	5.7	ヨコナヂ	ミガキ		2/3	6225	
	945	内施 塗	16	溝12	(4.4)			ミガキ	ミガキ		1/4	6221	
	946	内施 塗	18	古道15			6.4	ミガキ	ミガキ			8174	
	947	内施 塗	8	1B				ミガキ	ミガキ			852	
	948	内施 塗	9	1B				ヨコナヂ	ミガキ			285	
	949	内施 塗	17	古道15		(7.8)		ヨコナヂ	ミガキ		1/8	8112	
	950	内施 塗	16	溝12			7.8	ヨコナヂ	ミガキ			6239	
	951	内施 塗	6	■				ミガキ	ミガキ			1247	
	952	内施 塗	3	古道1				ヨコナヂ	ミガキ			209	
	953	内施 坪	13	溝13		(7.0)		ヨコナヂ	ミガキ		1/6	6115	
	954	塗	23	表模		(24.4)		ハタメ	ケズリ	スヌ付着	1/8		
90	955	須恵器 瓢	9	1B	円窓	(14.0)		ヨコナヂ	ヨコナヂ		1/3	3102	
	956	須恵器 瓢	17	溝13	(13.8)			ヨコナヂ+ケズリ	ヨコナヂ+ナデ		1/8	6844	
	957	須恵器 坪	9	1B	(13.0)	(9.6)	3.9	ヨコナヂ	ヨコナヂ			400	
	958	須恵器 坪	14	溝11	(12.6)	(9.0)	4.1	ヨコナヂ	ヨコナヂ		1/6	5983	
	959	須恵器 坪	18	表	(14.0)		(11.0)	5.9	ヨコナヂ	ヨコナヂ			1/6
	960	須恵器 坪	18	古道15			(6.6)	ヨコナヂ	ヨコナヂ			1/6	8158
	961	須恵器 坪	18	古道15			(8.8)	ヨコナヂ	ヨコナヂ+ナデ		1/6	8288	
	962	須恵器 坪	18	溝16			(9.8)	ヨコナヂ	ヨコナヂ			8679	
	963	須恵器 瓢	9	1B	(16.5)	(14.4)	2.0	ヨコナヂ	ヨコナヂ		1/8	382	
	964	須恵器 瓢	18	溝14	(17.6)	(14.8)	2.4	ミガキ	ミガキ		1/6	8692	
	965	須恵器 瓢	14	溝10				ヨコナヂ	ヨコナヂ			5989	
	966	須恵器 瓢	17	溝13				タタキ	ナデ			7936	
	967	須恵器 瓢	8	古道跡2	(21.6)			平行タタキ	同心円当て具板		1/6	2339	
	968	須恵器 瓢	16	溝12				ヨコナヂ	ヨコナヂ	櫛縞き直状文		6253	
	969	須恵器 瓢	18	溝16				タタキ	同心円当て具板			8605	
	970	須恵器 瓢	15	■				格子目タタキ	同心円当て具板			5368	
	971	須恵器 瓢	18	溝16				格子目タタキ	同心円当て具板			8630	
	972	須恵器 瓢	18	溝16				平行タタキ	同心円当て具板			8652	
	973	須恵器 瓢	14	溝11				平行タタキ	平行文当て具板			5976	
91	974	須恵器 瓢	17	溝13				平行タタキ	同心円当て具板			6968	
	975	須恵器 瓢	16	溝12				平行タタキ	平行文当て具板			6318	
	976	須恵器 瓢	17	カクラン				平行タタキ	同心円当て具板			6967	
	983	内施 坪	14	溝11		(7.2)		ナデ+無地	青磁繪	越州窯		5974	

第28表 瓦觀察表

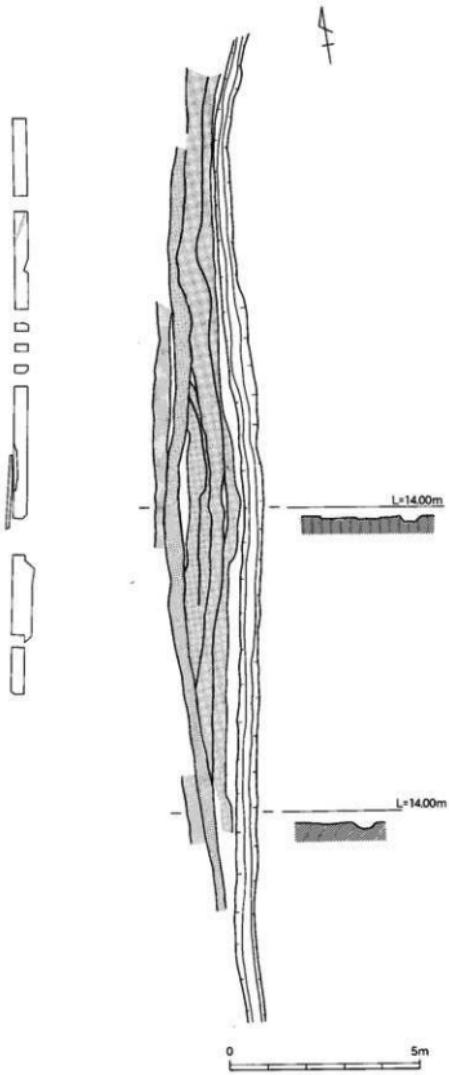
地図 番号	唐物 番号	器種	出土区・層	測量		出22 地図 番号	地図 番号	器種	器種	出土区・層	測量		備考	注記 番号	
				外 壁	内 壁						外 壁	内 壁			
87	913	新丸瓦	18	溝14		ケズリ	旋式直形	8081	924	平瓦	17	■	格子目タタキ	布目	側面整形
	914	丸瓦	8	■	格子目タタキ	布目 分割幅	4797	925	平瓦				格子目タタキ	布目	側面整形
	915	丸瓦	17	表模	平行タタキ	布目 分割幅		926	平瓦	18	溝14	■	格子目タタキ	布目	側面整形
	916	丸瓦	13	■	ケズリ	布目 分割幅	5533	927	平瓦	10	■	■	格子目タタキ	布目	7095
	917	丸瓦	15	■	ケズリ	布目 刻面形	5517	928	平瓦	18	溝14	■	格子目タタキ	布目	側面整形
	918	丸瓦	15	溝14	タタキ	布目 分割幅	7995	929	平瓦	14	SD2	格子目タタキ	布目	5992	
	919	丸瓦	17	■	ケズリ	布目 分割幅	8783	978	平瓦	14	SD2	格子目タタキ	布目	側面整形	
	920	丸瓦	9	■	内施	格子目タタキ	布目 分割幅	2756	979	平瓦	14	SD1	格子目タタキ	布目	5986
88	921	平瓦	10	■	ナデ	布目 分割幅	7114	980	平瓦	14	SD1	格子目タタキ	布目	側面整形	
	922	平瓦	10	■	平行タタキ	布目 侧面整形	7038	981	丸瓦	18	古道15	格子目タタキ	布目	5977	
	923	平瓦	10	■	タタキ	布目 侧面整形	7107	982	瓦	16	■	表	格子目タタキ	布目	8163

第VII章 中世の遺構と遺物

中世の時期と考えられる遺構は、Ⅲa層上面でⅡ層黒色土が埋土となって検出されている。遺構には古道跡と溝状遺構があり、調査区域のほぼ全体にわたり発見された。これらの遺構内埋土からは縄文晩期・平安時代に属するものが多く混在したが、最も新しい糸切底の土師器や青磁・



第92図 古道1



第93図 古道群1、溝2

白磁・陶器などの遺物であることから中世の時期と判断した。

第1節 検出遺構

古道1（第92図）

第1調査地点の北側部分3区で検出された。通常検出される中世の時期の所産の古道は、本遺跡の他の古道と同様に幅約40～50cm程度の細長い硬化面として検出されるが、これは硬化面の幅が平均120cmを測り、両側の傾斜面を加えると最大幅3mの幅広の古道となる。Ⅲa層黄褐色上面で暗褐色土の溝状の落ち込みとして検出された。古道の方向は東北方向で直線的に20mほど検出された。検出面から硬化面までの深さは約30cmであり両側はゆるい階段状となる。

第102図984～986は埋土から出土した土師器である。いずれも底部は糸切りによる切離しであり体部は内湾気味に立ち上がり口縁上位で外反するものである。

古道群1（第93図）

6区から7区にかけて検出された。幅30cm～50cmの硬化面が近接し、かつ重複するように計6条の古道が同一方向に検出されたもので古道群1とした。方向は古道1の方向と近似するが、わずかに北寄りである。

溝2

古道群1の東側に接して検出された。埋土はⅡ層黒色土である。幅は50～60cmであり、検出面からの深さは平均約25cm程度であった。

古道群2（第94図）

7区から9区にかけて検出された。古道群1と同様に幅30～50cmの硬化面をもつ古道跡が互いに近接し、あるいは重複して検出されたものである。全体の幅は約2m程度であるが、その中に8条の古道が重複し、約35mの長さにわたり検出された。方向は古道群1とほぼ同一方向であり、近接して溝状遺構が3条（溝3・4・5）検出されている。

第102図987は硬化面直上から出土した陶器の擂鉢であり、内面には条線が施されている。

溝3

古道群2の西側に接しており、長さ25mにわたり検出された。北側で幅約160cmを測るが、南側では約80cm程度と狭くなり8区で消える。この溝状遺構と直行する溝状遺構6・7を切っており時期的にこれらより新しい。

溝4

古道群2の東側約1.2mの位置に平行して検出された。付近のⅢa層上面の地形は東から西方向へゆるく傾斜しており、そのためこの溝状遺構は古道群2よりレベル的に高い位置にある。全長15mほど検出され、南側は地形のために消失している。上面の幅は約60cm程度であり、検出面からの深さは25m程度で、底面は丸みをもつ。

溝5

古道群2と溝3との間で検出された浅い溝状遺構である。幅は50～100cmであるが、検出面から約5cm程度の深さであった。第103図995は糸切底の土師器である。

溝6～8（第95図）

7区で古道群2及び溝状遺構3に直行する位置で検出された。溝状遺構3に東側で切られていることより、それ以前の時期と判断される。第1調査地点で検出された古道跡及び溝状遺構の大部分がほぼ南北方向にあるのに対し、溝6・7は東西方向に走る特異な方向である。

溝6は幅が東側で約80cm、西側で40cmと西方向へ狭くなり、検出面からの深さは約5cmである。埋土は暗褐色土であり、断面形は浅い皿状を呈している。

溝7も東西方向に走るもので溝状遺構6と平行している。幅は東側で110cm、西側で70cmと溝6と同様で西側が狭くなる。検出面からの深さは約8cm程度で底面の幅は約40cm程度である。埋土は暗褐色土である。溝6・7の埋土は他と異なり遺物の出土もなく、中世の根拠はない。

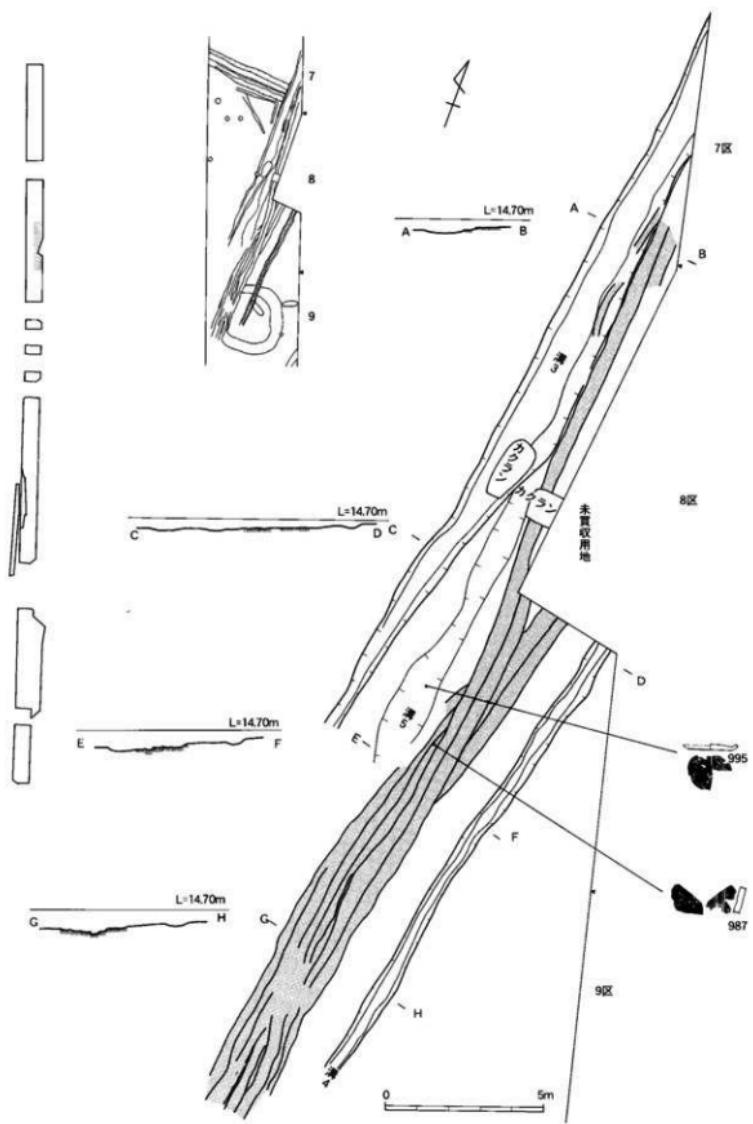
溝8は溝7の南側に位置し、一部平行に走るが東側でL字状に南下する。また、西側では接点は明確でないが、細く南東方向に短く伸びるものも含めて溝8とした。幅は約20cm程度であり、埋土は明茶褐色土であった。検出面からの深さは約3cmほどである。

溝1（第96図）

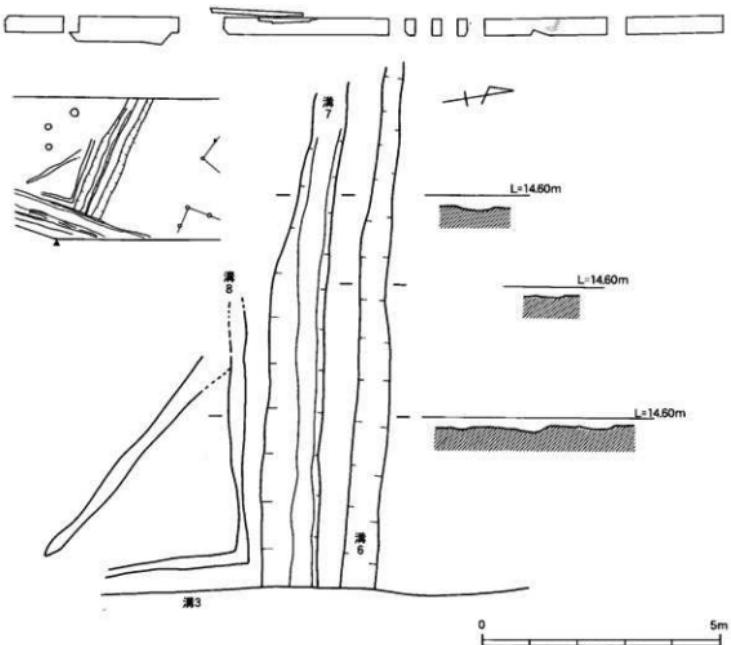
3区から4区にかけてⅢa層上面で検出された。ほぼ南北方向に走るもので、幅は約30～50cm程度と狭く、埋土は暗黄褐色である。底面は明確ではなく、溝状遺構としたが古道跡の硬化面の下部のにじみの可能性も考えられる。図にある前年の確認調査では検出できなかった。

古道2（第96図）

7区から8区にかけて検出された。方向は他の大部分の古道や溝状遺構とほぼ同様の南北方向である。硬化面はしっかりしていた。



第94図 溝3・4・5、古道群2



第95図 溝6・7・8

古道12・13（第96図）

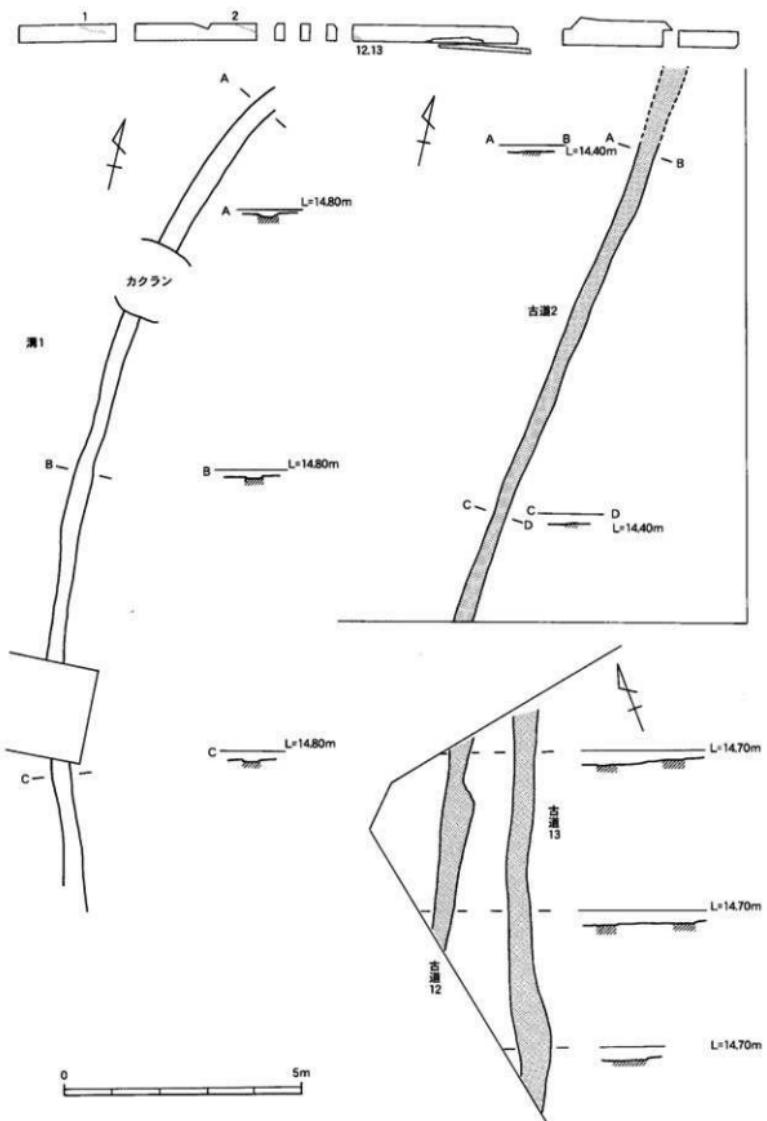
第2調査地点13区の西側で平行して検出された。方向はほぼ南北方向である。古道12は幅40～60cmの硬化面が明瞭に約4mにわたり検出された。古道13は幅40～60cmであり、長さ約8mにわたり検出された。地形的には東から西へ傾斜した地形で、古道12の上部にはⅡ層が残存していた。Ⅲa層上面でいずれも検出された。

古道3～8（第97図）

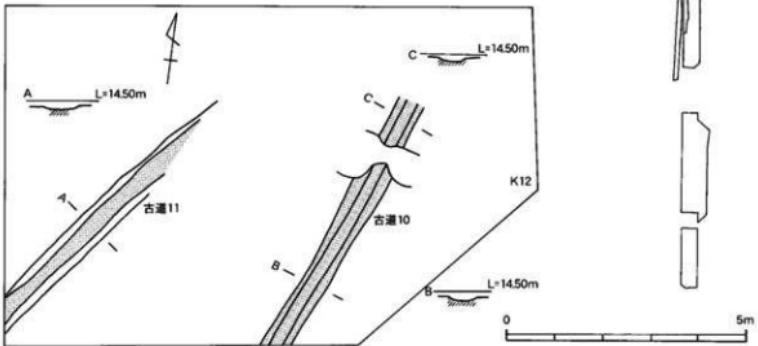
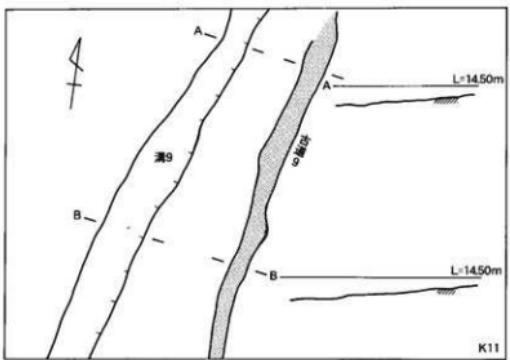
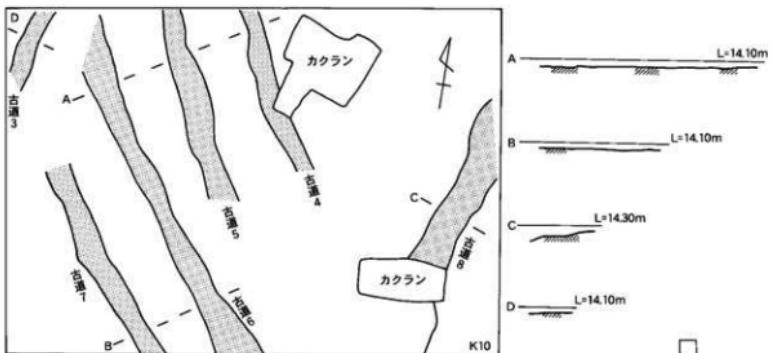
橋脚10地点（K-10）で古道と推定される硬く締まった硬化面が6条検出された。古道3及び古道8はほぼ同一方向であり、このうち古道3は10区の古道2の延長線上に位置しており同一の可能性がある。また古道4～7の4条は方向をほぼ同一にするもので、他の古道と若干異なる。硬化面の幅は40～60cm程度であるが、古道8は約70cmと広い。

溝9・古道9（第97図）

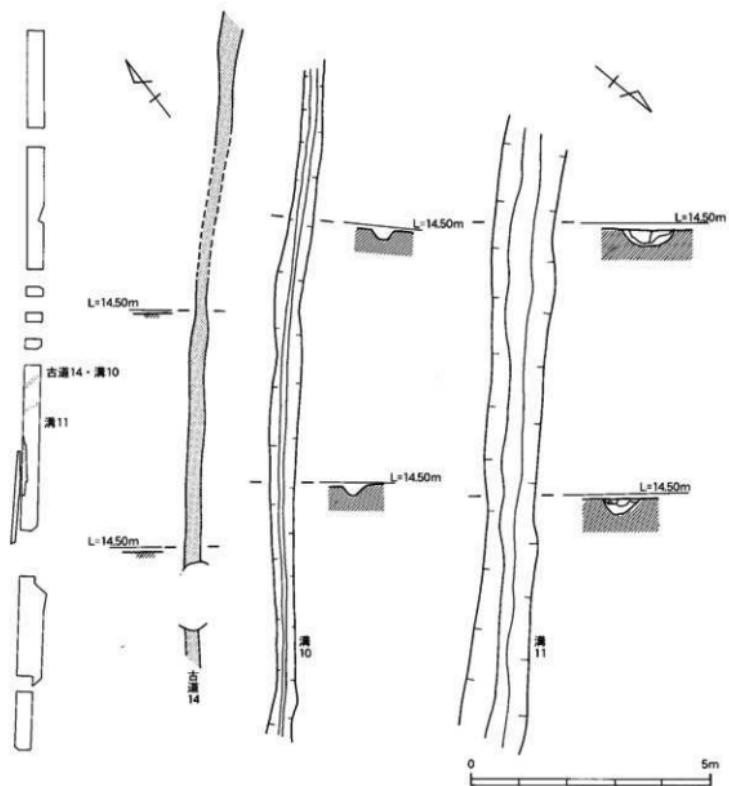
橋脚11地点（K-11）で検出された。方向は第1調査地点のほとんどの古道や溝状造構と同一方向である。西側に傾斜する地形であり、東側の古道9は幅30～50cmの硬化面が確認された。溝9は暗褐色の埋土であり、幅約1mで検出面からの深さはわずか数cmと浅いものであった。



第96図 溝1, 古道2, 古道12・13



第97図 古道3~8, 古道9・溝9, 古道10・11



第98図 古道14・溝10, 溝11

古道10・11（第97図）

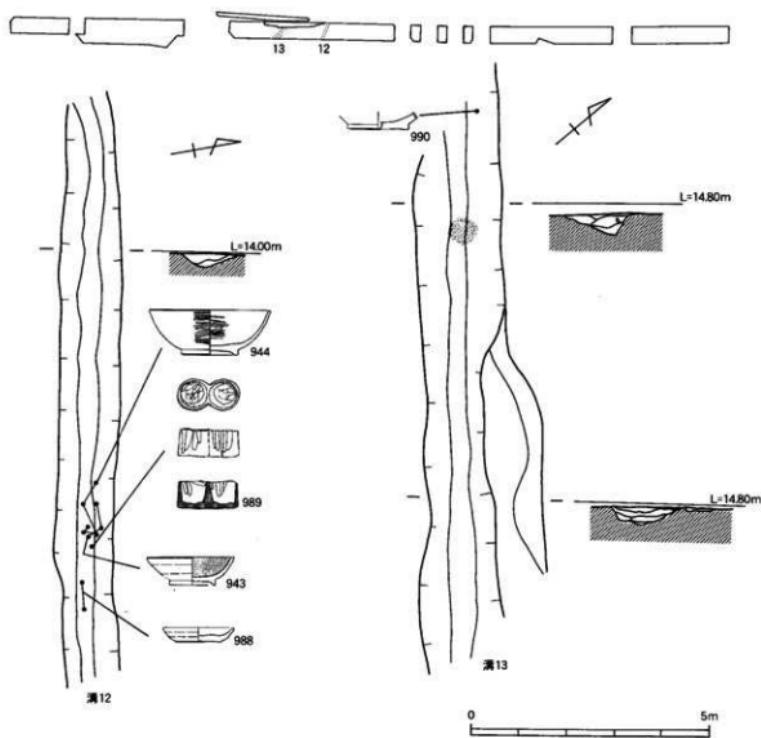
橋脚12地点で検出された。古道10は幅50～70cmの断面皿状を呈し、硬い硬化面は底面のみではなく両側の立ち上がり部分まで硬化していた。一方、古道11は同様に凹んでいるが、硬化面は底面のみの幅30～40cmであった。方向はこれまでの古道や溝状遺構と異なり若干東寄りである。

古道14（第98図）

第2調査地点の13区から14区にかけて検出された。東北方向に直線的に伸びるものであり、幅約30cmの硬く締まった硬化面が約14mにわたって検出された。

溝10（第98図）

古道14の南東で約1.5m離れた位置に平行した状況で検出された。幅は40～60cmであり、検出面からの深さは約20cm程度であり、底面のレベルは南西側が低い。



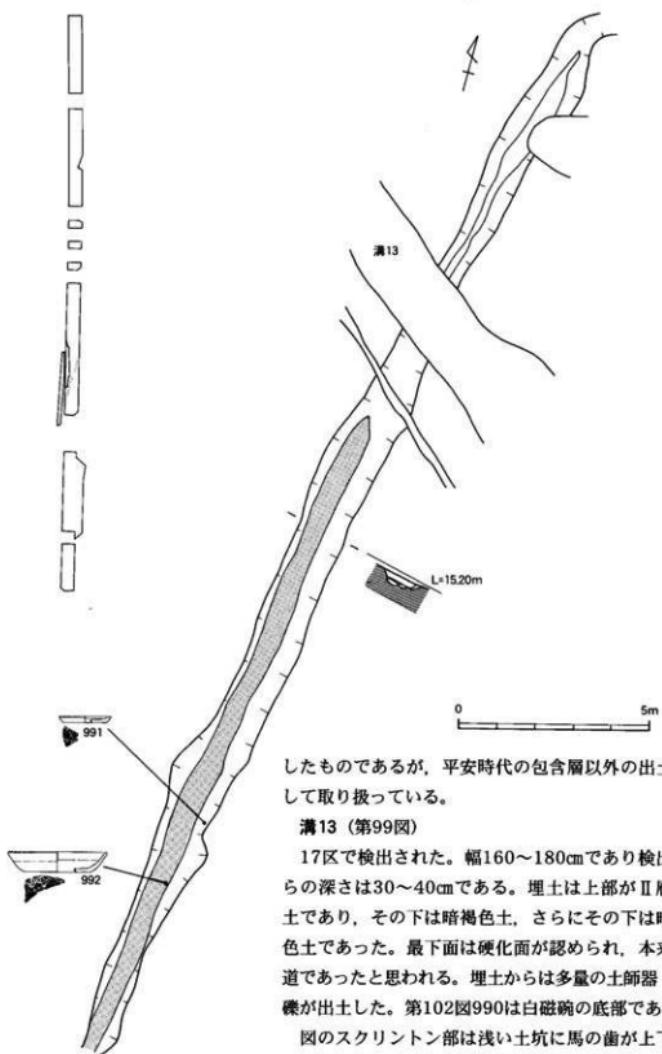
第99図 溝12, 溝13

溝11(第98図)

14区で検出された。方向は東北方向に伸びるが、溝10や古道14とはわずかに異なる。埋土は暗褐色土が主体で下部は暗黄褐色土であった。また下面には径2~3mmの軽石粒や、径1~2cmの小石が多く認められ、水が流れていたと考えられる。幅は100~130cmであり、検出面からの深さは35cmである。底面のレベルは南西側が高い。埋土中から土師器片11点、須恵器片1点、古代瓦2点が出土したが、いずれも混在と思われる細片であった。

溝12(第99図)

15区と16区の境界付近で検出された。ほぼ東西方向に伸びるもので、幅110~130cmで検出面からの深さは約30cmである。埋土は暗褐色であり多くの遺物が出土した。第102図988は糸切底の小皿である。989は滑石製の二連小容器である。高さ及び幅の大きさから滑石製石鍋の再利用品と考えられ、細かい加工を施している。また943及び944の土師器塊も同様の場所で出土



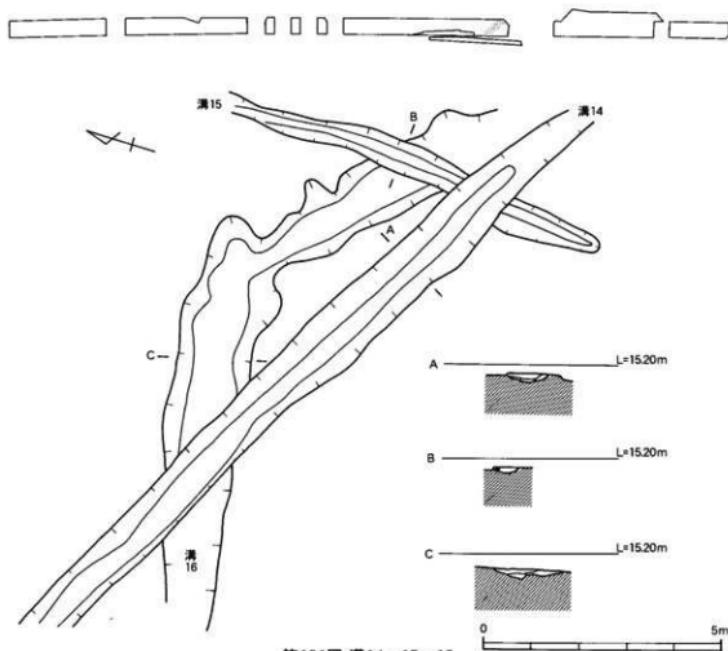
第100図 古道15

したものであるが、平安時代の包含層以外の出土品として取り扱っている。

溝13（第99図）

17区で検出された。幅160~180cmであり検出面からの深さは30~40cmである。埋土は上部がⅡ層黒色土であり、その下は暗褐色土、さらにその下は暗茶褐色土であった。最下面是硬化面が認められ、本来は古道であったと思われる。埋土からは多量の土師器・瓦・礫が出土した。第102図990は白磁碗の底部である。

図のスクリントン部は浅い土坑に馬の歯が上下そろって検出された。馬の頭部が埋められたものと推定される。



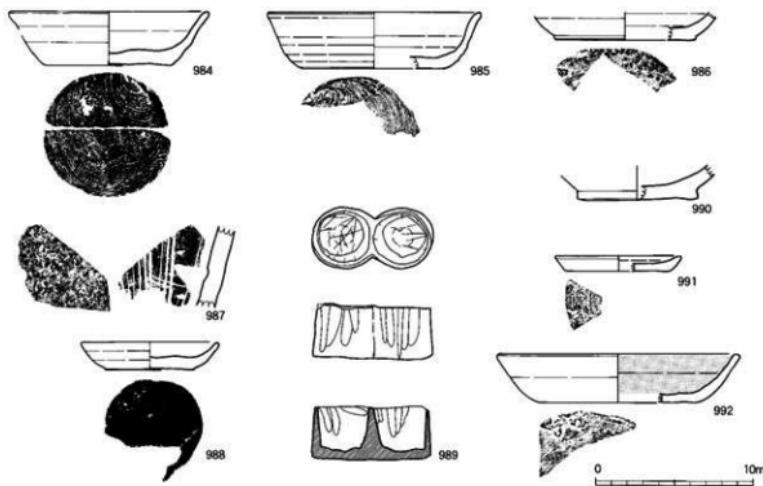
第101図 溝14・15・16

古道15（第100図）

16区から18区まではほぼ南北方向に35mにわたり検出された。途中の一部は溝13により切られている。南側は硬化面が直線状に伸び、北側は明確ではなかった。硬化面の幅は50~60cmであり、南側は肩の部分があり全体幅は80~120cmとなる。埋土は黒色土であり多くの土師器片などが出士した。第102図991は糸切底の小皿である。992は復元口径15.3cm、底径10.2cm、器高3.1cmを測る内黒の大皿である。調整は内面の黒く焼した面と外面もヨコナデ調整である。口縁は内湾して立ち上がる。

溝14

第2調査地点の最南端である18区から19区にかけて、Ⅲa層上面で溝状遺構14・15・16が重複して検出された。溝状遺構15及び16を切っており、最も新しく位置づけられる。幅は90~110cmで検出面からの深さは約20cmである。埋土は上から黒褐色土、暗黄褐色土、やや明るい暗黄褐色土の順であり、土師片69、須恵器片17、古代瓦片11などが出土しているが、いずれも細片である。中世的な遺物として青磁片や滑石製石鍋片も各一点ずつ出土しているが、一辺1cm程度の細片であり図化できなかった。南東から北西方向に直線的に伸び、北西部の底面レベルが低くなる。



第102図 中世遺構出土遺物

溝15（第101図）

ほぼ南北方向に伸びるもので、一部を溝14に切られている。幅は50～60cm程度であり、検出面からの深さは約10cmである。埋土は暗褐色土で比較的締まった土であった。埋土中より土師器細片や古代瓦細片が若干出土している。

溝16（第101図）

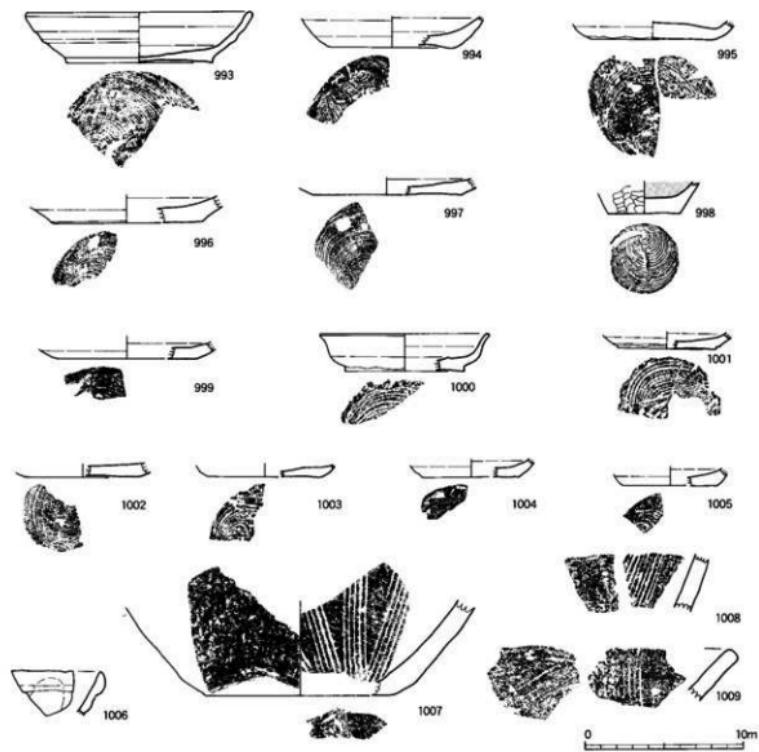
西側で溝14に切られ、途中で屈曲し東側で溝15に切られており、3本の溝状遺構のなかで最も古く位置づけられる。幅は70～150cmであり、検出面からの深さは中間の屈曲部が深く、両端は浅くなる。深い部分の深さは約20cmで埋土は暗褐色土であり砂質がつよい。埋土中より土師器117点、須恵器片18点、古代瓦片5点などが出土地したが、いづれも細片であり図化できなかった。

第2節 中世の遺物

中世の遺物包含層であるⅡ層は部分的にしか残っていなかったため出土遺物の量は多くない。ここでは表層及び搅乱層出土の遺物も示した。出土遺物には土師器・陶器・青磁・白磁・古錢などがみられたが、細片が多かった。

土師器

第103図993～1005は土師器である。993～997は皿と考えられるものであり、いずれも糸切底である。993は復元口径14.3cm、底径9.4cm、器高3.2cmを測るもので、口縁部は内湾気味に立



第103図 中世の遺物



第104図 古銭

ち上がる。内外面ともヨコナデ調整を施す。994～997も同様と考えられる底部である。

998は底径4.5cmの坏である。底部は回転糸切りによる切り離しで、体部は直線的に開く。外面は縦方向のケズリの後、横方向のミガキが施され、内面は細かいヘラミガキ痕が観察される。黒色土器である。

第29表 中世遺物一覧表

件名 番号	遺物 番号	器種	出土区・層	口径	底径	高台径	底高	測定		備考	発存者	注記 番号
								外	内			
85	984	坪	3 古通1	(12.6)	8.0		3.4	ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り	1/3	189
	985	坪	3 古通1	(13.6)	9.0		(3.6)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り	1/4	178
	986	坪	3 古通1		(8.9)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		190
	987	陶器	8 古通野2					ナデ	ナデ			2381
	988	小皿	16 濃12	(8.7)	5.6		1.7	ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り	1/4	6319
	989	滑石製品	16 濃12					ケズリ	ケズリ			6222
	990	白磁	17 濃13		(7.6)			無地	白磁地			6843
	991	小皿	18 古通15	(8.0)	(6.6)		(1.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り	1/8	8169
	992	大皿	18 古通15	(15.3)	(10.2)		(3.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り・内墨	1/10	8184
103	993	瓶	4 Ⅱ	(14.4)	(9.4)		(3.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		183
	994	瓶	7 直上		(8.6)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		4896
	995	瓶	8 濃5		8.0			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		3859
	996	瓶	3 直		(9.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		219
	997	瓶	3 Ⅱ		(9.6)			ケズリ	ヨコナデ	底部削輪糸切り・内蓋		
	998	内輪坪	22 底	4.5				ミガキタラ	ミガキタラ	底部削輪糸切り・内墨		
	999	瓶	3 Ⅱ		(9.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		129
	1000	瓶	9 ⅠB	(10.8)	(7.6)		(2.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り・外面ス付蓋		296
	1001	瓶	6 Ⅲ		6.2			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		951
103	1002	瓶	4 Ⅲ		(7.2)			ナデ	ナデ	底部削輪糸切り		79
	1003	瓶	7 直上		(7.4)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		3358
	1004	瓶	9 ⅠB		(6.0)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		252
	1005	瓶	9 Ⅲ		(7.8)			ヨコナデ	ヨコナデ	底部削輪糸切り		1775
	1006	白磁瓶	17 カクラン						玉縁口縁			7666
	1007	腰鉢	3-II 1A		(12.0)			ナデ	ナデ	五本竿位		
	1008	腰鉢	8 1B					ナデ	ナデ			708
	1009	腰鉢	10 1B					ナデ	ナデ			248
	104	古鏡	4 Ⅱ							世界遺産		104
	1011	古鏡	7 1B							洪武通寶		1479

1000~1005は小皿である。底面はいずれも糸切りによる。1000は法量が口径10.8cm、底径7.6cm、器高2.4cmを測る。口縁は端部近くで外反する。

白磁

1006は特徴的な玉縁口縁をもつ白磁である。細片であるが、内外面に灰白色の釉がかかる。

陶器

1007~1009は内面にクシ状の条線がみられる掘鉢である。1007は底径12cmを測り、体部下部はケズリ、上位はナデ仕上げである。黄橙色を呈する。1009は大きく開く口縁部である。

古鏡

1010は琉球の尚徳（世主・在位1461~1469）が鑄た「世高通寶」である。本県では鹿屋市老神遺跡の備蓄鏡18,123枚のうちの1枚として認められるのみであり、遺跡の包含層出土としては本県初出である。

1011は明の洪武通寶である。背文字はない。

第IX章 発掘調査のまとめ

計志加里遺跡は、その所在地が薩摩国府・国分寺跡が所在する台地と開析された浅い迫を隔てた隣接する台地に位置することから、また以前から古代瓦が採集されていたこともあり奈良～平安時代の遺跡として予想されていた。調査の結果、計志加里遺跡は縄文時代早期から中世までの複合遺跡であり、遺構及び遺物の主体となるものは縄文時代晚期と平安時代から中世であった。この二時期を中心として調査成果と今後の課題を述べまとめてとする。

1. 平安時代

円形周溝墓について

円形周溝墓は古代から中世にかけての埋葬形態の一つであり、計志加里遺跡で検出された1基の円形周溝墓は、直径約8.5mの円形を呈しており、九州内でこれまで検出されている古代～中世の円形（方形）周溝墓と比較すると最大級の大きさである。周溝の最大幅は1.1mであり、周溝で囲まれた内部は径約5mを測る。内部には中世の時期の古道群や溝状遺構の延長部が部分的にかかり、この主体部を特定・確認するには到らなかった。しかし、この中央部に土坑墓が1基確認されたが、これが内部の中央に位置しないことや、近接する位置において他に2基の土坑墓が存在し、それらの埋土の類似点などを考慮して、円形周溝墓の主体部ではないと判断した。ただしその可能性を全て否定するわけではない。他の2基の土坑墓は底面に副葬品を供なっていたが、中央部の土坑ではなく、また土坑の深さも他の2基と比較すると若干浅いためである。

周溝の埋土には、本遺跡の周溝の深さに該当する層の土が互層となり堆積していることから、周溝を掘った土が中央に墳丘状に盛られていたことが示唆された。

周溝から出土した遺物は、多量の細片から構成され、その多くが接合し壊や壊となった。このことは、葬送儀礼の存在及び、食器を完全品のまま並べるのではなく、意図的に細かく割り周溝内に散布するという行為の存在が推定できよう。また出土遺物のなかには焼成中に歪み割れ、实用に即しないものも含まれており、葬送儀礼用として準備・使用されたと考えられる。

土坑墓について

3基の土坑墓が検出された。特筆されるのは土坑墓の底面から出土した刀子と錐状の突起がついた青銅製品である。刀子の出土は埋葬された人が男性であった可能性が考えられる。両出土品は各々布に巻かれており、東京国立博物館の澤田むつ代先生の鑑定により刀子は麻と推定される植物纖維の平織りの布に、青銅製品は平織りの平網に包まれていたことが判明した。このことは被葬者が役人もしくは郷の有力者であった可能性が考えられよう。また土坑墓の直上部で出土した土師器壠は割れていたが1ヵ所にまとめており供獻土器と考えられる。

墓域について

円形周溝墓及び土坑墓は9区から検出されており、一方、掘立柱建物跡は6・7区と14～18区で検出され、また掘立柱建物と推定されるピット群が17区で検出されていることから、居住施設と墓は同一区に重複していないことが理解される。ここで溝状遺構6・7の存在が気になる。他の中世の古道及び古道群や溝状遺構がほぼ南北方向に伸びるのに対し、溝6・7は東西方向に検出されている。埋土も他の溝状遺構と異なり、加えて遺物は全く出土しておらず中世の時期とする根拠は全くないものである。これより北側には掘立柱建物跡が存在し、南側には認めらない

ことより、居住域と墓域を区別する性格の溝状造構の可能性が考えられる。また南側の境界に該当する溝については、13区まで橋脚部のみの部分的調査を実施したため明確ではない。

出土遺物について

平安時代を中心とする土師器・須恵器・瓦などが出土したが、包含層から出土した土師器の坏や塊は、出土した第1調査地点と第2調査地点の違いによる形態差及び法量差が認められた。第1調査地点の坏は、口径・底径ともに大きい坏1類で、第2調査地点の坏は口径がわずかに小さく底径が特徴的に小さくなる坏2類と坏3類が出土した。一方塊は、第1調査地点のものは高台が低い塊2類であり、第2調査地点のものは高台が「ハ」の字状に開くものあるいは接地面が丸みを帯び高くなる塊3類及び塊4類であり、加えて円柱状の高台をもつ充実高台塊も出土している。また甕類についても第1調査地点と第2調査地点出土のものは形態の出土割合が異なっていた。これらは明確な造構一括遺物ではないが、それに順ずる包含層出土資料として取り扱うことができよう。また道路付け換え区域の南側では奈良時代の包含層一括出土資料も認められた。

さて九州における古代～中世の土師器編年は、大宰府を中心進められており（森田・横田1976・1978、山本1988）。南部九州では、宮崎を中心とした編年（岡本1991）、熊本を中心とした編年（山城1993、綱田1994、1999）、鹿児島を中心とした編年（中村1994、1997）が独自に発表されている。これらは他地域との食器との比較や広域流通品としての輸入陶磁器や綠釉陶器などとの共伴関係を根拠したものである。また90年代の九州における土器編年の総括も行われている（出合2000、徳永2000）。

鹿児島の土器については中村和美により、先の二つの視点に火山灰層の上下関係をも加味し、各遺跡の造構一括出土資料を中心とした編年が行われている（中村 前掲）。本県では從来から指摘されているように編年資料としての造構の一括遺物資料が少なかったが、近年の調査により少しずつ増加しつつある。

計志加里遺跡の編年位置づけについては、中村の編年をもとにして、また法量の変化（山本1990）を参考にし、かつ近県の宮崎県及び熊本県の編年による食器の形態的变化を比較した場合、第1調査地点が9世紀中頃、第2調査地点が9世紀後半から9世紀末に位置づけておきたい。

また、円形周溝墓については、出土遺物より9世紀後半から9世紀終末頃として位置づけられよう。土坑墓も同様の時期として考えられよう。（宮田）

2. 縄文時代晩期土器について

計志加里遺跡出土の縄文晩期土器に最も類似しているのは、加世田市千河原遺跡の出土土器である。⁽¹⁾ 無刻目突帯を巡らす深鉢形土器・底部に1条あるいは2条の沈線を巡らす精製浅鉢形土器・組織痕土器など共通した特徴がある。ただし、報告者が縄文時代前期～後期の土器としている内外面条痕をもつ深鉢形土器の中で、図面番号471～476については縄文時代晩期の可能性が高く、計志加里遺跡の56と類似する器形をもつ。263の壺形土器がこの時期に伴うかどうかという点が一番の問題点である。壺形土器が出土した区と大量の晩期土器が出土した区とは離れているけれども、出土土器の内容に差異はみられない。刻目突帯文土器自体の出土も一点もなく、刻目突帯文土器に伴う壺形土器との差も大きい事から、263の壺形土器も無刻目突帯文土器に伴

う可能性がある。千河原遺跡では壺形土器の報告はないが、これは小破片が多く全形を復元することが出来なかつた可能性もある。計志加里遺跡で出土した壺形土器を参考に、同時期の土器片を再検討していけば壺形土器の破片も見つかるのではないかと考える。

計志加里遺跡出土の縄文時代晩期土器は、器形やリボン状突起の特徴から、南九州で縄文時代晩期後半に位置づけられる黒川式土器の範疇に含まれる土器であると考えられる。ただし、無刻目突帯を巡らすという点では、より新しい様相をもつ。近年この時期についての研究が進められ、堂込秀人^②、清田純一^③、下山覚^④、水ノ江和同^⑤の各氏によって論じられている。堂込氏は黒川式土器を古段階・中段階・新段階の3段階に細分しており、計志加里遺跡の土器群は氏の述べる新段階に対応できると考えられる。清田氏は「無刻目突帯文Ⅰ期土器」・「無刻目突帯文Ⅱ期土器」に区分し、水ノ江氏の「ワクド石段階」と「アンモン山段階」に相当する。鹿児島で無刻目突帯文土器が明らかになってきたのは最近であり、鹿屋市水の谷遺跡・同市榎木原遺跡・同市榎崎B遺跡・指宿市新番所後II遺跡・加世田市千河原遺跡がある。しかし、千河原遺跡を除くと前後の時期の土器も一緒に出土することから細分まで至っていない。なお、宮崎県の「松添式土器」がこの時期に相当すると考えられる。

計志加里遺跡出土土器は比較的まとまった資料であり、時間幅も広くないと考えられる。前述した様に、いくつかの点で加世田市千河原遺跡出土土器と共通する部分が多い。黒川式土器の最終段階に位置づけられることには異論はないが、未だ弥生時代早期の刻目突帯文土器に至るには2・3の型式が存在することが予想される。また、不確定な型式に数字や新古など時間的な推移を示す用語が入ってしまうと新たな資料が加えにくくなる。そこで、現在のところ単純にまとまった資料が提示されている加世田市千河原遺跡出土の縄文時代晩期土器を指標として「千河原段階」としておきたい。計志加里遺跡出土の縄文時代晩期土器はこの段階の資料を補う好資料である。鹿児島で出土する無刻目突帯文土器は、口唇部に接していて、しかも断面が台形状を呈し、北部九州の「貫・井手ケ本式」や大分県の「上菅生B式」とは若干異なる。同じ名称で呼ぶ事に躊躇するが、同時期の研究が南九州も巻き込んで進展することを念じて敢えて使用したい。口唇部付近に突帯が巡る煮沸土器については、蓋との関係で論じたことがあり、食材の変化という視点からも今後追求していきたい。計志加里遺跡で出土した石器の中に石包丁状の石器もあることから、植物生産を含めて総合的に解明していくことが今後の課題である。

次に組織痕土器のモデリングの重要性については、渡辺誠氏によって早くから指摘されていた。^⑦今回試みたところ、これまで見えなかつたいくつかの点が見えてきた。一つは縞布について、縞糸はかなりはっきり細い糸が見えるけれども、経糸についてはほとんどぼやけて見えないという点である。これは経糸が外側になっているため、接触も多く縞り痕が見えなくなるほどよれよれの状態であったことを示すのではないだろうか。したがって、組織痕土器に用いる布は使い古したものを利用していたことが窺えよう^⑧。また、折り目や重なりもはっきり認めることが出来る。さらに、373の様に縞糸を縞み込む間隔を途中途中で変えることによって、装飾効果をねらった例も見つかった。南九州では3本の縞糸が接するデザインを多用していたことを、尾関清子氏が指摘している^⑨。

網目についても同じ網を折り返したか、もしくは、重ねた事例が見つかった。しかも網目の中

心にもう一枚の、結び目をもってきており、なるべく隙間を開けないような意図も窺える。網目については、「実際、縄文土器はどこでつくられたのか」という基本的な課題を解決しなければ、組織痕として使われた網がどの様な場所で用いられたのかという解らないわけであるが、それを前提として話を進めたい。本遺跡で用いられた網は概ね網目の大きさから3種類に分けられる。これは対象とする魚の種類によるものと考えられる。もちろん魚だけでなく時には鳥や他の獲物を対象としたこともあったことだろう。網目が9~13mmのものは、川に生息する魚類のほとんどは掬い上げることが可能だと考えられる。そして、海でも岸に近い場所では多くの種類の魚を獲ることが出来たのではないか。網目が5~7mmのものは雑魚向きであるし、水中に生息する昆虫類も対象としていたことが想定される。これらの網はたも網として使われたと考えられる。一方、37mmの網は川よりもむしろ河口付近から海に棲む大型魚を対象としていたと想定される。この様な大きな網目は鹿児島県内では類例を知らない。組織痕土器が計志加里遺跡周辺でつくられたと仮定すれば、この場所付近まで川内川を潮が逆のぼってくるのを考えると、多くの種類の魚が棲み、それを獲っていた様子が窺える。（東）

註

- (1) 『千河原遺跡』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(13) 1995.3 加世田市教育委員会
- (2) 堂込秀人「南九州縄文晚期土器の再検討—入佐式と黒川式の細分—」
『鹿児島考古』第31号 1997.7 鹿児島県考古学会
- (3) 清田純一「縄文後・晚期土器考—中九州の縄文後・晚期土器とその並行型式について—」
『肥後考古』第11号 1998.12 肥後考古学会
- (4) 下山覚「土器型式編年研究 九州地方晩期」『縄文時代』10 1999.12 縄文時代文化研究会
- (5) 水ノ江和同「北部九州の縄文後・晚期土器—三万田式から刻目突帯文土器の直前まで—」
『縄文時代』第8号 1997.5 縄文時代文化研究会
- (6) 東和幸「弥生時代の煮沸土器に波状口縁がないのはなぜか?」『鹿児島考古』第29号 1995.7 鹿児島県考古学会
- (7) 渡辺誠「組織痕土器研究の諸問題」
『交流の考古学 三島格会長古希記念 肥後考古』第8号 1991 肥後考古学会
- (8) 東和幸「鹿児島県の組織痕土器」『南九州縄文通信』No.12 1998.3 南九州縄文研究会
- (9) 尾閻清子「縄文の衣—日本最古の布を復元」 1996 学生社

3. 縄文時代晩期の石器について

石器組成で最も多数を占めたのが石鎌であり、全体の37.3%を占め、次が土掘具と考えられる打製石斧で、15.5%，次がスクレイパーの11.8%，そして植物質食料加工工具の磨石・敲石類の8.2%の順であった。当然のことながら石器組成は当時の生業を反映しており、とすると本遺跡の場合狩猟を中心としたとなるが、しかし遺跡全体からの調査面積は部分的なものでしかなく、一側面が見えたにすぎないとと思われる。と言うのも土器の圧痕のなかに大型や小型の網が使用されており、川内川などの漁労活動も生業のなかで多大な割合を持っていた可能性が推定されるからである。現在でも梅雨の季節には大型のコイやフナが産卵のために浅い川や田んぼに遡上し、

それを手づかみや網で取るのが川内の風物詩ともなっている。ただし、今回網の石錘や石鉗などは石器として出土していない。今回調査した部分では石織未製品が多く出土しており、遺跡のなかの石器製作の場であった可能性も考える必要がある。つまり石器組成を検討する場合、調査面積や「場の使用」も考慮する必要があることを示唆している。

使用されている石材で黒曜石の89%が良質の腰岳産であり、安山岩系のものも多久産や嬉野・松尾産で、在地産は極めて少なく遠隔地産が大部分を占めていた。第3調査地点で出土した縄文前期では最も近い樋脇町上牛鼻産が大部分を占め、残りは少し遠い大口市日東産であったとの比較すると対称的である。集団の行動領域や石材流通圏など縄文時代晚期は広域な社会背景を有していたと考えられる。（宮田）

参考文献

- 綱田龍生「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
綱田龍生「肥後における古代後半期の墳墓」『先史学・考古学論究』第2号 1997 龍田考古会
岡本武憲「日向における古代末の土器—宮崎学園都市遺跡群を中心として—」
『中近世土器の基礎研究』第7号 1991 日本中世土器研究会
岡本武憲「各地の土器様相—九州南部—」『概説 中世の土器・陶磁器』1995 中世土器研究会
小畑弘己「出土銭貨による中世九州・沖縄の銭貨流通」『文学部論叢』第57号 1997 熊本大学文学会
中島恒次郎・城戸康利「薩摩国から来た食器—大宰府条坊跡 第89次調査出土資料—」
『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
中島恒次郎「各地の土器様相—九州北部—」『概説 中世の土器・陶磁器』1995 中世土器研究会
中村和美「鹿児島県（薩摩・大隅国）における平安時代の土器—土師器の変遷を中心に—」
『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
中村和美「鹿児島における古代の在地土器」『鹿児島考古』第31号 1997
本田道輝「鹿児島県下出土の銭貨集成」『鹿大史学』第35号 1988
松本隆昌「佐賀県大和町 平安時代の周溝墓について」『佐賀考古』第3号 1995
美濃口正朗「熊本県における中世前期の土師器について」『中近世土器の基礎研究』第10号 1994 日本中世土器研究会
森 隆「西日本の黒色土器生産（中）」『考古学研究』第147号 1990
森田勉「大宰府出土の土師器に関する覚え書き（2）」『九州歴史資料館研究論集3』 1977 九州歴史資料館
山本信夫「大宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』第4号 1988
山本信夫「統計上の土器—歴史時代土師器の編年研究によせて—」
『乙益重隆先生古希記念論文集－九州上代文化論集』 1990
山本信夫「中世食器の地域性—九州・南西諸島—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集 1997
横田賛次郎・森田勉「大宰府出土の土師器に関する覚え書き」『九州歴史資料館研究論集2』 1976 九州歴史資料館
鹿児島県教育委員会編「薩摩国府・薩摩国分寺跡」1975
鹿児島県教育委員会編「成岡・西ノ平・上ノ原遺跡」1983
鹿児島県教育委員会編「櫻崎A遺跡」1992
鹿児島県教育委員会編「櫻崎B遺跡」1993
川内市教育委員会編「薩摩国分寺跡」1985
頬塚町教育委員会編「城ヶ崎遺跡」1990
東郷町教育委員会編「五社遺跡」1986
熊本市教育委員会編「池辺寺跡」1996

〔付 編〕

計志加里遺跡出土の黒曜石、サヌカイト製造物の原材产地分析

薦科 哲男

(京都大学原子炉実験所)

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圈を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている^{1, 2, 3}。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れても来ないことが証明されて、十分条件を満たし、ただ一力所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石の成分が一致したからと言って、その産地のものと言いかねないことは、他の産地にも一致する可能性が推測されるからで、しかし一致しなかった場合その産地のものでないと言いかれる。』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言いかれない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言いかれる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地（A、B、C、D……）の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際にやってみなければ分からぬ。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量元素組成には異同があると考えられるため、微量元素を中心とした元素分析

を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに數十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石はA産地では10個中に1個みられ、B産地では1万個中に1個、C産地では百万個中に1個、D産地では・・・1個と各産地毎に求められるよう、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は鹿児島県川内市中郷町に位置する計志加里遺跡出土の縄文時代晚期（一部前期）の黒曜石製造物51個およびサヌカイト製造物6個の合計57個について産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石、安山岩（サヌカイトなど）原石の分析

黒曜石、サヌカイト両原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl, Si, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr, Nbの12元素をそれぞれ分析した。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。

黒曜石原石

黒曜石は、Ca/K, Ti/K, Mn/Zr, Fe/Zr, Rb/Zr, Sr/Zr, Y/Zr, Nb/Zrの比量を産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州、の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされ、元素組成によってこれら原石を分類して表1に示す。この原石群に原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると197個の原石群になる。佐賀県の腰岳地域および大分県の姫島地域の鏡音崎、両瀬の両地区は黒曜石の有名な原産地で、姫島地域ではガラス質安山岩もみられ、これについても分析を行った。隠岐島、巣島、青森県、和田岬の一部の黒曜石には、Srの含有量が非常に少なく、この特徴が産地分析を行う際に他の原産地と区別する、有用な指標となっている。九州西北地域の原産地で採取された原石は、相互に組成が似た原石がみられる（表2）。西北九州地域で似た組成を示す黒曜石の原石群は、腰岳、古里第一、松浦第一の各群（腰岳系と仮称する）および淀姫、中町第二、古里第三、松浦第四の各群（淀姫系と仮称する）などである。淀姫産原石の中で中町第一群に一致する原石は12%個で、一部は淀姫群に重なるが中町第一群に一致する遺物は中町系と分類した。また、古里第二群原石と肉眼的および成分的に似た原石は嬉野町椎葉川露頭で多量に採取でき、この原石は姫島産乳灰色黒曜石と同色調をしているが、組成によって姫島産の黒曜石と容易に区別できる。もし似た組成の原石で遺物が作られたとき、この遺物は複数の原産地に帰属され原石産地を特定できない場合がある。たとえ遺物の原石産地がこれら腰岳系、淀姫系の原石群の中の

一群および古里第二群のみに帰属されても、この遺物の原石産地は腰岳系、淀姫系および古里第二群の原石を産出する複数の地点を考えなければならない。角礫の黒曜石の原産地は腰岳および淀姫で、円礫は松浦（牟田、大石）、中町、古里（第二群は角礫）の各産地で産出していることから、似た組成の原石産地の区別は遺物の自然面から円礫か角礫かを判断すれば原石産地の判定に有用な情報となる。旧石器の遺物の組成に一致する原石を産出する川棚町大崎産地から北方4kmに位置する松岳産地があるが、現在、露頭からは8mm程度の小礫しか採取できない。また、佐賀県多久のサヌカイト原産地からは黒曜石の原石も採取され梅野群を作った。九州中部地域の塚瀬と小国の原産地は隣接し、黒曜石の生成マグマは同質と推測され両産地は区別できない。また、熊本県の南関、轟、冠ヶ岳の各産地の原石はローム化した阿蘇の火碎流の層の中に含まれる最大で親指大の黒曜石で、非常に広範囲な地域から採取される原石で、福岡県八女市の昭和溜池からも同質の黒曜石が採取され昭和池群を作った。従って南関等の産地に同定された遺物の原材産地を局的に特定できない。桑ノ木津留原産地の原石は元素組成によって2個の群に区別することができる。桑ノ木津留第1群は道路切り通し面の露頭から採取できるが、桑ノ木津留第2群は転礫として採取でき、これら両者を肉眼的に区別はできない。また、間根ヶ平原産地では肉眼観察で淀姫黒曜石のような黒灰色不透明な黒曜石から桑ノ木津留に似た原石が採取され、これらについても原石群を確立し間根ヶ平産黒曜石を使用した遺物の産地分析を可能にした。遺物の産地分析によって桑の木津留第1群と第2群の使用頻度を遺跡毎に調査して比較することにより、遺跡相互で同じ比率であれば遺跡間の交易、交流が推測できるであろう。石炭様の黒曜石は大分県萩台地、熊本県滝室坂、箱石峠、長谷峠、五ヶ瀬川の各産地および大柿産、鹿児島県の樋脇町上牛鼻産および平木場産の黒曜石は似ていて、肉眼観察ではそれぞれ区別が困難であるが、大半は元素組成で区別ができるが、上牛鼻、平木場産の両原石については各元素比が似ているため区別はできない。これは両黒曜石を作ったマグマは同じで地下深くにあり、このマグマが地殻の割れ目を通って上牛鼻および平木場地区に吹きだしたときには、両者の原石の組成は似ると推定できる。従って、産地分析で上牛鼻群または平木場群のどちらかに同定されても、遺物の原石産地は上牛鼻系として上牛鼻または平木場地区を考える必要がある。出水産原石組成と同じ原石は日東、五女木の各原産地から産出していくこれらは相互に区別できず日東系とした。竜ヶ水産原石は桜島の対岸の竜ヶ水地区の海岸および海岸の段丘面から採取される原石で元素組成で他の産地の黒曜石と容易に弁別できる。

サヌカイト原石

サヌカイトでは、K/Ca, Ti/Ca, Mn/Sr, Fe/Sr, Rb/Sr, Y/Sr, Zr/Sr, Nb/Srの比量を指標として用いる。サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて50ヶ所の調査を終えている。図2にサヌカイトの原産地の地点を示す。これらの原石を良質の原石を産出する産地および原石産地不明の遺物を元素組成で分類すると106個の原石群に分類でき、その結果を表3に示した。安山岩の原石産地の一部を簡単に記すると、香川県の坂出、高松市に位置する金山・五色台地域では、その中の多く地点からは良質のサヌカイトおよびガラス質安山岩が多量に産出し、かつそれらは数ヶの群に分かれる。近年、丸亀市の双子

山の南嶺から産出するサヌカイト原石で双子山群を確立し、またガラス質安山岩は細石器時代に使用された原材で普通寺市の大麻山南からも産出している。香川県内の石器原材の産地では金山・五色台地域のサヌカイト原石を分類すると、金山西群、金山東群、国分寺群、蓮光寺群、白峰群、法印谷群の6個の群、城山群および双子山群に、またガラス質安山岩は金山奥池、雄山、神谷町南山地区で採取され、大麻山南産は大麻山南第一、二群の2群にそれぞれ分類されて区別が可能なことを明らかにした。これらガラス質安山岩は成分的に黒曜石に近く、また肉眼観察では下呂石に酷似するもの、西北九州産の中町、淀姫産黒曜石、大串、亀岳原石と酷似するものもみられ、風化した遺物ではこれら似た原材の肉眼での区別は困難と思われ、正確な原材産地の判定は分析が必要である。金山・五色台地域産のサヌカイト原石の諸群にほとんど一致する元素組成を示すサヌカイト原石が淡路島の岩屋原産地の堆積層から円礫状で採取され、大阪府和泉・岸和田産地の礫層、和歌山県梅原産地の礫層から、金山・五色台地域の諸群の一部に一致し、これらが金山・五色台地域から流れ着いたことがわかる。淡路島中部地域の原産地である西路山地区および大崩地区からもサヌカイト原石が採取される。余良県北葛城郡当麻町に位置する二上山の原石で二上山群を作った。この二上山群と組成の類似する原石は和泉・岸和田の礫層産地から6%の割合で採取される。中国山地のサヌカイト産地として代表的な産地は山口、島根、広島の県境に位置する冠山地域で、冠山、鬼ヶ城の山腹には安山岩の露頭が、また山麓からは崖錐角礫として転石として見られる。伴藏地区的冠高原スキー場一帯（冠高原地点と呼ぶ）から良質原石が採取でき、冠高原群および伴藏C、A群を作った。冠高原スキー場から南方の飯山地区的針山地点（飯山地点と呼ぶ）の原石で飯山群を作った。また、頓原地区産出原石で冠山東群を作った。また、考古学者の間で石器原材として使用されたのではないかと話題に上る産地の一の、山口県熊毛郡平生町産の安山岩原石を分析し平生群を作り、この原石を使用した石器か否かの判定ができるようにした。九州地域産地では佐賀県多久、老松山と隣の岡本、西有田、嬉野町では松尾、椎葉川などで良質の原石が採取できる。長崎県では大串、亀岳産地、川棚、福井洞窟遺跡地域で産出する福井産原石、松浦半島産の牟田産原石、また、山下実氏発見の雲仙駒崎鼻産サヌカイトと福岡県昭和池採取原石の群が整備され、この他原産地不明の遺物で作った遺物群など合計100個の原石群が調査されている。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製の石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行った場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。一方、サヌカイト製は風化のために表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このためサヌカイト製造物については、測定面の風化した部分に、圧縮空気によって

アルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除く、エアープレイシブ処理で新鮮面を出して測定を行なった。

今回分析した計志加里遺跡出土の黒曜石、サヌカイト製造物の分析結果を表4-1、-2に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRr/Zrの一変量だけを考えると、表4-1の試料番号76769番の遺物ではRr/Zrの値は1.549で、腰岳群の〔平均値〕±〔標準偏差値〕は、 1.600 ± 0.086 である。遺物と原石群の差を標準偏差値 (σ) を基準にして考えると遺物は原石群から 0.6σ 離れている。ところで腰岳群の原産地から100ヶの原石を探ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.6\sigma$ のずれより大きいものが54個ある。すなわち、この遺物が、腰岳群の原石から作られていたと仮定しても、 0.6σ 以上離れる確率は54%であると言える。だから、腰岳群の平均値から 0.6σ しか離れていないときには、この遺物が腰岳群の原石から作られたものではないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を桑ノ木津留第1群に比較すると、桑ノ木津留第1群の平均値からの隔たりは、約 9σ である。これを確率の言葉で表現すると、桑ノ木津留第1の産地の原石を探ってきて分析したとき、平均値から 9σ 以上離れている確率は、十億分の一であると言える。このように、十億個に1個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、桑ノ木津留第1産の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことと簡単にまとめて言うと、「この遺物は腰岳群に54%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから腰岳群原石が使用されていると同定され、さらに桑ノ木津留第1群に一千万分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから桑ノ木津留第1産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（腰岳群産地）と一致したからと言って、例え腰岳群と桑ノ木津留第1群の原石は成分が異なっていても、分析している試料は原石ではなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（腰岳群）に一致し必要条件を満たしたと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の202個すべての原石群について行い、十分条件である低い確率で帰属された原石群を消していくことにより、はじめて腰岳群産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRr/Zrといった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とSr元素との間に相関があり、Caの量を計ればSrの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Sr量も一致するはずである。もしSr量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する^{4, 5}。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では202個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、腰岳群産原石と

判定された遺物について、台湾の台東山脈産原石、北朝鮮の会寧遺跡で使用された原石と同じ組成の原石とか、信州和田峠、露ヶ峰産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表5-1、-2に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、小さな遺物試料によって原石試料と同じ測定精度で元素含有量を求めるには、測定時間を長くしなければならない。しかし、多数の試料を処理するために、1個の遺物に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。また、検出された元素であっても、含有量の少ない元素では、得られた遺物の測定値には大きな誤差範囲が含まれ、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD2乗の値が原石群の中で最も小さなD2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、その原石産地と考へてほど間違ないと判断されたものである。

今回、分析した計志加里遺跡出土の黒曜石製、サヌカイト製造物は黒曜石製造物43個、ガラス質安山岩系遺物2個、サヌカイト製造物6個および上牛鼻産地で採取された安山岩様原石1個の合計62個である。黒曜石で腰岳系と同定された遺物は分析番号76769(1)～76793(25)番、76802(34)～76810(36/3)番および76813(39)番の合計35個であった。腰岳系の原石は露頭のある腰岳産地以外に転礫として松浦、古里地区からも円礫として採取でき（表2）、腰岳露頭産地から採取された原石か、転礫かの判定は遺物の自然表面によって判定される。腰岳系と判定された76803(35/1)～76810番の釘状の原石様遺物を未処理の水和層を通して元素分析を行い産地同定を行なったが腰岳系と同定された。しかし、水和層の影響が分析値に反映され、腰岳系と同定された可能性が推測されるため、76810(36/3)番の遺物にエアーブレイシブ処理を行い水和層を取り除いた（新鮮面に近い？）後に分析を行った。水和層で影響を受ける元素比はK元素を分母にとる元素比で、小さな値になる。原因是不明であるが、何処の産地の黒曜石にも共通の現象である。処理後の*76810番の元素比の変化は小さく、水和層の影響による同定原石産地の誤判定が無いことが確認された。従って、未処理の釘状原石様遺物の同定結果は正しいと推測された。また、釘状原石遺物の自然面の風化層は滑らかで風化の進行が抑制される環境の状態にあったと思われ、このため風化層を通して産地同定が可能であったと推測される。一方、他の角礫塊状原石の剥片遺物の自然面は細目のサンドペーパ状で風化がかなり進行した状態と推測され、両原石とも腰岳露頭産地から採取されたと思われる。腰岳系と同定された遺物の自然面で円礫と確定できる遺物は確認できなかった。76794(26)、76795(27)は地元上牛鼻産原石と同定された。76796(28)番と76797(29)番の遺物は角礫の自然面を持つことから、淀姫露頭原石産地より採取された原石が伝播した可能性が推測される。76681(30)番はローリング摩耗を受けた様な微少爪型の円礫自然面を残す、不透明灰色系の黒曜石製造物で、エアーブレイシブ処理を行い水和層を取り除いた（新鮮面に近い？）後に分析を行なった結果で、表1の201群の何処の群にも信頼限界としている0.1%以上の確率で同定されなかつたために、新鮮面を出して、48回分析し計志加里遺跡出土No.30遺物でKK1遺物群を作った。また、76799(31)番も外見上は76681番と同じ系統

の黒曜石であるが、KK1遺物群を含む表1の201群の何処の群にも信頼限界としている0.1%以上の確率で同定されなかったために新鮮面を出し、48回分析しKK2遺物群を作り、これら遺物群が他の遺跡で使用されている使用圏とか原産地が発見されたときに直ちに判定できるようにした。76800(32)、76801(33)番は灰白色系の黒曜石で古里産地または椎葉川産地の原石と同定され、76800はローリング摩耗を受けた様な自然面を持っていて椎葉川露頭産地から流れた椎葉川河川砾または古里海岸砾として採取された可能性が推測される。気泡の多い76811(37)、風化層除去処理した76812(38)、76815(41)～76817(43)番は地元産地の日東または五女木の原石と同定され、76814(40)番は白浜産と同定された。また、同じく斑晶とか気泡の多い76813(39)番が腰岳産と同定され肉眼的に随分差のある、腰岳露頭産原石が本遺跡に多数伝播していることが判明した。肉眼観察で、ガラス質安山岩と分類された76826(50)、76827(51)番は円錐自然面をもつ剥片で、76827番は割ると肉眼観察で淀姫様、または嬉野地区産黒曜石に酷似することが観察され、表1の202群と比較すると、嬉野地区の松尾第2群、松尾第1群の黒曜石群に帰属された。安山岩と分類された76820(44)～7625(49)番は多久産原石が使用されていることが産地分析の結果明らかになった。

以上、計志加里遺跡では、地元日東・五女木、白浜地区の石器原材の他に、西北九州地域の腰岳、淀姫、嬉野、多久地域からの石器原材の伝播が明らかになり、これら同定された産地地方と交流があり産地地方の生活情報、文化情報が計志加里遺跡に伝播していた。また、逆に計志加里遺跡の文化情報が九州西北地域に伝播していたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

- 1) 薩科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅰ)。考古学と自然科学, 8:61-69
- 2) 薩科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977),(1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学, 10,11:53-81;33-47
- 3) 薩科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90
- 5) 東村武信(1980), 考古学と物理化学。学生社



図1 黒曜石原产地



図2 サヌカイト及びサヌカイト様岩石の原产地

表1-1 各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

表1-3 各黒耀石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石群名	分析 個数	元素比										
		Ca/K	Tl/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Str/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
新潟県 原石群名	34	0.238±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.412±0.018	0.049±0.017	0.034±0.004	0.338±0.013	
	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.036±0.002	0.338±0.009	
	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.581±0.042	0.773±0.029	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009	
	44	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.581±0.042	0.773±0.029	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009	
	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.031±0.001	1.490±0.049	0.361±0.012	0.332±0.001	0.186±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014	
	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.518±0.027	0.283±0.012	0.181±0.015	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012	
石川県 原石群名	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1.354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.016	0.100±0.028	0.023±0.007	0.340±0.030	
	17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.066±0.009	2.999±0.067	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017	
	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.875±0.039	0.113±0.020	0.061±0.015	0.032±0.002	0.450±0.010	
	三里	17	0.350±0.012	0.123±0.008	0.036±0.006	1.581±0.081	0.608±0.031	0.798±0.037	0.092±0.020	0.062±0.013	0.251±0.002	0.381±0.008
	垂住第一群 第二群	30	0.216±0.004	0.062±0.002	0.045±0.005	1.802±0.056	0.883±0.004	0.265±0.012	0.079±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	0.365±0.008
	兵庫県	40	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	0.813±0.045	0.395±0.027	0.201±0.012	0.112±0.026	0.138±0.024	0.035±0.012	0.446±0.012
島根県 原石群名	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.089±0.003	0.681±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.049±0.016	
	30	0.161±0.008	0.032±0.012	0.015±0.005	0.940±0.029	0.301±0.014	0.015±0.005	0.660±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.008	
	31	0.145±0.006	0.051±0.003	0.021±0.004	0.989±0.023	0.386±0.001	0.077±0.007	0.109±0.013	0.238±0.011	0.022±0.002	0.153±0.016	
	39	0.167±0.003	0.033±0.023	0.042±0.003	1.253±0.179	0.694±0.080	0.101±0.073	0.038±0.023	0.047±0.013	0.041±0.009	0.487±0.016	
	34	0.104±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	1.305±0.178	0.695±0.048	0.102±0.039	0.079±0.030	0.072±0.018	0.038±0.008	0.476±0.012	
	福岡県	68	0.261±0.011	0.207±0.007	0.033±0.003	1.126±0.070	0.866±0.061	1.350±0.082	0.228±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.011
佐賀県 原石群名	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.819±0.083	0.528±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011	
	* 第二群	50	0.350±0.016	0.194±0.018	0.032±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.244±0.019	0.042±0.013	0.054±0.014	0.507±0.013
	梅	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	2.329±0.205	1.046±0.063	1.269±0.058	0.194±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009
	栗	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.232	1.600±0.088	0.414±0.046	0.311±0.046	0.256±0.041	0.025±0.002	0.355±0.008
	蘿	51	0.186±0.017	0.047±0.008	0.032±0.008	2.320±0.213	1.533±0.081	2.103±0.098	0.147±0.023	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.014
	大崩山南	39	0.167±0.003	0.033±0.023	0.042±0.003	1.253±0.179	0.694±0.080	0.101±0.073	0.038±0.023	0.047±0.013	0.041±0.009	0.487±0.016
	* 第二群	34	0.104±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	1.305±0.178	0.695±0.048	0.102±0.039	0.079±0.030	0.072±0.018	0.038±0.008	0.476±0.012
香川県 原石群名	八女明月池浦	68	0.261±0.011	0.207±0.007	0.033±0.003	1.023±0.051	0.717±0.009	0.034±0.008	0.034±0.006	0.027±0.006	0.279±0.009	
	中野	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.819±0.083	0.528±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.011
	* 第二群	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.555±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.028±0.008	0.328±0.008
	梅	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	2.329±0.205	1.046±0.063	1.269±0.058	0.194±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.009
	栗	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.232	1.600±0.088	0.414±0.046	0.311±0.046	0.256±0.041	0.025±0.002	0.355±0.008
	蘿	51	0.186±0.017	0.047±0.008	0.032±0.008	2.320±0.213	1.533±0.081	2.103±0.098	0.147±0.023	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.014
大分県 原石群名	筑	41	0.216±0.017	0.065±0.003	0.020±0.005	0.887±0.080	1.869±0.200	1.371±0.180	0.325±0.058	0.032±0.009	0.035±0.005	0.418±0.011
	島	42	0.261±0.016	0.065±0.003	0.020±0.005	0.887±0.080	1.869±0.200	1.371±0.180	0.325±0.058	0.032±0.009	0.035±0.005	0.419±0.010
	嶺	43	0.244±0.017	0.065±0.003	0.020±0.005	0.887±0.080	1.869±0.200	1.371±0.180	0.325±0.058	0.032±0.009	0.035±0.005	0.420±0.010
	島	44	0.244±0.017	0.065±0.003	0.020±0.005	0.887±0.080	1.869±0.200	1.371±0.180	0.325±0.058	0.032±0.009	0.035±0.005	0.421±0.010
	城	45	0.244±0.017	0.065±0.003	0.020±0.005	0.887±0.080	1.869±0.200	1.371±0.180	0.325±0.058	0.032±0.009	0.035±0.005	0.422±0.010
	城	46	0.244±0.017	0.065±0.003	0.020±0.005	0.887±0.080	1.869±0.200	1.371±0.180	0.325±0.058	0.032±0.009	0.035±0.005	0.423±0.010
熊本県 原石群名	松	30	0.313±0.023	0.127±0.007	0.065±0.001	1.498±0.124	0.600±0.051	0.688±0.012	0.175±0.018	0.102±0.020	0.023±0.002	0.371±0.009
	疾	50	0.161±0.042	0.070±0.013	0.096±0.008	1.559±0.269	0.284±0.031	1.526±0.055	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0.011
	台	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.005	1.381±0.095	0.030±0.009	0.334±0.026	0.159±0.026	0.022±0.009	0.288±0.016	
	尾	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.005	1.381±0.095	0.030±0.009	0.334±0.026	0.159±0.026	0.022±0.009	0.288±0.016	
	平	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.005	1.381±0.095	0.030±0.009	0.334±0.026	0.159±0.026	0.022±0.009	0.288±0.016	
	尾	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.005	1.381±0.095	0.030±0.009	0.334±0.026	0.159±0.026	0.022±0.009	0.288±0.016	
宮崎県 原石群名	桑	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.880±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	* 第一群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.069	1.342±0.069	0.205±0.029	0.047±0.020	0.047±0.019	0.022±0.002	0.323±0.019
	* 第二群	36	0.261±0.018	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.069	1.342±0.069	0.205±0.029	0.047±0.020	0.047±0.019	0.022±0.002	0.323±0.019
	梅	36	0.261±0.018	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.069	1.342±0.069	0.205±0.029	0.047±0.020	0.047±0.019	0.022±0.002	0.323±0.019
	橘	47	0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.880±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0.011
	橘	36	0.261±0.018	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.069	1.342±0.069	0.205±0.029	0.047±0.020	0.047±0.019	0.022±0.002	0.323±0.019
鹿児島県 原石群名	国	45	0.195±0.010	0.083±0.005	0.047±0.005	1.611±0.079	0.748±0.055	0.429±0.026	0.271±0.064	0.024±0.008	0.036±0.014	
	* 第一群	45	0.227±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.729±0.057	0.427±0.025	0.275±0.063	0.025±0.007	0.037±0.010	
	* 第二群	45	0.227±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.729±0.057	0.427±0.025	0.275±0.063	0.025±0.007	0.037±0.010	
	ケ	45	0.227±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.729±0.057	0.427±0.025	0.275±0.063	0.025±0.007	0.037±0.010	
	ア	45	0.227±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.729±0.057	0.427±0.025	0.275±0.063	0.025±0.007	0.037±0.010	
	シ	45	0.227±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.488±0.074	0.729±0.057	0.427±0.025	0.275±0.063	0.025±0.007	0.037±0.010	
台	台	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.070±0.007	1.862±0.079	0.535±0.019	0.515±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
	東	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.070±0.007	1.862±0.079	0.535±0.019	0.515±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
	東	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.070±0.007	1.862±0.079	0.535±0.019	0.515±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
	東	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.070±0.007	1.862±0.079	0.535±0.019	0.515±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
	東	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.070±0.007	1.862±0.079	0.535±0.019	0.515±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
	西	37	0.510±0.010	0.198±0.007	0.070±0.007	1.862±0.079	0.535±0.019	0.515±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.029±0.007	0.407±0.010
ロシア	カムチャッカ	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.011	0.009±0.014	0.039±0.010	0.460±0.030

表1-5 各黒曜石の原产地における黒曜石製造物群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 底生生物	分析 箇数	元素比										Nb/Zr	Al/K	Sl/K	
		Ca/K	Tl/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Se/Zr	Y/Zr	Nb/Zr						
北海道 底生生物	HS1 魚類	67	0.241 ± 0.021	1.07 ± 0.005	0.618 ± 0.006	1.296 ± 0.077	0.430 ± 0.016	0.153 ± 0.006	0.140 ± 0.015	0.008 ± 0.013	0.018 ± 0.012	0.325 ± 0.042			
	HS2 魚類	60	0.453 ± 0.011	1.15 ± 0.008	0.041 ± 0.008	1.765 ± 0.075	0.448 ± 0.021	0.419 ± 0.019	0.130 ± 0.005	0.015 ± 0.019	0.034 ± 0.013	0.605 ± 0.010			
	FR1 魚類	59	0.270 ± 0.011	1.06 ± 0.005	0.502 ± 0.005	1.280 ± 0.075	0.440 ± 0.017	0.152 ± 0.005	0.140 ± 0.015	0.008 ± 0.013	0.018 ± 0.012	0.467 ± 0.047			
	FR2 魚類	59	0.355 ± 0.061	0.96 ± 0.012	0.502 ± 0.005	1.280 ± 0.075	0.440 ± 0.017	0.152 ± 0.005	0.140 ± 0.015	0.008 ± 0.013	0.018 ± 0.012	0.467 ± 0.047			
	FR3 魚類	37	0.380 ± 0.037	0.84 ± 0.007	0.032 ± 0.009	2.548 ± 0.445	0.584 ± 0.064	0.681 ± 0.033	0.164 ± 0.021	0.017 ± 0.023	0.023 ± 0.013	0.230 ± 0.037			
	FR4 魚類	44	0.261 ± 0.043	0.74 ± 0.010	0.032 ± 0.009	2.500 ± 0.117	0.539 ± 0.057	0.677 ± 0.032	0.155 ± 0.023	0.009 ± 0.017	0.018 ± 0.012	0.258 ± 0.036			
	FH1 魚類	32	0.398 ± 0.032	0.221 ± 0.007	0.054 ± 0.006	2.549 ± 0.101	0.426 ± 0.018	0.802 ± 0.023	0.109 ± 0.013	0.017 ± 0.021	0.037 ± 0.003	0.647 ± 0.011			
	KT1 魚類	51	1.103 ± 0.050	0.46 ± 0.007	0.081 ± 0.006	2.949 ± 0.133	0.314 ± 0.053	0.775 ± 0.026	0.133 ± 0.016	0.019 ± 0.021	0.043 ± 0.007	0.516 ± 0.013			
	KT2 魚類	38	0.359 ± 0.027	1.15 ± 0.004	0.038 ± 0.010	2.882 ± 0.092	0.542 ± 0.021	1.114 ± 0.040	0.167 ± 0.015	0.012 ± 0.016	0.042 ± 0.007	0.519 ± 0.010			
	KS1 魚類	62	0.244 ± 0.011	0.70 ± 0.004	0.036 ± 0.006	2.749 ± 0.118	0.508 ± 0.026	0.823 ± 0.032	0.147 ± 0.015	0.019 ± 0.021	0.047 ± 0.007	0.519 ± 0.010			
	KS2 魚類	62	0.244 ± 0.011	0.70 ± 0.004	0.036 ± 0.006	2.749 ± 0.118	0.508 ± 0.026	0.823 ± 0.032	0.147 ± 0.015	0.019 ± 0.021	0.047 ± 0.007	0.519 ± 0.010			
	KS3 魚類	44	0.164 ± 0.008	0.041 ± 0.002	0.086 ± 0.013	2.565 ± 0.126	0.460 ± 0.057	0.162 ± 0.019	0.389 ± 0.042	0.069 ± 0.028	0.024 ± 0.002	0.327 ± 0.017			
	K19 魚類	45	0.185 ± 0.007	0.049 ± 0.003	0.081 ± 0.013	2.162 ± 0.122	0.438 ± 0.025	0.263 ± 0.028	0.050 ± 0.019	0.023 ± 0.003	0.260 ± 0.009				
青森県 底生生物	HY1 魚類	31	0.238 ± 0.011	0.131 ± 0.006	0.048 ± 0.008	1.636 ± 0.056	0.018 ± 0.004	0.441 ± 0.015	0.042 ± 0.004	0.029 ± 0.009	0.029 ± 0.015	0.841 ± 0.068			
	SN1 魚類	33	0.287 ± 0.006	0.087 ± 0.004	0.035 ± 0.005	1.597 ± 0.037	0.244 ± 0.011	0.258 ± 0.011	0.138 ± 0.012	0.009 ± 0.012	0.021 ± 0.006	0.329 ± 0.020			
	SN2 魚類	29	0.209 ± 0.006	0.116 ± 0.006	0.076 ± 0.006	1.571 ± 0.082	0.176 ± 0.038	0.292 ± 0.017	0.264 ± 0.029	0.028 ± 0.030	0.023 ± 0.009	0.383 ± 0.015			
秋田県 底生生物	KN 魚類	107	0.351 ± 0.011	0.121 ± 0.006	0.053 ± 0.007	1.581 ± 0.071	0.347 ± 0.020	0.219 ± 0.014	0.216 ± 0.015	0.054 ± 0.017	0.029 ± 0.017	0.475 ± 0.040			
	TB 魚類	60	0.252 ± 0.014	0.133 ± 0.007	0.124 ± 0.015	1.805 ± 0.088	0.375 ± 0.054	0.663 ± 0.030	0.272 ± 0.029	0.083 ± 0.037	0.026 ± 0.016	0.378 ± 0.027			
岩手県 底生生物	AI1 魚類	41	1.159 ± 0.026	0.227 ± 0.007	0.070 ± 0.006	2.349 ± 0.077	0.167 ± 0.010	0.526 ± 0.017	0.251 ± 0.013	0.009 ± 0.013	0.058 ± 0.017	0.297 ± 0.024			
	AI2 魚類	61	0.417 ± 0.014	0.374 ± 0.005	0.070 ± 0.006	2.096 ± 0.078	0.169 ± 0.014	0.516 ± 0.019	0.216 ± 0.013	0.008 ± 0.014	0.053 ± 0.013	0.332 ± 0.030			
	AI3 魚類	61	0.417 ± 0.014	0.374 ± 0.005	0.070 ± 0.006	2.096 ± 0.078	0.169 ± 0.014	0.516 ± 0.019	0.216 ± 0.013	0.008 ± 0.014	0.053 ± 0.013	0.332 ± 0.030			
	AI4 魚類	122	1.150 ± 0.059	0.474 ± 0.022	0.067 ± 0.007	2.055 ± 0.077	0.083 ± 0.008	0.531 ± 0.030	0.177 ± 0.011	0.011 ± 0.012	0.024 ± 0.004	0.265 ± 0.018			
	A15 魚類	122	1.167 ± 0.052	0.496 ± 0.027	0.061 ± 0.007	2.077 ± 0.078	0.083 ± 0.008	0.531 ± 0.030	0.177 ± 0.011	0.011 ± 0.012	0.024 ± 0.004	0.265 ± 0.018			
	FS 魚類	45	0.272 ± 0.090	0.079 ± 0.029	0.053 ± 0.010	1.791 ± 0.103	0.327 ± 0.019	0.453 ± 0.024	0.207 ± 0.018	0.029 ± 0.027	0.017 ± 0.011	0.339 ± 0.011			
	SD 魚類	48	2.900 ± 0.050	0.741 ± 0.016	0.118 ± 0.017	3.292 ± 0.277	0.177 ± 0.012	0.306 ± 0.028	0.246 ± 0.013	0.008 ± 0.017	0.083 ± 0.013	1.195 ± 0.011			
	AC1 魚類	63	0.479 ± 0.014	0.192 ± 0.006	0.054 ± 0.008	1.581 ± 0.075	0.405 ± 0.007	0.401 ± 0.010	0.189 ± 0.011	0.011 ± 0.015	0.033 ± 0.005	0.427 ± 0.016			
	AC2 魚類	49	0.251 ± 0.007	0.081 ± 0.003	0.112 ± 0.013	2.018 ± 0.076	0.094 ± 0.013	0.406 ± 0.020	0.409 ± 0.024	0.016 ± 0.023	0.036 ± 0.013	0.419 ± 0.017			
	AC3 魚類	36	0.567 ± 0.016	0.144 ± 0.005	0.083 ± 0.010	1.891 ± 0.051	0.020 ± 0.010	0.381 ± 0.017	0.285 ± 0.018	0.041 ± 0.012	0.049 ± 0.005	0.615 ± 0.013			
新潟県 底生生物	IN1 魚類	48	0.326 ± 0.012	0.078 ± 0.004	0.066 ± 0.010	2.036 ± 0.117	0.091 ± 0.048	0.751 ± 0.044	0.173 ± 0.020	0.068 ± 0.016	0.028 ± 0.008	0.338 ± 0.007			
	IN2 魚類	48	0.745 ± 0.013	0.119 ± 0.004	0.149 ± 0.015	3.176 ± 0.221	0.278 ± 0.038	0.582 ± 0.036	0.164 ± 0.030	0.038 ± 0.013	0.036 ± 0.005	0.396 ± 0.010			
	長野県 底生生物	NK 魚類	57	0.566 ± 0.019	0.163 ± 0.007	0.086 ± 0.011	2.182 ± 0.084	0.467 ± 0.031	0.191 ± 0.061	0.102 ± 0.022	0.041 ± 0.028	0.038 ± 0.008	0.500 ± 0.014		
	山口県 底生生物	YM 魚類	55	0.381 ± 0.018	0.138 ± 0.006	0.038 ± 0.003	1.612 ± 0.102	0.021 ± 0.019	0.097 ± 0.022	0.128 ± 0.022	0.047 ± 0.016	0.023 ± 0.003	0.331 ± 0.013		
鹿児島県 底生生物	NM 魚類	40	0.396 ± 0.020	0.103 ± 0.003	0.042 ± 0.012	1.751 ± 0.083	0.104 ± 0.003	0.515 ± 0.034	0.196 ± 0.037	0.058 ± 0.018	0.022 ± 0.006	0.326 ± 0.011			
	MK-1 魚類	48	0.367 ± 0.008	0.059 ± 0.002	0.046 ± 0.006	1.667 ± 0.073	0.073 ± 0.007	0.096 ± 0.006	0.125 ± 0.002	0.029 ± 0.001	0.022 ± 0.002	0.337 ± 0.010			
	MK-2 魚類	48	0.258 ± 0.010	0.026 ± 0.002	0.045 ± 0.013	1.745 ± 0.121	0.149 ± 0.029	0.297 ± 0.029	0.203 ± 0.027	0.017 ± 0.022	0.021 ± 0.002	0.286 ± 0.011			
	KI1 魚類	45	0.383 ± 0.012	0.101 ± 0.005	0.061 ± 0.024	1.913 ± 0.058	0.085 ± 0.005	0.527 ± 0.038	0.197 ± 0.036	0.079 ± 0.028	0.028 ± 0.002	0.402 ± 0.009			
	KI2 魚類	46	0.402 ± 0.015	0.146 ± 0.008	0.066 ± 0.017	1.529 ± 0.148	0.279 ± 0.052	0.565 ± 0.038	0.137 ± 0.024	0.083 ± 0.026	0.029 ± 0.003	0.443 ± 0.027			
	UT1 魚類	46	0.297 ± 0.013	0.107 ± 0.005	0.053 ± 0.011	1.638 ± 0.104	0.120 ± 0.026	0.036 ± 0.036	0.168 ± 0.027	0.034 ± 0.028	0.024 ± 0.011	0.330 ± 0.014			
	S G 魚類	46	1.668 ± 0.034	0.078 ± 0.008	0.082 ± 0.019	4.106 ± 2.022	0.022 ± 0.014	0.699 ± 0.022	0.133 ± 0.013	0.015 ± 0.019	0.027 ± 0.002	0.553 ± 0.033			
	KI3 魚類	45	0.373 ± 0.010	0.083 ± 0.008	0.061 ± 0.010	1.638 ± 0.156	0.176 ± 0.015	0.047 ± 0.016	0.186 ± 0.018	0.034 ± 0.017	0.025 ± 0.002	0.355 ± 0.009			
	KI4 魚類	45	0.373 ± 0.010	0.083 ± 0.008	0.061 ± 0.010	1.638 ± 0.156	0.176 ± 0.015	0.047 ± 0.016	0.186 ± 0.018	0.034 ± 0.017	0.025 ± 0.002	0.355 ± 0.009			
	KK1 魚類	45	0.343 ± 0.019	0.086 ± 0.003	0.061 ± 0.010	1.638 ± 0.156	0.176 ± 0.015	0.047 ± 0.016	0.186 ± 0.018	0.034 ± 0.017	0.025 ± 0.002	0.355 ± 0.009			
	KK2 魚類	45	0.521 ± 0.022	0.132 ± 0.004	0.076 ± 0.017	3.125 ± 0.272	0.087 ± 0.048	1.507 ± 0.027	0.199 ± 0.026	0.017 ± 0.022	0.025 ± 0.002	0.358 ± 0.009			

表1-6 各黒曜石の原産地における黒曜石製造物群の元素比の平均値と標準偏差

表-10 無重石の原産地における無重石表面物研究リル系比の十回値と標準偏差												
原産地 原石名	分析 箇数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K	
会津等 黒雲母 斑岩	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012	
北朝鮮												
ロシア	イリヤスキ パラトウカン ナチ アバチャ	26 55 46 55 48 48 48 48 48 48	18.888±2.180 0.976±0.048 0.717±0.018 0.976±0.048 0.834±0.068 0.141±0.007 0.220±0.008 0.141±0.007 0.220±0.008 0.141±0.007	0.088±0.004 0.225±0.001 0.043±0.010 0.064±0.003 0.064±0.003 0.043±0.003 0.043±0.003 0.043±0.003 0.043±0.003 0.043±0.003	2.003±0.027 1.851±0.049 0.826±0.046 0.904±0.047 0.904±0.047 0.826±0.046 0.826±0.046 0.826±0.046 0.826±0.046 0.826±0.046	2.608±0.267 0.246±0.014 0.752±0.070 0.075±0.016 0.075±0.016 0.051±0.008 0.051±0.008 0.051±0.008 0.051±0.008 0.051±0.008	0.055±0.017 0.017±0.001 0.075±0.016 0.015±0.006 0.015±0.006 0.013±0.003 0.013±0.003 0.013±0.003 0.013±0.003 0.013±0.003	0.055±0.017 0.017±0.001 0.075±0.016 0.015±0.006 0.015±0.006 0.013±0.003 0.013±0.003 0.013±0.003 0.013±0.003 0.013±0.003	0.017±0.001 0.004±0.001 0.016±0.001 0.016±0.001 0.016±0.001 0.016±0.001 0.016±0.001 0.016±0.001 0.016±0.001 0.016±0.001	0.067±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020 0.048±0.020	1.674±0.240 0.482±0.022 0.482±0.022 0.482±0.022 0.482±0.022 0.482±0.022 0.482±0.022 0.482±0.022 0.482±0.022 0.482±0.022	
標準試料	JG - 1'	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	7.919±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.25±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

表2 九州西北地域原産地採取原石が各原石群に同定される割合の百分率(%)

注：同定確率を1%以上に設定した。古里陵地で採取された原石

1個(No.6) 判定例
-古里第1群(62%), 松浦第1群(37%), 松浦第2群(23%)。 膽岳(21%)が1%以上で同定され残りの125個の原石群に対しては1%以下の同定確率であった。 古里陸地(66個)の胆岳群37%は66個の中の37%個は胆岳群に1%以上の同定確率で帰属される。

表3-1 各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地 原石名	分析 値	元素										Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
		K/Ca	Tl/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr							
北海道 イトム 尾	46	0.359±0.020	0.430±0.014	0.81±0.006	5.884±0.223	0.166±0.011	0.120±0.013	0.883±0.030	0.015±0.013	0.013±0.001	0.137±0.007				
北海道 山	80	0.351±0.011	0.288±0.010	0.809±0.005	5.664±0.240	0.140±0.017	0.091±0.009	0.603±0.029	0.015±0.012	0.015±0.001	0.141±0.005				
新潟県 野	48	0.231±0.008	0.349±0.024	0.414±0.015	10.218±0.328	0.141±0.012	0.159±0.011	0.819±0.042	0.019±0.012	0.012±0.001	0.124±0.005				
群馬県 荒	山	43	0.194±0.070	0.360±0.028	0.129±0.014	9.205±1.153	0.080±0.034	0.065±0.014	0.458±0.082	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032			
長野県 八 ヶ 岳	川	70	0.183±0.067	0.340±0.017	0.153±0.011	11.018±0.398	0.118±0.011	0.157±0.013	0.771±0.030	0.019±0.009	0.021±0.001	0.113±0.009			
神奈川 火 打	沢	49	0.092±0.005	0.285±0.008	0.166±0.009	12.406±0.332	0.023±0.008	0.111±0.008	0.483±0.023	0.005±0.007	0.012±0.001	0.121±0.001			
岐阜県 下	呂	93	1.576±0.055	0.227±0.011	0.383±0.004	0.766±0.025	0.277±0.020	0.813±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.052			
奈良県 上	山	51	0.288±0.010	0.215±0.008	0.071±0.006	4.639±0.270	0.202±0.012	0.866±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.001	0.144±0.005			
大阪府 和	泉	26	0.494±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.060±0.148	0.296±0.026	0.055±0.001	0.706±0.025	0.038±0.001	0.023±0.001	0.194±0.029			
兵庫県 岩	郡	28	0.616±0.021	0.244±0.012	0.057±0.004	3.610±0.189	0.365±0.019	0.064±0.012	0.846±0.026	0.027±0.017	0.018±0.001	0.186±0.007			
兵 庫 県 第 二 山	二	53	0.535±0.020	0.263±0.015	0.055±0.003	3.438±0.103	0.340±0.015	0.062±0.015	0.842±0.021	0.069±0.026	0.026±0.014	0.187±0.020	0.173±0.026		
	山	22	0.300±0.017	0.154±0.005	0.061±0.007	3.350±0.261	0.139±0.010	0.061±0.003	0.745±0.021	0.012±0.007	0.018±0.002	0.159±0.028			
香川県 五 色 白 印	分 光 印	28	0.457±0.011	0.251±0.007	0.053±0.004	3.574±0.122	0.311±0.019	0.062±0.010	0.870±0.033	0.038±0.015	0.015±0.001	0.149±0.025			
香 川 県 第 二 山	二	19	0.459±0.012	0.249±0.008	0.053±0.005	3.518±0.119	0.308±0.019	0.063±0.015	0.872±0.037	0.034±0.016	0.016±0.004	0.150±0.044			
	山	51	0.334±0.015	0.262±0.008	0.053±0.005	3.376±0.108	0.340±0.014	0.061±0.016	0.871±0.051	0.032±0.011	0.017±0.004	0.173±0.037			
香川県 金	山	20	0.397±0.009	0.239±0.008	0.069±0.005	4.619±0.127	0.277±0.012	0.655±0.011	1.145±0.029	0.031±0.011	0.015±0.004	0.130±0.049			
香 川 県 第 三 山	三	24	0.488±0.012	0.222±0.004	0.079±0.002	4.617±0.124	0.316±0.017	0.667±0.011	1.186±0.033	0.020±0.015	0.017±0.001	0.155±0.024			
	山	19	0.406±0.009	0.216±0.006	0.082±0.005	4.608±0.125	0.292±0.017	0.664±0.011	1.059±0.025	0.020±0.015	0.015±0.004	0.133±0.026			
高知県 城	山	63	0.402±0.011	0.216±0.006	0.079±0.006	4.741±0.138	0.289±0.014	0.668±0.016	1.065±0.026	0.021±0.014	0.013±0.001	0.116±0.003			
福井県 双	子	51	0.350±0.007	0.233±0.005	0.074±0.004	4.988±0.169	0.261±0.012	0.661±0.014	1.093±0.035	0.023±0.011	0.011±0.002	0.105±0.004			
福 井 県 第一 群	一	51	0.482±0.046	0.127±0.006	0.242±0.006	2.087±0.088	0.924±0.030	0.188±0.018	0.727±0.047	0.045±0.013	0.035±0.003	0.434±0.024			
	群	54	0.441±0.053	0.133±0.017	0.033±0.014	2.471±0.133	0.391±0.028	0.023±0.017	0.637±0.046	0.038±0.011	0.027±0.003	0.331±0.027			
福 井 県 第二 群	二	50	0.827±0.052	0.128±0.006	0.266±0.008	1.119±0.091	0.485±0.032	0.161±0.018	0.731±0.050	0.043±0.014	0.031±0.003	0.421±0.027			
	群	51	0.852±0.040	0.131±0.007	0.027±0.007	2.088±0.088	0.495±0.026	0.620±0.036	0.703±0.045	0.050±0.018	0.034±0.003	0.433±0.024			
大 阪 府 大 阪 市 第一 山	一	39	0.693±0.072	0.174±0.007	0.041±0.010	2.729±0.180	0.473±0.043	0.034±0.021	0.965±0.061	0.044±0.022	0.029±0.003	0.344±0.038			
	山	34	0.992±0.041	0.124±0.009	0.034±0.011	2.370±0.138	0.691±0.024	0.021±0.022	0.774±0.032	0.054±0.015	0.039±0.004	0.480±0.018			
愛媛県 中	井	40	0.458±0.041	0.374±0.007	0.073±0.002	5.160±0.157	0.393±0.022	0.108±0.017	1.473±0.051	0.037±0.021	0.020±0.009	0.226±0.046			
島根県 馬	山	23	0.188±0.007	0.175±0.006	0.011±0.001	9.616±0.033	0.032±0.006	0.011±0.002	0.177±0.009	0.009±0.004	0.005±0.001	0.111±0.005			
島 根 県 下 抄	下	46	0.163±0.008	0.162±0.004	0.021±0.003	1.447±0.038	0.028±0.004	0.011±0.003	0.262±0.007	0.008±0.003	0.005±0.001	0.119±0.005			
	抄	51	0.042±0.012	0.144±0.004	0.016±0.006	3.570±0.097	0.109±0.008	0.008±0.009	0.368±0.027	0.007±0.008	0.005±0.002	0.166±0.006			

表3-2 各サヌカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

平均地質標準偏差。*: 黒雲石繊維質安山岩 a): Ando, A., Kurassawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974) compilation of data on the GSJ geochemical reference samples EG-1 macrocryst and IR-1 basalts. Geochimical Journal Vol.8 175-192.

表3-3 原石産地不明の組成の似た遺物で作られた遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原产地 原石群名	分析 個数	元素比										
		K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca	
北海道 瀬戸内遺物群	35	0.352±0.029	0.291±0.021	0.094±0.012	5.376±0.721	0.179±0.015	0.103±0.016	0.874±0.101	0.018±0.011	0.017±0.021	0.156±0.090	
石川県 越後遺物群	39	0.476±0.016	0.596±0.012	0.097±0.003	5.229±0.168	0.160±0.030	0.10±0.015	1.282±0.033	0.031±0.008	0.025±0.017	0.228±0.075	
福島県 野村No.261地帯 野村No.271地帯 野村No.382地帯 野村No.389地帯 野村No.262地帯 野村No.293地帯	56	0.632±0.032	0.393±0.013	0.045±0.005	2.334±0.070	0.170±0.009	0.046±0.012	1.030±0.041	0.029±0.006	0.022±0.002	0.211±0.010	
	35	0.407±0.010	0.304±0.005	0.040±0.006	1.882±0.041	0.089±0.006	0.033±0.006	0.671±0.030	0.023±0.005	0.018±0.002	0.177±0.006	
	33	0.799±0.009	0.512±0.010	0.050±0.006	2.540±0.096	0.221±0.014	0.077±0.011	1.213±0.039	0.034±0.007	0.026±0.002	0.240±0.009	
	32	3.515±0.134	1.088±0.047	0.149±0.023	6.820±0.453	0.617±0.041	0.210±0.032	1.330±0.067	0.158±0.027	0.167±0.015	2.525±0.081	
	46	0.584±0.004	0.304±0.004	0.045±0.005	2.556±0.068	0.102±0.001	0.051±0.007	0.651±0.022	0.027±0.005	0.017±0.002	0.161±0.004	
	32	3.584±0.178	1.077±0.024	0.075±0.016	3.775±0.153	0.441±0.024	0.197±0.019	1.118±0.063	0.150±0.028	0.183±0.019	2.989±0.159	
	35	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.006	0.017±0.002	0.147±0.010	
	35	1.016±0.022	0.582±0.012	0.042±0.003	4.187±0.141	0.477±0.020	0.172±0.054	0.058±0.002	0.032±0.009	0.057±0.021		
	14	0.334±0.004	0.362±0.005	0.067±0.009	3.895±0.150	0.082±0.005	0.044±0.007	0.758±0.044	0.027±0.006	0.017±0.002	0.147±0.010	
	15	1.016±0.022	0.582±0.012	0.042±0.003	4.187±0.141	0.477±0.020	0.172±0.054	0.058±0.002	0.032±0.009	0.057±0.021		
大阪府 朝日N.6群 朝日N.10群	30	0.236±0.007	0.499±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.001	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002	
	30	0.310±0.003	0.203±0.003	0.052±0.004	3.734±0.074	0.228±0.016	0.059±0.011	0.610±0.021	0.011±0.012	0.017±0.001	0.147±0.002	
	13	0.209±0.007	0.499±0.003	0.075±0.005	4.966±0.089	0.194±0.001	0.063±0.011	0.588±0.019	0.010±0.011	0.015±0.001	0.127±0.002	
	30	0.309±0.003	0.226±0.003	0.055±0.005	4.305±0.085	0.208±0.019	0.060±0.009	0.628±0.011	0.010±0.010	0.015±0.001	0.136±0.002	
	13	0.263±0.007	0.498±0.003	0.075±0.005	4.536±0.105	0.624±0.019	0.139±0.027	1.425±0.054	0.059±0.019	0.097±0.003	1.963±0.055	
	13	0.300±0.005	0.226±0.005	0.055±0.005	4.077±0.066	0.363±0.014	0.048±0.012	1.088±0.022	0.022±0.016	0.028±0.002	0.256±0.004	
	13	0.333±0.002	0.177±0.002	0.056±0.006	6.355±0.098	0.112±0.007	0.044±0.012	0.328±0.028	0.009±0.009	0.011±0.001	0.102±0.002	
	13	0.361±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	2.987±0.060	0.241±0.010	0.063±0.014	0.884±0.023	0.027±0.008	0.018±0.001	0.170±0.004	
	13	0.372±0.004	0.250±0.004	0.049±0.007	3.105±0.070	0.238±0.010	0.063±0.014	0.884±0.023	0.027±0.008	0.018±0.001	0.176±0.004	
	13	0.381±0.004	0.250±0.004	0.053±0.005	4.359±0.132	0.217±0.015	0.067±0.009	0.651±0.023	0.028±0.009	0.015±0.002	0.129±0.006	
	48	0.240±0.002	0.284±0.003	0.058±0.007	4.106±0.087	0.166±0.019	0.069±0.009	0.682±0.021	0.022±0.008	0.018±0.002	0.123±0.004	
鳥取県 西ノ山2.0群 西ノ山2.0群	48	0.481±0.008	0.509±0.009	0.049±0.009	2.278±0.047	0.098±0.006	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.334±0.007	0.508±0.007	0.049±0.008	2.589±0.079	0.068±0.004	0.051±0.008	0.622±0.025	0.048±0.006	0.021±0.002	0.152±0.006	
福島県 平田遺物群 山下遺物群 山下山道遺物群 山下山道遺物群 山下山道遺物群 山下山道遺物群 山下山道遺物群 山下山道遺物群 山下山道遺物群 山下山道遺物群	70	0.211±0.006	0.296±0.007	0.042±0.004	7.108±0.245	0.170±0.011	0.052±0.010	0.021±0.008	0.013±0.001	0.118±0.005		
	44	3.616±0.177	2.341±0.134	0.158±0.044	17.661±1.079	1.099±0.048	0.268±0.036	2.124±0.108	0.157±0.035	0.116±0.012	2.101±0.085	
	60	0.190±0.003	0.265±0.003	0.059±0.010	6.872±0.311	0.083±0.008	0.064±0.012	0.528±0.021	0.017±0.008	0.014±0.001	0.102±0.005	
	48	0.178±0.002	0.284±0.002	0.066±0.007	7.148±0.141	0.082±0.007	0.066±0.009	0.501±0.022	0.013±0.005	0.012±0.001	0.092±0.003	
	48	0.162±0.004	0.272±0.004	0.059±0.008	7.386±0.287	0.078±0.008	0.066±0.010	0.510±0.021	0.012±0.006	0.012±0.001	0.087±0.003	
	30	0.307±0.004	0.258±0.005	0.067±0.007	4.736±0.096	0.235±0.010	0.058±0.014	0.840±0.022	0.030±0.004	0.016±0.005	0.133±0.006	
	60	0.684±0.012	0.248±0.008	0.066±0.012	4.139±0.112	0.049±0.010	0.077±0.014	1.178±0.040	0.058±0.014	0.025±0.002	0.262±0.007	
	30	0.307±0.007	0.223±0.004	0.079±0.006	4.526±0.120	0.325±0.011	0.063±0.017	1.151±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.193±0.006	
	37	0.1610±0.017	0.223±0.004	0.079±0.006	4.526±0.120	0.325±0.011	0.063±0.017	1.151±0.028	0.019±0.014	0.024±0.002	0.193±0.006	
	48	0.293±0.007	0.237±0.003	0.050±0.006	3.976±0.127	0.184±0.010	0.061±0.010	0.658±0.026	0.024±0.008	0.017±0.002	0.127±0.007	
	48	0.440±0.005	1.910±0.232	0.035±0.005	0.671±0.068	0.051±0.006	0.057±0.005	0.913±0.047	0.056±0.008	0.039±0.037	4.867±0.543	
奈良県 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群 天守遺物群	48	0.229±0.001	0.250±0.001	0.045±0.001	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.227±0.002	0.250±0.002	0.045±0.002	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.222±0.003	0.250±0.003	0.045±0.003	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.220±0.004	0.250±0.004	0.045±0.004	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.219±0.005	0.250±0.005	0.045±0.005	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.218±0.006	0.250±0.006	0.045±0.006	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.217±0.007	0.250±0.007	0.045±0.007	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.216±0.008	0.250±0.008	0.045±0.008	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.215±0.009	0.250±0.009	0.045±0.009	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.214±0.010	0.250±0.010	0.045±0.010	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.213±0.011	0.250±0.011	0.045±0.011	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
京都府 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群 京北遺物群	48	0.229±0.001	0.250±0.001	0.045±0.001	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.228±0.002	0.250±0.002	0.045±0.002	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.227±0.003	0.250±0.003	0.045±0.003	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.226±0.004	0.250±0.004	0.045±0.004	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.225±0.005	0.250±0.005	0.045±0.005	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.224±0.006	0.250±0.006	0.045±0.006	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.223±0.007	0.250±0.007	0.045±0.007	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.222±0.008	0.250±0.008	0.045±0.008	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.221±0.009	0.250±0.009	0.045±0.009	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.220±0.010	0.250±0.010	0.045±0.010	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.219±0.011	0.250±0.011	0.045±0.011	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
滋賀県 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群 天守山遺物群	48	0.229±0.001	0.250±0.001	0.045±0.001	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.228±0.002	0.250±0.002	0.045±0.002	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.227±0.003	0.250±0.003	0.045±0.003	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.226±0.004	0.250±0.004	0.045±0.004	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.002	0.222±0.006	
	48	0.225±0.005	0.250±0.005	0.045±0.005	2.296±0.029	0.118±0.004	0.045±0.007	0.629±0.017	0.066±0.006	0.028±0.		

表5-1 計志加里遺跡出土縄文時代の黒曜石製剝片の原産地推定結果

分析 編號	番号・番号 グリット、部位	原石産地(確率)	判定	器種	自然 縫隙
76769	1-2077, 6, Ⅲ下	松浦第1群(51%), 古里第1群(28%)	腰岳	剝片	角 縫
76770	2-760, 8, ⅠB	腰岳(98%), 古里第1群(95%), 松浦第1群(90%)	腰岳	剝片	角 縫
76771	3-2590, 9, Ⅲ下	古里第1群(85%), 松浦第1群(88%), 腰岳(76%)	腰岳	剝片	角 縫
76772	4-690, 8, ⅠB	腰岳(84%), 松浦第1群(87%), 古里第1群(73%)	腰岳	剝片	角 縫
76773	5-478, 9, ⅠB	古里第1群(7%), 腰岳(4%), 古里第1群(3%)	腰岳	剝片	角 縫
76774	6-3372, 7, Ⅲ下	古里第1群(97%), 腰岳(91%), 松浦第1群(40%)	腰岳	剝片	角 縫
76775	7-1449, 7, Ⅲ	腰岳(93%), 松浦第1群(93%), 古里第1群(68%)	腰岳	剝片	角 縫
76776	8-1113, 6, Ⅲ	松浦第1群(95%), 古里第1群(55%), 腰岳(42%)	腰岳	剝片	角 縫
76777	9-4551, 9, Ⅲ下	腰岳(98%), 古里第1群(83%), 松浦第1群(49%)	腰岳	剝片	角 縫
76778	10-4811, 9, Ⅲ	腰岳(47%), 古里第1群(50%), 松浦第2群(14%)	腰岳	剝片	角 縫
76779	11-565, 8, ⅠB	腰岳(82%), 古里第1群(63%), 松浦第1群(74%)	腰岳	剝片	角 縫
76780	12-760, 8, ⅠC	古里第1群(87%), 腰岳(60%), 松浦第1群(36%)	腰岳	剝片	角 縫?
76781	13-4350, 9, Ⅲ	腰岳(63%) 松浦第1群(50%), 古里第1群(46%)	腰岳	剝片	角 縫
76782	14-3720, 8, Ⅲ	松浦第1群(91%), 腰岳(68%), 古里第1群(60%)	腰岳	剝片	角 縫
76783	15-4215, 9, Ⅲ下	古里第1群(75%), 腰岳(55%), 松浦第2群(36%)	腰岳	剝片	角 縫
76784	16-7137, 10, Ⅲ	古里第1群(76%), 腰岳(43%), 松浦第1群(35%)	腰岳	剝片	角 縫
76785	17-1264, 6, Ⅲ	古里第1群(70%), 腰岳(64%), 松浦第1群(57%)	腰岳	剝片	角 縫
76786	18-4483, 9, Ⅲ下	腰岳(89%), 古里第1群(62%), 松浦第1群(24%)	腰岳	剝片	角 縫
76787	19-3365, 7, Ⅲ上	腰岳(99%), 古里第1群(99%), 松浦第1群(95%)	腰岳	剝片	角 縫
76788	20-1843, 9, Ⅲ	松浦第1群(86%), 腰岳(56%), 古里第1群(50%)	腰岳	剝片	角 縫
76789	21-2666, 9, Ⅲ	古里第1群(88%), 腰岳(60%), 松浦第2群(36%)	腰岳	剝片	角 縫
76790	22-1816, 9, Ⅲ	古里第1群(99%), 腰岳(74%), 松浦第2群(49%)	腰岳	剝片	角 縫
76791	23-2382, 8,	松浦第1群(98%), 腰岳(95%), 古里第1群(81%)	腰岳	剝片	角 縫
76792	24-2884, 8, Ⅲ	松浦第1群(94%), 腰岳(70%), 古里第1群(62%)	腰岳	剝片	角 縫
76793	25-5158, 8, Ⅲ	古里第1群(55%), 腰岳(28%), 松浦第1群(43%)	腰岳	剝片	角 縫
76794	26-730, 8, ⅠB	上牛鼻(76%)	上牛鼻	剝片	角 縫
76795	27-1955, 6, Ⅲ下	上牛鼻(33%)	上牛鼻	剝片	角 縫
76796	28-405, 9, ⅠB	淀姫(37%), 古里第3群(58%), 中町第2群(52%), 公渡第4群(4%)	淀姫	剝片	角 縫
76797	29-3778, 8, Ⅲ下	淀姫(45%), 古里第3群(41%), 中町第2群(31%), 松浦第4群(2%)	淀姫	剝片	角 縫
76881	30-1492, 7, 1B	KK1遺跡群(53%)但し 表面化粧層除く	計志加里31遺物群	剝片	円 縫?

表5-2 計志加里遺跡出土縄文時代の黒曜石製剝片の原産地推定結果

分析 編號	番号・番号 グリット、部位	原石産地(確率)	判定	器種	自然 縫隙
76799	31-1621, 9, Ⅲ	KK2遺物群(58%)	計志加里31遺物群	剝片	円 縫?
76800	32-3465, 7, Ⅲ下	古里第2群(51%), 椿葉川(7%)	古里・椿葉川	剝片	円 縫?
76801	33-4135, 9, Ⅲ下	古里第2群(37%)	古里・椿葉川	剝片	角 縫
76802	34-2811, 9, Ⅲ下	腰岳(24%), 古里第1群(20%), 松浦第1群(12%)	腰岳	剝片	角 縫
76803	35-1/4572, 8, Ⅲ下	腰岳(47%), 公渡第1群(49%), 古里第1群(14%)	腰岳	原石様	角 縫
76804	35-2/4955, 8, Ⅲ下	松浦第1群(36%), 腰岳(4%), 古里第1群(2%)	腰岳	原石様	角 縫
76805	35-3/4050, 9, Ⅲ下	古里第1群(23%) 椿葉川(5%), 松浦第1群(7%)	腰岳	原石様	角 縫
76806	35-4/4219, 9, Ⅲ下	松浦第1群(97%), 古里第1群(84%), 腰岳(67%)	腰岳	原石様	角 縫
76807	35-5/4433, 9, Ⅲ	古里第1群(64%), 腰岳(19%), 松浦第1群(5%)	腰岳	原石様	角 縫
76808	36-1/510, 9, ⅠB	松浦第1群(90%), 古里第1群(78%), 腰岳(65%)	腰岳	原石様	角 縫
76809	36-2/751, 8, ⅠB	松浦第1群(34%), 腰岳(4%), 古里第1群(3%)	腰岳	原石様	角 縫
76810	36-3/2412, 8,	腰岳(94%), 古里第1群(83%), 松浦第1群(82%)	腰岳	原石様	角 縫
76811	37-7025, 10, Ⅲ	日東(7%), 五女木(4%)	日東・五女木	剝片	円 縫
76812	38-919, 3, Ⅲ	日東(36%), 五女木(15%)	日東・五女木	剝片	円 縫
76813	39-6117, 13,	腰岳(93%), 古里第1群(78%), 松浦第1群(82%)	腰岳	剝片	角 縫
76814	40-6042, 13, Ⅲ	白浜(4%)	白浜	剝片	角 縫
76815	41-5087, 5, Ⅲ	五女木(87%), 日東(84%)	日東・五女木	剝片	角 縫
76816	42-4974, 24/5, Ⅲ	五女木(84%), 日東(81%)	日東・五女木	剝片	角 縫
76817	43-5034, 24/5, Ⅲ上	日東(8%), 五女木(1%)	日東・五女木	剝片	角 縫
76826	50-692, 8, ⅠB	松尾第2群(30%)	嶺野・松尾	剝片	角 縫
76827	51-1345, 7, Ⅲ	松尾第1群(10%)	嶺野・松尾	剝片	角 縫
76828	上牛鼻安山岩様	上牛鼻(75%)	上牛鼻	剝片	角 縫

表5-3 計志加里遺跡出土縄文時代の安山岩製剝片の原産地推定結果

分析 編號	番号・番号 グリット、部位	原石産地(確率)	判定	器種	自然 縫隙
76820	44-2008, 6, Ⅲ下	多久第2群(28%)	多久	剝片	角 縫
76821	45-4223, 9, Ⅲ	多久第2群(21%)	多久	剝片	角 縫
76822	46-831, 8, ⅠB	多久第2群(18%)	多久	剝片	角 縫
76823	47-3788, 8, Ⅲ下	多久第2群(11%)	多久	剝片	角 縫
76824	48-4205, 9, Ⅲ下	多久第1群(3%)	多久	剝片	角 縫
76825	49-3802, 8, Ⅲ下	多久第1群(28%), 多久第2群(9%)	多久	剝片	角 縫

(グリット6-98%, 13区-縄文時代周, 24区-縄文時代周)

注記: 近畿地方分析を含む多くのところでは、JR松阪駅も開拓する場合があります。

本報告では日本における各産地の産地分析の判定標準を一定にして、各地図を作っています。同じ基準による研究方法(土器様式の基準と研究方法で異なるように)にも関わらず、似た地図のために何回も書かれることがあります。全く問題(誤りもチェックなし)ありません。本報告結果に連続させることは本研究法で両分析が必要です。本報告の分析結果を考古学資料とする場合には常に両方で考慮されている結果で光先、古代文化遺産などを考察する必要があります。

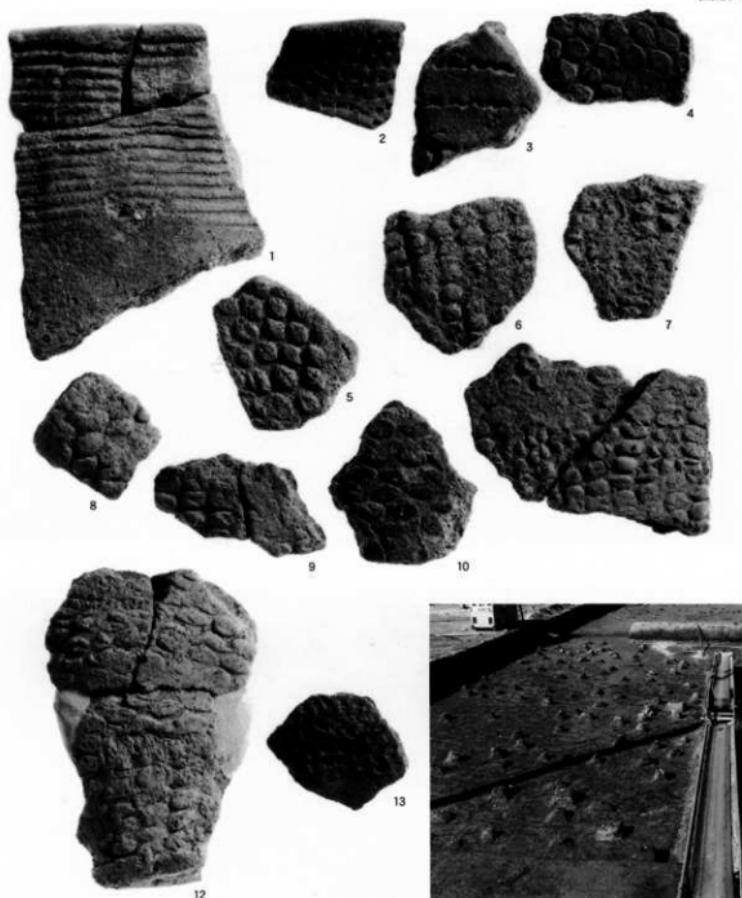
図 版

図版1



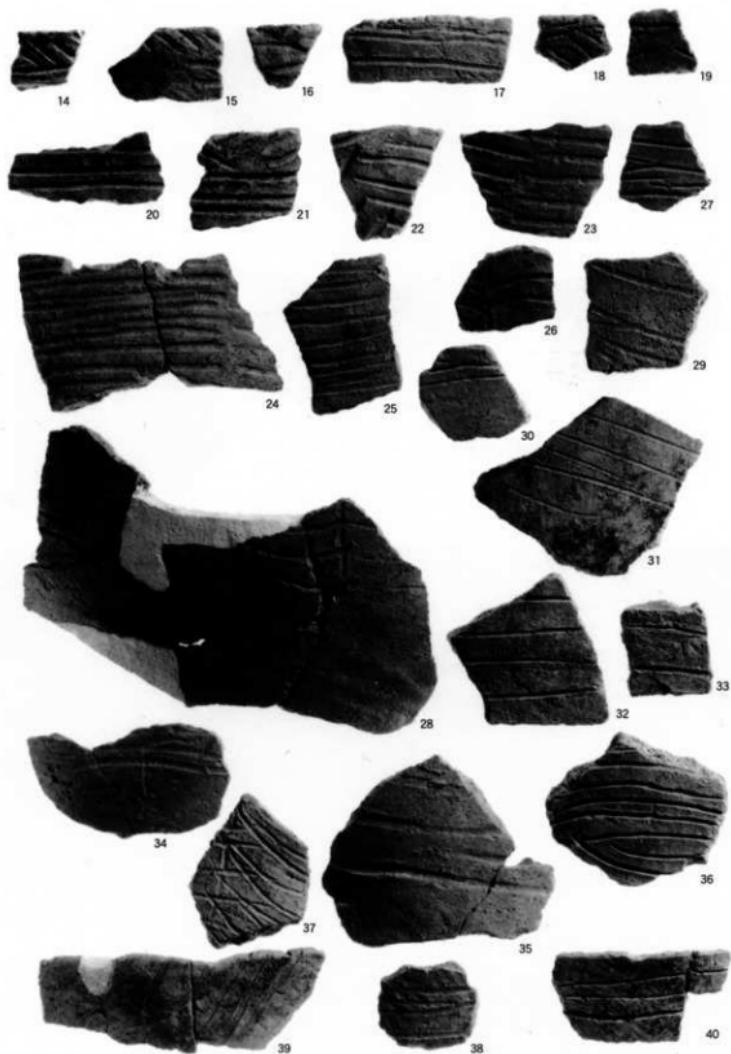
遺跡の土層（上15区・下4区）

図版2



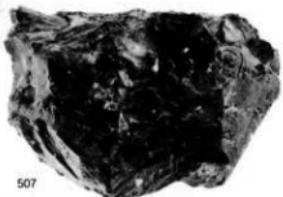
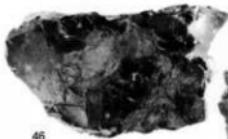
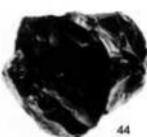
縄文時代早期の土器

図版3



縄文時代前期の土器

図版4



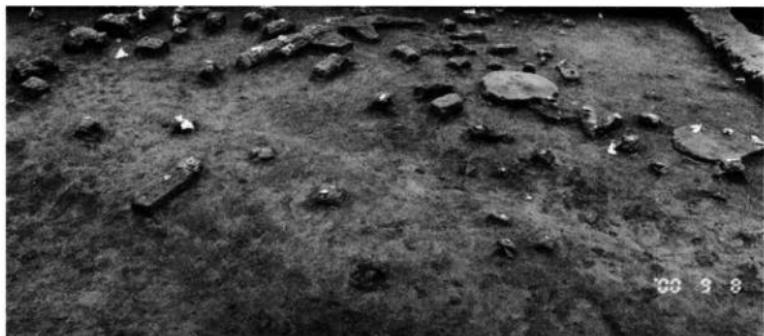
縄文時代前期の石器



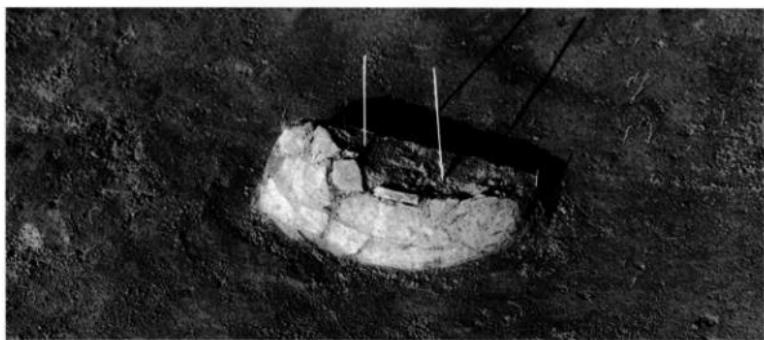
第3調査地点の調査



集石2号



縄文時代晚期の遺物出土状況（8区）

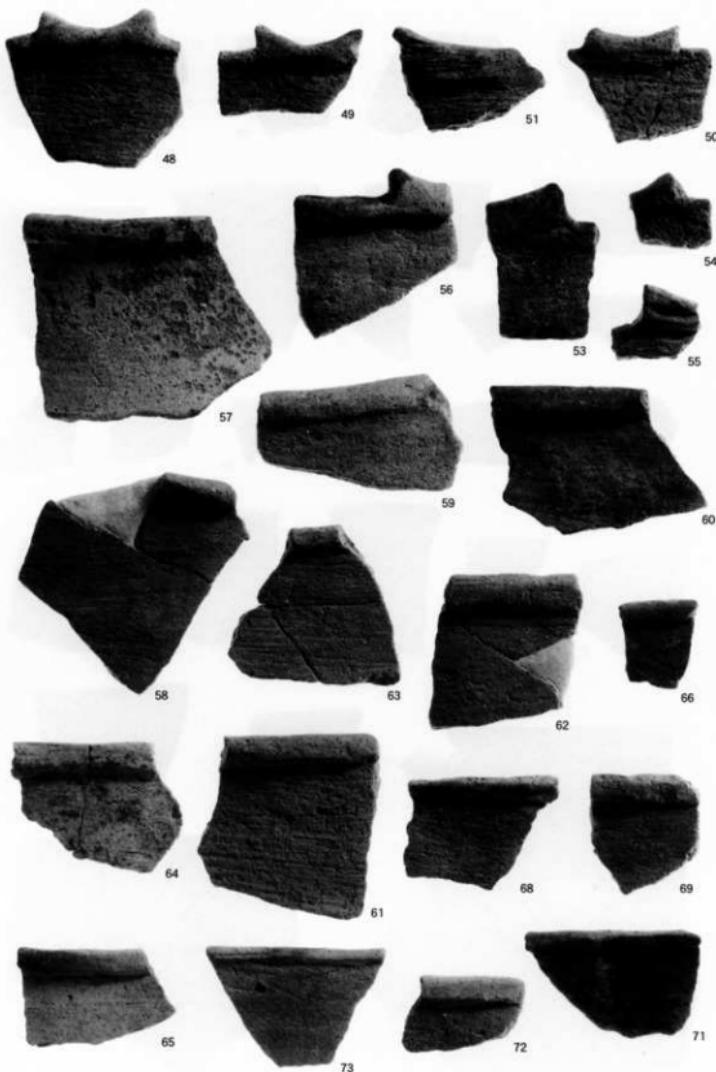


壺出土状況



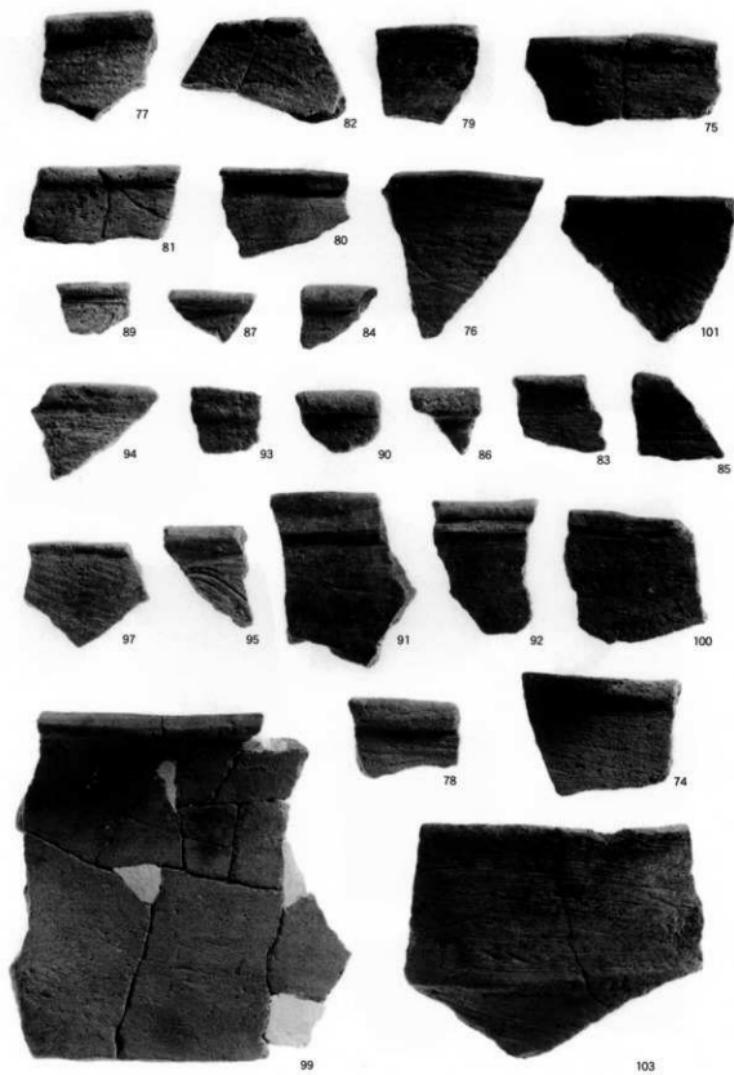
縄文時代晩期の土器（1）

図版7

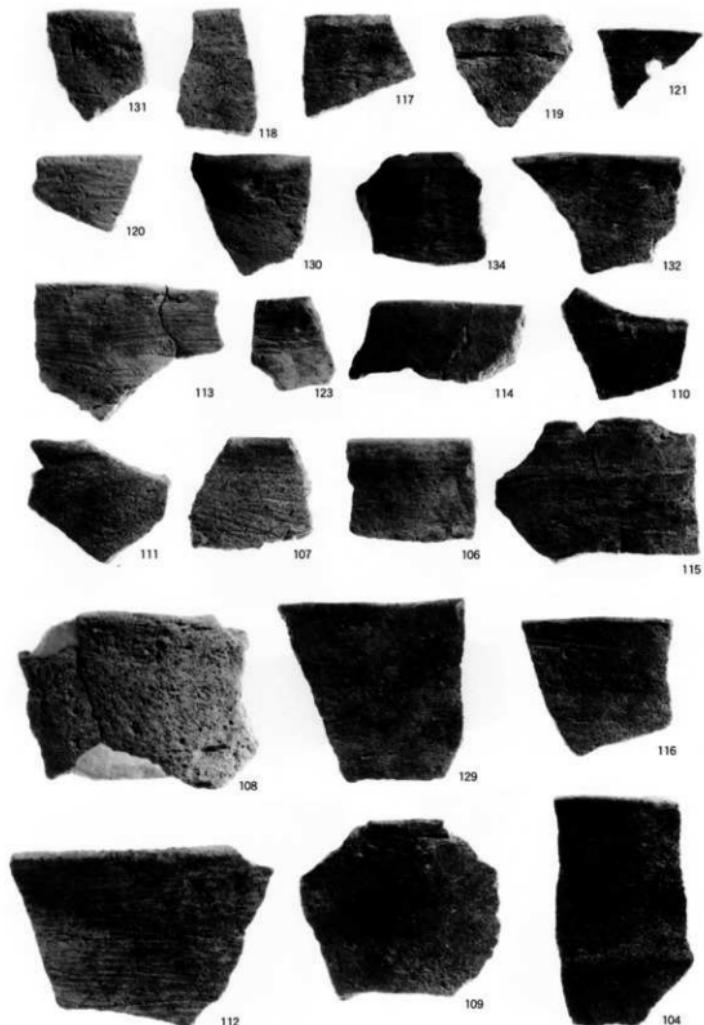


縄文時代晩期の土器（2）

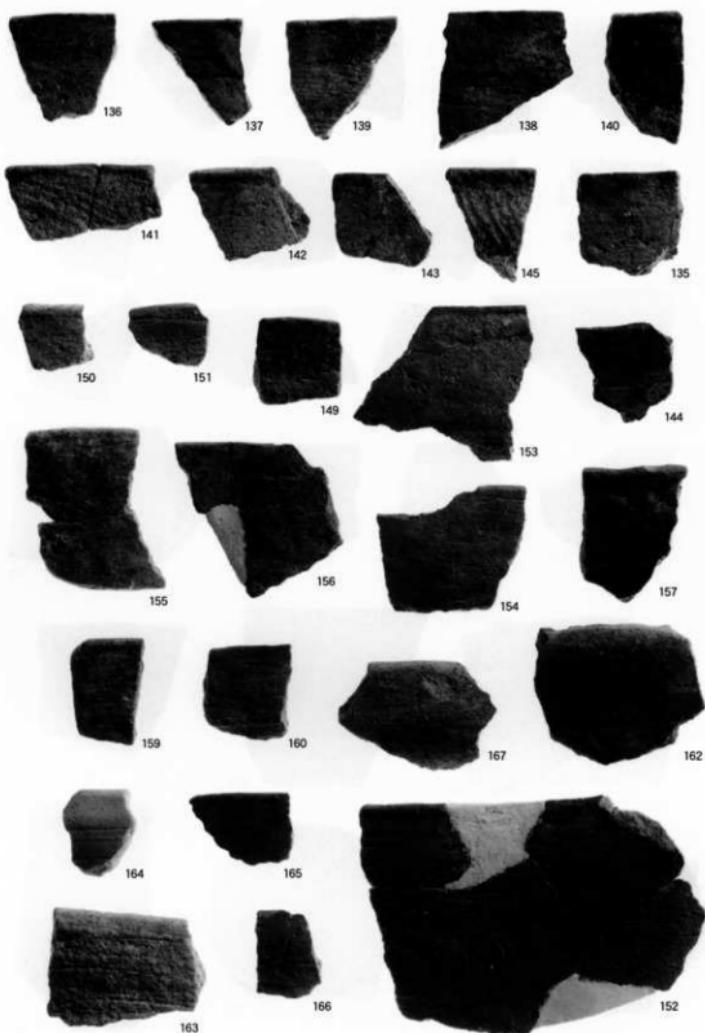
図版8



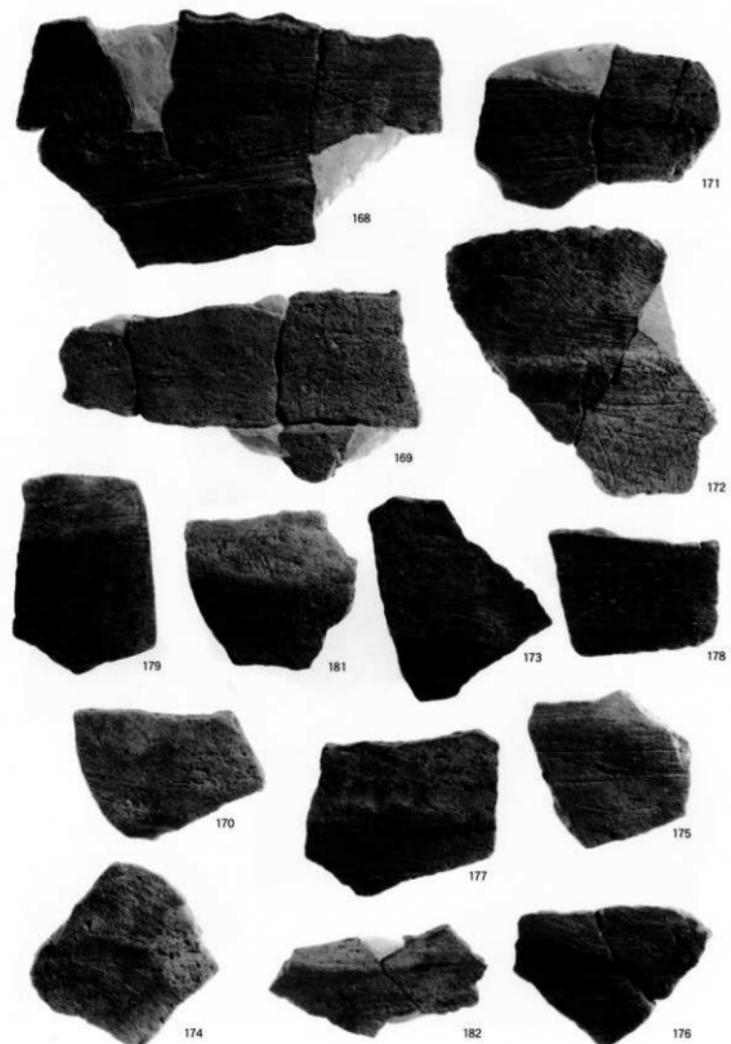
縄文時代晩期の土器 (3)



縄文時代晩期の土器 (4)

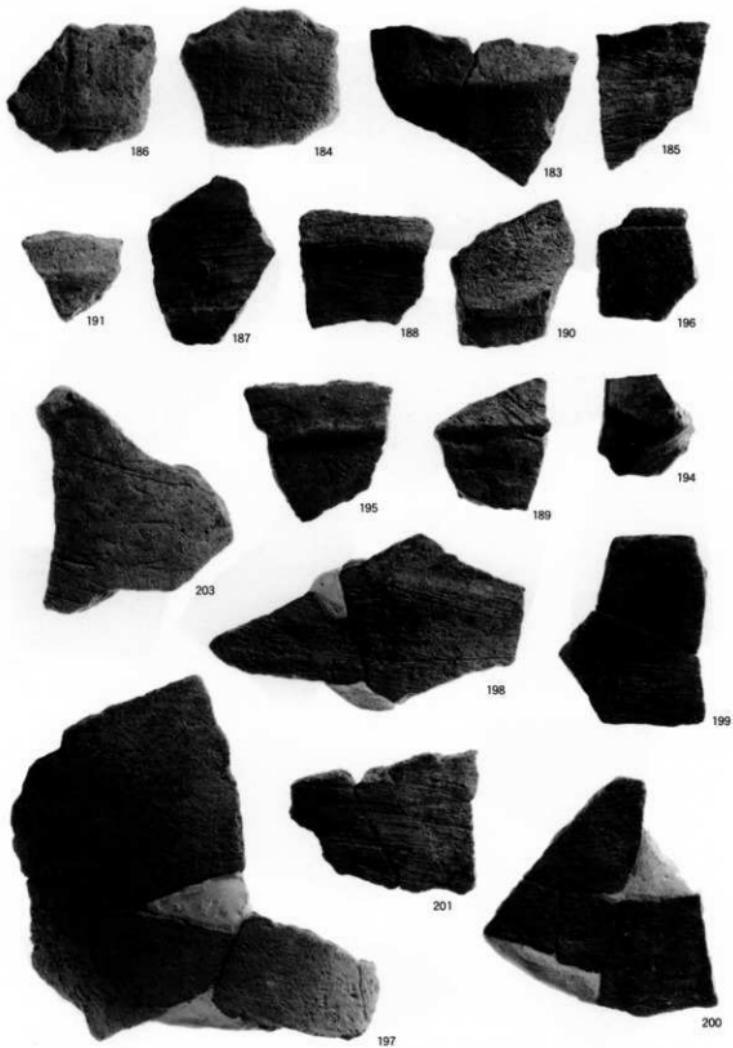


縄文時代晩期の土器（5）

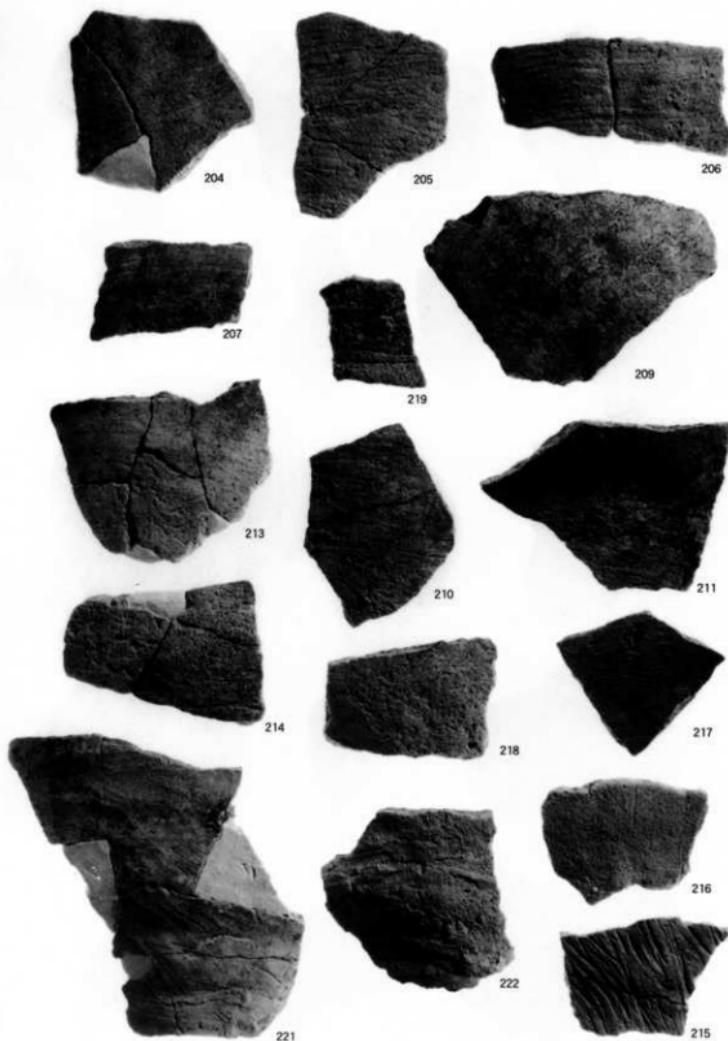


縄文時代晩期の土器 (6)

図版12



縄文時代晩期の土器（7）



縄文時代晩期の土器 (8)